科目名	演技ファンダメンタル(1)	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	大塚智則
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	声優。外国作品の吹替えが主で現在1900本以上に出演。外国映画、ドラマの音響ディレクターも兼任。						
授業の学習内容	秩序と方法論を軸に、エチュードやインプロを使い様々な状況下での感情再現、及び感性とコミュニケーション能力を養う即興エクササイズを軸に演技を楽しめる訓練を実施する。自身が周りに与える影響も考慮できる人材になっていただきたい。						
到達目標	イメージを形にする正当化、記憶や出来事を再現する事を恐れない気持ちと姿勢を作る。その為にシチュエーションレッスンで関係性をイメージ、感情を選択させ、実験的アプロ―チで自身の表現の可能性を模索できるよう促す。キャラクターのセリフからストーリーの根幹を導き出す洞察力を養う。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義・演習	自己紹介・感情発声	セールスポイントとウイークポイントの自覚
2	4月24日	講義・演習	感情を力に転化する1	様々な音の質感を確認する
3	5月8日	講義・演習	感情を力に転化する1	様々な音の質感を確認する
4	5月15日	講義・演習	正当化の重要性を知る。	日常動作の記憶
5	5月22日	講義・演習	正当化の重要性を知る。	日常動作の記憶
6	5月29日	講義・演習	発想転換で柔軟な思考を作る	映画やドラマの視聴（国内外問わず）
7	6月5日	講義・演習	発想転換で柔軟な思考を作る	映画やドラマの視聴（国内外問わず）
8	6月12日	講義・演習	情報不伝達と笑う事の重要性体験	表情筋鍛錬、確認
9	6月19日	講義・演習	情報不伝達と笑う事の重要性体験	表情筋鍛錬、確認
10	7月3日	講義・演習	感情を力に転化する2	戦争映画の視聴（主人公の超目標の意識考察）
11	7月10日	講義・演習	感情を力に転化する2	戦争映画の視聴（主人公の超目標の意識考察）
12	7月17日	講義・演習	感情を力に転化する2	戦争映画の視聴（主人公の超目標の意識考察）
13	8月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月28日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

筆記用具・動きやすい恰好

科目名	演技ファンダメンタル(2)	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	大塚智則
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	声優歴は20年,外国作品の吹替えが主で現在1900本以上に出演。外国映画、ドラマの音響ディレクターも兼任。						
授業の学習内容	秩序と方法論を軸に、エチュードやインプロを使い様々な状況下での感情再現、及び感性とコミュニケーション能力を養う即興エクササイズを軸に演技を楽しめる訓練を実施する。自身が周りに与える影響も考慮できる人材になっていただきたい。						
到達目標	イメージを形にする正当化、記憶や出来事を再現する事を恐れない気持ちと姿勢を作る。その為にシチュエーションレッスンで関係性をイメージ、感情を選択させ、実験的アプロ―チで自身の表現の可能性を模索できるよう促す。キャラクターのセリフからストーリーの根幹を導き出す洞察力を養う。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	パーソナルゾーンと自己性質確認	反射行動体験
2	10月16日	講義・演習	パーソナルゾーンと自己性質確認	反射行動体験
3	10月30日	講義・演習	感情ミックスアップ(キャンプの誘い)	アウトドアの魅力調査
4	11月6日	講義・演習	感情ミックスアップ(キャンプの誘い)	アウトドアの魅力調査
5	11月13日	講義・演習	感情ミックスアップ(キャンプの誘い)	アウトドアの魅力調査
6	11月20日	講義・演習	秩序と方法論演習（貫通行動）	映画やドラマの視聴（国内外問わず）
7	11月27日	講義・演習	秩序と方法論演習（貫通行動）	映画やドラマの視聴（国内外問わず）
8	12月4日	講義・演習	秩序と方法論演習（貫通行動）	映画やドラマの視聴（国内外問わず）
9	12月11日	講義・演習	目的エチュード演習（喫茶店の別れ）	映画やドラマの視聴（国内外問わず）
10	12月18日	講義・演習	目的エチュード演習（喫茶店の別れ）	映画やドラマの視聴（国内外問わず）
11	1月15日	講義・演習	目的エチュード演習（喫茶店の別れ）	映画やドラマの視聴（国内外問わず）
12	1月22日	講義・演習	秩序と方法による日常から非日常のクローズアップ2	過去の思い出の掘り起こし
13	2月5日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月19日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

筆記用具・動きやすい恰好

科目名	Dance Produce(1)	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	松村武司
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	「地球ゴージャス」ミュージカル出演・「木村カエラ」バックダンサー・「サカナクション」ダンサー						
授業の学習内容	ダンサーを職業とする為に必要な、技術・心構え・コミュニケーション力を授業内容全般を通して学んでいく。 身体を鍛え抜く事で精神力も鍛え、社会人として必要なマナーも学んで行く。□						
到達目標	自身の個性を、自身のダンススキルで表現出来るようになる。将来の目標としている分野に進んで行けるよう、自身で考え行動して行ける人物になる。必要とされる人材になる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月25日	講義・演習	授業紹介・スキルチェック	ストレッチ、クールダウン
2	5月9日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
3	5月16日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
4	5月23日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
5	5月30日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
6	6月6日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
7	6月13日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
8	6月20日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
9	7月4日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
10	7月11日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
11	7月18日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
12	8月22日	講義・演習	定期テスト	自身の踊りの研究
13	9月12日	講義・演習	前期まとめ	後期に向けての目標を立てる
14	9月19日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月26日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック＆ダンス専門学校

科目名	Dance Produce(2)	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	松村武司
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	「地球ゴージャス」ミュージカル出演・「木村カエラ」バックダンサー・「サカナクション」ダンサー						
授業の学習内容	ダンサーを職業とする為に必要な、技術・心構え・コミュニケーション力を授業内容全般を通して学んでいく。 身体を鍛え抜く事で精神力も鍛え、社会人として必要なマナーも学んで行く。□						
到達目標	自身の個性を、自身のダンススキルで表現出来るようになる。将来の目標としている分野に進んで行けるよう、自身で考え行動して行ける人物になる。必要とされる人材になる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	スキルチェック・目標設定	ストレッチ、クールダウン
2	10月17日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
3	10月24日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
4	10月31日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
5	11月7日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
6	11月14日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
7	11月21日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
8	11月28日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
9	12月5日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
10	12月12日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
11	12月19日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
12	1月16日	講義・演習	定期テスト	自身の踊りの研究
13	1月23日	講義・演習	後期まとめ	後期に向けての目標を立てる
14	2月6日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月13日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

東京スクールオブミュージック＆ダンス専門学校

科目名	プロダクション実務(1)	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	藤崎昌弘
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	音楽大学卒業後、A&R、原版制作ディレクター、アレンジャー、サウンドプロデューサーとして勤務。木梨憲武、NOA、吉柳咲良、AB6ix、n.Ssign、MYNAME、Ryu Siwon、ヘラヘラ三銃士のA&R、コンサート制作を数多く手がける。						
授業の学習内容	音楽業界で即戦力として働く上での、基礎知識を学び、ライブ制作、マネージメント、レコード会社との課授業を実施する。 ・マネージメント（音楽プロダクション/芸能プロダクション） ・ライブ関連（ライブ制作会社/イベンター） ・レコード会社（宣伝/制作/販促） 上記3つの業種への就職に向けて、学校内外で学ぶことにより、業界というものを実際体験することで「考える力・発言する力」を養い、協調性と当事者意識、責任感を身につけることを目的とする。						
到達目標	① 「礼儀」「プレゼン能力」「資料作成」の基礎的な事柄を確実にできることを目標とし、「社会で生きる力」をつけることを目標とする ② 「コミュニケーション力」「積極性・自主性」「先回りをできる力」を外部で発揮できることを目標とする。 ③ 自身でアーティストをみつけ、学内外にプレゼンし、マネージメントすること。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月15日	講義・演習	音楽業界について理解する	後日レポート提出
2	5月13日	講義・演習	マネージャーの仕事について理解する	後日レポート提出
3	5月20日	講義・演習	レコード会社の仕事について理解する	後日レポート提出
4	5月27日	講義・演習	コンサートの仕事について理解する	後日レポート提出
5	6月3日	講義・演習	実践シミュレーション	仮想アーティストを立てて実際にシミュレーションをおこなう
6	6月10日	講義・演習	売れているアーティスト、ヒットの定義について考える	後日レポート提出
7	6月17日	講義・演習	ゲスト講義① A&R経験者の体験談	後日レポート提出 質問表の事前作成
8	6月24日	講義・演習	メディアの役割を理解する	後日レポート提出
9	7月1日	講義・演習	プランニングの重要性を理解する	後日レポート提出
10	7月8日	講義・演習	マネージメントというものを理解する	後日レポート提出
11	7月15日	講義・演習	プロフィールの資料、プレゼン資料について学ぶ	後日レポート提出
12	7月22日	講義・演習	自身で学内からアーティストを見つけてプレゼンする①	事前にスカウトし、これまで学んだことを実践しプレゼンする
13	8月26日	講義・演習	前期のまとめ	後日レポート提出
14	9月9日	講義・演習	イベント実践を通してプロダクション業務を学ぶ	レポート
15	9月16日	講義・演習	イベント実践を通してプロダクション業務を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	プロダクション実務(2)	必修選択	選択必修	年次	1	担当教員	藤崎昌弘
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	音楽大学卒業後、A&R、原版制作ディレクター、アレンジャー、サウンドプロデューサーとして勤務。木梨憲武、NOA、吉柳咲良、AB6ix、n.Ssign、MYNAME、Ryu Siwon、ヘラヘラ三銃士のA&R、コンサート制作を数多く手がける。						
授業の学習内容	音楽業界で即戦力として働く上での、基礎知識を学び、ライブ制作、マネージメント、レコード会社との課授業を実施する。 ・マネージメント（音楽プロダクション／芸能プロダクション） ・ライブ関連（ライブ制作会社／イベンター） ・レコード会社（宣伝／制作／販促） 上記3つの業種への就職に向けて、学校内外で学ぶことにより、業界というものを実際体験することで「考える力・発言する力」を養い、協調性と当事者意識、責任感を身につけることを目的とする。						
到達目標	① 「礼儀」「プレゼン能力」「資料作成」の基礎的な事柄を確実にできることを目標とし、「社会で生きる力」をつけることを目標とする ② 「コミュニケーション力」「積極性・自主性」「先回りをできる力」を外部で発揮できることを目標とする。 ③ 自身でアーティストをみつけ、学内外にプレゼンし、マネージメントすること。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月14日	講義・演習	自身で学内からアーティストを見つけてプレゼンする②	事前にスカウトし、これまで学んだことを実践しプレゼンする
2	10月21日	講義・演習	イベントを企画し、シミュレーションする	後日レポート提出□
3	10月28日	講義・演習	ライブツアーを企画し、シミュレーションする	後日レポート提出□
4	11月4日	講義・演習	ゲスト講義② ライブ制作経験者の体験談	後日レポート提出 質問表の事前作成
5	11月11日	講義・演習	著作権について理解する	後日レポート提出□
6	11月18日	講義・演習	アーティストの権利について理解する	後日レポート提出□
7	11月25日	講義・演習	プロダクションの収支について理解する	後日レポート提出□
8	12月2日	講義・演習	ゲスト講義③ 音楽プロデューサーの体験談	後日レポート提出 質問表の事前作成
9	12月9日	講義・演習	コミュニケーションについて理解し、プレゼン能力を学ぶ	後日レポート提出□
10	12月16日	講義・演習	既存のメディアとSNSでので宣伝方法の違いについて理解する	後日レポート提出□
11	1月13日	講義・演習	年間計画表を作成して戦略を立てる	後日レポート提出□
12	1月20日	講義・演習	年間計画表を作成して発表 プレゼンし実践的なマネージメントを理解する	後日レポート提出□
13	2月3日	講義・演習	全体のまとめ	後日レポート提出□
14	2月10日	講義・演習	イベント実践を通してプロダクション業務を学ぶ	レポート
15	2月17日	講義・演習	イベント実践を通してプロダクション業務を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	SNS運用基礎(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	上原 優也
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	SNS運用代行・コンサルティング・広告事業・SNSスクール事業運営						
授業の学習内容	現在、SNSは商品認知や購買のきっかけとなるだけでなく、多くのトレンドが生まれる場として大きな影響力を持っています。さらに、ローコストで始められる点からも、今後SNS運用のスキルは必須になると考えられます。 本プログラムでは、企画・撮影・編集の実践と分析を通して、感覚や一過性に頼らず、再現性を持ち、長期的かつ多方面で活用できる運用力を養成します。						
到達目標	1. ジャンルごとに最適な企画を根拠を持って考案できる。 2. 撮影準備から実際の撮影までを計画立てて進めることができる。 3. ユーザー目線で細部までこだわった動画制作ができる。 4. データを元にPDCAを回し、SNS運用ができる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月15日	講義・演習	SNSマーケティング、縦型動画の基礎を学ぶ～企画編～	分析シートの記入・授業の復習
2	5月13日	講義・演習	縦型動画の基礎を学ぶ～編集編～	分析シートの記入・授業の復習
3	5月20日	講義・演習	1から企画考案・プレゼン	分析シートの記入・授業の復習
4	5月27日	講義・演習	縦型動画運用　～実際に投稿しよう～	分析シートの記入・授業の復習
5	6月3日	講義・演習	縦型動画運用　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
6	6月10日	講義・演習	縦型動画運用　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
7	6月17日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう①　～企画考案・プレゼン～	分析シートの記入・授業の復習
8	6月24日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう①　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
9	7月1日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう①　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
10	7月8日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう②　～企画考案・プレゼン～	分析シートの記入・授業の復習
11	7月15日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう②　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
12	7月22日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう②　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
13	8月26日	講義・演習	試験	これまでの授業の総括
14	9月9日	講義・演習	イベント実践を通してSNS運用方法を学ぶ	レポート
15	9月16日	講義・演習	イベント実践を通してSNS運用方法を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

スマホ編集アプリ「CapCut/VLLO」、分析用アプリ「TikTok」

科目名	SNS運用基礎(2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	上原 優也
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	SNS運用代行・コンサルティング・広告事業・SNSスクール事業運営						
授業の学習内容	現在、SNSは商品認知や購買のきっかけとなるだけでなく、多くのトレンドが生まれる場として大きな影響力を持っています。さらに、ローコストで始められる点からも、今後SNS運用のスキルは必須になると考えられます。 本プログラムでは、企画・撮影・編集の実践と分析を通して、感覚や一過性に頼らず、再現性を持ち、長期的かつ多方面で活用できる運用力を養成します。						
到達目標	1. ジャンルごとに最適な企画を根拠を持って考案できる。 2. 撮影準備から実際の撮影までを計画立てて進めることができる。 3. ユーザー目線で細部までこだわった動画制作ができる。 4. データを元にPDCAを回し、SNS運用ができる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月14日	講義・演習	SNSマーケティング、縦型動画の基礎を学ぶ～企画編～	分析シートの記入・授業の復習
2	10月21日	講義・演習	縦型動画の基礎を学ぶ～編集編～	分析シートの記入・授業の復習
3	10月28日	講義・演習	1から企画考案・プレゼン	分析シートの記入・授業の復習
4	11月4日	講義・演習	縦型動画運用　～実際に投稿しよう～	分析シートの記入・授業の復習
5	11月11日	講義・演習	縦型動画運用　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
6	11月18日	講義・演習	縦型動画運用　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
7	11月25日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう①　～企画考案・プレゼン～	分析シートの記入・授業の復習
8	12月2日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう①　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
9	12月9日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう①　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
10	12月16日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう②　～企画考案・プレゼン～	分析シートの記入・授業の復習
11	1月13日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう②　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
12	1月20日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう②　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
13	2月3日	講義・演習	試験	これまでの授業の総括
14	2月10日	講義・演習	イベント実践を通してSNS運用方法を学ぶ	レポート
15	2月17日	講義・演習	イベント実践を通してSNS運用方法を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

スマホ編集アプリ「CapCut/VLLO」、分析用アプリ「TikTok」

科目名	マネジメント能力(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	唐澤 淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	アーティストのマネジメント、プロデュースを経て、現在に至る						
授業の学習内容	前期では、実際の企業から提供された課題をもとに、チームでその背景や現状をリサーチし、課題の本質を見極める力を養います。業界や競合、ターゲットの調査を通じて課題を整理し、さまざまなアイデア発想法を用いながら解決策を考案します。チームでの意見交換や役割分担を通じて協働スキルを高め、最終的には中間プレゼンテーションとして企画案を発表します。これにより、調査分析力、発想力、基礎的なプレゼンテーション能力を身につけることが目的です。						
到達目標	実在する企業から提示された課題に対して、自ら考え行動し、解決策を企画・提案する力を養う チームでの協働作業により、プロジェクトマネジメント力を身につける 課題解決の過程を資料としてまとめ、対外的にわかりやすくプレゼンテーションする力を養う						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	オリエンダンス・企業課題の説明	課題理解と情報収集
2	4月21日	講義・演習	チームビルディング・役割決定	課題理解と情報収集
3	5月12日	講義・演習	課題リサーチ①（現状分析）	課題理解と情報収集
4	5月19日	講義・演習	課題リサーチ②（競合分析・ユーザー調査）	課題理解と情報収集
5	5月26日	講義・演習	問題定義と課題整理	課題理解と情報収集
6	6月2日	講義・演習	アイデア発想法講義・実践	課題理解と情報収集
7	6月9日	講義・演習	アイデア選定・コンセプト決定	課題理解と情報収集
8	6月16日	講義・演習	企画書作成①（構成設計）	課題理解と情報収集
9	6月23日	講義・演習	企画書作成②（文章・図解）	課題理解と情報収集
10	6月30日	講義・演習	中間プレゼン準備	課題理解と情報収集
11	7月7日	講義・演習	中間プレゼンテーション	課題理解と情報収集
12	7月14日	講義・演習	フィードバック分析・改善方針検討	課題理解と情報収集
13	9月8日	講義・演習	成果まとめ・後期に向けた準備	課題理解と情報収集
14	9月15日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月22日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	マネジメント能力(2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	唐澤 淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	アーティストのマネジメント、プロデュースを経て、現在に至る						
授業の学習内容	後期では、前期で構築した企画案をもとに、さらに内容を深めて具体化していきます。企業や教員からのフィードバックをもとにブラッシュアップを行い、必要に応じて簡易的なプロトタイプや検証を実施します。提案内容を説得力のある形でまとめた最終企画書を作成し、外部関係者に向けてプレゼンテーションを行います。授業の最後にはプロジェクト全体を振り返り、自らの学びと成長を言語化・記録します。実践的な企画力、発信力、自己評価力の向上を目指します。						
到達目標	プロトタイプや具体的資料を通して、提案の説得力や実行力を高めることができる チームで最終プレゼンテーションを完成させ、外部関係者に対して自信を持って発表できる 最後にプロジェクト全体を振り返り、自らの成長や改善点を言語化・記録できる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月14日	講義・演習	後期ガイダンス・進捗確認	課題理解と情報収集
2	10月21日	講義・演習	解決策ブラッシュアップ①	課題理解と情報収集
3	10月28日	講義・演習	解決策ブラッシュアップ②	課題理解と情報収集
4	11月4日	講義・演習	プロトタイプ設計①(モデル化)	課題理解と情報収集
5	11月11日	講義・演習	プロトタイプ設計②(簡易モデル制作)	課題理解と情報収集
6	11月18日	講義・演習	フィードバック収集	課題理解と情報収集
7	11月25日	講義・演習	提案内容の最終調整	課題理解と情報収集
8	12月2日	講義・演習	最終企画書作成①	課題理解と情報収集
9	12月9日	講義・演習	最終企画書作成②	課題理解と情報収集
10	12月16日	講義・演習	最終プレゼン練習①	課題理解と情報収集
11	1月13日	講義・演習	最終プレゼン練習②	課題理解と情報収集
12	1月20日	講義・演習	最終プレゼンテーション	課題理解と情報収集
13	2月3日	講義・演習	囚りかえり・評価・報告書作成	課題理解と情報収集
14	2月10日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	実践ビジネス基礎(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	関口陽介
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	経営管理学修士（MBA）、キッザニア広報・マーケティング部長／アートアクアリウム美術館総館長、他						
授業の学習内容	ビジネス上、知っておくべき基本的な知識や今日的な話題、さらには、知っていることで発展性のあるテーマを学び、かつ、コロナ禍以降、格段に必要性が高まったリモートコミュニケーションへの対応力を養成する。具体的には、教員が教室内で対面して行う授業に加えて、配信型授業を取り入れ、滋慶学園グループ他地域校との交流を通した視野の拡大を狙う。更に、2コマ連続授業の特性を生かし、学生同士のディスカッションやプレゼンテーションの機会を設け、学生の参加・継続意識の向上を図る。						
到達目標	①基本的なマーケティングの考え方を理解する ②今日的なビジネストピックに関する自分なりの意見を持つようになる ③ZOOMを活用したリモートプレゼンテーションができる ④滋慶グループ他校との交流を通して、刺激を受け、授業参画意識を向上させる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義・演習	授業ガイダンス・キャリアデザイン	事後学習として、配布資料の復習
2	5月8日	講義・演習	プロジェクトマネジメント・セルフプレゼンテーション1	事後学習として、配布資料の復習
3	5月15日	講義・演習	マーケティングの基礎　4P分析・ワークショップ	事後学習として、配布資料の復習
4	5月22日	講義・演習	マーケティングの基礎　ペルソナ設定・ワークショップ	事後学習として、配布資料の復習
5	5月29日	講義・演習	マーケティングの基礎　3C分析・ワークショップ	事後学習として、配布資料の復習
6	6月5日	講義・演習	マーケティングの基礎　STP戦略・ワークショップ	事後学習として、配布資料の復習
7	6月12日	講義・演習	近未来のビジネス展望　Society5.0を考える	事後学習として、配布資料の復習
8	6月19日	講義・演習	世界で最も成功しているエンタメビジネスの考察	事後学習として、配布資料の復習
9	6月26日	講義・演習	企業研究・ワークショップ1	事後学習として、配布資料の復習
10	7月3日	講義・演習	イベントプランニング（企画理解・構想・企画書製作）1	事後学習として、配布資料の復習
11	7月10日	講義・演習	イベントプランニング（プレゼンテーション）2	事後学習として、配布資料の復習
12	7月17日	講義・演習	考課試験/授業レポートの発表	事後学習として、配布資料の復習
13	8月28日	講義・演習	試験解答・振り返り	事後学習として、配布資料の復習
14	9月4日	講義・演習	イベント実践を通してビジネス業務を学ぶ	レポート
15	9月11日	講義・演習	イベント実践を通してビジネス業務を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習			講義後、配布資料を復習し、不明点を調べ、次回講義で質問する習慣を身につける。	

【使用教科書・教材・参考書】

使用教材は、講義ごとに教員が準備した資料を使用する。

科目名	実践ビジネス基礎(2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	関口陽介
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		

教員の略歴	経営管理学修士（MBA）、元キッザニア広報・マーケティング部長／アートアクアリウム美術館総館長、他
授業の学習内容	ビジネス上、知っておくべき基本的な知識や今日的な話題、さらには、知っていることで発展性のあるテーマを学び、かつ、コロナ禍以降、格段に必要性が高まったリモートコミュニケーションへの対応力を養成する。具体的には、教員が教室内で対面して行う授業に加えて、配信型授業を取り入れ、滋慶学園グループ他地域校との交流を通した視野の拡大を狙う。更に、2コマ連続授業の特性を生かし、学生同士のディスカッションやプレゼンテーションの機会を設け、学生の参加・継続意識の向上を図る。
到達目標	①基本的なマーケティングの考え方を理解する ②今日的なビジネストピックに関する自分なりの意見を持つようになる ③ZOOMを活用したリモートプレゼンテーションができる ④滋慶グループ他校との交流を通して、刺激を受け、授業参画意識を向上させる
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	カスタマージャーニー（消費者行動の理解）	事後学習として、配布資料の復習
2	10月9日	講義・演習	飲食ビジネス	事後学習として、配布資料の復習
3	10月23日	講義・演習	セルフプレゼンテーション2	事後学習として、配布資料の復習
4	10月30日	講義・演習	アート思考	事後学習として、配布資料の復習
5	11月6日	講義・演習	広告論	事後学習として、配布資料の復習
6	11月13日	講義・演習	企業研究・ ワークショップ 2	事後学習として、配布資料の復習
7	11月20日	講義・演習	SDGsのビジネスへの展開	事後学習として、配布資料の復習
8	11月27日	講義・演習	スポンサー制度	事後学習として、配布資料の復習
9	12月4日	講義・演習	ビジネスクリエーション（コンビニ研究）	事後学習として、配布資料の復習
10	12月18日	講義・演習	イベントプランニング2（企画理解・構想・企画書製作）	事後学習として、配布資料の復習
11	1月15日	講義・演習	イベントプランニング2（プレゼンテーション）	事後学習として、配布資料の復習
12	1月22日	講義・演習	考課試験/授業レポートの発表	事後学習として、配布資料の復習
13	1月29日	講義・演習	試験解答・振り返り	事後学習として、配布資料の復習
14	2月12日	講義・演習	イベント実践を通してマーケティング業務を学ぶ	レポート
15	2月19日	講義・演習	イベント実践を通してマーケティング業務を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習			講義後、配布資料を復習し、不明点を調べ、次回講義で質問する習慣を身につける。	

【使用教科書・教材・参考書】

使用教材は、講義ごとに教員が準備した資料を使用する。

科目名	アテレコ(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	橋本浩志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	外画の吹き替え・アニメやゲーム多数。音響監督。						
授業の学習内容	アフレコ実習を通して表現することの面白さ楽しさを感じてもらう。それぞれの個性を見出し、それを活かした表現で感情、動き、距離感などが映像とうまくシンクロできるよう導く。将来的には授業経験を活かし、舞台や映像などの表現者としても、社会人としても人間的な魅力に満ちた個人に成長してほしい。						
到達目標	アニメの登場人物の感情や作品の世界観やテーマを正しく理解、解釈する。またそれを表現する力を習得させる。また常識の枠を超えたユニークな発想、自身の殻を破るチャレンジ精神を養う。スタジオでのマナーも共に学ぶ。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	アフレコ・吹き替えの歴史から現状までを知る。また基礎の正しい理解。	発声・滑舌・呼吸など基礎力の理解
2	4月21日	講義・演習	マイクを使いフリートークなどで自身の声質、声量、基礎力などを知り、今後の目標課題を理解してもらう。	発声・滑舌・呼吸など基礎力の理解
3	5月12日	講義・演習	マイクを使いフリートークなどで自身の声質、声量、基礎力などを知り、今後の目標課題を理解してもらう。	アクセント・滑舌の見直し
4	5月19日	講義・演習	尺短めのアフレコ題材を使って会話表現やマイクワークなどのアフレコ基礎を学ぶ	アクセント・滑舌の見直し
5	5月26日	講義・演習	尺短めのアフレコ題材を使って会話表現やマイクワークなどのアフレコ基礎を学ぶ	理解できなかった感情やシーンを再考し、演技プランの立て直しなどを図る。
6	6月2日	講義・演習	読み合わせなどをしながら解釈・表現・会話演技の習得を目指す。	理解できなかった感情やシーンを再考し、演技プランの立て直しなどを図る。
7	6月9日	講義・演習	読み合わせなどをしながら解釈・表現・会話演技の習得を目指す。	授業で演じたキャラの感情解釈。レベルアップを目指した予習復習や他生徒との事前リハを繰り返すこと。
8	6月16日	講義・演習	基礎的な事柄がまだクリアできていない人向けに基礎訓練に励む。	発声、呼吸、アクセント・滑舌の見直し
9	6月23日	講義・演習	基礎的な事柄がまだクリアできていない人向けに基礎訓練に励む。	発声、呼吸、アクセント・滑舌の見直し
10	6月30日	講義・演習	アフレコした内容をチェックし、細かい修正を重ねる。 また自身のアイデアを反映させる。	授業で演じたキャラの感情解釈。レベルアップを目指した予習復習や他生徒との事前リハを繰り返すこと。
11	7月7日	講義・演習	アフレコした内容をチェックし、細かい修正を重ねる。 また自身のアイデアを反映させる。	授業で演じたキャラの感情解釈。レベルアップを目指した予習復習や他生徒との事前リハを繰り返すこと。
12	7月14日	講義・演習	後期に向けた個々の目標を確認しつつ、女性は男の子役が出来るよう実習を重ねる	他人の演技表現やプロの表現に目を向けて研究や参考にする。
13	8月25日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	9月8日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月15日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	アテレコ(2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	橋本浩志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	外画の吹き替え・アニメやゲーム多数。音響監督。						
授業の学習内容	アフレコ実習を通して表現することの面白さ楽しさを感じてもらう。それぞれの個性を見出し、それを活かした表現で感情、動き、距離感などが映像とうまくシンクロできるよう導く。将来的には授業経験を活かし、舞台や映像などの表現者としても、社会人としても人間的な魅力に満ちた個人に成長してほしい。						
到達目標	アニメの登場人物の感情や作品の世界観やテーマを正しく理解、解釈する。またそれを表現する力を習得させる。また常識の枠を超えたユニークな発想、自身の殻を破るチャレンジ精神を養う。スタジオでのマナーも共に学ぶ。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義・演習	新しい題材を使って前期からのレベルがどの位維持されているか確認する。	改めての発声・滑舌・呼吸など基礎力の見直し
2	10月13日	講義・演習	アフレコ実習を重ね、演技のスキルの底上げを図りながら自身のイメージより大きな表現を目指す。	改めての発声・滑舌・呼吸など基礎力の見直し。自身でセリフを録音して聞き直してみる等をする。
3	10月20日	講義・演習	アフレコ実習を重ね、演技のスキルの底上げを図りながら自身のイメージより大きな表現を目指す。	リアリティある表現力を身に付ける為に舞台や映画を観る。リアル体験を通して表現のヒント・答えを日常生活の中に見出す観察力や洞察力を養う。
4	10月27日	講義・演習	キャラの心情に寄り添い、感情の理解力を養う。またその感情を表現する力を養う。	リアリティある表現力を身に付ける為に舞台や映画を観る。リアル体験を通して表現のヒント・答えを日常生活の中に見出す観察力や洞察力を養う。
5	11月3日	講義・演習	キャラの心情に寄り添い、感情の理解力を養う。またその感情を表現する力を養う。	表現者としての目標を高く持ち、温故知新の気持ちで幅広いジャンルの作品を鑑賞して表現の参考にする。
6	11月10日	講義・演習	配役を変えながらアフレコ実習を重ね、自分にあったキャラを見つけ、そこから表現力の向上を目指す。	表現者としての目標を高く持ち、温故知新の気持ちで幅広いジャンルの作品を鑑賞して表現の参考にする
7	10月17日	講義・演習	配役を変えながらアフレコ実習を重ね、自分にあったキャラを見つけ、そこから表現力の向上を目指す。	表現者としての目標を高く持ち、温故知新の気持ちで幅広いジャンルの作品を鑑賞して表現の参考にする
8	10月24日	講義・演習	題材や配役を変えながらキャラ数を増やすことや、演じ分けの方法や技術を身に付ける。	実習中の作品に出演しているプロ声優の表現・芝居を研究して参考にする。常に考える習慣を身に付ける
9	12月1日	講義・演習	題材や配役を変えながらキャラ数を増やすことや、演じ分けの方法や技術を身に付ける。	実習中の作品に出演しているプロ声優の表現・芝居を研究して参考にする。常に考える習慣を身に付ける。
10	12月8日	講義・演習	アフレコ実習で自分自身の目標達成や問題改善が出来ているか？チェック！また自分の強みを見つける。	学年グループごとにそれぞれが向上できる話し合いの場を設ける。
11	12月15日	講義・演習	アフレコ実習で自分自身の目標達成や問題改善が出来ているか？チェック！また自分の強みを見つける。	学年グループごとにそれぞれが向上できる話し合いの場を設ける。
12	1月19日	講義・演習	自分自身の目標達成や問題改善が出来ているかなど、個々の課題を総括する。	個々の問題課題を理解した上で毎日少しずつでも改善できるように努める。
13	2月2日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月9日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月16日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	エチュード(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	大友恵理
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	92年劇団都市彦に入団。以降解散まで全作品に出演。演劇集団アーバンフォレストを経て、舞台、CM、映画、司会など						
授業の学習内容	多種多様なエチュードを通して、日々の観察力や想像力、発想力を養っていく						
到達目標	時間・空間・コミュニケーションを意識した表現ができるようになる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義・演習	自己紹介とシアターゲーム	他己紹介を考える
2	4月24日	講義・演習	自己PRをすることができる	1分間の自己PR内容を考えてくること
3	5月8日	講義・演習	リラックスして声が出せる	日常での自分の声の出し方を意識してみる
4	5月15日	講義・演習	自分の状態を自覚することができる	自分の行動の仕方を記録してみる
5	5月22日	講義・演習	1人エチュード。1人で立っていることができる	誰かのエチュードを真似てみる
6	5月29日	講義・演習	2人エチュード。相手と意識や感覚を共有する	他の相手とやってみる
7	6月5日	講義・演習	沈黙という表現	同じことを何度もやってみる
8	6月12日	講義・演習	アクションとリアクションによる変化を楽しむ	日々の条件反射の記録
9	6月19日	講義・演習	コミュニケーション。偶然と必然の違いを感じる	内容の振り返り
10	7月3日	講義・演習	空間をイメージすることができる	いろいろな空間を言葉と身体で表現してみる
11	7月10日	講義・演習	時間をイメージすることができる	時間を言葉と身体で表現してみる
12	7月17日	講義・演習	コントネタコピー	表現力を学習
13	8月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月28日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			日常を良く観察すること	

【使用教科書・教材・参考書】

運動しやすい服装、靴、筆記用具

科目名	エチュード(2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	大友恵理
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	92年劇団都市彦に入団。以降解散まで全作品に出演。演劇集団アーバンフォレストを経て、舞台、CM、映画、司会など						
授業の学習内容	好奇心と瞬発力、臨機応変力を養っていく						
到達目標	自信と勇気を持って、表現できるようになる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	キャラクターの作り方・職業	職業を決めて考えてくる
2	10月16日	講義・演習	キャラクターの作り方・年齢や立場	内容の振り返り
3	10月30日	講義・演習	関係性から言葉と行動を考える	チームでのディスカッション
4	11月6日	講義・演習	空気を読むことができる	内容の振り返り
5	11月13日	講義・演習	反射的に動くことができる	内容の振り返り
6	11月20日	講義・演習	感情から生まれる言葉と行動	内容の振り返り
7	11月27日	講義・演習	自分のアクションから相手のリアクションを引き出す	チームでのディスカッション
8	12月4日	講義・演習	相手のアクションに瞬発力で答える	チームでのディスカッション
9	12月11日	講義・演習	同時に2つの目的を進行させることができる	目的を3つにした場合の行動を考えてみる
10	12月18日	講義・演習	ストーリーの展開のさせ方を学ぶ	内容の振り返り
11	1月15日	講義・演習	協力し合って、シーンを作ることができる	チームでのディスカッション
12	1月22日	講義・演習	観客の想像力へのゆだね方	内容の振り返り
13	2月5日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月19日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			物事に対して常に敏感であること	

【使用教科書・教材・参考書】

運動しやすい服装、靴、筆記用具

科目名	演技概論(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	深谷晃成
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	2010年に尚美学園大学にて若林一男教授により指導を受ける。2013年にシアターグリーン学生芸術祭、並びに道とん堀学生演劇祭にて最優秀賞受賞後、劇団「第27班」の活動を本格始動。若手演出家コンクール最優秀賞受賞。						
授業の学習内容	「演技の基礎」は演技を表現する上で欠かせない当然のスキルです。 演技の基礎は奥深く、楽器やダンス・絵画にも近い「学ばなければ表現をすることが出来ない」技術です。 この授業では実戦で活きる基礎を知ってもらい、身体に落とし込み、いついかなる役を演じることになってもブレることのない強いスタイルを身に着けて欲しいと考えています。 「上手い演技とは何か？」という問いに、皆さん自身でその答えを見つけられるような授業をしたいと思っています。						
到達目標	演技を構成する四項目「発声」「表情」「視線」「動作」のコントロールができるようになる 会話演技における「言う」「聞く」「居る」を理解し、技術として身に着ける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義・演習	プロとしての心構え・演技を学ぶために大切なことを知る（オリエンテーション）	授業内で取ったメモや体験したことを反芻する
2	4月25日	講義・演習	基本的な発声練習（腹式呼吸）が出来るようになる	個人練習・復習
3	5月9日	講義・演習	実践的な発声練習（音域コントロール、活舌）に挑戦する。	日常生活の中で、授業内で学んだことを活かしてみる
4	5月16日	講義・演習	「居る技術」そこに存在することの技術を学ぶ	リラックス状態が演技でもあることを知る
5	5月23日	講義・演習	「日常」と「非日常」の演じ分けを学ぶ	日常生活の中にある日常と非日常の違いを感じる
6	5月30日	講義・演習	「言う」「アクション」のテクニックを身に着ける	日常生活の中にある相手の心を動かす言葉を見つける
7	6月6日	講義・演習	「聞く」「リアクション」のテクニックを身に着ける	日常生活の中にあるリアクションを見つける
8	6月13日	講義・演習	「反応」の大切さを知る	授業内容の復習（質問内容をまとめておく）
9	6月20日	講義・演習	「とぼける」という演技概念を理解する	授業内容の復習（質問内容をまとめておく）
10	7月4日	講義・演習	「とぼける」で演技を実践してみる	授業内容の復習（質問内容をまとめておく）
11	7月11日	講義・演習	「とぼける」で台詞を読む	配布した台本を読んでみる
12	7月18日	講義・演習	「とぼける」で台本を読む	配布した台本で復習する
13	8月22日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月29日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			個人練習・復習	

【使用教科書・教材・参考書】

有名戯曲・深谷既成戯曲使用

科目名	演技概論(2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	深谷晃成
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	2010年に尚美学園大学にて若林一男教授により指導を受ける。2013年にシアターグリーン学生芸術祭、並びに道とん堀学生演劇祭にて最優秀賞受賞後、劇団「第27班」の活動を本格始動。若手演出家コンクール最優秀賞受賞。						
授業の学習内容	「演技の基礎」は演技を表現する上で欠かせない当然のスキルです。 演技の基礎は奥深く、楽器やダンス・絵画にも近い「学ばなければ表現をすることが出来ない」技術です。 この授業では実戦で活きる基礎を知ってもらい、身体に落とし込み、いついかなる役を演じることになってもブレることのない強いスタイルを身に着けて欲しいと考えています。 「上手い演技とは何か？」という問いに、皆さん自身でその答えを見つけられるような授業をしたいと思っています。						
到達目標	演技を構成する四項目「発声」「表情」「視線」「動作」のコントロールができるようになる 会話演技における「言う」「聞く」「居る」を理解し、技術として身に着ける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	プロとしての活動に必要なことを学ぶ（オリエンテーション）	
2	10月10日	講義・演習	前期基礎をおさらいする	前期の復習を行っておく
3	10月17日	講義・演習	台本読解を学ぶ	配布台本をしっかり読んでおく
4	10月31日	講義・演習	役作りを学ぶ	役の履歴書を書いてくる
5	11月7日	講義・演習	重複表現について学ぶ	人間の理性と感情の使い分けを日常生活の中で理解する
6	11月14日	講義・演習	泣き演技・感情演技について学ぶ	生理現象について考えをまとめてくる
7	11月21日	講義・演習	「とぼける」の実践的な使い方を理解する	配布台本をしっかり読んでおく
8	11月28日	講義・演習	実践演習により「演技」のスキルを上げる	配布台本を覚えてくる
9	12月5日	講義・演習	「台本」演習により実践的な演技を身に着ける	ミザンスを把握し、復習しておく
10	12月12日	講義・演習	演出を付け、稽古を通して演技の上達を学ぶ	演出を再確認し、次授業に取りこぼしが無いようにする
11	12月19日	講義・演習	演出を受け、作品作りにおける俳優の仕事を理解する。	演出を再確認し、次授業に取りこぼしが無いようにする
12	1月16日	講義・演習	総合演習：台本の実演	授業の学んだことを、来年度以降にも活かせるように総括する。
13	1月23日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	1月30日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月13日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			個人練習・復習	

【使用教科書・教材・参考書】

既存戯曲・深谷既成戯曲の使用

科目名	演技ゼミ(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	南翔太
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	映画「大怪獣バトルウルトラ銀河伝説」ドラマ「旅人検視官道場修作」舞台「夫婦漫才」CMなどの出演、2003年～現在						
授業の学習内容	演技の授業を通して人とのコミュニケーション能力を養い、自分の個性を発見し磨く、自発的に動ける力を身に付ける。お芝居を通し伝える事や相手との会話等で気持ちを汲み取る力を身につける。また役者としての身体の使い方、声の出し方、魅せ方を学ぶ。授業の集大成として公演をする事で本番の緊張感の中で表現することの楽しさと協調性を経験する。						
到達目標	自分の個性を知りまた客観的にどう見えているのかを理解し表現できるようになる。また演技の楽しさを知り華のある役者になる。一緒に作品をつくる仲間を尊重し、良いコミュニケーションを取れるようになる。自発的に行動できる様になる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	授業説明、自己紹介、シアターゲームと発声練習（発声台本配布）	趣味や特技について話せるようにしてくる
2	5月7日	講義・演習	シアターゲーム、身体の使い方と魅せ方	自分がどう見えているのかを理解してくる
3	5月14日	講義・演習	公演に向けての説明、公演台本読み（台本配布）	公演台本の読み解きをしてくる
4	5月21日	講義・演習	公演台本読み合わせ	登場人物や物語の背景を考える
5	5月28日	講義・演習	本読みをしながら自分がどの役を演じたいか選びオーディション対策をする	希望の役を決め台詞を覚え準備をする
6	6月4日	講義・演習	公演配役オーディション	演じること以外で作品に対して自分のできる事、したい事を考える
7	6月11日	講義・演習	配役を決め立ち稽古、役割発表と説明	自分の役と作品について役割を理解し準備する
8	6月18日	講義・演習	シーン毎の立ち稽古	相手役と話し合い、掛け合いのトレーニングをする
9	6月25日	講義・演習	小道具等の効果的な使い方を取り入れ心と身体をリンクさせる	役の心情と動きが一体となる様に考え準備をする
10	7月2日	講義・演習	通し稽古により役の心情の流れを掴む	どんな状況下でも台詞が出てくるようにトレーニングを重ねる
11	7月9日	講義・演習	音響や照明を入れ本番に近い状態で演じる事により良い緊張感を経験する	トラブルが起きた時でも対応できるよう役への理解を深め動けるように準備をしておく
12	7月16日	講義・演習	テスト	テストを振り返り、役だけではなく作品に対し自分に何ができるかを改めて考え仲間とコミュニケーションを深める
13	8月27日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	9月10日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月17日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			授業中に伝えた課題に1週間かけて取り組む	

【使用教科書・教材・参考書】

授業毎に講師が準備、必要に応じて配布する

科目名	演技ゼミ(2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	南翔太
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	映画「大怪獣バトルウルトラ銀河伝説」ドラマ「旅人検視官道場修作」舞台「夫婦漫才」CMなどの出演、2003年～現在						
授業の学習内容	演技の授業を通して人とのコミュニケーション能力を養い、自分の個性を発見し磨く、自発的に動ける力を身に付ける。お芝居を通し伝える事や相手との会話等で気持ちを汲み取る力を身につける。また役者としての身体の使い方、声の出し方、魅せ方を学ぶ。授業の集大成として公演をする事で本番の緊張感の中で表現することの楽しさと協調性を経験する。						
到達目標	自分の個性を知りまた客観的にどう見えているのかを理解し表現できるようになる。また演技の楽しさを知り華のある役者になる。一緒に作品をつくる仲間を尊重し、良いコミュニケーションを取れるようになる。自発的に行動できる様になる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	エチュードを通して役作りの引き出しを増やす	普段の生活から人間観察をし、演じる時に使えるようインプットをする
2	10月15日	講義・演習	第三者の目線を持ち、演じている自分を客観的に見る	視野を広げる事を意識し、客観的に自分を見られる力をつけていく
3	10月22日	講義・演習	公演に向けての説明、公演台本読み（台本配布）	公演台本の読み解きをしてくる
4	10月29日	講義・演習	本を読み解き自分がどの役に適しているか考えオーディション対策をする	台詞を覚えオーディションに臨む準備をする
5	11月5日	講義・演習	公演配役オーディション	自分の出来ることを率先して考える（衣装、小道具、制作など）
6	11月12日	講義・演習	配役を決め立ち稽古、役割発表と説明	自分の役と作品について役割を理解し準備する
7	11月19日	講義・演習	自分の演技プランで演じる	上手くできたところ、出来なかった所を見つけ何故そうなったかを考える
8	11月26日	講義・演習	自分、共演者が魅力的に舞台に立てるよう演じる	なぜこの台詞があり、このような動きになっているのかを見つけ演技に活かす
9	12月3日	講義・演習	衣装、小道具を用意しての通し稽古をし、役の心情を掴む	無駄な動きや癖などを見つけ修正する
10	12月10日	講義・演習	1度全部を忘れる	先読み芝居をしない為、新鮮な気持ちで台本を読み直す
11	12月17日	講義・演習	音響や照明を入れ本番に近い状態で演じる事により公演をリアルにイメージする	トラブルが起きた時でも対応できるよう役への理解を深め動けるように準備をしておく
12	1月14日	講義・演習	テスト	テストを振り返り、役だけではなく作品に対し自分に何ができるかを改めて考え仲間とコミュニケーションを深める
13	1月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月4日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			授業中に伝えた課題に1週間かけて取り組む	

【使用教科書・教材・参考書】

授業毎に講師が準備、必要に応じて配布する

科目名	オーディション対策(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	実由
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ラジオDJ,イベントMC、ナレーター、TVバラエティー、ドラマ、舞台、雑誌、CMへの出演。1995年～現在						
授業の学習内容	卒業後の進路となる各プロダクションへ所属するため、また様々な作品へ出演するためのオーディションを受ける際のマナーや服装、メイクなどを学ぶ。また、プロフィールシートの作り方やオーディションでもっとも大事とされる自己PRをそれぞれの個性を活かし指導。各種オーディションで、自分の個性や持っている力を発揮し、合格出来るポイントを学ぶ。						
到達目標	自分の個性や特徴を知り、自信を持ってオーディションに臨み、自分PR出来るようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	授業説明・オーディションを受ける上での心構え	特になし
2	5月7日	講義・演習	プロフィールシートの作り方	プロフィールシート作成
3	5月14日	講義・演習	宣材写真のポーズや表情のアドバイス	衣装、メイクの準備
4	5月21日	講義・演習	服装やメイク、綺麗な立ち方、姿勢のアドバイス	衣装、メイクの研究
5	5月28日	講義・演習	ウォーキング、ポージング	衣装、メイクの研究
6	6月4日	講義・演習	ウォーキング、ポージング	ウォーキングトレーニング
7	6月11日	講義・演習	自己PR30秒の作り方	自己PRを作ってくる
8	6月18日	講義・演習	自己PR30秒の作り方	アドバイスを踏まえて、自己PRを作る
9	6月25日	講義・演習	自己PR30秒の作り方	アドバイスを踏まえて、自己PRを作る
10	7月2日	講義・演習	自己PR60秒の作り方	自己PRを作ってくる
11	7月9日	講義・演習	自己PR60秒の作り方	アドバイスを踏まえて、自己PRを作る
12	7月16日	講義・演習	テスト	テスト振り返り
13	8月27日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	9月10日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月17日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			各週、授業の最後に課題を伝えます	

【使用教科書・教材・参考書】

その都度講師が用意

科目名	オーディション対策(2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	実由
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ラジオDJ,イベントMC、ナレーター、TVバラエティー、ドラマ、舞台、雑誌、CMへの出演。1995年～現在						
授業の学習内容	卒業後の進路となる各プロダクションへ所属するため、また様々な作品へ出演するためのオーディションを受ける際のマナーや服装、メイクなどを学ぶ。また、プロフィールシートの作り方やオーディションでもっとも大事とされる自己PRをそれぞれの個性を活かし指導。各種オーディションで、自分の個性や持っている力を発揮し、合格出来るポイントを学ぶ。						
到達目標	自分の個性や特徴を知り、自信を持ってオーディションに臨み、自分PR出来るようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	新人発掘に向けてプロフィールシート見直し	プロフィールシート見直し
2	10月15日	講義・演習	新人発掘に向けてのパフォーマンスを作る	パフォーマンスを考えてくる
3	10月22日	講義・演習	新人発掘に向けてのパフォーマンスを作る	アドバイスを踏まえて練習
4	10月29日	講義・演習	新人発掘に向けてのパフォーマンスを作る	アドバイスを踏まえて練習
5	11月5日	講義・演習	60秒自己PRおさらい	模擬オーディションに向けた自己PRを考える
6	11月12日	講義・演習	60秒自己PRおさらい	模擬オーディションに向けた自己PRを考える
7	11月19日	講義・演習	模擬オーディション　CM	オーディション内容に適した自己PRや服装準備
8	11月26日	講義・演習	模擬オーディション　バラエティー番組	オーディション内容に適した自己PRや服装準備
9	12月3日	講義・演習	模擬オーディション　ドラマ	オーディション内容に適した自己PRや服装準備
10	12月10日	講義・演習	模擬オーディション　映画	オーディション内容に適した自己PRや服装準備
11	12月17日	講義・演習	模擬オーディション　舞台	オーディション内容に適した自己PRや服装準備
12	1月14日	講義・演習	テスト	テスト振り返り
13	1月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月4日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			各週、授業の最後に課題を伝えます	

【使用教科書・教材・参考書】

その都度講師が用意

科目名	Body expression(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	柳瀬眞澄
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間(単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	トランスパラン株式会社☑レエスタジオ経営・バレエ講師☐						
授業の学習内容	バレエレッスン(体づくりとバレエ基礎レッスン)						
到達目標	バレエを通し、姿勢がよくなり、自分自身の体を知り身体のコントロール、肉体での表現を学び空間への広がり表現の幅を広げる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	体を正しい位置に戻す為のストレッチ	
2	4月21日	講義・演習	まっすぐに立つとは	ストレッチ、前の授業の確認
3	5月12日	講義・演習	バレエの基本的な足、手のポジション	ストレッチ、前の授業の確認
4	5月19日	講義・演習	プリエ(膝を曲げる)タンジュ(足をだす)	ストレッチ、前の授業の確認
5	5月26日	講義・演習	クッペ、ルティレ(足を曲げて片足で立つ)	ストレッチ、前の授業の確認
6	6月2日	講義・演習	ロンデジャンプ(足を回し動きの幅を広げる)	ストレッチ、前の授業の確認
7	6月9日	講義・演習	ジャンプ(足の指で床を蹴り飛ぶ)	ストレッチ、前の授業の確認
8	6月16日	講義・演習	回転の時の首の使い方	ストレッチ、前の授業の確認
9	6月23日	講義・演習	足を高く上げる	ストレッチ、前の授業の確認
10	6月30日	講義・演習	全ての復習	前期の確認
11	7月7日	講義・演習	全ての復習	前期の確認
12	7月14日	講義・演習	前期テスト	前期の確認
13	8月25日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	9月8日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月15日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Body expression(2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	柳瀬眞澄
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間(単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	トランスパラン株式会社☑レエスタジオ経営・バレエ講師☐						
授業の学習内容	バレエレッスン(体づくりとバレエ基礎レッスン)						
到達目標	バレエを通し、姿勢がよくなり、自分自身の体を知り身体のコントロール、肉体での表現を学び空間への広がり表現の幅を広げる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義・演習	前期の復習	ストレッチ、前期授業な確認
2	10月13日	講義・演習	ストレッチ、バーレッスン(前期に習ったことの組み合わせ)	ストレッチ、前期授業な確認
3	10月20日	講義・演習	ストレッチ、バーレッスン(前期に習ったことの組み合わせ)	ストレッチ、前期授業な確認
4	10月27日	講義・演習	ストレッチ、バーレッスンのちセンターにて小さなジャンプの組み合わせ	ストレッチ、前期授業な確認
5	11月3日	講義・演習	ストレッチ、バーレッスンのちセンターにて小さなジャンプの組み合わせ	ストレッチ、前期授業な確認
6	11月10日	講義・演習	ストレッチ、バーレッスン(前期に習ったことの組み合わせ)センターで回転練習	ストレッチ、前期授業な確認
7	10月17日	講義・演習	ストレッチ、バーレッスンのちセンターにて回転の組み合わせ	ストレッチ、前期授業な確認
8	10月24日	講義・演習	ストレッチ、バーレッスンのちセンターにて大きなジャンプの組み合わせ	ストレッチ、前期授業な確認
9	12月1日	講義・演習	ストレッチ、バーレッスンのちセンターにて大きなジャンプの組み合わせ	ストレッチ、前期授業な確認
10	12月8日	講義・演習	全ての復習	ストレッチ、前期授業な確認
11	12月15日	講義・演習	全ての復習	ストレッチ、前期授業な確認
12	1月19日	講義・演習	後期テスト	
13	2月2日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月9日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月16日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Hiphop(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	田島あこ
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	a-nation・MAX・土屋アンナ・hitomi・相川七瀬・AI・プリキュアオールスターズ・三森すずこ等のアーティストバックアップダンサーやMV・CM出演　私立・公立高校ダンス部指導　スタジオ運営代表						
授業の学習内容	HIPHOPクラスを通じて、ダンスの楽しさ、身体を動かすことの重要性を知り、今の業界シーンで多く必要とされるダンススキルやリズム感を身につける事によって、現場やオーディションでの対応力や自己表現力に活かす						
到達目標	HIPHOPの基礎を身につけ、リズム感を養う。又、振り付けを覚えながら基礎を深掘りしていく						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	クラスの目的の把握 ストレッチ・基礎トレーニング	ストレッチ
2	5月7日	講義・演習	身体の使い方を理解する・簡単なコンビネーション	ストレッチ・基礎確認
3	5月14日	講義・演習	DOWNやUP等のリズムトレーニング・コンビネーション	ストレッチ・授業内容の復習
4	5月21日	講義・演習	DOWNやUPをステップに取り入れる・コンビネーション	ストレッチ・授業内容の復習
5	5月28日	講義・演習	アイソレーションの強化・コンビネーション	ストレッチ・授業内容の復習
6	6月4日	講義・演習	アイソレーションの応用・コンビネーション	ストレッチ・授業内容の復習
7	6月11日	講義・演習	リズム感の強化・応用 コンビネーション	ストレッチ・授業内容の復習
8	6月18日	講義・演習	ステップの強化・応用 コンビネーション	ストレッチ・授業内容の復習
9	6月25日	講義・演習	約3週にわたってテスト課題のコンビネーションを習得	ストレッチ・課題練習
10	7月2日	講義・演習	約3週にわたってテスト課題のコンビネーションを習得	ストレッチ・課題練習
11	7月9日	講義・演習	約3週にわたってテスト課題のコンビネーションを習得	ストレッチ・課題練習
12	7月16日	講義・演習	オーディション形式での課題発表	ストレッチ・課題練習
13	8月27日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月10日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	8月17日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

運動の出来る服装（収縮性の無い生地や素材の物はNG・タイツやストッキングNG）・シューズ・タオル・水分飲料

科目名	Hiphop(2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	田島あこ
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	a-nation・MAX・土屋アンナ・hitomi・相川七瀬・AI・プリキュアオールスターズ・三森すずこ等のアーティストバックアップダンサーやMV・CM出演　私立・公立高校ダンス部指導　スタジオ運営代表						
授業の学習内容	HIPHOPクラスを通じて、ダンスの楽しさ、身体を動かすことの重要性を知り、今の業界シーンで多く必要とされるダンススキルやリズム感を身につける事によって、現場やオーディションでの対応力や自己表現力に活かす						
到達目標	リズム感の強化・表現力の強化　　オーディションや舞台に対応するスキルを身に付ける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	後期での内容説明 リズムトレーニング・アイソレーション	ストレッチ・筋トレ
2	10月15日	講義・演習	体力・筋力強化	予習・復習
3	10月22日	講義・演習	柔軟性強化	予習・復習
4	10月29日	講義・演習	動きにメリハリをつける	予習・復習
5	11月5日	講義・演習	表現力を養う	予習・復習
6	11月12日	講義・演習	即興力を身につける	予習・復習
7	11月19日	講義・演習	フォーメーションを取り入れた動きの習得	予習・復習
8	11月26日	講義・演習	カノンを取り入れた動きの習得	予習・復習
9	12月3日	講義・演習	約3週にわたってテスト課題 コンビネーションを習得	予習・復習
10	12月10日	講義・演習	約3週にわたってテスト課題 コンビネーションを習得	予習・復習
11	12月17日	講義・演習	約3週にわたってテスト課題 コンビネーションを習得	予習・復習
12	1月14日	講義・演習	オーディション形式での課題発表	予習
13	1月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月4日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

運動の出来る服装（収縮性の無い生地や素材の物はNG・タイツやストッキングNG）・シューズ・タオル・水分飲料

科目名	Jazz(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	寺本藍
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	バックダンサーとして様々なアーティストのLIVEなどに出演。ダンスインストラクター。						
授業の学習内容	ただ踊るのではなく、身体の使い方を1から学び、しっかり理解を深め表現出来る様に授業を進めていきます。 ジャズダンスの基礎となるバレエ・コンテンポラリーを学び、姿勢を整え立ち姿を美しくする。						
到達目標	身体の作りを覚え（骨、筋肉など）、どの様にして動いていて踊りや表現のどの動きに必要なのかを覚える事。自分の身体を理解し、しっかり身体を使え表現出来る質の高い演者を目指して下さい。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義・演習	授業の進め方の説明。目標の確認。ジャズダンスがどの様なものか、動画を参考に説明。	自分の目標を決める。
2	4月24日	講義・演習	身体の作り（骨、筋肉）の説明。どの様に動くかを説明し姿勢の矯正スタート。	授業で学んだ事を再度確認し、覚える。
3	5月8日	講義・演習	2週目に説明した動きがダンスの何に必要か実際動かして確認。	実際に体を動かし学んだことを身体に覚えさせる。
4	5月15日	講義・演習	ターン、ピルエットの説明、練習開始。	首のきり方のタイミング。パッセの高さが落ちない様に意識。
5	5月22日	講義・演習	ターン、ピルエットの再確認し安定を目指す。	軸足の伸び、足の運びを確認。
6	5月29日	講義・演習	5週まで学んだターンを取り入れたコンビネーション開始。	動きの順番、繋がりを覚える。
7	6月5日	講義・演習	ターンコンビネーションの習得の練習。	繰り返し練習。
8	6月12日	講義・演習	プリエ、タンジュ、ロンデの説明と実践。	引き上げたお腹が落ちない様にする。体幹キープの確認。
9	6月19日	講義・演習	グランバットマン説明と実践。	体幹をキープし足を上げる練習。足先をポイント意識。
10	7月3日	講義・演習	1週目からのまとめの振付け開始。	どの様に表現すれば見ている人に伝わるか考える。
11	7月10日	講義・演習	実技テストの課題練習。	自分の中で満足いくまで練習を重ねる。
12	7月17日	講義・演習	実技テスト。	足りなかったことを見つめ直し、次に活かせる様まとめる。
13	8月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月28日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			YouTubeなどでJAZZDANCEを観る。知る。触れる。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Jazz(2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	寺本藍
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	バックダンサーとして様々なアーティストのLIVEなどに出演。ダンスインストラクター。						
授業の学習内容	ただ踊るのではなく、身体の使い方を1から学び、しっかり理解を深め表現出来る様に授業を進めていきます。 ジャズダンスの基礎となるバレエ・コンテンポラリーを学び、姿勢を整え立ち姿を美しくする。						
到達目標	前期で学習し覚えた事を必ず実践し、自分の踊り身体について良いところ、足りないところを毎回考える事。自分の身体を理解し、しっかり身体を使え表現出来き、怪我をしない上質な身体を作って下さい。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	柔軟性、筋トレによる身体作りの強化。（腹筋）	柔軟性、筋トレによる身体作りの強化。（腹筋）
2	10月16日	講義・演習	柔軟性、筋トレによる身体作りの強化。（背筋）	柔軟性、筋トレによる身体作りの強化。（背筋）
3	10月30日	講義・演習	柔軟性、筋トレによる身体作りの強化。（腕、肩甲骨まわり）	柔軟性、筋トレによる身体作りの強化。（腕、肩甲骨まわり）
4	11月6日	講義・演習	3週で学んだ筋力を取り入れた振り付け開始。（スローの曲を使い一つ一つの動きを確認）	3週で学んだ筋力を取り入れた振り付け開始。（スローの曲を使い一つ一つの動きを確認）
5	11月13日	講義・演習	振付けの追加。正しい動きを出来ているか確認。	振付けの追加。正しい動きを出来ているか確認。
6	11月20日	講義・演習	振りの踊り込み。	振りの踊り込み。
7	11月27日	講義・演習	4週目からの振付けの発表。フィードバック。	4週目からの振付けの発表。フィードバック。
8	12月4日	講義・演習	進級に向け、テスト課題開始。前期から学んだことを取り入れた振付け。	進級に向け、テスト課題開始。前期から学んだことを取り入れた振付け。
9	12月11日	講義・演習	8週目の振りの確認と振り付けの追加。	8週目の振りの確認と振り付けの追加。
10	12月18日	講義・演習	振りの意味を説明し、構成を付け作品について考える。	振りの意味を説明し、構成を付け作品について考える。
11	1月15日	講義・演習	構成の確認、作品に仕上げる。（表現力も意識出来る様に調整）	構成の確認、作品に仕上げる。（表現力も意識出来る様に調整）
12	1月22日	講義・演習	実技テスト	実技テスト
13	2月5日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月19日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			YouTubeなどでJAZZDANCEを観る。知る。触れる。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ヴォーカルトレーニング(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	西涼子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	昭和音楽短期大学声楽科卒業後ヤマハのコンテストで優秀賞を受賞し,その後多数アーティストのバックコーラスとしてレコーディングやTV番組、コンサートツアーに参加。現在オリジナル呼吸法で企業向けの研修も行っている。						
授業の学習内容	①基礎である呼吸法をしっかり身に着けることで、歌うためのメンタルと身体楽器を作ることを学ぶ ②歌うことで更なる表現力を学び演技等への表現力へと繋げる ③基礎をしっかりと身に着け、歌う為の響きの良い身体を習得してほしい						
到達目標	歌うために必要な基礎をしっかりと身に着け、土台を作り上げる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義・演習	1年間の授業内容の説明とプリント配布	プリントの解読
2	4月24日	講義・演習	歌う時の姿勢・呼吸法の基礎の実践①一人ずつワンコーラス歌を発表	姿勢・呼吸法のおさらい①発表曲のおさらい
3	5月8日	講義・演習	歌う時の姿勢・呼吸法の基礎の実践②一人ずつワンコーラス歌を発表	姿勢・呼吸法のおさらい②発表曲のおさらい
4	5月15日	講義・演習	歌う時の姿勢・呼吸法の基礎の実践③一人ずつワンコーラス歌を発表	姿勢・呼吸法のおさらい③発表曲のおさらい
5	5月22日	講義・演習	歌う時の土台になる筋力・スケールのトレーニング①一人ずつワンコーラス歌を発表	筋力・スケールトレーニングのおさらい①発表曲のおさらい
6	5月29日	講義・演習	歌う時の土台になる筋力・スケールのトレーニング②一人ずつワンコーラス歌を発表	筋力・スケールトレーニングのおさらい②発表曲のおさらい
7	6月5日	講義・演習	声を作り出す筋力①・リップロール・スケールのトレーニング・一人ずつワンコーラス歌を	声筋力①・リップロール・スケールトレーニングのおさらい・発表曲のおさらい
8	6月12日	講義・演習	声を作り出す筋力②・タンロール・スケールのトレーニング・一人ずつワンコーラス歌を発表	声筋力②・タンロール・スケールトレーニングのおさらい・発表曲のおさらい
9	6月19日	講義・演習	腹筋強化・舌のトレーニング①・一人ずつワンコーラス歌を発表	腹筋強化・舌のトレーニング①のおさらい・発表曲のおさらい
10	7月3日	講義・演習	腹筋強化・舌のトレーニング②・一人ずつワンコーラス歌を発表	腹筋強化・舌のトレーニング②のおさらい・発表曲のおさらい
11	7月10日	講義・演習	前期の授業内容の確認	前期のトレーニングの復習
12	7月17日	講義・演習	前期の歌のまとめと発表	前期の発表曲の復習
13	8月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月28日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			毎日呼吸法の実践・VTノートを作りすべての注意点を記入・自分の歌った曲は必ず録音する	

【使用教科書・教材・参考書】

配布したプリント・メモ用ノート・録音機器（ipad)・自分が歌う曲の歌詞

科目名	ヴォーカルトレーニング(2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	西涼子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	昭和音楽短期大学声楽科卒業後ヤマハのコンテストで優秀賞を受賞し,その後多数アーティストのバックコーラスとしてレコーディングやTV番組、コンサートツアーに参加。現在オリジナル呼吸法で企業向けの研修も行っている。						
授業の学習内容	①基礎である呼吸法をしっかり身に着けることで、歌うためのメンタルと身体楽器を作ることを学ぶ ②歌うことで更なる表現力を学び演技等への表現力へと繋げる ③基礎をしっかりと身に着け、歌う為の響きの良い身体を習得してほしい						
到達目標	基礎である土台固めをさらに築いて響きの良い身体作りを実践する						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	後期の各自の目標制作	後期の目標確認
2	10月16日	講義・演習	一人ずつフルコーラス歌を発表	発表曲のおさらい
3	10月30日	講義・演習	前期のすべてのおさらい	前期内容の確認
4	11月6日	講義・演習	呼吸法・リズム・半音のトレーニング①一人ずつワンコーラス歌を発表	呼吸法・リズム・半音のおさらい①発表曲のおさらい
5	11月13日	講義・演習	呼吸法・リズム・半音のトレーニング②一人ずつワンコーラス歌を発表	呼吸法・リズム・半音のおさらい②発表曲のおさらい
6	11月20日	講義・演習	呼吸法・リズム・半音のトレーニング③一人ずつワンコーラス歌を発表	呼吸法・リズム・半音のおさらい③発表曲のおさらい
7	11月27日	講義・演習	呼吸法・リズム・半音のトレーニング④一人ずつワンコーラス歌を発表	呼吸法・リズム・半音のおさらい④発表曲のおさらい
8	12月4日	講義・演習	身体の中で声を鳴らす・胸の響かせ方・一人ずつワンコーラス歌を発表	胸の響かせ方のおさらい・発表曲のおさらい
9	12月11日	講義・演習	身体の中で声を鳴らす・鼻の響かせ方・一人ずつワンコーラス歌を発表	鼻の響かせ方のおさらい・発表曲のおさらい
10	12月18日	講義・演習	身体の中で声を鳴らす・ヘッドの響かせ方・一人ずつワンコーラス歌を発表	ヘッドの響かせ方のおさらい・発表曲のおさらい
11	1月15日	講義・演習	1年間のまとめ	1年間のおさらい
12	1月22日	講義・演習	最後の歌の発表	発表曲のおさらい
13	2月5日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月19日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

配布したプリント・メモ用ノート・録音機器（ipad)・自分が歌う曲の歌詞

科目名	マーケティング基礎(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	黒須亮成
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	アーティストマネジメント、音楽制作、映像制作、イベント企画・制作・運営などを15年以上経験。あらゆる業種・業界の課題をマーケティングやクリエイティブを用いて解決していく株式会社Kometsubu Entertainmentを経営。						
授業の学習内容	変化の激しい現代社会では、一人ですべてを完結させるのではなく、他者と協力して価値を生み出す力が求められています。「良いものを作れば売れる」時代は終わり、マーケティングを通じて相手のニーズを把握し、「売れる仕組み」をつくる視点が重要です。また、個人が活躍できる時代だからこそ、専門スキルに加え、届ける力＝マーケティング力も必要です。時間や物量ではなく「発想」で仕事をする時代へと変わっており、協力・共創の視点がカギとなります。 本講義では、講義・グループワーク・企業プロジェクトを通して、マーケティングの原理を学び、社会や顧客とのつながり方を実践的に身につけます。エンタメ業界に限らず、すべての分野で活用できる考え方としてマーケティングを学び、学生自身のアイデアを形にする力を養います。						
到達目標	◆シミュレーション演習によって、今まで知らない職種や立場を理解し、業界の全体像を理解できるようになる　◆マーケティングの基礎を理解できるようになる　◆身近にあるマーケティングを探し、仕組みを理解し、プロデュース＆ディレクション（提案）できるようになる　◆マーケティングを学ぶことで、エンタテイメント業界に限らず、一般企業などのビジネス全体像が理解できるようになる　◆タレント側、クライアント側、関係各所の気持ちや立場、パワーバランスが理解できるようになる　◆ゼロから1を作る方法がわかる　◆実際に使われてい「る企画書、書類、メール文などを見ることによって即戦力を身につける　◆電話やメールのコミュニケーションを学び、実践で使えるようになる　◆交渉ができるようになる　◆企業プロジェクトができるようになる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	マーケティングの意味や基本を理解し、なぜそれが重要なのかを学ぶ	授業後のレポート課題
2	5月7日	講義・演習	プレゼンを学び、自己ブランディングに向けたプロフィール作成に着手し、自己表現できるようになる	授業後のレポート課題
3	5月14日	講義・演習	「ビジョンボード」、「やりたいことリスト100」などを作成し、将来の目標を明確化できるようになる（コミュニケーションに活かす）	授業後のレポート課題
4	5月21日	講義・演習	エンタテインメントを含む世の中のマーケティング実例を学び、その仕組みについて理解する	授業後のレポート課題
5	5月28日	講義・演習	既存アーティストや商品、サービスの独自のウリ(USP)を学び、プロデュース視点で物事を考えるスキルを学ぶ	授業後のレポート課題
6	6月4日	講義・演習	マーケティングスキルのひとつ「リスクリバーサル」を学び、相手の立場に立った提案ができるようになる	授業後のレポート課題
7	6月11日	講義・演習	実例を基に、「ジョイントベンチャー(戦略的業務提携)」を学び、あらゆる企画立案ができるようになる	授業後のレポート課題
8	6月18日	講義・演習	テレマーケティングを学び、交渉術などプロジェクトを円滑に進行する力を身につける	授業後のレポート課題
9	6月25日	講義・演習	SNSを使ったマーケティングを学び、仕組みを理解できるようになる	授業後のレポート課題
10	7月2日	講義・演習	学んだマーケティング視点を使って、実際に企画を立てる	授業後のレポート課題
11	7月9日	講義・演習	立てた企画を実際にアウトプットして市場の反応を見ながらブラッシュアップすることを学ぶ	授業後のレポート課題
12	7月16日	講義・演習	筆記＆実技テスト	授業後のレポート課題
13	8月27日	講義・演習	テストの復習をして、応用を導き出せるようになる	授業後のレポート課題
14	9月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月24日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	マーケティング基礎(2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	黒須亮成
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		

教員の略歴	アーティストマネジメント、音楽制作、映像制作、イベント企画・制作・運営などを15年以上経験。あらゆる業種・業界の課題をマーケティングやクリエイティブを用いて解決していく株式会社Kometsubu Entertainmentを経営。
授業の学習内容	変化の激しい現代社会では、一人ですべてを完結させるのではなく、他者と協力して価値を生み出す力が求められています。「良いものを作れば売れる」時代は終わり、マーケティングを通じて相手のニーズを把握し、「売れる仕組み」をつくる視点が重要です。また、個人が活躍できる時代だからこそ、専門スキルに加え、届ける力＝マーケティング力も必要です。時間や物量ではなく「発想」で仕事をする時代へと変わっており、協力・共創の視点がカギとなります。 本講義では、講義・グループワーク・企業プロジェクトを通して、マーケティングの原理を学び、社会や顧客とのつながり方を実践的に身につけます。エンタメ業界に限らず、すべての分野で活用できる考え方としてマーケティングを学び、学生自身のアイデアを形にする力を養います。
到達目標	◆シミュレーション演習によって、今まで知らない職種や立場を理解し、業界の全体像を理解できるようになる　◆マーケティングの基礎を理解できるようになる　◆身近にあるマーケティングを探し、仕組みを理解し、プロデュース＆ディレクション（提案）できるようになる　◆マーケティングを学ぶことで、エンタテイメント業界に限らず、一般企業などのビジネス全体像が理解できるようになる　◆タレント側、クライアント側、関係各所の気持ちや立場、パワーバランスが理解できるようになる　◆ゼロから1を作る方法がわかる　◆実際に使われてい「る企画書、書類、メール文などを見ることによって即戦力を身につける　◆電話やメールのコミュニケーションを学び、実践で使えるようになる　◆交渉ができるようになる　◆企業プロジェクトができるようになる
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	メディアのマーケティングを理解する	授業後のレポート課題
2	10月8日	講義・演習	テストマーケティングを学び、実践するための判断やシミュレーションができるようになる	授業後のレポート課題
3	10月22日	講義・演習	コミュニケーションを学び、ワンランク上のマーケティングスキルを身につける	授業後のレポート課題
4	10月29日	講義・演習	ダイレクトメールを学び、マーケティングと営業スキル、交渉力を身につける	授業後のレポート課題
5	11月5日	講義・演習	商品やサービスのキャンペーンの仕組みについて学び、提案力を身につける	授業後のレポート課題
6	11月12日	講義・演習	コピーライティングやブランディングについて学び、視覚的なプロデュースができるようになる	授業後のレポート課題
7	11月19日	講義・演習	お金の基本を学び、お金を集める方法を学び、プロデュース力を身につける	授業後のレポート課題
8	11月26日	講義・演習	企画書の作り方を学び、具体的にマーケティングを仕掛けていく力を身につける	授業後のレポート課題
9	12月3日	講義・演習	紹介マーケティングを学び、実践できるようになる	授業後のレポート課題
10	12月17日	講義・演習	実際に企画した案件を実施し、マーケティングの検証・改善を行い、ワンランク上のマーケティングを身につける	授業後のレポート課題
11	1月14日	講義・演習	マーケティングを意識した企画を実際に制作・運営する	授業後のレポート課題
12	1月21日	講義・演習	筆記＆実技テスト	授業後のレポート課題
13	1月28日	講義・演習	テストの復習をして、応用を導き出せるようになる	授業後のレポート課題
14	9月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月24日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Digital Foundation(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	佐藤瑠美 尾中彩美 石井慎一郎 若狭　洋佑
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	デザイナーとしての実務経験、グラフィックデザイン科の講師経験						
授業の学習内容	社会においてIT知識、広告・宣伝は欠かせないものであり、消費者として普段からよく目にするものでもある。 この科目の受講者自身にはビジネスにおけるIT知識、広告宣伝に使えるデザインの基礎知識を習得し、 講義では、デザイン技術を、演習を中心に、使用頻度の高いアプリケーションを用いてスキル習得していく。						
到達目標	Macを自由に扱えるようになる。 Adobe Photoshopの基本操作ができるようになる。（レタッチ中心） Adobe Illustratorの基本操作ができるようになる。（ベジェ曲線操作、デザイン中心） デザイン性のある入稿用データ作成ができるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	macの基本操作、Teamsの利用方法、Keynoteの基本操作理解、自己紹介資料を作成する。	【事前動画説明】macの基本操作方法、Teamsの利用方法、Keynoteの機能説明と基本操作方法
2	4月21日	講義・演習	ワードとエクセルの基本操作理解。ワード（ビジネス文章）/エクセル(タイムテーブル)提出	【事前動画説明】画面収録の方法、Word（文書作成）、Excel（表の作成、表計算）の操作方法
3	5月12日	講義・演習	PhotoshopとIllustratorの違いを理解する。【Ai】【Ps】基本操作（ワークスペース、ツールバー、パレット、画面拡縮、新規作成、保存）	【事前動画説明】AdobeCCログイン方法、PhotoshopとIllustratorのワークスペース、ツールバー、パレットなど基本操作方法
4	5月19日	講義・演習	【Ai】基本操作：選択、バウンディングボックス、カラー、変形、重ね順、図形応用、ダイレクト選択ツール、パスファインダ、整列、テキスト入力、グループ化	【事前動画説明】Aiを使用して作れるものの紹介、操作方法
5	5月26日	講義・演習	【Ps】基本操作：画像切り抜き、レタッチ、写真補正	【事前動画説明】Psを使用して作れるものの紹介、操作方法
6	6月2日	講義・演習	【Ps】【Ai】写真を複数用いたミニポスター課題作成、作成例を観察、トレンドやデザイン性について考える	【事前動画説明】ミニポスター作成の手順を解説、Psを使用した写真加工、Aiでのレイアウト、ロゴ作成、入稿用データ作成、デザインのトレンドについて
7	6月9日	講義・演習	【Ps】【Ai】写真を複数用いたミニポスター課題作成、仕上げ、提出	同上
8	6月16日	講義・演習	【Ps】【Ai】写真を複数用いたグッズデータ課題作成、作成例を観察、魅力的なグッズとは何か考える□	【事前動画説明】グッズデータ作成の手順を解説、Psを使用した写真加工、Aiでのレイアウト、入稿用データ作成、魅力的なグッズとはなにか
9	6月23日	講義・演習	【Ps】【Ai】写真を複数用いたグッズデータ課題作成、仕上げ、提出	同上
10	6月30日	講義・演習	【Ps】【Ai】写真を複数用いたパンフレット課題作成、作成例を観察、多くの情報を整理整頓することに慣れ、美しいデザインを作成する	【事前動画説明】パンフレットデータ作成の手順を解説、Psを使用した写真加工、Aiでのレイアウト、入稿用データ作成、情報を整理整頓する
11	7月7日	講義・演習	【Ps】【Ai】写真を複数用いたパンフレットデータ課題作成	同上
12	7月14日	講義・演習	【Ps】【Ai】写真を複数用いたパンフレットデータ課題作成、仕上げ、提出	同上
13	8月25日	講義・演習	到達度テスト	【事前動画説明】前期で習得してきたスキルを一通り復習する。
14	9月8日	講義・演習	イベント実践を通してデジタルスキルの業務を学ぶ	レポート
15	9月15日	講義・演習	イベント実践を通してデジタルスキルの業務を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習			定期的にメディアを通じて雑誌のデザイン、グッズデザインなどを見て自分の好みをよく考える	

【使用教科書・教材・参考書】

Mac,Keynote,Microsoft office,Teams,Adobeアプリケーション

科目名	Digital Foundation(2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	佐藤瑠美 尾中彩美 石井慎一郎 若狭　洋佑
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 （2単位）		
教員の略歴	広告代理店、映像制作会社での実務経験						
授業の学習内容	昨今の社会において、デジタルコンテンツを制作・発信する能力は欠かせないものである。 この科目の受講者自身にはデジタルポートフォリオを所持してもらい、自身の活動をPRする映像を制作・発信する。 写真やビデオ等の映像機器及び映像編集ソフトを用いた表現に関する学習を通して、表現力・映像処理能力を高める。						
到達目標	履修者全員が動画制作をできるようになる。 STUDIOを利用した自身のデジタルポートフォリオ（web）の運営ができるようになる。 Adobe AfterEffectsの基本操作ができるようになる。（アニメーション作成・エフェクト適用中心） Adobe Premiereの基本操作ができるようになる。（カット編集中心） YouTubeに投稿した動画をポートフォリオに掲載して他者に共有できるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義・演習	【STUDIO】自身のポートフォリオサイトを作成、STUDIO基本操作習得。	【事前動画説明】STUDIOのアカウント作成～基本操作方法
2	10月13日	講義・演習	【STUDIO】ポートフォリオサイトを仕上げる。提出	同上
3	10月20日	講義・演習	【Pr】Premiereで出来ることを知る。Prの基本操作理解：新規プロジェクト作成、シーケンス作成、素材の読み込み、カット編集、書き出し	【事前動画説明】Prを使用して作れるものの紹介、基本操作方法(プロジェクト作成～編集～動画書き出しまで)
4	10月27日	講義・演習	【Pr】Premiere発展課題①　ショート動画作成：カット編集、字幕入力、音楽、書き出し、提出	同上
5	11月3日	講義・演習	【Pr】Premiere発展課題②　Vlog作成：カット編集、字幕入力、音楽、色調補正、書き出し、提出	Vlogに使う動画を撮影してくる
6	11月10日	講義・演習	【Ae】AfterEffectsの基本操作理解：新規プロジェクト作成、コンポジション作成、平面作成、テキスト入力、素材の読み込み、エフェクト追加、書き出し	【事前動画説明】Aeを使用して作れるものの紹介、基本操作方法(プロジェクト作成～アニメ作成～動画書き出しまで)
7	11月17日	講義・演習	【Ae】AfterEffects発展課題①　キーフレームアニメ作成：素材読み込み、キャラクターアニメーション作成、提出	【事前動画説明】Aeでのキーフレームアニメの作り方、テキストアニメの作り方
8	11月24日	講義・演習	【Ae】AfterEffects発展課題②　リリックビデオ作成：プリセットを使ったテキストアニメ作成、提出	同上
9	12月1日	講義・演習	【YouTube】YouTubeに動画を投稿する。【STUDIO】ポートフォリオに動画を掲載する。	【事前動画説明】YouTubeへの投稿方法、STUDIOでポートフォリオに動画を掲載する方法
10	12月8日	講義・演習	最終課題選定。自己アピール動画のテーマを選定し映像構成をする。アイデア出しから制作までの手順を理解し、完成させる。	【事前動画説明】最終課題の参考映像を紹介。アイデア出しから制作までの手順を解説。
11	12月15日	講義・演習	個人制作	同上
12	1月19日	講義・演習	個人制作	同上
13	2月2日	講義・演習	個人制作と最終課題の提出(ポートフォリオに制作した動画を掲載する)　到達度テスト	【事前動画説明】後期で習得したスキルを一通り復習する。
14	2月9日	講義・演習	イベント実践を通してデジタルスキルの業務を学ぶ	レポート
15	2月16日	講義・演習	イベント実践を通してデジタルスキルの業務を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習			動画コンテンツに触れて、面白い映像表現、どんな編集をしているか観察しておく。	

【使用教科書・教材・参考書】

Mac,Teams,STUDIO,Adobeアプリケーション

科目名	舞台舞踏史・脚本解釈(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	石橋祐
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	日本大学芸術学部　演劇学科演技コース卒業、在学中より劇団ショーマのメンバーとして活動。NWS,トップコート、を経て多数の舞台公演、映画、テレビドラマ、CMに出演。						
授業の学習内容	今日の演劇・映画などのエンターテイメントがどのように成熟したのか、その歴史を学ぶことは、俳優・声優をはじめエンターテイメントの世界を目指す受講生にとって、とても重要なことです。演劇・舞踊などの舞台芸術の歴史を時代性・社会性と関連づけながら、それぞれの時代の代表的な作家、作品を紹介していくきます。同時に名作と言われる脚本を取り上げ実際に読み進めることにより、脚本の読解力を高め、演技者としての創造的インテリジェンスの獲得を目的とします。						
到達目標	古今東西の芸能の歴史・先人達の演劇的叡智に触れ、学ぶことにより、受講生のこれからの舞台創造、演技的創造に生かせる知識を獲得することを目標とします。 さらに昨今、若年層の読書量が減っていると言われています。台本、脚本を読み理解することで、文学、物語の理解を深めていくこと、読解力、想像力の獲得を目指します。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	ガイダンス「時代・社会の鏡としての舞台芸術」	講義のポイントをノートし復習しておくこと
2	4月21日	講義・演習	演劇の起源～古代ギリシャ 演劇の形態と特徴～	講義のポイントをノートし復習しておくこと
3	5月12日	講義・演習	シェイクスピアの時代の舞台芸術の形態と特徴	講義のポイントをノートし復習しておくこと
4	5月19日	講義・演習	シェイクスピア劇を読む①「ロミオとジュリエット」	テキストを熟読し、予習復習し理解を深めておく
5	5月26日	講義・演習	シェイクスピア劇を読む②「ロミオとジュリエット」	テキストを熟読し、予習復習し理解を深めておく
6	6月2日	講義・演習	シェイクスピア劇を読む③「ロミオとジュリエット」	テキストを熟読し、予習復習し理解を深めておく
7	6月9日	講義・演習	シェイクスピア劇を読む④「ロミオとジュリエット」	テキストを熟読し、予習復習し理解を深めておく
8	6月16日	講義・演習	シェイクスピア劇を読む⑤「ロミオとジュリエット」	テキストを熟読し、予習復習し理解を深めておく
9	6月23日	講義・演習	シェイクスピア劇を読む⑥「ロミオとジュリエット」	テキストを熟読し、予習復習し理解を深めておく
10	6月30日	講義・演習	日本の伝統芸　①能・狂言の発生	講義のポイントをノートし復習しておくこと
11	7月7日	講義・演習	日本の伝統芸　②歌舞伎の登場	講義のポイントをノートし復習しておくこと
12	7月14日	講義・演習	日本の伝統芸　③歌舞伎の世界	講義のポイントをノートし復習しておくこと
13	8月25日	講義・演習	イベント実践を通して基礎を見直す	レポートの提出
14	9月8日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月15日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	舞台舞踏史・脚本解釈(2)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	石橋祐
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	日本大学芸術学部　演劇学科演技コース卒業、在学中より劇団ショーマのメンバーとして活動。NWS,トップコート、を経て多数の舞台公演、映画、テレビドラマ、CMに出演。						
授業の学習内容	今日の演劇・映画などのエンターテイメントがどのように成熟したのか、その歴史を学ぶことは、俳優・声優をはじめエンターテイメントの世界を目指す受講生にとって、とても重要なことです。演劇・舞踊などの舞台芸術の歴史を時代性・社会性と関連づけながら、それぞれの時代の代表的な作家、作品を紹介していきます。同時に名作と言われる脚本を取り上げ実際に読み進めることにより、脚本の読解力を高め、演技者としての創造的インテリジェンスの獲得を目的とします。						
到達目標	古今東西の芸能の歴史・先人達の演劇的叡智に触れ、学ぶことにより、受講生のこれからの舞台創造、演技的創造に生かせる知識を獲得することを目標とします。 さらに昨今、若年層の読書量が減っていると言われています。台本、脚本を読み理解することで、文学、物語の理解を深めていくこと、読解力、想像力の獲得を目指します。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義・演習	近代劇　様々な劇作家たち西欧編　イプセンとチェーホフ	講義のポイントをノートし復習しておくこと
2	10月13日	講義・演習	近代劇様々な劇作家たち米国編　S.ワイルダー、T.ウィリアムス	講義のポイントをノートし復習しておくこと
3	10月20日	講義・演習	S.ワイルダー作　戯曲「わが町」を読む①	テキストを熟読し、予習復習し理解を深めておく
4	10月27日	講義・演習	S.ワイルダー作　戯曲「わが町」を読む②	テキストを熟読し、予習復習し理解を深めておく
5	11月3日	講義・演習	S.ワイルダー作　戯曲「わが町」を読む③	テキストを熟読し、予習復習し理解を深めておく
6	11月10日	講義・演習	S.ワイルダー作　戯曲「わが町」を読む④	テキストを熟読し、予習復習し理解を深めておく
7	11月17日	講義・演習	S.ワイルダー作　戯曲「わが町」を読む⑤	テキストを熟読し、予習復習し理解を深めておく
8	11月24日	講義・演習	近代劇 アメリカ演劇Ⅰ　ブロードウェイ演劇	講義のポイントをノートし復習しておくこと
9	12月1日	講義・演習	近代劇 アメリカ演劇Ⅱ　ブロードウェイ・ミュージカル	講義のポイントをノートし復習しておくこと
10	12月8日	講義・演習	近代劇 アメリカ演劇Ⅲ　ハリウッド映画の発展	講義のポイントをノートし復習しておくこと
11	12月15日	講義・演習	日本近代演劇史～日本文学・演劇の流れ。	講義のポイントをノートし復習しておくこと
12	1月12日	講義・演習	日本映画～テレビ文化・アニメーション作品の発展	講義のポイントをノートし復習しておくこと
13	2月2日	講義・演習	イベント実践を通して基礎を見直す	レポートの提出
14	2月9日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月16日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	プロダクション実務(3)	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	藤崎昌弘
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	音楽大学卒業後、A&R、原版制作ディレクター、アレンジャー、サウンドプロデューサーとして勤務。木梨憲武、NOA、吉柳咲良、AB6ix、n.Ssign、MYNAME、Ryu Siwon、ヘラヘラ三銃士のA&R、コンサート制作を数多く手がける。						
授業の学習内容	音楽業界で即戦力として働く上での、基礎知識を学び、ライブ制作、マネージメント、レコード会社との課授業を実施する。 ・マネージメント（音楽プロダクション／芸能プロダクション） ・ライブ関連（ライブ制作会社／イベンター） ・レコード会社（宣伝／制作／販促） 上記3つの業種への就職に向けて、学校内外で学ぶことにより、業界というものを実際体験することで「考える力・発言する力」を養い、協調性と当事者意識、責任感を身につけることを目的とする。						
到達目標	①「礼儀」「プレゼン能力」「資料作成」の基礎的な事柄を確実にできることを目標とし、「社会で生きる力」をつけることを目標とする ②「コミュニケーション力」「積極性・自主性」「先回りをできる力」を外部で発揮できることを目標とする。 ③ 自身でアーティストをみつけ、学内外にプレゼンし、マネージメントすること。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月15日	講義・演習	音楽業界について理解する	後日レポート提出
2	5月13日	講義・演習	マネージャーの仕事について理解する	後日レポート提出
3	5月20日	講義・演習	レコード会社の仕事について理解する	後日レポート提出
4	5月27日	講義・演習	コンサートの仕事について理解する	後日レポート提出
5	6月3日	講義・演習	実践シミュレーション	仮想アーティストを立てて実際にシミュレーションをおこなう
6	6月10日	講義・演習	売れているアーティスト、ヒットの定義について考える	後日レポート提出
7	6月17日	講義・演習	ゲスト講義① A&R経験者の体験談	後日レポート提出 質問表の事前作成
8	6月24日	講義・演習	メディアの役割を理解する	後日レポート提出
9	7月1日	講義・演習	プランニングの重要性を理解する	後日レポート提出
10	7月8日	講義・演習	マネージメントというものを理解する	後日レポート提出
11	7月15日	講義・演習	プロフィールの資料、プレゼン資料について学ぶ	後日レポート提出
12	7月22日	講義・演習	自身で学内からアーティストを見つけてプレゼンする①	事前にスカウトし、これまで学んだことを実践しプレゼンする
13	8月26日	講義・演習	前期のまとめ	後日レポート提出
14	9月9日	講義・演習	イベント実践を通してプロダクション業務を学ぶ	レポート
15	9月16日	講義・演習	イベント実践を通してプロダクション業務を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	プロダクション実務(4)	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	藤崎昌弘
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	音楽大学卒業後、A&R、原版制作ディレクター、アレンジャー、サウンドプロデューサーとして勤務。木梨憲武、NOA、吉柳咲良、AB6ix、n.Ssign、MYNAME、Ryu Siwon、ヘラヘラ三銃士のA&R、コンサート制作を数多く手がける。						
授業の学習内容	音楽業界で即戦力として働く上での、基礎知識を学び、ライブ制作、マネージメント、レコード会社との課授業を実施する。 ・マネージメント（音楽プロダクション／芸能プロダクション） ・ライブ関連（ライブ制作会社／イベンター） ・レコード会社（宣伝／制作／販促） 上記3つの業種への就職に向けて、学校内外で学ぶことにより、業界というものを実際体験することで「考える力・発言する力」を養い、協調性と当事者意識、責任感を身につけることを目的とする。						
到達目標	①「礼儀」「プレゼン能力」「資料作成」の基礎的な事柄を確実にできることを目標とし、「社会で生きる力」をつけることを目標とする ②「コミュニケーション力」「積極性・自主性」「先回りをできる力」を外部で発揮できることを目標とする。 ③ 自身でアーティストをみつけ、学内外にプレゼンし、マネージメントすること。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月14日	講義・演習	自身で学内からアーティストを見つけてプレゼンする②	事前にスカウトし、これまで学んだことを実践しプレゼンする
2	10月21日	講義・演習	イベントを企画し、シミュレーションする	後日レポート提出□
3	10月28日	講義・演習	ライブツアーを企画し、シミュレーションする	後日レポート提出□
4	11月4日	講義・演習	ゲスト講義② ライブ制作経験者の体験談	後日レポート提出 質問表の事前作成
5	11月11日	講義・演習	著作権について理解する	後日レポート提出□
6	11月18日	講義・演習	アーティストの権利について理解する	後日レポート提出□
7	11月25日	講義・演習	プロダクションの収支について理解する	後日レポート提出□
8	12月2日	講義・演習	ゲスト講義③ 音楽プロデューサーの体験談	後日レポート提出 質問表の事前作成
9	12月9日	講義・演習	コミュニケーションについて理解し、プレゼン能力を学ぶ	後日レポート提出□
10	12月16日	講義・演習	既存のメディアとSNSでので宣伝方法の違いについて理解する	後日レポート提出□
11	1月13日	講義・演習	年間計画表を作成して戦略を立てる	後日レポート提出□
12	1月20日	講義・演習	年間計画表を作成して発表 プレゼンし実践的なマネージメントを理解する	後日レポート提出□
13	2月3日	講義・演習	全体のまとめ	後日レポート提出□
14	2月10日	講義・演習	イベント実践を通してプロダクション業務を学ぶ	レポート
15	2月17日	講義・演習	イベント実践を通してプロダクション業務を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Dance Produce(3)	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	松村武司
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	「地球ゴージャス」ミュージカル出演・「木村カエラ」バックダンサー・「サカナクション」ダンサー						
授業の学習内容	ダンサーを職業とする為に必要な、技術・心構え・コミュニケーション力を授業内容全般を通して学んでいく。 身体を鍛え抜く事で精神力も鍛え、社会人として必要なマナーも学んで行く。						
到達目標	自身の個性を、自身のダンススキルで表現出来るようになる。将来の目標としている分野に進んで行けるよう、自身で考え行動して行ける人物になる。必要とされる人材になる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月25日	講義・演習	授業紹介・スキルチェック	ストレッチ、クールダウン
2	5月9日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
3	5月16日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
4	5月23日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
5	5月30日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
6	6月6日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
7	6月13日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
8	6月20日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
9	7月4日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
10	7月11日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
11	7月18日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
12	8月22日	講義・演習	定期テスト	自身の踊りの研究
13	9月12日	講義・演習	前期まとめ	後期に向けての目標を立てる
14	9月19日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月26日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Dance Produce(4)	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	松村武司
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	「地球ゴージャス」ミュージカル出演・「木村カエラ」バックダンサー・「サカナクション」ダンサー						
授業の学習内容	ダンサーを職業とする為に必要な、技術・心構え・コミュニケーション力を授業内容全般を通して学んでいく。 身体を鍛え抜く事で精神力も鍛え、社会人として必要なマナーも学んで行く。						
到達目標	自身の個性を、自身のダンススキルで表現出来るようになる。将来の目標としている分野に進んで行けるよう、自身で考え行動して行ける人物になる。必要とされる人材になる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	スキルチェック・目標設定	ストレッチ、クールダウン
2	10月17日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
3	10月24日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
4	10月31日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
5	11月7日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
6	11月14日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
7	11月21日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
8	11月28日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
9	12月5日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
10	12月12日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
11	12月19日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
12	1月16日	講義・演習	定期テスト	自身の踊りの研究
13	1月23日	講義・演習	後期まとめ	後期に向けての目標を立てる
14	2月6日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月13日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	映像演技(3)	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	真田幹也
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	役者活動暦27年　監督暦23年　講師暦11年						
授業の学習内容	映画、ドラマなど映像の演技に必要な知識や技術の習得。既存のシナリオ・脚本を配布。本読み形式で内容を理解後、カメラの前で実際に演じてみる。毎回、自分の演じたビデオを見ながら問題点、反省点を共に考え演技に対する理解を深めていく。						
到達目標	カメラの前で演技をする事に慣れ、意識的に自ら動ける様になる/演技は楽しいと思えるようになる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義・演習	オリエンテーション・自己紹介	現状の自分、1年後の自分を考えてみる
2	4月25日	講義・演習	カメラの前で台詞を言ってみる①	配布課題の熟読・暗記
3	5月9日	講義・演習	カメラの前で台詞を言ってみる②撮影	撮影で感じたことを意識→修正
4	5月16日	講義・演習	2人で芝居が出来る①	配布課題の熟読・暗記
5	5月23日	講義・演習	2人で芝居が出来る②	配布課題の熟読・暗記
6	5月30日	講義・演習	2人で芝居が出来る③撮影	撮影で感じたことを意識→修正
7	6月6日	講義・演習	みんなで芝居が 出来る①	配布課題の熟読・暗記
8	6月13日	講義・演習	みんなで芝居が 出来る②	配布課題の熟読・暗記
9	6月20日	講義・演習	みんなで芝居が 出来る③	配布課題の熟読・暗記
10	7月4日	講義・演習	みんなで芝居が 出来る④	配布課題の熟読・暗記
11	7月11日	講義・演習	みんなで芝居が 出来る⑤	配布課題の熟読・暗記
12	7月18日	講義・演習	みんなで芝居が出来る⑥撮影	撮影で感じたことを意識→修正
13	8月22日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月29日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

参考文献「映画の演技」 マイケル・ケイン著　劇書房

科目名	映像演技(4)	必修選択	選択必修	年次	2	担当教員	真田幹也
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	役者活動暦27年　監督暦23年　講師暦11年						
授業の学習内容	映画、ドラマなど映像の演技に必要な知識や技術の習得。既存のシナリオ・脚本を配布。本読み形式で内容を理解後、カメラの前で実際に演じてみる。毎回、自分の演じたビデオを見ながら問題点、反省点を共に考え演技に対する理解を深めていく。						
到達目標	カメラの前で演技をする事に慣れ、意識的に自ら動ける様になる/演技は楽しいと思えるようになる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	2人で(カメラを意識して)芝居が出来る①	配布課題の熟読・暗記
2	10月10日	講義・演習	2人で(カメラを意識して)芝居が出来る②	配布課題の熟読・暗記
3	10月17日	講義・演習	2人で(カメラを意識して)芝居が出来る③撮影	撮影で感じたことを意識→修正
4	10月31日	講義・演習	2人で(カメラを意識して)芝居が出来る④	配布課題の熟読・暗記
5	11月7日	講義・演習	2人で(カメラを意識して)芝居が出来る⑤	配布課題の熟読・暗記
6	11月14日	講義・演習	2人で(カメラを意識して)芝居が出来る⑥撮影	撮影で感じたことを意識→修正
7	11月21日	講義・演習	2人で芝居が出来る(仕上げ)①	配布課題の熟読・暗記
8	11月28日	講義・演習	2人で芝居が出来る(仕上げ)②	配布課題の熟読・暗記
9	12月5日	講義・演習	2人で芝居が出来る(仕上げ)③	配布課題の熟読・暗記
10	12月12日	講義・演習	2人で芝居が出来る(仕上げ)④	配布課題の熟読・暗記
11	12月19日	講義・演習	2人で芝居が出来る(仕上げ)⑤撮影	撮影で感じたことを意識→修正
12	1月16日	講義・演習	2人で芝居が出来る(仕上げ)⑥まとめ	1年経って現状の自分を把握する→その先を目指す
13	1月23日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	1月30日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月13日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

参考文献「映画の演技」 マイケル・ケイン著　劇書房

科目名	Planning Basic(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	高田雄貴
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60 (4単位)		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当。 独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる。						
授業の学習内容	[1] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画（プランニング）についての基礎知識を学習する [2] 音楽ビジネスのコア3ビジネスのうちイベント（コンサート/ライブ他）企画の実施についての基礎知識を学習する [3] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画（プランニング）について学ぶ中から実務の基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で業界人として必要な基礎知識を構築する [2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で業界人として必要な基礎知識を構築する [3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で業界人として必要な心構えを構築する						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	はじめに　～　企画って何？	音楽事業者協会と音楽制作者連盟 についての調査を行う
2	5月7日	講義・演習	企画は誰の為を理解する	レポート
3	5月14日	講義・演習	会場について理解する	公益社団法人 全国公立文化施設協会についての調査を行う
4	5月21日	講義・演習	5W1Hを理解する	レポート
5	5月28日	講義・演習	打合せとレジュメを理解する	レポート
6	6月4日	講義・演習	メディアとプロモーションを理解する	レポート
7	6月11日	講義・演習	ホームページとSNSを理解する	レポート
8	6月18日	講義・演習	マーケットについて知る	レポート
9	6月25日	講義・演習	売れているヒットチャートを理解する	レポート
10	7月2日	講義・演習	スタッフについて知る	レポート
11	7月9日	講義・演習	集客するには（入場券とプレイガイド）を理解する	レポート
12	7月16日	講義・演習	イベントのビジネスモデルを知る	レポート
13	8月27日	講義・演習	企画立案しプレゼンする	レポート
14	9月10日	講義・演習	イベント実践を通してプランニング力を学ぶ	レポート
15	9月17日	講義・演習	イベント実践を通してプランニング力を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習			授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。□	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Planning Basic(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	高田雄貴
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60 (4単位)		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当。 独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる。						
授業の学習内容	[1] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画（プランニング）についての基礎知識を学習する [2] 音楽ビジネスのコア3ビジネスのうちイベント（コンサート/ライブ他）企画の実施についての基礎知識を学習する [3] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画（プランニング）について学ぶ中から実務の基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で業界人として必要な基礎知識を構築する [2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で業界人として必要な基礎知識を構築する [3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で業界人として必要な心構えを構築する						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	企画項目を整理する	レポート□
2	10月15日	講義・演習	企画書作成の準備をする・1	アーティストの調査レポート
3	10月22日	講義・演習	企画書作成の準備をする・2	夏フェスティバルの調査レポート
4	10月29日	講義・演習	実在のイベントをモデルに企画書化する・1	夏フェスティバルの調査レポート
5	11月5日	講義・演習	実在のイベントをモデルに企画書化する・2	モデルタイムテーブルの作成
6	11月12日	講義・演習	会場設備理論（全国の会場を分析する） ホール編を学ぶ	全国のホールを調査する
7	11月19日	講義・演習	会場設備理論（全国の会場を分析する） ライブハウス編を学ぶ	全国のホールを調査する
8	11月26日	講義・演習	会場設備理論（全国の会場を分析する） アリーナスタジアム編を学ぶ	全国のホールを調査する
9	12月3日	講義・演習	イベント企画の研究する	オリンピックについて調査する
10	12月10日	講義・演習	イベントと法規を学ぶ	消防申請について調査する
11	12月17日	講義・演習	単体イベントとツアーの違いを理解する	クリスマスツアーの調査レポート
12	1月12日	講義・演習	ツアーの企画を立案する	交通インフラの調査レポート
13	1月21日	講義・演習	イベントのスタイルとビジネスモデルを学ぶ	ACPCの資料を検証レポート
14	2月4日	講義・演習	イベント実践を通してプランニング力を学ぶ	準備レポートの提出
15	2月11日	講義・演習	イベント実践を通してプランニング力を学ぶ	実施レポートの作成
準備学習　時間外学習			授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます□	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	実践ビジネス基礎(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	関口陽介
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	経営管理学修士（MBA）、キッザニア広報・マーケティング部長／アートアクアリウム美術館総館長、他						
授業の学習内容	ビジネス上、知っておくべき基本的な知識や今日的な話題、さらには、知っていることで発展性のあるテーマを学び、かつ、コロナ禍以降、格段に必要性が高まったリモートコミュニケーションへの対応力を養成する。具体的には、教員が教室内で対面して行う授業に加えて、配信型授業を取り入れ、滋慶学園グループ他地域校との交流を通した視野の拡大を狙う。更に、2コマ連続授業の特性を生かし、学生同士のディスカッションやプレゼンテーションの機会を設け、学生の参加・継続意識の向上を図る。						
到達目標	①基本的なマーケティングの考え方を理解する ②今日的なビジネストピックに関する自分なりの意見を持つようになる ③ZOOMを活用したリモートプレゼンテーションができる ④滋慶グループ他校との交流を通して、刺激を受け、授業参画意識を向上させる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義・演習	授業ガイダンス・キャリアデザイン	事後学習として、配布資料の復習
2	5月8日	講義・演習	プロジェクトマネジメント・セルフプレゼンテーション1	事後学習として、配布資料の復習
3	5月15日	講義・演習	マーケティングの基礎　4P分析・ワークショップ	事後学習として、配布資料の復習
4	5月22日	講義・演習	マーケティングの基礎　ペルソナ設定・ワークショップ	事後学習として、配布資料の復習
5	5月29日	講義・演習	マーケティングの基礎　3C分析・ワークショップ	事後学習として、配布資料の復習
6	6月5日	講義・演習	マーケティングの基礎　STP戦略・ワークショップ	事後学習として、配布資料の復習
7	6月12日	講義・演習	近未来のビジネス展望　Society5.0を考える	事後学習として、配布資料の復習
8	6月19日	講義・演習	世界で最も成功しているエンタメビジネスの考察	事後学習として、配布資料の復習
9	6月26日	講義・演習	企業研究・ワークショップ1	事後学習として、配布資料の復習
10	7月3日	講義・演習	イベントプランニング（企画理解・構想・企画書製作）1	事後学習として、配布資料の復習
11	7月10日	講義・演習	イベントプランニング（プレゼンテーション）2	事後学習として、配布資料の復習
12	7月17日	講義・演習	考課試験/授業レポートの発表	事後学習として、配布資料の復習
13	8月28日	講義・演習	試験解答・振り返り	事後学習として、配布資料の復習
14	9月4日	講義・演習	イベント実践を通してビジネス業務を学ぶ	レポート
15	9月11日	講義・演習	イベント実践を通してビジネス業務を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習			講義後、配布資料を復習し、不明点を調べ、次回講義で質問する習慣を身につける。	

【使用教科書・教材・参考書】

使用教材は、講義ごとに教員が準備した資料を使用する。

科目名	実践ビジネス基礎(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	関口陽介
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	経営管理学修士（MBA）、元キッザニア広報・マーケティング部長／アートアクアリウム美術館総館長、他						
授業の学習内容	ビジネス上、知っておくべき基本的な知識や今日的な話題、さらには、知っていることで発展性のあるテーマを学び、かつ、コロナ禍以降、格段に必要性が高まったリモートコミュニケーションへの対応力を養成する。具体的には、教員が教室内で対面して行う授業に加えて、配信型授業を取り入れ、滋慶学園グループ他地域校との交流を通した視野の拡大を狙う。更に、2コマ連続授業の特性を生かし、学生同士のディスカッションやプレゼンテーションの機会を設け、学生の参加・継続意識の向上を図る。						
到達目標	①基本的なマーケティングの考え方を理解する ②今日的なビジネストピックに関する自分なりの意見を持つようになる ③ZOOMを活用したリモートプレゼンテーションができる ④滋慶グループ他校との交流を通して、刺激を受け、授業参画意識を向上させる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	カスタマージャーニー（消費者行動の理解）	事後学習として、配布資料の復習
2	10月9日	講義・演習	飲食ビジネス	事後学習として、配布資料の復習
3	10月23日	講義・演習	セルフプレゼンテーション2	事後学習として、配布資料の復習
4	10月30日	講義・演習	アート思考	事後学習として、配布資料の復習
5	11月6日	講義・演習	広告論	事後学習として、配布資料の復習
6	11月13日	講義・演習	企業研究・ワークショップ2	事後学習として、配布資料の復習
7	11月20日	講義・演習	SDGsのビジネスへの展開	事後学習として、配布資料の復習
8	11月27日	講義・演習	スポンサー制度	事後学習として、配布資料の復習
9	12月4日	講義・演習	ビジネスクリエーション（コンビニ研究）	事後学習として、配布資料の復習
10	12月18日	講義・演習	イベントプランニング2（企画理解・構想・企画書製作）	事後学習として、配布資料の復習
11	1月15日	講義・演習	イベントプランニング2（プレゼンテーション）	事後学習として、配布資料の復習
12	1月22日	講義・演習	考課試験/授業レポートの発表	事後学習として、配布資料の復習
13	1月29日	講義・演習	試験解答・振り返り	事後学習として、配布資料の復習
14	2月12日	講義・演習	イベント実践を通してマーケティング業務を学ぶ	レポート
15	2月19日	講義・演習	イベント実践を通してマーケティング業務を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習			講義後、配布資料を復習し、不明点を調べ、次回講義で質問する習慣を身につける。	

【使用教科書・教材・参考書】

使用教材は、講義ごとに教員が準備した資料を使用する。

科目名	SNS運用基礎(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	上原 優也
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	SNS運用代行・コンサルティング・広告事業・SNSスクール事業運営						
授業の学習内容	現在、SNSは商品認知や購買のきっかけとなるだけでなく、多くのトレンドが生まれる場として大きな影響力を持っています。さらに、ローコストで始められる点からも、今後SNS運用のスキルは必須になると考えられます。 本プログラムでは、企画・撮影・編集の実践と分析を通して、感覚や一過性に頼らず、再現性を持ち、長期的かつ多方面で活用できる運用力を養成します。						
到達目標	1. ジャンルごとに最適な企画を根拠を持って考案できる。 2. 撮影準備から実際の撮影までを計画立てて進めることができる。 3. ユーザー目線で細部までこだわった動画制作ができる。 4. データを元にPDCAを回し、SNS運用ができる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月15日	講義・演習	SNSマーケティング、縦型動画の基礎を学ぶ～企画編～	分析シートの記入・授業の復習
2	5月13日	講義・演習	縦型動画の基礎を学ぶ～編集編～	分析シートの記入・授業の復習
3	5月20日	講義・演習	1から企画考案・プレゼン	分析シートの記入・授業の復習
4	5月27日	講義・演習	縦型動画運用　～実際に投稿しよう～	分析シートの記入・授業の復習
5	6月3日	講義・演習	縦型動画運用　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
6	6月10日	講義・演習	縦型動画運用　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
7	6月17日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう①　～企画考案・プレゼン～	分析シートの記入・授業の復習
8	6月24日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう①　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
9	7月1日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう①　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
10	7月8日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう②　～企画考案・プレゼン～	分析シートの記入・授業の復習
11	7月15日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう②　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
12	7月22日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう②　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
13	8月26日	講義・演習	試験	これまでの授業の総括
14	9月9日	講義・演習	イベント実践を通してSNS運用方法を学ぶ	レポート
15	9月16日	講義・演習	イベント実践を通してSNS運用方法を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

スマホ編集アプリ「CapCut/VLLO」、分析用アプリ「TikTok」

科目名	SNS運用基礎(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	上原 優也
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	SNS運用代行・コンサルティング・広告事業・SNSスクール事業運営						
授業の学習内容	現在、SNSは商品認知や購買のきっかけとなるだけでなく、多くのトレンドが生まれる場として大きな影響力を持っています。さらに、ローコストで始められる点からも、今後SNS運用のスキルは必須になると考えられます。 本プログラムでは、企画・撮影・編集の実践と分析を通して、感覚や一過性に頼らず、再現性を持ち、長期的かつ多方面で活用できる運用力を養成します。						
到達目標	1. ジャンルごとに最適な企画を根拠を持って考案できる。 2. 撮影準備から実際の撮影までを計画立てて進めることができる。 3. ユーザー目線で細部までこだわった動画制作ができる。 4. データを元にPDCAを回し、SNS運用ができる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月14日	講義・演習	SNSマーケティング、縦型動画の基礎を学ぶ～企画編～	分析シートの記入・授業の復習
2	10月21日	講義・演習	縦型動画の基礎を学ぶ～編集編～	分析シートの記入・授業の復習
3	10月28日	講義・演習	1から企画考案・プレゼン	分析シートの記入・授業の復習
4	11月4日	講義・演習	縦型動画運用　～実際に投稿しよう～	分析シートの記入・授業の復習
5	11月11日	講義・演習	縦型動画運用　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
6	11月18日	講義・演習	縦型動画運用　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
7	11月25日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう①　～企画考案・プレゼン～	分析シートの記入・授業の復習
8	12月2日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう①　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
9	12月9日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう①　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
10	12月16日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう②　～企画考案・プレゼン～	分析シートの記入・授業の復習
11	1月13日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう②　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
12	1月20日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう②　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
13	2月3日	講義・演習	試験	これまでの授業の総括
14	2月10日	講義・演習	イベント実践を通してSNS運用方法を学ぶ	レポート
15	2月17日	講義・演習	イベント実践を通してSNS運用方法を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

スマホ編集アプリ「CapCut/VLLO」、分析用アプリ「TikTok」

科目名	マネジメント能力(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	唐澤 淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	アーティストのマネジメント、プロデュースを経て、現在に至る						
授業の学習内容	前期では、実際の企業から提供された課題をもとに、チームでその背景や現状をリサーチし、課題の本質を見極める力を養います。業界や競合、ターゲットの調査を通じて課題を整理し、さまざまなアイデア発想法を用いながら解決策を考案します。チームでの意見交換や役割分担を通じて協働スキルを高め、最終的には中間プレゼンテーションとして企画案を発表します。これにより、調査分析力、発想力、基礎的なプレゼンテーション能力を身につけることが目的です。						
到達目標	実在する企業から提示された課題に対して、自ら考え行動し、解決策を企画・提案する力を養う チームでの協働作業により、プロジェクトマネジメント力を身につける 課題解決の過程を資料としてまとめ、対外的にわかりやすくプレゼンテーションする力を養う						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	オリエンダンス・企業課題の説明	※毎回、情報収集と分析は基本準備になります
2	4月21日	講義・演習	チームビルディング・役割決定	クラス内プレゼンに向けての資料作り
3	5月12日	講義・演習	課題リサーチ①（現状分析）	プレゼン資料の修正
4	5月19日	講義・演習	課題リサーチ②（競合分析・ユーザー調査）	プレゼン資料の完成版作成
5	5月26日	講義・演習	問題定義と課題整理	案件２の情報収集と分析
6	6月2日	講義・演習	アイデア発想法講義・実践	
7	6月9日	講義・演習	アイデア選定・コンセプト決定	クラス内プレゼンに向けての資料作り
8	6月16日	講義・演習	企画書作成①（構成設計）	プレゼン資料の修正
9	6月23日	講義・演習	企画書作成②（文章・図解）	プレゼン資料の完成版作成
10	6月30日	講義・演習	中間プレゼン準備	
11	7月7日	講義・演習	中間プレゼンテーション	
12	7月14日	講義・演習	フィードバック分析・改善方針検討	
13	9月8日	講義・演習	成果まとめ・後期に向けた準備	
14	9月15日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	レポート
15	9月22日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	マネジメント能力(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	唐澤 淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	アーティストのマネジメント、プロデュースを経て、現在に至る						
授業の学習内容	後期では、前期で構築した企画案をもとに、さらに内容を深めて具体化していきます。企業や教員からのフィードバックをもとにブラッシュアップを行い、必要に応じて簡易的なプロトタイプや検証を実施します。提案内容を説得力のある形でまとめた最終企画書を作成し、外部関係者に向けてプレゼンテーションを行います。授業の最後にはプロジェクト全体を振り返り、自らの学びと成長を言語化・記録します。実践的な企画力、発信力、自己評価力の向上を目指します。						
到達目標	プロトタイプや具体的資料を通して、提案の説得力や実行力を高めることができる チームで最終プレゼンテーションを完成させ、外部関係者に対して自信を持って発表できる 最後にプロジェクト全体を振り返り、自らの成長や改善点を言語化・記録できる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月14日	講義・演習	後期ガイダンス・進捗確認	課題理解と情報収集
2	10月21日	講義・演習	解決策ブラッシュアップ①	課題理解と情報収集
3	10月28日	講義・演習	解決策ブラッシュアップ②	課題理解と情報収集
4	11月4日	講義・演習	プロトタイプ設計①(モデル化)	課題理解と情報収集
5	11月11日	講義・演習	プロトタイプ設計②(簡易モデル制作)	課題理解と情報収集
6	11月18日	講義・演習	フィードバック収集	課題理解と情報収集
7	11月25日	講義・演習	提案内容の最終調整	課題理解と情報収集
8	12月2日	講義・演習	最終企画書作成①	課題理解と情報収集
9	12月9日	講義・演習	最終企画書作成②	課題理解と情報収集
10	12月16日	講義・演習	最終プレゼン練習①	課題理解と情報収集
11	1月13日	講義・演習	最終プレゼン練習②	課題理解と情報収集
12	1月20日	講義・演習	最終プレゼンテーション	課題理解と情報収集
13	2月3日	講義・演習	囚りかえり・評価・報告書作成	課題理解と情報収集
14	2月10日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	マネジメント実践ゼミ(3) マネジメント実践ゼミB(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	尾中彩美
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60 （4単位）		
教員の略歴	広告代理店にて制作進行などを担当。大学にてグラフィックデザイン学科助手を務める。						
授業の学習内容	自分の今までの制作物と自分自身をプレゼンテーションするための媒体（WEB、紙などのメディア）を制作する。自分の考え、企画、実績を人に伝えるデザインの成果物を通じてエンターテインメント業界との繋がりや、社会へ出た後の仕事の獲得のためのスキルアップを目指していく。また同時に、言葉での表現のスキルアップも目指していく。 既存のデザインの分析＆リサーチ→自己分析→自己分析の結果のアウトプットを行う。						
到達目標	就職活動を視野に入れ、自分自身のプレゼンテーションをできるようにする。 人前で自分の考えやスキルセットを話す練習を行い、慣れるようにする。 ビジュアルコミュニケーションのスキルアップを目指す。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義・演習	オリエンテーション・講義	Teamsを使用
2	4月25日	講義・演習	デザインの実例のリサーチ	学校外での展覧会見学
3	5月9日	講義・演習	リサーチ結果のプレゼンテーション	Teamsを使用
4	5月16日	講義・演習	課題①自分自身のプレゼンテーション（Google スライド）	作業
5	5月23日	講義・演習	課題①自分自身のプレゼンテーション（Google スライド）	Teamsを使用
6	5月30日	講義・演習	課題2：WEBサイトの構築（STUDIO）	構成作成
7	6月6日	講義・演習	課題2：WEBサイトの構築（STUDIO）	WEBサイト作成作業
8	6月13日	講義・演習	課題2：WEBサイトの構築（STUDIO）（講評会）	Teamsを使用
9	6月20日	講義・演習	課題3：紙のポートフォリオの作成	構成作成
10	7月4日	講義・演習	課題3：紙のポートフォリオの作成	作業
11	7月11日	講義・演習	課題3：紙のポートフォリオの作成	作業
12	7月18日	講義・演習	課題3：紙のポートフォリオの作成（講評会）	課題4の準備
13	8月22日	講義・演習	課題4：授業の総括のプレゼンテーション、自己紹介	ブラッシュアップ
14	8月29日	講義・演習	イベント実践を通してデザインマネジメント業務を学ぶ	レポート
15	9月12日	講義・演習	イベント実践を通してデザインマネジメント業務を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	マネジメント実践ゼミ(4) マネジメント実践ゼミB(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	石井慎一郎
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60 （4単位）		
教員の略歴	イラスト・デザイン制作を中心に活躍。大学にてグラフィックデザイン学科研究室助手。						
授業の学習内容	プロモーション活動に必要な広告・宣伝。それを可能とする多種多様なデザインツールは近年の技術の向上や普及により、デザインのハードルを下げ、以前よりオープンなものになっている。今後デザインとはデザイナーのみではなく、一般的に他者へ発信するツールとして、必要なスキルの一つとして身につけておくものではないだろうか。 この科目ではイベントのプロモーションパンフレットを成果物とし、グラフィックデザインにおける冊子構成の基礎知識とともに、コンテンツを作成するための知識を身につけ、講師に指導を受けながらスキル習得していく。						
到達目標	他者に自分自身のアイデアや意図を提案できるようになる。 個人ではなく、複数人で作品を作り上げる能力や考え方を身につける。 成果物を作成するためのデザインツールの技術の向上（Adobe Illustrator,Adobe Photoshopなど）を目指す。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	【講義】初回オリエンテーション 【演習】個人レイアウト課題	学生のバックグラウンド調査のための演習課題の実施
2	10月10日	講義・演習	【講義】グラフィックデザインにおける構成について 【演習】個人レイアウト課題のブラッシュアップ	演習に向けて前週の課題を分析する。
3	10月17日	講義・演習	第一課題に向けてプランニング・準備を開始する。	プランニングに向けてリサーチする。
4	10月31日	講義・演習	第一課題準備・制作時間	プレゼンテーションに向けて準備を行う。
5	11月7日	講義・演習	第一課題プレゼンテーション・講評会	プレゼンテーションに向けて準備を行う。
6	11月14日	講義・演習	最終課題に向けてプランニング・準備を開始する。	プランニングに向けてリサーチする。
7	11月21日	講義・演習	制作時間・個別制作チェック	次回の制作チェックに向けて制作を行う。
8	11月28日	講義・演習	制作時間・個別制作チェック	次回の制作チェックに向けて制作を行う。
9	12月5日	講義・演習	最終課題 中間プレゼンテーション・講評会	プレゼンテーションに向けて準備を行う。
10	12月12日	講義・演習	制作時間・個別制作チェック	次回の制作チェックに向けて制作を行う。
11	12月19日	講義・演習	制作時間・個別制作チェック	次回の制作チェックに向けて制作を行う。
12	1月16日	講義・演習	制作時間 予備日	次回の講評会に向けて制作を行う。
13	1月23日	講義・演習	最終課題プレゼンテーション・講評会	プレゼンテーションの準備
14	1月30日	講義・演習	イベント実践を通してデザインマネジメント業務を学ぶ	レポート
15	2月13日	講義・演習	イベント実践を通してデザインマネジメント業務を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	MC/リポート実習(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	実由
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ラジオDJ,イベントMC、ナレーター、TVバラエティー、ドラマ、舞台、雑誌、CMへの出演。1995年～現在						
授業の学習内容	タレントとしてバラエティー番組などで必要とされるトーク（フリートーク・レポート・番宣告知など） イベントステージでのMC、ラジオDJ、SNSなどのライブ配信でのフリートークetc・・それぞれのトークのポイントやテクニックを学ぶ						
到達目標	役者として演技だけではなく様々なシーンで活躍できる技術を見につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	授業説明	特になし
2	5月7日	講義・演習	フリートーク　アイテム紹介 （3分）	3分間のトーク内容を作る
3	5月14日	講義・演習	フリートーク　アイテム紹介 （3分）	アドバイスを踏まえて練習
4	5月21日	講義・演習	フリートーク　作品紹介 （3分）	3分間のトーク内容を作る
5	5月28日	講義・演習	フリートーク　作品紹介 （3分）	アドバイスを踏まえて練習
6	6月4日	講義・演習	生コマーシャル(原稿＆フリートーク)	商品についての情報収集
7	6月11日	講義・演習	生コマーシャル(原稿＆フリートーク)	商品についての情報収集
8	6月18日	講義・演習	イベントや公演などの告知 番宣トーク （グループ5分）	イベントや作品のあらすじや内容等情報収集
9	6月25日	講義・演習	イベントや公演などの告知 番宣トーク （グループ5分）	グループでのトークや自分の担当を考える
10	7月2日	講義・演習	イベントや公演などの告知 番宣トーク （5分）	イベントや作品のあらすじや内容等情報収集
11	7月9日	講義・演習	イベントや公演などの告知 番宣トーク （5分）	アドバイスを踏まえて練習
12	7月16日	講義・演習	テスト	テスト振り返り
13	8月27日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月10日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	8月17日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			各週、授業の最後に課題を伝えます	

【使用教科書・教材・参考書】

その都度講師が用意

科目名	MC/リポート実習(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	実由
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ラジオDJ,イベントMC、ナレーター、TVバラエティー、ドラマ、舞台、雑誌、CMへの出演。1995年～現在						
授業の学習内容	タレントとしてバラエティー番組などで必要とされるトーク（フリートーク・レポート・番宣告知など） イベントステージでのMC、ラジオDJ、SNSなどのライブ配信でのフリートークetc・・それぞれのトークのポイントやテクニックを学ぶ						
到達目標	役者として演技だけではなく様々なシーンで活躍できる技術を見につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	ラジオ番組を想定したフリートーク	新聞やネットニュースから事情ネタを収集
2	10月15日	講義・演習	ラジオ番組を想定したフリートーク	新聞やネットニュースから事情ネタを収集
3	10月22日	講義・演習	インタビュー	インタビューする相手の情報の下調べとインタビュー内容を考える
4	10月29日	講義・演習	インタビュー	インタビューする相手の情報の下調べとインタビュー内容を考える
5	11月5日	講義・演習	レポート演習(自分の生まれ育った街をレポート)	レポートする場所の情報などを収集
6	11月12日	講義・演習	レポート演習(自分の生まれ育った街をレポート)	レポートの内容を考える
7	11月19日	講義・演習	レポート演習(自分の生まれ育った街をレポート)	アドバイスを踏まえて練習
8	11月26日	講義・演習	MC演習 (ライブなどのイベント)	台本の読み込みやフリートーク部分のネタを収集
9	12月3日	講義・演習	MC演習 (ライブなどのイベント)	アドバイスを踏まえて練習
10	12月10日	講義・演習	MC演習 (セレモニー)	台本の読み込みやフリートーク部分のネタを収集
11	12月17日	講義・演習	MC演習 (セレモニー)	アドバイスを踏まえて練習
12	1月14日	講義・演習	テスト	テスト振り返り
13	1月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月4日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			各週、授業の最後に課題を伝えます	

【使用教科書・教材・参考書】

その都度講師が用意

科目名	外画(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	北村幸子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	外画吹き替え80作品。ディスカバリーオブウィッチズシリーズ、たった一人の私の味方						
授業の学習内容	マイク前での技術、表現を学ぶ。吹き替えにおけるスキル（スタジオマナー、映像チェック法、会話の表現、息遣いなど）を身につけアフレコを行う。						
到達目標	外画作品への理解を深める。アフレコに必要な基礎（発声、活舌、マイクワーク、マナー等）を確認しそれらを活かしマイクの前での芝居がスムーズに表現できるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義・演習	アフレコをし、外画作品を理解する	吹き替え作品を1作品以上鑑賞しておく
2	4月25日	講義・演習	吹き替えのルールを学びアフレコを行う（タイムコード等）	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
3	5月9日	講義・演習	ストーリー、登場人物、関係性、などの理解を深める	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
4	5月16日	講義・演習	キャラクターを通して自身の強み、課題を探る	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
5	5月23日	講義・演習	相手との会話を意識しアフレコする	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
6	5月30日	講義・演習	映像チェックのポイントを確認し実践する	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
7	6月6日	講義・演習	登場人物の動き表情を細かくチェックし再現する	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
8	6月13日	講義・演習	マイクワークを実践する	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
9	6月20日	講義・演習	客観的に自身の演技や声、キャラクターを考える	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
10	7月4日	講義・演習	自身の強みを見つけていく	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
11	7月11日	講義・演習	役とのシンクロ率を上げていく	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
12	7月18日	講義・演習	アフレコを行い試験に臨む	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
13	8月22日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月29日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			発声、活舌などの基礎は各自で練習しておく。台本を読み込んでおく。	

【使用教科書・教材・参考書】

コピー台本

科目名	外画(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	北村幸子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	外画吹き替え80作品。ディスカバリーオブウィッチズシリーズ、たった一人の私の味方						
授業の学習内容	前期で学んだマイク前での技術、表現を実践しアフレコを行う。映像チェック、アドリブ、息遣い、会話、登場人物の機微などの細かな表現の精度を上げアフレコする。						
到達目標	ストーリー、シーン、登場人物への理解を深める。マイク前の芝居を通して相手との会話を大事に表現し、全員で作品を作り上げることを意識できるようになる。より実践に近いクオリティの表現を習得する。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	自身の強みを伸ばせる目標を定め授業に臨む	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
2	10月10日	講義・演習	マイク前の技術面の精度を上げアフレコする	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
3	10月17日	講義・演習	自身の声、性格に合った表現を考えアフレコする	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
4	10月31日	講義・演習	シーンの流れ、前後の流れを理解しアフレコする	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
5	11月7日	講義・演習	登場人物の気持ちの流れをくみ取り表現していく	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
6	11月14日	講義・演習	登場人物の機微を正確にマイク前で表現していく	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
7	11月21日	講義・演習	【相手を認識し会話ができるようになるには】を考える	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
8	11月28日	講義・演習	映像に合わせる技術の精度を上げアフレコする	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
9	12月5日	講義・演習	台本上にない場合の息遣いアドリブの表現を学ぶ	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
10	12月12日	講義・演習	アフレコ最中に技術、芝居の両面を構築する感覚を掴む	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
11	12月19日	講義・演習	作品の全体像をとらえ芝居を構築しアフレコする	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
12	1月16日	講義・演習	アフレコを行い試験に臨む	レポート（自身の強みを認識し自身で纏める）
13	1月23日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	1月30日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月13日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			発声、活舌などの基礎は各自で練習しておく。台本を読み込んでおく。	

【使用教科書・教材・参考書】

コピー台本

科目名	ヴォーカルトレーニング(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	西涼子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	昭和音楽短期大学声楽科卒業後ヤマハのコンテストで優秀賞を受賞し,その後多数アーティストのバックコーラスとしてレコーディングやTV番組、コンサートツアーに参加。現在オリジナル呼吸法で企業向けの研修も行っている。						
授業の学習内容	①歌に必要な呼吸法を身に着けることで、しっかりと歌うための声を作り出し響きの良い身体作りを学ぶ ②歌うことで更なる表現力を学び演技等への表現力へと繋げる ③自分をアピールできる楽曲を探し、習得してほしい						
到達目標	歌うための身体作りやしっかりとした音感を習得し歌うための表現力を身に着け歌うための技術のレベルアップを達成する						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義・演習	前期の各自の目標制作	前期の目標確認
2	4月24日	講義・演習	歌う時の姿勢・呼吸法の基礎の復習①一人ずつワンコーラス歌を発表	姿勢・呼吸法のおさらい①発表曲のおさらい
3	5月8日	講義・演習	歌う時の姿勢・呼吸法の基礎の復習②一人ずつワンコーラス歌を発表	姿勢・呼吸法のおさらい②発表曲のおさらい
4	5月15日	講義・演習	歌う時の姿勢・呼吸法の基礎の復習③一人ずつワンコーラス歌を発表	姿勢・呼吸法のおさらい③発表曲のおさらい
5	5月22日	講義・演習	歌う時の土台になる筋力のトレーニング復習①一人ずつワンコーラス歌を発表	筋力トレーニングのおさらい①発表曲のおさらい
6	5月29日	講義・演習	歌う時の土台になる筋力のトレーニング復習②一人ずつワンコーラス歌を発表	筋力トレーニングのおさらい②発表曲のおさらい
7	6月5日	講義・演習	声を作り出す筋力①・リップロールのトレーニング・一人ずつワンコーラス歌を発表	声筋力①・リップロールトレーニングのおさらい・発表曲のおさらい
8	6月12日	講義・演習	声を作り出す筋力②・タンロールのトレーニング・一人ずつワンコーラス歌を発表	声筋力②・タンロールトレーニングのおさらい・発表曲のおさらい
9	6月19日	講義・演習	腹筋強化・舌のトレーニング①・一人ずつワンコーラス歌を発表	腹筋強化・舌のトレーニング①のおさらい・発表曲のおさらい
10	7月3日	講義・演習	腹筋強化・舌のトレーニング②・一人ずつワンコーラス歌を発表	腹筋強化・舌のトレーニング②のおさらい・発表曲のおさらい
11	7月10日	講義・演習	前期の授業内容の確認	前期のトレーニングの復習
12	7月17日	講義・演習	前期の歌のまとめと発表	前期の発表曲の復習
13	8月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月28日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			毎日呼吸法の実践・VTノートを作りすべての注意点を記入・自分の歌った曲は必ず録音する	

【使用教科書・教材・参考書】

配布したプリント・メモ用ノート・録音機器（ipad）・自分が歌う曲の歌詞

科目名	ヴォーカルトレーニング(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	西涼子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	昭和音楽短期大学声楽科卒業後ヤマハのコンテストで優秀賞を受賞し,その後多数アーティストのバックコーラスとしてレコーディングやTV番組、コンサートツアーに参加。現在オリジナル呼吸法で企業向けの研修も行っている。						
授業の学習内容	①歌に必要な呼吸法を身に着けることで、しっかりと歌うための声を作り出し響きの良い身体作りを学ぶ ②歌うことで更なる表現力を学び演技等への表現力へと繋げる ③自分をアピールできる楽曲を探し、習得してほしい						
到達目標	響きの良いからだ楽器を作り上げ、さらに自分を表現できるアピール曲を身に着ける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	後期の各自の目標制作	後期の目標確認
2	10月16日	講義・演習	一人ずつフルコーラス歌を発表	発表曲のおさらい
3	10月30日	講義・演習	前期のすべてのおさらい	前期内容の確認
4	11月6日	講義・演習	呼吸法・リズム・スケール・半音の復習①一人ずつワンコーラス歌を発表	呼吸法・リズム・スケール・半音のおさらい①発表曲のおさらい
5	11月13日	講義・演習	呼吸法・リズム・スケール・半音の復習②一人ずつワンコーラス歌を発表	呼吸法・リズム・スケール・半音のおさらい②発表曲のおさらい
6	11月20日	講義・演習	呼吸法・リズム・スケール・半音の復習③一人ずつワンコーラス歌を発表	呼吸法・リズム・スケール・半音のおさらい③発表曲のおさらい
7	11月27日	講義・演習	呼吸法・リズム・スケール・半音の復習④一人ずつワンコーラス歌を発表	呼吸法・リズム・スケール・半音のおさらい④発表曲のおさらい
8	12月4日	講義・演習	身体の中で声を鳴らす・胸の響かせ方・一人ずつワンコーラス歌を発表	胸の響かせ方のおさらい・発表曲のおさらい
9	12月11日	講義・演習	身体の中で声を鳴らす・鼻の響かせ方・一人ずつワンコーラス歌を発表	鼻の響かせ方のおさらい・発表曲のおさらい
10	12月18日	講義・演習	身体の中で声を鳴らす・ヘッドの響かせ方・一人ずつワンコーラス歌を発表	ヘッドの響かせ方のおさらい・発表曲のおさらい
11	1月15日	講義・演習	1年間のまとめ	1年間のおさらい
12	1月22日	講義・演習	最後の歌の発表	発表曲のおさらい
13	2月5日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月19日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			毎日呼吸法の実践・VTノートを作りすべての注意点を記入・自分の歌った曲は必ず録音する	

【使用教科書・教材・参考書】

配布したプリント・メモ用ノート・録音機器（ipad）・自分が歌う曲の歌詞

科目名	アテレコ(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	橋本浩志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	外画の吹き替え・アニメやゲーム多数。音響監督。						
授業の学習内容	アフレコ実習を通して表現することの面白さ楽しさを感じてもらう。それぞれの個性を見出し、それを活かした表現で感情、動き、距離感などが映像とうまくシンクロできるよう導く。将来的には授業経験を活かし、舞台や映像などの表現者としても、社会人としても人間的な魅力に満ちた個人に成長してほしい。						
到達目標	アニメの登場人物の感情や作品の世界観やテーマを正しく理解、解釈する。またそれを表現する力を習得させる。また常識の枠を超えたユニークな発想、自身の殻を破るチャレンジ精神を養う。スタジオでのマナーも共に学ぶ。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	アフレコ・吹き替えの歴史から現状までを知る。また基礎の正しい理解。	発声・滑舌・呼吸など基礎力の理解
2	4月21日	講義・演習	マイクを使いフリートークなどで自身の声質、声量、基礎力などを知り、今後の目標課題を理解してもらう。	発声・滑舌・呼吸など基礎力の理解
3	5月12日	講義・演習	マイクを使いフリートークなどで自身の声質、声量、基礎力などを知り、今後の目標課題を理解してもらう。	アクセント・滑舌の見直し
4	5月19日	講義・演習	尺短めのアフレコ題材を使って会話表現やマイクワークなどのアフレコ基礎を学ぶ	アクセント・滑舌の見直し
5	5月26日	講義・演習	尺短めのアフレコ題材を使って会話表現やマイクワークなどのアフレコ基礎を学ぶ	理解できなかった感情やシーンを再考し、演技プランの立て直しなどを図る。
6	6月2日	講義・演習	読み合わせなどをしながら解釈・表現・会話演技の習得を目指す。	理解できなかった感情やシーンを再考し、演技プランの立て直しなどを図る。
7	6月9日	講義・演習	読み合わせなどをしながら解釈・表現・会話演技の習得を目指す。	授業で演じたキャラの感情解釈。レベルアップを目指した予習復習や他生徒との事前リハを繰り返すこと。
8	6月16日	講義・演習	基礎的な事柄がまだクリアできていない人向けに基礎訓練に励む。	発声、呼吸、アクセント・滑舌の見直し
9	6月23日	講義・演習	基礎的な事柄がまだクリアできていない人向けに基礎訓練に励む。	発声、呼吸、アクセント・滑舌の見直し
10	6月30日	講義・演習	アフレコした内容をチェックし、細かい修正を重ねる。 また自身のアイデアを反映させる。	授業で演じたキャラの感情解釈。レベルアップを目指した予習復習や他生徒との事前リハを繰り返すこと。
11	7月7日	講義・演習	アフレコした内容をチェックし、細かい修正を重ねる。 また自身のアイデアを反映させる。	授業で演じたキャラの感情解釈。レベルアップを目指した予習復習や他生徒との事前リハを繰り返すこと。
12	7月14日	講義・演習	後期に向けた個々の目標を確認しつつ、女性は男の子役が出来るよう実習を重ねる	他人の演技表現やプロの表現に目を向けて研究や参考にする。
13	8月25日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	9月8日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月15日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	アテレコ(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	橋本浩志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	外画の吹き替え・アニメやゲーム多数。音響監督。						
授業の学習内容	アフレコ実習を通して表現することの面白さ楽しさを感じてもらう。それぞれの個性を見出し、それを活かした表現で感情、動き、距離感などが映像とうまくシンクロできるよう導く。将来的には授業経験を活かし、舞台や映像などの表現者としても、社会人としても人間的な魅力に満ちた個人に成長してほしい。						
到達目標	アニメの登場人物の感情や作品の世界観やテーマを正しく理解、解釈する。またそれを表現する力を習得させる。また常識の枠を超えたユニークな発想、自身の殻を破るチャレンジ精神を養う。スタジオでのマナーも共に学ぶ。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義・演習	新しい題材を使って前期からのレベルがどの位維持されているか確認する。	改めての発声・滑舌・呼吸など基礎力の見直し
2	10月13日	講義・演習	アフレコ実習を重ね、演技のスキルの底上げを図りながら自身のイメージより大きな表現を目指す。	改めての発声・滑舌・呼吸など基礎力の見直し。自身でセリフを録音して聞き直してみる等をする。
3	10月20日	講義・演習	アフレコ実習を重ね、演技のスキルの底上げを図りながら自身のイメージより大きな表現を目指す。	リアリティある表現力を身に付ける為に舞台や映画を観る。リアル体験を通して表現のヒント・答えを日常生活の中に見出す観察力や洞察力を養う。
4	10月27日	講義・演習	キャラの心情に寄り添い、感情の理解力を養う。またその感情を表現する力を養う。	リアリティある表現力を身に付ける為に舞台や映画を観る。リアル体験を通して表現のヒント・答えを日常生活の中に見出す観察力や洞察力を養う。
5	11月3日	講義・演習	キャラの心情に寄り添い、感情の理解力を養う。またその感情を表現する力を養う。	表現者としての目標を高く持ち、温故知新の気持ちで幅広いジャンルの作品を鑑賞して表現の参考にする。
6	11月10日	講義・演習	配役を変えながらアフレコ実習を重ね、自分にあったキャラを見つけ、そこから表現力の向上を目指す。	表現者としての目標を高く持ち、温故知新の気持ちで幅広いジャンルの作品を鑑賞して表現の参考にする
7	10月17日	講義・演習	配役を変えながらアフレコ実習を重ね、自分にあったキャラを見つけ、そこから表現力の向上を目指す。	表現者としての目標を高く持ち、温故知新の気持ちで幅広いジャンルの作品を鑑賞して表現の参考にする
8	10月24日	講義・演習	題材や配役を変えながらキャラ数を増やすことや、演じ分けの方法や技術を身に付ける。	実習中の作品に出演しているプロ声優の表現・芝居を研究して参考にする。常に考える習慣を身に付ける
9	12月1日	講義・演習	題材や配役を変えながらキャラ数を増やすことや、演じ分けの方法や技術を身に付ける。	実習中の作品に出演しているプロ声優の表現・芝居を研究して参考にする。常に考える習慣を身に付ける。
10	12月8日	講義・演習	アフレコ実習で自分自身の目標達成や問題改善が出来ているか？チェック！また自分の強みを見つける。	学年グループごとにそれぞれが向上できる話し合いの場を設ける。
11	12月15日	講義・演習	アフレコ実習で自分自身の目標達成や問題改善が出来ているか？チェック！また自分の強みを見つける。	学年グループごとにそれぞれが向上できる話し合いの場を設ける。
12	1月19日	講義・演習	自分自身の目標達成や問題改善が出来ているかなど、個々の課題を総括する。	個々の問題課題を理解した上で毎日少しずつでも改善できるように努める。
13	2月2日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月9日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月16日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ライブゼミ(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	清水賢治
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	ライブサポートやレコーディング（L'Arc～en～Ciel「DUNE」 / アニメタルレディー「アニメタル・レディー・マラソン」 / 44MAGNUM「44MAGNUM」など）で、キーボーディストとして活動。						
授業の学習内容	前期, 後期に各1回 行われる、Actor's ライブを発表の場（実技テスト）とし、 ライブにおける歌唱、パフォーマンスを実践する。校内（LS-1 または、LS-2）でのライブを行う。 前期・後期ともに、ライブでは、カラオケとバンド演奏による歌唱を併用する。 志あるものは、弾き語りにも、積極的に取り組む。						
到達目標	Actor's ライブという実践の場に向けて、企画制作、音響、照明、ミュージシャンの学生とも連携を取り、準備を行い、コミュニケーション・スキルの向上を目指すと共にライブ・イベントを作り上げる過程を学ぶ。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	年間を通しての授業説明/前期ライブに向け、各自の役割、ライブのテーマを決め、選曲などを行う。歌唱における発声の要点についても学ぶ。	前期 ライブというイベントを企画する上で、対象とする観客に楽しんでもらえるよう、内容を工夫する。
2	4月21日	講義・演習	観客に楽しんでもらえる内容であるか？ 歌いたいから…だけではなく、エンターテインメント性の高いものを目指す。	動画サイトや映像作品において、ライブにおける歌唱やパフォーマンスを表現者としての視点から、日々 研究する。
3	5月12日	講義・演習	台本、資料音源、歌詞、譜面など、後に企画制作や音響、照明コースの学生への共有が必要となるデータを理解する。	オーディオ編集ソフト、テキスト編集ソフトなどについて、積極的に自己学習する。
4	5月19日	講義・演習	各楽曲に対して、誰が歌うのか、メイン・パート、コーラス・パートをどうするか、など決定する。	日頃から、歌唱レパートリーを増やし、これまで歌ったことのない楽曲も、積極的に個人練習を行う。
5	5月26日	講義・演習	各楽曲に対して、イベント全体を通しての流れを考慮し、演目の曲順を決定する。	ライブ・イベントを共通の目標とし、クラスメイトへの敬意、感謝、配慮をもって、チームワークを高める。
6	6月2日	講義・演習	早い時点で、歌詞の暗記に取り組み、より質の高いパフォーマンスを行う。	歌唱表現に説得力を持たせる為、歌詞の内容や作品中のキャラクターの心情を理解し、歌唱箇所の歌詞を暗記する。
7	6月9日	講義・演習	前期 ライブに向けての各楽曲のリハーサルを行う。楽曲に適した衣装を早い時点でイメージし、準備を行う。	それぞれの楽曲に対して、動画サイトのライブや、カバー・バージョンなどを参考に、自分はどう表現するか計画する。
8	6月16日	講義・演習	前期 ライブに向けてのブロック通しリハーサルを行う。	リハーサルにおいて、客観的に振り返り・向上ができるよう、録音や録画し、チェックすることを習慣化する。
9	6月23日	講義・演習	前期 ライブに向けての各楽曲のリハーサルを行う。楽曲に適した衣装を早い時点でイメージし、準備を行う。	音響・照明・制作など、関係各部署と連絡を取り、ひとつのイベント成功に向け、自らが行動できることを実践する。
10	6月30日	講義・演習	前期 ライブ本番に向けての通し稽古①。本番同様の衣装を着用し、エンターテインメント性を向上させる。	スタッフ学生からの指示や要望を受け止め、彼らともチームであることを認識し、互いへの敬意をもって、取り組む。
11	7月7日	講義・演習	前期 ライブ本番に向けての通し稽古②。本番同様の衣装を着用し、意識の上でも本番を想定し取り組む。	ライブの形式が、有観客・無観客 いずれの場合でも、観て聴いてくださる方々へ届けるイメージを明確に意識する。
12	7月14日	講義・演習	前期 Actor's LIVE 本番日　サウンドチェック、ゲネリハからライブ本番、撤収に至る過程を実践する。	ライブ本番に向け、自らのパフォーマンスが最良の状態になるよう、コンディションを整える。
13	8月25日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	9月8日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月15日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

筆記用具、録音や録画の為のスマホやタブレット端末など。

科目名	ライブゼミ(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	清水賢治
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	ライブサポートやレコーディング（L'Arc～en～Ciel「DUNE」 / アニメタルレディー「アニメタル・レディー・マラソン」 / 44MAGNUM「44MAGNUM」など）で、キーボーディストとして活動。						
授業の学習内容	前期, 後期に各1回 行われる、Actor's ライブを発表の場（実技テスト）とし、 ライブにおける歌唱、パフォーマンスを実践する。校内（LS-1 または、LS-2）でのライブを行う。 前期・後期ともに、ライブでは、カラオケとバンド演奏による歌唱を併用する。 志あるものは、弾き語りにも、積極的に取り組む。						
到達目標	Actor's ライブという実践の場に向けて、 企画制作、音響、照明、ミュージシャンの学生とも連携を取り、準備を行い、 コミュニケーション・スキルの向上を目指すと共に ライブ・イベントを作り上げる過程を学ぶ。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義・演習	前期ライブの反省点を踏まえ、後期 ライブに向け、各自の役割、ライブのテーマを決め、選曲などを行う。	後期 ライブというイベントを企画する上で、対象とする観客に楽しんでもらえるよう、内容を工夫する。
2	10月13日	講義・演習	観客に楽しんでもらえる内容であるか？ 歌いたいから…だけではなく、エンターテインメント性の高いものを目指す。	動画サイトや映像作品において、ライブにおける歌唱やパフォーマンスを表現者としての視点から、日々 研究する。
3	10月20日	講義・演習	台本、資料音源、歌詞、譜面など、後に企画制作や音響、照明コースの学生への共有が必要となるデータを理解する。	オーディオ編集ソフト、テキスト編集ソフトなどについて、積極的に自己学習する。
4	10月27日	講義・演習	各楽曲に対して、誰が歌うのか、メイン・パート、コーラス・パートをどうするか、など決定する。	日頃から、歌唱レパートリーを増やし、これまで歌ったことのない楽曲も、積極的に個人練習を行う。
5	11月3日	講義・演習	各楽曲に対して、イベント全体を通しての流れを考慮し、演目の曲順を決定する。	ライブ・イベントを共通の目標とし、クラスメイトへの敬意、感謝、配慮をもって、チームワークを高める。
6	11月10日	講義・演習	早い時点で、歌詞の暗記に取り組み、より質の高いパフォーマンスを行う。	歌唱表現に説得力を持たせる為、歌詞の内容や作品中のキャラクターの心情を理解し、歌唱箇所の歌詞を暗記する。
7	10月17日	講義・演習	後期 ライブに向けての各楽曲のリハーサルを行う。楽曲に適した衣装を早い時点でイメージし、準備を行う。	それぞれの楽曲に対して、動画サイトのライブや、カバー・バージョンなどを参考に、自分はどう表現するか計画する。
8	10月24日	講義・演習	後期 ライブに向けてのブロック通しリハーサルを行う。	リハーサルにおいて、客観的に振り返り・向上ができるよう、録音や録画し、チェックすることを習慣化する。
9	12月1日	講義・演習	後期 ライブに向けての各楽曲のリハーサルを行う。楽曲に適した衣装を早い時点でイメージし、準備を行う。	音響・照明・制作など、関係各部署と連絡を取り、ひとつのイベント成功に向け、自らが行動できることを実践する。
10	12月8日	講義・演習	後期 ライブ本番に向けての通し稽古①。本番同様の衣装を着用し、エンターテインメント性を向上させる。	スタッフ学生からの指示や要望を受け止め、彼らともチームであることを認識し、互いへの敬意をもって、取り組む。
11	12月15日	講義・演習	後期 ライブ本番に向けての通し稽古②。本番同様の衣装を着用し、意識の上でも本番を想定し取り組む。	ライブの形式が、有観客・無観客 いずれの場合でも、観て聴いてくださる方々へ届けるイメージを明確に意識する。
12	1月19日	講義・演習	後期 ライブ本番日　サウンドチェック、ゲネリハからライブ本番、撤収に至る過程を実践する。	ライブ本番に向け、自らのパフォーマンスが最良の状態になるよう、コンディションを整える。
13	2月2日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月9日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月16日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ナレーション(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	森雄一
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ラジオパーソナリティ、ナレーターとして活動中						
授業の学習内容	①映像や音楽を「声による言葉」で導くナレーションはとても大切なポジションにあるものです。1年間で培った形をさらに磨いていきましょう。 ②俳優、声優、アナウンサー、ラジオDJ、タレント、ライバー、もちろんナレーターを目指す方に学んでほしいスキルです。 ③ナレーションは録音、ライブ、どちらでも求められるものです。トーンを変え、間を取り、聞く者にダイレクトに印象を伝えます。与えられた原稿をしっかり読むことはもちろん、自身でも原稿が書けるよう、様々なテキスト（文章）を読んで表現力を身につけてください。						
到達目標	前期では、ナレーションの幅の広さを知り、体験することを目指します。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	ナレーションの基礎を学ぶ①(日本語と向き合う)	授業当日、しっかり声を出しましょう
2	4月21日	講義・演習	ナレーションの基礎を学ぶ②(自分に合った発声を知る)	講師創作原稿を一週間かけて下読みをしましょう
3	5月12日	講義・演習	ナレーション原稿を読む①（ソロ）	講師創作原稿を一週間かけて下読みをしましょう
4	5月19日	講義・演習	ナレーション原稿を読む②（男女別）	講師創作原稿を一週間かけて下読みをしましょう
5	5月26日	講義・演習	ナレーション原稿を読む③（テンション）	講師創作原稿を一週間かけて下読みをしましょう
6	6月2日	講義・演習	ナレーション原稿を読む④（掛け合い）	講師創作原稿を一週間かけて下読みをしましょう
7	6月9日	講義・演習	ナレーション原稿を作る	テーマに基づき指定時間内に収まる原稿を作りましょう
8	6月16日	講義・演習	ラジオ番組でのナレーション原稿を読む①（商品PR）	様々なラジオ番組を聴取し発声を真似しましょう
9	6月23日	講義・演習	ラジオ番組でのナレーション原稿を読む②（観光PR）	様々なラジオ番組を聴取し発声を真似しましょう
10	6月30日	講義・演習	店内放送、音声ガイドのナレーション原稿を読む①	身近な店舗や施設でナレーションに耳を傾けましょう
11	7月7日	講義・演習	店内放送、音声ガイドのナレーション原稿を読む②	身近な店舗や施設でナレーションに耳を傾けましょう
12	7月14日	講義・演習	様々なタイプの原稿を読む。前期授業のまとめ	これまでのレッスンを振り返りましょう
13	8月25日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	9月8日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月15日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ナレーション(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	森雄一
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ラジオパーソナリティ、ナレーターとして活動中						
授業の学習内容	①映像や音楽を「声による言葉」で導くナレーションはとても大切なポジションにあるものです。1年間で培った形をさらに磨いていきましょう。 ②俳優、声優、アナウンサー、ラジオDJ、タレント、ライバー、もちろんナレーターを目指す方に学んでほしいスキルです。 ③ナレーションは録音、ライブ、どちらでも求められるものです。トーンを変え、間を取り、聞く者にダイレクトに印象を伝えます。与えられた原稿をしっかり読むことはもちろん、自身でも原稿が書けるよう、様々なテキスト（文章）を読んで表現力を身につけてください。						
到達目標	自分が表現したい事を、自分なりの表現方法と声で伝える事が出来るようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義・演習	前期を振り返り後期ガイダンス含め即日実践	授業当日、しっかり声を出しましょう
2	10月13日	講義・演習	イベント台本を使用したMC実践①	事前に渡す台本を読み込んでおきましょう
3	10月20日	講義・演習	イベント台本を使用したMC実践②	事前に渡す台本を読み込んでおきましょう
4	10月27日	講義・演習	朗読と読み聞かせ①	指定書籍を事前に下読みしておきましょう
5	11月3日	講義・演習	朗読と読み聞かせ②	それぞれが選定する書籍を読み込んだ上で持参して下さい
6	11月10日	講義・演習	CMナレーション①（男女それぞれのボイス）	テレビ、ラジオのCMナレーションを聞きましょう
7	10月17日	講義・演習	CMナレーション②（掛け合い）	テレビ、ラジオのCMナレーションを聞きましょう
8	10月24日	講義・演習	ラジオドラマ①	ラジオやポッドキャストを聴取し想像力を膨らませましょう
9	12月1日	講義・演習	ラジオドラマ②	ラジオやポッドキャストを聴取し想像力を膨らませましょう
10	12月8日	講義・演習	映像付きのナレーション原稿を読む①	事前に映像と台本を渡すので練習しておきましょう
11	12月15日	講義・演習	映像付きのナレーション原稿を読む②	事前に映像と台本を渡すので練習しておきましょう
12	1月19日	講義・演習	前期後期を振り返り、最も自信のあるものを披露	10分以内でできるナレーション実演を準備しましょう
13	2月2日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月9日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月16日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	エチュード(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	大友恵理
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	92年劇団都市彦に入団。以降解散まで全作品に出演。演劇集団アーバンフォレストを経て、舞台、CM、映画、司会など						
授業の学習内容	多種多様なエチュードを通して、日々の観察力や想像力、発想力を養っていく						
到達目標	時間・空間・コミュニケーションを意識した表現ができるようになる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義・演習	自己紹介とシアターゲーム	他己紹介を考える
2	4月24日	講義・演習	自己PRをすることができる	1分間の自己PR内容を考えてくること
3	5月8日	講義・演習	リラックスして声が出せる	日常での自分の声の出し方を意識してみる
4	5月15日	講義・演習	自分の状態を自覚することができる	自分の行動の仕方を記録してみる
5	5月22日	講義・演習	1人エチュード。1人で立っていることができる	誰かのエチュードを真似てみる
6	5月29日	講義・演習	2人エチュード。相手と意識や感覚を共有する	他の相手とやってみる
7	6月5日	講義・演習	沈黙という表現	同じことを何度もやってみる
8	6月12日	講義・演習	アクションとリアクションによる変化を楽しむ	日々の条件反射の記録
9	6月19日	講義・演習	コミュニケーション。偶然と必然の違いを感じる	内容の振り返り
10	7月3日	講義・演習	空間をイメージすることができる	いろいろな空間を言葉と身体で表現してみる
11	7月10日	講義・演習	時間をイメージすることができる	時間を言葉と身体で表現してみる
12	7月17日	講義・演習	コントネタコピー	表現力を学習
13	8月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月28日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			日常を良く観察すること	

【使用教科書・教材・参考書】

運動しやすい服装、靴、筆記用具

科目名	エチュード(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	大友恵理
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	92年劇団都市彦に入団。以降解散まで全作品に出演。演劇集団アーバンフォレストを経て、舞台、CM、映画、司会など						
授業の学習内容	好奇心と瞬発力、臨機応変力を養っていく						
到達目標	自信と勇気を持って、表現できるようになる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	キャラクターの作り方・職業	職業を決めて考えてくる
2	10月16日	講義・演習	キャラクターの作り方・年齢や立場	内容の振り返り
3	10月30日	講義・演習	関係性から言葉と行動を考える	チームでのディスカッション
4	11月6日	講義・演習	空気を読むことができる	内容の振り返り
5	11月13日	講義・演習	反射的に動くことができる	内容の振り返り
6	11月20日	講義・演習	感情から生まれる言葉と行動	内容の振り返り
7	11月27日	講義・演習	自分のアクションから相手のリアクションを引き出す	チームでのディスカッション
8	12月4日	講義・演習	相手のアクションに瞬発力で答える	チームでのディスカッション
9	12月11日	講義・演習	同時に2つの目的を進行させることができる	目的を3つにした場合の行動を考えてみる
10	12月18日	講義・演習	ストーリーの展開のさせ方を学ぶ	内容の振り返り
11	1月15日	講義・演習	協力し合って、シーンを作ることができる	チームでのディスカッション
12	1月22日	講義・演習	観客の想像力へのゆだね方	内容の振り返り
13	2月5日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月19日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			物事に対して常に敏感であること	

【使用教科書・教材・参考書】

運動しやすい服装、靴、筆記用具

科目名	演技概論(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	深谷晃成
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	2010年に尚美学園大学にて若林一男教授により指導を受ける。2013年にシアターグリーン学生芸術祭、並びに道とん堀学生演劇祭にて最優秀賞受賞後、劇団「第27班」の活動を本格始動。若手演出家コンクール最優秀賞受賞。						
授業の学習内容	「演技の基礎」は演技を表現する上で欠かせない当然のスキルです。 演技の基礎は奥深く、楽器やダンス・絵画にも近い「学ばなければ表現をすることが出来ない」技術です。 この授業では実戦で活きる基礎を知ってもらい、身体に落とし込み、いついかなる役を演じることになってもブレることのない強いスタイルを身に着けて欲しいと考えています。 「上手い演技とは何か？」という問いに、皆さん自身でその答えを見つけられるような授業をしたいと思っています。						
到達目標	演技を構成する四項目「発声」「表情」「視線」「動作」のコントロールができるようになる 会話演技における「言う」「聞く」「居る」を理解し、技術として身に着ける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義・演習	プロとしての心構え・演技を学ぶために大切なことを知る（オリエンテーション）	授業内で取ったメモや体験したことを反芻する
2	4月25日	講義・演習	基本的な発声練習（腹式呼吸）が出来るようになる	個人練習・復習
3	5月9日	講義・演習	実践的な発声練習（音域コントロール、活舌）に挑戦する。	日常生活の中で、授業内で学んだことを活かしてみる
4	5月16日	講義・演習	「居る技術」そこに存在することの技術を学ぶ	リラックス状態が演技でもあることを知る
5	5月23日	講義・演習	「日常」と「非日常」の演じ分けを学ぶ	日常生活の中にある日常と非日常の違いを感じる
6	5月30日	講義・演習	「言う」「アクション」のテクニックを身に着ける	日常生活の中にある相手の心を動かす言葉を見つける
7	6月6日	講義・演習	「聞く」「リアクション」のテクニックを身に着ける	日常生活の中にあるリアクションを見つける
8	6月13日	講義・演習	「反応」の大切さを知る	授業内容の復習（質問内容をまとめておく）
9	6月20日	講義・演習	「とぼける」という演技概念を理解する	授業内容の復習（質問内容をまとめておく）
10	7月4日	講義・演習	「とぼける」で演技を実践してみる	授業内容の復習（質問内容をまとめておく）
11	7月11日	講義・演習	「とぼける」で台詞を読む	配布した台本を読んでみる
12	7月18日	講義・演習	「とぼける」で台本を読む	配布した台本で復習する
13	8月22日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月29日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			個人練習・復習	

【使用教科書・教材・参考書】

有名戯曲・深谷既成戯曲使用

科目名	演技概論(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	深谷晃成
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	2010年に尚美学園大学にて若林一男教授により指導を受ける。2013年にシアターグリーン学生芸術祭、並びに道とん堀学生演劇祭にて最優秀賞受賞後、劇団「第27班」の活動を本格始動。若手演出家コンクール最優秀賞受賞。						
授業の学習内容	「演技の基礎」は演技を表現する上で欠かせない当然のスキルです。 演技の基礎は奥深く、楽器やダンス・絵画にも近い「学ばなければ表現をすることが出来ない」技術です。 この授業では実戦で活きる基礎を知ってもらい、身体に落とし込み、いついかなる役を演じることになってもブレることのない強いスタイルを身に着けて欲しいと考えています。 「上手い演技とは何か？」という問いに、皆さん自身でその答えを見つけられるような授業をしたいと思っています。						
到達目標	演技を構成する四項目「発声」「表情」「視線」「動作」のコントロールができるようになる 会話演技における「言う」「聞く」「居る」を理解し、技術として身に着ける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	プロとしての活動に必要なことを学ぶ（オリエンテーション）	
2	10月10日	講義・演習	前期基礎をおさらいする	前期の復習を行っておく
3	10月17日	講義・演習	台本読解を学ぶ	配布台本をしっかり読んでおく
4	10月31日	講義・演習	役作りを学ぶ	役の履歴書を書いてくる
5	11月7日	講義・演習	重複表現について学ぶ	人間の理性と感情の使い分けを日常生活の中で理解する
6	11月14日	講義・演習	泣き演技・感情演技について学ぶ	生理現象について考えをまとめてくる
7	11月21日	講義・演習	「とぼける」の実践的な使い方を理解する	配布台本をしっかり読んでおく
8	11月28日	講義・演習	実践演習により「演技」のスキルを上げる	配布台本を覚えてくる
9	12月5日	講義・演習	「台本」演習により実践的な演技を身に着ける	ミザンスを把握し、復習しておく
10	12月12日	講義・演習	演出を付け、稽古を通して演技の上達を学ぶ	演出を再確認し、次授業に取りこぼしが無いようにする
11	12月19日	講義・演習	演出を受け、作品作りにおける俳優の仕事を理解する。	演出を再確認し、次授業に取りこぼしが無いようにする
12	1月16日	講義・演習	総合演習：台本の実演	授業の学んだことを、来年度以降にも活かせるように総括する。
13	1月23日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	1月30日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月13日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			個人練習・復習	

【使用教科書・教材・参考書】

既存戯曲・深谷既成戯曲の使用

科目名	演技ゼミ(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	南翔太
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	映画「大怪獣バトルウルトラ銀河伝説」ドラマ「旅人検視官道場修作」舞台「夫婦漫才」CMなどの出演、2003年～現在						
授業の学習内容	演技の授業を通して人とのコミュニケーション能力を養い、自分の個性を発見し磨く、自発的に動ける力を身に付ける。お芝居を通し伝える事や相手との会話等で気持ちを汲み取る力を身につける。また役者としての身体の使い方、声の出し方、魅せ方を学ぶ。授業の集大成として公演をする事で本番の緊張感の中で表現することの楽しさと協調性を経験する。						
到達目標	自分の個性を知りまた客観的にどう見えているのかを理解し表現できるようになる。また演技の楽しさを知り華のある役者になる。一緒に作品をつくる仲間を尊重し、良いコミュニケーションを取れるようになる。自発的に行動できる様になる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	授業説明、自己紹介、シアターゲームと発声練習（発声台本配布）	趣味や特技について話せるようにしてくる
2	5月7日	講義・演習	シアターゲーム、身体の使い方と魅せ方	自分がどう見えているのかを理解してくる
3	5月14日	講義・演習	公演に向けての説明、公演台本読み（台本配布）	公演台本の読み解きをしてくる
4	5月21日	講義・演習	公演台本読み合わせ	登場人物や物語の背景を考える
5	5月28日	講義・演習	本読みをしながら自分がどの役を演じたいか選びオーディション対策をする	希望の役を決め台詞を覚え準備をする
6	6月4日	講義・演習	公演配役オーディション	演じること以外で作品に対して自分のできる事、したい事を考える
7	6月11日	講義・演習	配役を決め立ち稽古、役割発表と説明	自分の役と作品について役割を理解し準備する
8	6月18日	講義・演習	シーン毎の立ち稽古	相手役と話し合い、掛け合いのトレーニングをする
9	6月25日	講義・演習	小道具等の効果的な使い方を取り入れ心と身体をリンクさせる	役の心情と動きが一体となる様に考え準備をする
10	7月2日	講義・演習	通し稽古により役の心情の流れを掴む	どんな状況下でも台詞が出てくるようにトレーニングを重ねる
11	7月9日	講義・演習	音響や照明を入れ本番に近い状態で演じる事により良い緊張感を経験する	トラブルが起きた時でも対応できるよう役への理解を深め動けるように準備をしておく
12	7月16日	講義・演習	テスト	テストを振り返り、役だけではなく作品に対し自分に何ができるかを改めて考え仲間とコミュニケーションを深める
13	8月27日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	9月10日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月17日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			授業中に伝えた課題に1週間かけて取り組む	

【使用教科書・教材・参考書】

授業毎に講師が準備、必要に応じて配布する

東京スクールオブミュージック＆ダンス専門学校

科目名	演技ゼミ(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	南翔太
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	映画「大怪獣バトルウルトラ銀河伝説」ドラマ「旅人検視官道場修作」舞台「夫婦漫才」CMなどの出演、2003年～現在						
授業の学習内容	演技の授業を通して人とのコミュニケーション能力を養い、自分の個性を発見し磨く、自発的に動ける力を身に付ける。お芝居を通し伝える事や相手との会話等で気持ちを汲み取る力を身につける。また役者としての身体の使い方、声の出し方、魅せ方を学ぶ。授業の集大成として公演をする事で本番の緊張感の中で表現することの楽しさと協調性を経験する。						
到達目標	自分の個性を知りまた客観的にどう見えているのかを理解し表現できるようになる。また演技の楽しさを知り華のある役者になる。一緒に作品をつくる仲間を尊重し、良いコミュニケーションを取れるようになる。自発的に行動できる様になる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	エチュードを通して役作りの引き出しを増やす	普段の生活から人間観察をし、演じる時に使えるようインプットをする
2	10月15日	講義・演習	第三者の目線を持ち、演じている自分を客観的に見る	視野を広げる事を意識し、客観的に自分を見られる力をつけていく
3	10月22日	講義・演習	公演に向けての説明、公演台本読み（台本配布）	公演台本の読み解きをしてくる
4	10月29日	講義・演習	本を読み解き自分がどの役に適しているか考えオーディション対策をする	台詞を覚えオーディションに臨む準備をする
5	11月5日	講義・演習	公演配役オーディション	自分の出来ることを率先して考える（衣装、小道具、制作など）
6	11月12日	講義・演習	配役を決め立ち稽古、役割発表と説明	自分の役と作品について役割を理解し準備する
7	11月19日	講義・演習	自分の演技プランで演じる	上手くできたところ、出来なかった所を見つけ何故そうなったかを考える
8	11月26日	講義・演習	自分、共演者が魅力的に舞台に立てるよう演じる	なぜこの台詞があり、このような動きになっているのかを見つけ演技に活かす
9	12月3日	講義・演習	衣装、小道具を用意しての通し稽古をし、役の心情を掴む	無駄な動きや癖などを見つけ修正する
10	12月10日	講義・演習	1度全部を忘れる	先読み芝居をしない為、新鮮な気持ちで台本を読み直す
11	12月17日	講義・演習	音響や照明を入れ本番に近い状態で演じる事により公演をリアルにイメージする	トラブルが起きた時でも対応できるよう役への理解を深め動けるように準備をしておく
12	1月14日	講義・演習	テスト	テストを振り返り、役だけではなく作品に対し自分に何ができるかを改めて考え仲間とコミュニケーションを深める
13	1月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月4日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			授業中に伝えた課題に1週間かけて取り組む	

【使用教科書・教材・参考書】

授業毎に講師が準備、必要に応じて配布する

東京スクールオブミュージック＆ダンス専門学校

科目名	アクション(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	所博昭
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		

教員の略歴	平成元年アーバンアクターズ所属、活動開始。「相棒」シリーズ技斗代理、出演、吹き替えスタント。その他映画、TVドラマ、ビデオ用映画等で技斗、出演、吹き替えスタント作品多数
授業の学習内容	「アクション」とは本来、行動、動作を意味する英単語ですが、日本の演劇界、映画界等では暴力行為全般を指します。暴力とは、殴る、蹴る、(関節を)極める、投げる、切る、(銃を)撃つ等多義に渡り、出演者個人の技量、演じるキャラクターによってもその行動内容や仕草は全く変わります。その結果、比較的激しい動きのある演技をしなければなりませんし、テストや稽古等一度で済む事はありません。殴り倒される等の動きを稽古、テスト、本番と繰り返しても怪我無く演じる事が出来る様にならなければなりません。まず、マットを使って転がる時の身の守り方である各種の受け身を身につけます。また、個々が個別の技を覚えて出来るようになってもそれはアクションではありません。全てのアクションは集団行動に依って成り立ちます。複数の出演者が攻撃、被害を繰り返します。更に、それを視聴者や観客に観てもらい、感動を生ませて初めてアクションとなるのです。更に現実問題として演者を殴ったりする事が出来ないのでリアリティーは失われがちになります。こうした弱点等も踏まえて多種多様の技、安全な芝居としての暴力を演じる為の技術や表現力、観せ方を身体で覚えます。
到達目標	暴力による心と身体の「痛み」をアクション技術と演技を組み合わせ、共演者と協同して表現する事が出来る。
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義・演習	注意事項説明、アクションとは…を理解する。でんぐり返し～前転が出来る。□	アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習
2	4月24日	講義・演習	起き上がりが出来る。投げると投げられるが出来る。	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
3	5月8日	講義・演習	受け身が出来る。投げると投げられるが出来る。□	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
4	5月15日	講義・演習	横転が出来る。投げると投げられるが出来る。□	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
5	5月22日	講義・演習	後ろに倒れる事が出来る～アクション後転が出来る。突き飛ばすが出来る。□	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
6	5月29日	講義・演習	拳の作り方、構え、足運び、攻撃のかわし方(さばき、ダッキング)が出来る。□	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
7	6月5日	講義・演習	殴り(顔)、リアクション(顔)及び受け(ガード)が出来る。□	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
8	6月12日	講義・演習	殴り(腹)、リアクション(腹)を含めたアクションが出来る。	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
9	6月19日	講義・演習	前蹴り、蹴り上げ、回し蹴りを含めたアクションが出来る。□	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
10	7月3日	講義・演習	肘打ち、膝蹴りを含めたアクションが出来る。□	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
11	7月10日	講義・演習	関節技(脇固め、腕固め、小手返し等)を含めたアクションが出来る。□	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
12	7月17日	講義・演習	髪を掴んで振り回す、振り回される、首を締める、締められる等を含めたアクションが出来る□	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
13	8月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月28日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	アクション(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	所博昭
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	平成元年アーバンアクターズ所属、活動開始。「相棒」シリーズ技斗代理、出演、吹き替えスタント。その他映画、TVドラマ、ビデオ用映画等技斗、出演、吹き替えスタント作品多数						
授業の学習内容	アクションはあくまでも芝居の一部分であり、動作の一つ一つが台詞です。台詞は観客や視聴者に伝わらなければ意味を持ちません。自分や共演者、他者の芝居を客観的に観て、意見を発言する事で反省や新たな発見があります。カメラを使って動画を撮り、考察し反省点等を踏まえて再演してまた考察するを繰り返します。また、暴力表現に頻繁に出て来る刃物や拳銃(モデルガン)を使い、仕組みや種類、取り扱い方を学び、実践します。						
到達目標	①カメラ、観客からの観え方、見せ方を理解し、意図的に自分の演技を表現出来る。 ②小道具としての刃物や拳銃を壊す事なく扱い、刃物や弾丸の痛みを表現出来る様になる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	カメラの仕組み、特性、画角を理解する事が出来る。	前週迄の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。
2	10月16日	講義・演習	演技する上でアクションの弱点を理解する事が出来る。	前週迄の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。
3	10月30日	講義・演習	縦位置での見え方の長所と短所を理解し実践出来る。	前週迄の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。
4	11月6日	講義・演習	横位置での見え方の長所と短所を理解し実践出来る。	前週迄の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。
5	11月13日	講義・演習	ローアングルでの見え方の長所と短所を理解し実践出来る。	前週迄の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。
6	11月20日	講義・演習	俯瞰での見え方の長所と短所を理解し実践出来る。	前週迄の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。
7	11月27日	講義・演習	技毎に長所を活かしたポジションに移動する事が出来る。	前週迄の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。
8	12月4日	講義・演習	刃物(包丁、ナイフ等)で刺す、刺される、切る、切られる事を含めたアクションが出来る。	前週迄の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。
9	12月11日	講義・演習	拳銃と弾丸の構造、仕組み、名称を知る。□	ガンアクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習□
10	12月18日	講義・演習	拳銃(小道具としてのモデルガン)を正しく扱う事が出来る。	前週の復習。ガンアクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習
11	1月15日	講義・演習	簡単なガンアクションを含めた芝居が出来る。□	前週の復習。ガンアクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習
12	1月22日	講義・演習	複雑なガンアクションを含めた芝居が出来る。	前週の復習。ガンアクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習
13	2月5日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月19日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	剣舞(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	竹田光一
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	剣舞道 菊秀流 秀玄会 師範・会長 ／ 居合道 神刀流神武会 師範 ／ 全日本剣詩舞道連盟 理事 日本伝統文化吟友会 平成三十年全国吟剣詩舞コンクール全国決勝大会 優勝 優秀剣士□						
授業の学習内容	「剣舞」とは、偉人が詠んだ漢詩などの詩吟に合わせて、日本刀と扇子で、詩心表現を舞う日本の古典的な舞台芸能です。 時代劇では欠かすことの出来ない所作を身に付け、立ち振る舞いが綺麗になる。例えば、立つ・座る・歩くなどの基本的な動作から、侍には欠かせない日本刀の剣捌きを会得する。居合刀で、帯刀から始まり、抜刀～真向斬り～血振り～納刀まで、多種多様な形「刀法」を学ぶ。また扇子を使用して、例えば、弓・酒・笠・笛・手紙を書く、読む、等の「見立て」表現も学ぶ。古典芸能の文化に出会い、己の心と躰を繋げ、呼吸を整え精神統一し、集中力を高め、心技体も強化し、身に付ける。 オーディションや本番などで自分らしく自然体で、緊張を楽しめるような表現者になることが目的である。□						
到達目標	・刀法と剣舞の技術向上に修練する ◆2026/3月末～4月初旬「全日本剣詩舞道連盟昇段審査会」(希望者)【初段合格】 ・剣舞演目②「大楠公」 作：楠木正成 （現初段の演目、扇子も使用作品） ・刀法 「一本目～三本目」						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義・演習	運足、井桁、抜刀、上段構え、真向斬り、血振り、納刀	木刀使用、足袋、浴衣、帯、袴
2	4月24日	講義・演習	刀法　一本目/抜刀、上段構え、真向斬り、血振り、納刀	居合刀使用。また上記。膝サポーター
3	5月8日	講義・演習	刀法　一本目　／　剣舞演目「日本刀を詠ず」前半	漢詩の解釈
4	5月15日	講義・演習	刀法　一本目　／　剣舞演目「日本刀を詠ず」前半	漢詩の解釈
5	5月22日	講義・演習	刀法　二本目　／　剣舞演目「日本刀を詠ず」後半	漢詩の解釈
6	5月29日	講義・演習	刀法　二本目　／　剣舞演目「日本刀を詠ず」後半	漢詩の解釈
7	6月5日	講義・演習	刀法　三本目　／　剣舞演目「日本刀を詠ず」荒通し	漢詩の解釈
8	6月12日	講義・演習	刀法　三本目　／　剣舞演目「日本刀を詠ず」荒通し	漢詩の解釈
9	6月19日	講義・演習	刀法　一本目～三本目/剣舞演目「日本刀を詠ず」通し	漢詩の解釈
10	7月3日	講義・演習	刀法　一本目～三本目/剣舞演目「日本刀を詠ず」通し	漢詩の解釈
11	7月10日	講義・演習	刀法　一本目～三本目	発表会＆撮影会　　レポート提出
12	7月17日	講義・演習	剣舞演目「日本刀を詠ず」通し	発表会＆撮影会
13	8月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月28日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	剣舞(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	竹田光一
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	剣舞道 菊秀流 秀玄会 師範・会長 ／ 居合道 神刀流神武会 師範 ／ 全日本剣詩舞道連盟 理事 日本伝統文化吟友会 平成三十年全国吟剣詩舞コンクール全国決勝大会 優勝 優秀剣士□						
授業の学習内容	「剣舞」とは、偉人が詠んだ漢詩などの詩吟に合わせて、日本刀と扇子で、詩心表現を舞う日本の古典的な舞台芸能です。 時代劇では欠かすことの出来ない所作を身に付け、立ち振る舞いが綺麗になる。例えば、立つ・座る・歩くなどの基本的な動作から、侍には欠かせない日本刀の剣捌きを会得する。居合刀で、帯刀から始まり、抜刀～真向斬り～血振り～納刀まで、多種多様な形「刀法」を学ぶ。また扇子を使用して、例えば、弓・酒・笠・笛・手紙を書く、読む、等の「見立て」表現も学ぶ。古典芸能の文化に出会い、己の心と躰を繋げ、呼吸を整え精神統一し、集中力を高め、心技体も強化し、身に付ける。 オーディションや本番などで自分らしく自然体で、緊張を楽しめるような表現者になることが目的である。□						
到達目標	・刀法と剣舞の技術向上に修練する ◆2026/3月末～4月初旬「全日本剣詩舞道連盟昇段審査会」(希望者)【初段合格】 ・剣舞演目②「大楠公」 作：楠木正成 （現初段の演目、扇子も使用作品） ・刀法 「一本目～三本目」						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」前半	新作※漢詩の解釈。 扇子の基本所作
2	10月16日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」前半	授業内容の復習
3	10月30日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」前半	授業内容の復習
4	11月6日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」後半	授業内容の復習
5	11月13日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」後半	授業内容の復習
6	11月20日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」後半	授業内容の復習
7	11月27日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」荒通し	授業内容の復習
8	12月4日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」荒通し	授業内容の復習
9	12月11日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」荒通し	授業内容の復習
10	12月18日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」通し	リハーサルに向けての練習
11	1月15日	講義・演習	剣舞①「日本刀を詠ず」 ②「大楠公」	リハーサル
12	1月22日	講義・演習	剣舞①「日本刀を詠ず」 ②「大楠公」	発表会＆撮影会
13	2月5日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月19日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習 時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	殺陣(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	春見謙心
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	アクションチーム主催・殺陣師・MV監督 TV「悪党」「猫侍シーズン2」舞台「遙かなる時の中で」アクションNHK時代劇「善人長屋」「僕のヒーローアカデミア」						
授業の学習内容	現在日本の芸能界における『殺陣』は、時代劇の支流が2.5次元や原作物の流行りによって大きく変わりました。今では歌、ダンス、殺陣が3種の神器とも言われる程です。正しい知識を持ちベースとなる基礎と知識を崩さず新しい時代の「殺陣」との融合を目指します。映像ではアングルの支流もかわりました。所作や大刀の正しい知識と扱い方を木刀を使って学び、斬り方、斬られ方の技術、表現力、魅せ方を身に付けます。実戦は相手との掛け合いでありテクニックと芝居です。現代は剣劇の中にも特殊な刀の動きや蹴りやパンチといった要素が取り入れられています。現代における舞台、映像それぞれの現場で即戦力として使える技術を安全面を考慮し体験してもらい学びます。□						
到達目標	現場における最低限に必要で適切な技術とスキルを安全面に考慮して身に付ける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	内容注意事項、用語説明、基本の型、素振り、小道具の使い方、舞台における実践手合わせ	アクション映像鑑賞して予習
2	4月21日	講義・演習	基本の型（基本十手）を使い用語を覚える、素振り、所作、実践、リアクション	前回の実践動画を見て予習、用語を覚える、素振り。
3	5月12日	講義・演習	基本の型（基本十手）を使い用語を覚える、素振り、所作、実践を振り返り実践、リアクション	前回の動画をみて予習、素振り（真向、袈裟、胴切り、切り上げ）
4	5月19日	講義・演習	基本の型（基本十手）、合わせ稽古をし距離感を掴む、インパクト、殺陣における芝居つくり、素振り、実践□	アクション動画を見て予習、前回の実践動画を見て予習、素振り
5	5月26日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、実戦におけるお芝居、刀の被せ方。□	動画をみて予習、素振り、基本の型を相手を想定してやる。
6	6月2日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、映像殺陣における、インパクト、刀の軌道。実践において修正□	動画をみて予習、素振り、基本の型を相手を想定してやる。
7	6月9日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、映像殺陣における修正の仕方、前回の実践を踏まえながら課題を実践において修正	前回の動画をみて予習、素振り、基本の型を相手を想定してやる。
8	6月16日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、刀の特殊な回し方、アングルを想定した実践を前回の課題を踏まえながら実践	アングル、動線のイメージトレーニング
9	6月23日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、インパクトの修正、移動稽古、前回の実践の課題を修正しながら実践	前回の動画をみて予習、素振り、基本の型を相手を想定してやる。
10	6月30日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、ダブルアクションを身体に染み付ける、前回の課題をもとに実践□	前回の動画をみて予習、素振り、基本の型を相手を想定してやる。
11	7月7日	講義・演習	基本の型、素振り、実戦における芝居とインパクト。実践テスト週、注意事項の確認、基本の型、素振り、動線、被せ	動画をみて予習、素振り、基本の型を相手を想定してやる。
12	7月14日	講義・演習	実践を元に各課題を修正。所作、名称、動線、名称、殺陣における注意事項を理解しているか確認テスト、実践□	前回の動画をみて予習、素振り、基本の型を相手を想定してやる。
13	8月25日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	9月8日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月15日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

小説、武士道

科目名	殺陣(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	春見謙心
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	アクションチーム主催・殺陣師・MV監督 TV「悪党」「猫侍シーズン2」舞台「遙かなる時の中で」アクションNHK時代劇「善人長屋」「僕のヒーローアカデミア」						
授業の学習内容	現在日本の芸能界における『殺陣』は、時代劇の支流が2.5次元や原作物の流行りによって大きく変わりました。今では歌、ダンス、殺陣が3種の神器とも言われる程です。正しい知識を持ちベースとなる基礎と知識を崩さず新しい時代の「殺陣」との融合を目指します。映像ではアングルの支流もかわりました。所作や大刀の正しい知識と扱い方を木刀を使って学び、斬り方、斬られ方の技術、表現力、魅せ方を身に付けます。実戦は相手との掛け合いでありテクニックと芝居です。現代は剣劇の中にも特殊な刀の動きや蹴りやパンチといった要素が取り入れられています。現代における舞台、映像それぞれの現場で即戦力として使える技術を安全面を考慮し体験してもらい学びます。□						
到達目標	到達目標現場における最低限に必要で適切な技術とスキルを安全面に考慮して身に付ける。専門用語を扱える様にする　後半は着付けまで自分でできる様にする						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義・演習	舞台における実践、刀のベクトル	動画を見て予習、素振り、基本の型、着付け、刀回し
2	10月13日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、修正しながら実践、映像動線	動画をみて予習、アクション用語の予習
3	10月20日	講義・演習	基本の型（基本十手）、合わせ稽古、インパクト、実践	動画を見て予習、用語を覚え、素振り、刀の回し
4	10月27日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、打ち込み稽古、殺陣における芝居作り、実践	動画を見て予習、基本の型素振り、着付け、刀回し
5	11月3日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、実戦における刀の被せ方	動画を見て予習、基本の型素振り、着付け、刀回し
6	11月10日	講義・演習	基本の型、素振り、映像殺陣の映える魅せ方、実践	前回の実践動画をみて予習、素振り、着付け、刀回し
7	10月17日	講義・演習	基本の型、素振り、映像殺陣における実践	動画を見て予習、素振り、基本の型
8	10月24日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、アングルの使い方、実践	動線のイメージトレーニング
9	12月1日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、修正、衣装決め	切先の注意点のイメージトレーニング
10	12月8日	講義・演習	基本の型（基本十手）、作品作り	芝居をメインで考えてみる
11	12月15日	講義・演習	基本の型、素振り、テスト週注意事項、用語、所作の確認、作品作り	殺陣の形のイメージトレーニング
12	1月19日	講義・演習	殺陣動画作成	今後の課題を自分で考えてみる
13	2月2日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月9日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月16日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

小説、武士道

科目名	Hiphop(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	田島あこ
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	a-nation・MAX・土屋アンナ・hitomi・相川七瀬・AI・プリキュアオールスターズ・三森すずこ等のアーティストバックアップダンサーやMV・CM出演　私立・公立高校ダンス部指導　スタジオ運営代表						
授業の学習内容	HIPHOPクラスを通じて、ダンスの楽しさ、身体を動かすことの重要性を知り、今の業界シーンで多く必要とされるダンススキルやリズム感を身につける事によって、現場やオーディションでの対応力や自己表現力に活かす						
到達目標	HIPHOPの基礎を身につけ、リズム感を養う。又、振り付けを覚えながら基礎を深掘りしていく						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	クラスの目的の把握 ストレッチ・基礎トレーニング	ストレッチ
2	5月7日	講義・演習	身体の使い方を理解する・簡単なコンビネーション	ストレッチ・基礎確認
3	5月14日	講義・演習	DOWNやUP等のリズムトレーニング・コンビネーション	ストレッチ・授業内容の復習
4	5月21日	講義・演習	DOWNやUPをステップに取り入れる・コンビネーション	ストレッチ・授業内容の復習
5	5月28日	講義・演習	アイソレーションの強化・コンビネーション	ストレッチ・授業内容の復習
6	6月4日	講義・演習	アイソレーションの応用・コンビネーション	ストレッチ・授業内容の復習
7	6月11日	講義・演習	リズム感の強化・応用 コンビネーション	ストレッチ・授業内容の復習
8	6月18日	講義・演習	ステップの強化・応用 コンビネーション	ストレッチ・授業内容の復習
9	6月25日	講義・演習	約3週にわたってテスト課題のコンビネーションを習得	ストレッチ・課題練習
10	7月2日	講義・演習	約3週にわたってテスト課題のコンビネーションを習得	ストレッチ・課題練習
11	7月9日	講義・演習	約3週にわたってテスト課題のコンビネーションを習得	ストレッチ・課題練習
12	7月16日	講義・演習	オーディション形式での課題発表	ストレッチ・課題練習
13	8月27日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	9月10日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月17日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

運動の出来る服装（収縮性の無い生地や素材の物はNG・タイツやストッキングNG）・シューズ・タオル・水分飲料

科目名	Hiphop(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	田島あこ
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	a-nation・MAX・土屋アンナ・hitomi・相川七瀬・AI・プリキュアオールスターズ・三森すずこ等のアーティストバックアップダンサーやMV・CM出演　私立・公立高校ダンス部指導　スタジオ運営代表						
授業の学習内容	HIPHOPクラスを通じて、ダンスの楽しさ、身体を動かすことの重要性を知り、今の業界シーンで多く必要とされるダンススキルやリズム感を身につける事によって、現場やオーディションでの対応力や自己表現力に活かす						
到達目標	リズム感の強化・表現力の強化　　オーディションや舞台に対応するスキルを身に付ける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	後期での内容説明 リズムトレーニング・アイソレーション	ストレッチ・筋トレ
2	10月15日	講義・演習	体力・筋力強化	予習・復習
3	10月22日	講義・演習	柔軟性強化	予習・復習
4	10月29日	講義・演習	動きにメリハリをつける	予習・復習
5	11月5日	講義・演習	表現力を養う	予習・復習
6	11月12日	講義・演習	即興力を身につける	予習・復習
7	11月19日	講義・演習	フォーメーションを取り入れた動きの習得	予習・復習
8	11月26日	講義・演習	カノンを取り入れた動きの習得	予習・復習
9	12月3日	講義・演習	約3週にわたってテスト課題 コンビネーションを習得	予習・復習
10	12月10日	講義・演習	約3週にわたってテスト課題 コンビネーションを習得	予習・復習
11	12月17日	講義・演習	約3週にわたってテスト課題 コンビネーションを習得	予習・復習
12	1月14日	講義・演習	オーディション形式での課題発表	予習
13	1月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月4日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

運動の出来る服装（収縮性の無い生地や素材の物はNG・タイツやストッキングNG）・シューズ・タオル・水分飲料

科目名	Jazz(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	寺本藍
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	バックダンサーとして様々なアーティストのLIVEなどに出演。ダンスインストラクター。						
授業の学習内容	ただ踊るのではなく、身体の使い方を1から学び、しっかり理解を深め表現出来る様に授業を進めていきます。ジャズダンスの基礎となるバレエ・コンテンポラリーを学び、姿勢を整え立ち姿を美しくする。						
到達目標	身体の作りを覚え（骨、筋肉など）、どの様にして動いていて踊りや表現のどの動きに必要なのかを覚える事。自分の身体を理解し、しっかり身体を使え表現出来る質の高い演者を目指して下さい。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義・演習	授業の進め方の説明。目標の確認。ジャズダンスがどの様なものか、動画を参考に説明。	自分の目標を決める。
2	4月24日	講義・演習	身体の作り（骨、筋肉）の説明。どの様に動くかを説明し姿勢の矯正スタート。	授業で学んだ事を再度確認し、覚える。
3	5月8日	講義・演習	2週目に説明した動きがダンスの何に必要か実際動かして確認。	実際に体を動かし学んだことを身体に覚えさせる。
4	5月15日	講義・演習	ターン、ピルエットの説明、練習開始。	首のきり方のタイミング。パッセの高さが落ちない様に意識。
5	5月22日	講義・演習	ターン、ピルエットの再確認し安定を目指す。	軸足の伸び、足の運びを確認。
6	5月29日	講義・演習	5週まで学んだターンを取り入れたコンビネーション開始。	動きの順番、繋がりを覚える。
7	6月5日	講義・演習	ターンコンビネーションの習得の練習。	繰り返し練習。
8	6月12日	講義・演習	プリエ、タンジュ、ロンデの説明と実践。	引き上げたお腹が落ちない様にする。体幹キープの確認。
9	6月19日	講義・演習	グランバットマン説明と実践。	体幹をキープし足を上げる練習。足先をポイント意識。
10	7月3日	講義・演習	1週目からのまとめの振付け開始。	どの様に表現すれば見ている人に伝わるか考える。
11	7月10日	講義・演習	実技テストの課題練習。	自分の中で満足いくまで練習を重ねる。
12	7月17日	講義・演習	実技テスト。	足りなかったことを見つめ直し、次に活かせる様まとめる。
13	8月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月28日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			YouTubeなどでJAZZDANCEを観る。知る。触れる。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Jazz(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	寺本藍
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	バックダンサーとして様々なアーティストのLIVEなどに出演。ダンスインストラクター。						
授業の学習内容	ただ踊るのではなく、身体の使い方を1から学び、しっかり理解を深め表現出来る様に授業を進めて行きます。 ジャズダンスの基礎となるバレエ・コンテンポラリーを学び、姿勢を整え立ち姿を美しくする。						
到達目標	前期で学習し覚えた事を必ず実践し、自分の踊り身体について良いところ、足りないところを毎回考える事。自分の身体を理解し、しっかり身体を使え表現出来き、怪我をしない上質な身体を作って下さい。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	柔軟性、筋トレによる身体作りの強化。（腹筋）	柔軟性、筋トレによる身体作りの強化。（腹筋）
2	10月16日	講義・演習	柔軟性、筋トレによる身体作りの強化。（背筋）	柔軟性、筋トレによる身体作りの強化。（背筋）
3	10月30日	講義・演習	柔軟性、筋トレによる身体作りの強化。（腕、肩甲骨まわり）	柔軟性、筋トレによる身体作りの強化。（腕、肩甲骨まわり）
4	11月6日	講義・演習	3週で学んだ筋力を取り入れた振り付け開始。（スローの曲を使い一つ一つの動きを確認）	3週で学んだ筋力を取り入れた振り付け開始。（スローの曲を使い一つ一つの動きを確認）
5	11月13日	講義・演習	振付けの追加。正しい動きを出来ているか確認。	振付けの追加。正しい動きを出来ているか確認。
6	11月20日	講義・演習	振りの踊り込み。	振りの踊り込み。
7	11月27日	講義・演習	4週目からの振付けの発表。フィードバック。	4週目からの振付けの発表。フィードバック。
8	12月4日	講義・演習	進級に向け、テスト課題開始。前期から学んだことを取り入れた振付け。	進級に向け、テスト課題開始。前期から学んだことを取り入れた振付け。
9	12月11日	講義・演習	8週目の振りの確認と振り付けの追加。	8週目の振りの確認と振り付けの追加。
10	12月18日	講義・演習	振りの意味を説明し、構成を付け作品について考える。	振りの意味を説明し、構成を付け作品について考える。
11	1月15日	講義・演習	構成の確認、作品に仕上げる。（表現力も意識出来る様に調整）	構成の確認、作品に仕上げる。（表現力も意識出来る様に調整）
12	1月22日	講義・演習	実技テスト	実技テスト
13	2月5日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月19日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			YouTubeなどでJAZZDANCEを観る。知る。触れる。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	マーケティング基礎(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	黒須亮成
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		

教員の略歴	エンターテインメント業界でアーティストマネジメント、音楽制作、映像制作、イベント企画・制作・運営などを15年以上経験。現在はマーケティング視点を活かしてさらに勢いを増し、2021年には株式会社Kometsubu Entertainmentを設立。より一層幅広い事業を繰り広げている。
授業の学習内容	変化の激しい現代社会では、一人ですべてを完結させるのではなく、他者と協力して価値を生み出す力が求められています。 「良いものを作れば売れる」時代は終わり、マーケティングを通じて相手のニーズを把握し、「売れる仕組み」をつくる視点が重要です。また、個人が活躍できる時代だからこそ、専門スキルに加え、届ける力＝マーケティング力も必要です。時間や物量ではなく「発想」で仕事をする時代へと変わっており、協力・共創の視点がカギとなります。 本講義では、講義・グループワーク・企業プロジェクトを通して、マーケティングの原理を学び、社会や顧客とのつながり方を実践的に身につけます。エンタメ業界に限らず、すべての分野で活用できる考え方としてマーケティングを学び、学生自身のアイデアを形にする力を養います。
到達目標	■シミュレーション演習によって、今まで知らない職種や立場を理解し、業界の全体像を理解できるようになる。 ■マーケティングを行う上でのコミュニケーションの大切さを理解できる。 ■身近にあるマーケティングの仕組みを理解し、そこから逆算してプロデュース＆ディレクションを理解できるようになる。 ■プロデュース＆ディレクションを学ぶことで、エンタテイメント業界に限らず、一般企業のビジネスの全体像が理解できるようになる。 ■タレント側、クライアント側、関係各所の気持ちや立場が理解できるようになる。 ■ゼロから1を作る方法がわかる。
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義・演習	マーケティングの意味や基本を理解し、なぜそれが重要なのかを学ぶ	授業後のレポート課題
2	4月25日	講義・演習	プレゼンを学び、自己ブランディングに向けたプロフィール作成に着手し、自己表現できるようになる	授業後のレポート課題
3	5月9日	講義・演習	「ビジョンボード」、「やりたいことリスト100」などを作成し、将来の目標を明確化できるようになる	授業後のレポート課題
4	5月16日	講義・演習	エンタテインメントを含む世の中のマーケティング実例を学び、その仕組みについて理解する	授業後のレポート課題
5	5月23日	講義・演習	既存アーティストや商品、サービスの独自のウリ(USP)を学び、プロデュース視点で物事を考えるスキルを学ぶ	授業後のレポート課題
6	5月30日	講義・演習	マーケティングスキルのひとつ「リスクリバーサル」を学び、相手の立場に立った提案ができるようになる	授業後のレポート課題
7	6月6日	講義・演習	実例を基に、「ジョイントベンチャー(戦略的業務提携)」を学び、あらゆる企画立案ができるようになる	授業後のレポート課題
8	6月13日	講義・演習	テレマーケティングを学び、交渉術などあらゆるプロジェクトを円滑に進行する力を身につける	授業後のレポート課題
9	6月20日	講義・演習	SNSを使ったマーケティングを学び、仕組みを理解できるようになる	授業後のレポート課題
10	7月4日	講義・演習	学んだマーケティング視点を使って、実際に企画を立てる	授業後のレポート課題
11	7月11日	講義・演習	立てた企画を実際にアウトプットして市場の反応を見ながらブラッシュアップすることを学ぶ	授業後のレポート課題
12	7月18日	講義・演習	筆記＆実技テスト	授業後のレポート課題
13	8月22日	講義・演習	テストの復習をして、応用を導き出せるようになる	授業後のレポート課題
14	8月29日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月12日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	マーケティング基礎(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	黒須亮成
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		

教員の略歴	エンターテインメント業界でアーティストマネジメント、音楽制作、映像制作、イベント企画・制作・運営などを15年以上経験。現在はマーケティング視点を活かしてさらに勢いを増し、2021年には株式会社Kometsubu Entertainmentを設立。より一層幅広い事業を繰り広げている。
授業の学習内容	変化の激しい現代社会では、一人ですべてを完結させるのではなく、他者と協力して価値を生み出す力が求められています。 「良いものを作れば売れる」時代は終わり、マーケティングを通じて相手のニーズを把握し、「売れる仕組み」をつくる視点が重要です。また、個人が活躍できる時代だからこそ、専門スキルに加え、届ける力＝マーケティング力も必要です。時間や物量ではなく「発想」で仕事をする時代へと変わっており、協力・共創の視点がカギとなります。 本講義では、講義・グループワーク・企業プロジェクトを通して、マーケティングの原理を学び、社会や顧客とのつながり方を実践的に身につけます。エンタメ業界に限らず、すべての分野で活用できる考え方としてマーケティングを学び、学生自身のアイデアを形にする力を養います。
到達目標	■シミュレーション演習によって、今まで知らない職種や立場を理解し、業界の全体像を理解できるようになる。 ■マーケティングを行う上でのコミュニケーションの大切さを理解できる。 ■身近にあるマーケティングの仕組みを理解し、そこから逆算してプロデュース＆ディレクションを理解できるようになる。 ■プロデュース＆ディレクションを学ぶことで、エンタテイメント業界に限らず、一般企業のビジネスの全体像が理解できるようになる。 ■タレント側、クライアント側、関係各所の気持ちや立場が理解できるようになる。 ■ゼロから1を作る方法がわかる。
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	メディアのマーケティングを理解する	授業後のレポート課題
2	10月10日	講義・演習	テストマーケティングを学び、実践するための判断やシミュレーションができるようになる	授業後のレポート課題
3	10月17日	講義・演習	コミュニケーションを学び、ワンランク上のマーケティングスキルを身につける	授業後のレポート課題
4	10月31日	講義・演習	ダイレクトメールを学び、マーケティングと営業スキル、交渉力を身につける	授業後のレポート課題
5	11月7日	講義・演習	商品やサービスのキャンペーンの仕組みについて学び、提案力を身につける	授業後のレポート課題
6	11月14日	講義・演習	コピーライティングやブランディングについて学び、視覚的なプロデュースができるようになる	授業後のレポート課題
7	11月21日	講義・演習	お金の基本を学び、お金を集める方法を学び、プロデュース力を身につける	授業後のレポート課題
8	11月28日	講義・演習	企画書の作り方を学び、具体的にマーケティングを仕掛けていく力を身につける	授業後のレポート課題
9	12月5日	講義・演習	紹介マーケティングを学び、実践できるようになる	授業後のレポート課題
10	12月12日	講義・演習	実際に企画した案件を実行し、マーケティングの検証・改善を行い、ワンランク上のマーケティングを身につける	授業後のレポート課題
11	12月19日	講義・演習	マーケティングを意識した企画を実際に制作・運営する	授業後のレポート課題
12	1月16日	講義・演習	筆記テスト	授業後のレポート課題
13	1月23日	講義・演習	テストの復習をして、応用を導き出せるようになる	授業後のレポート課題
14	1月30日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月13日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	オーディション対策(3)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	実由
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	ラジオDJ,イベントMC、ナレーター、TVバラエティー、ドラマ、舞台、雑誌、CMへの出演。1995年～現在						
授業の学習内容	卒業後の進路となる各プロダクションへ所属するため、また様々な作品へ出演するためのオーディションを受ける際のマナーや服装、メイクなどを学ぶ。また、プロフィールシートの作り方やオーディションでもっとも大事とされる自己PRをそれぞれの個性を活かし指導。各種オーディションで、自分の個性や持っている力を発揮し、合格出来るポイントを学ぶ。						
到達目標	自分の個性や特徴を知り、自信を持ってオーディションに臨み、自分PR出来るようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	授業説明・オーディションを受ける上での心構え	特になし
2	5月7日	講義・演習	プロフィールシートの作り方	プロフィールシート作成
3	5月14日	講義・演習	宣材写真のポーズや表情のアドバイス	衣装、メイクの準備
4	5月21日	講義・演習	服装やメイク、綺麗な立ち方、姿勢のアドバイス	衣装、メイクの研究
5	5月28日	講義・演習	ウォーキング、ポージング	衣装、メイクの研究
6	6月4日	講義・演習	ウォーキング、ポージング	ウォーキングトレーニング
7	6月11日	講義・演習	自己PR30秒の作り方	自己PRを作ってくる
8	6月18日	講義・演習	自己PR30秒の作り方	アドバイスを踏まえて、自己PRを作る
9	6月25日	講義・演習	自己PR30秒の作り方	アドバイスを踏まえて、自己PRを作る
10	7月2日	講義・演習	自己PR60秒の作り方	自己PRを作ってくる
11	7月9日	講義・演習	自己PR60秒の作り方	アドバイスを踏まえて、自己PRを作る
12	7月16日	講義・演習	テスト	テスト振り返り
13	8月27日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	9月10日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月17日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			各週、授業の最後に課題を伝えます	

【使用教科書・教材・参考書】

その都度講師が用意

科目名	オーディション対策(4)	必修選択	選択	年次	2	担当教員	実由
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ラジオDJ,イベントMC、ナレーター、TVバラエティー、ドラマ、舞台、雑誌、CMへの出演。1995年～現在						
授業の学習内容	卒業後の進路となる各プロダクションへ所属するため、また様々な作品へ出演するためのオーディションを受ける際のマナーや服装、メイクなどを学ぶ。また、プロフィールシートの作り方やオーディションでもっとも大事とされる自己PRをそれぞれの個性を活かし指導。各種オーディションで、自分の個性や持っている力を発揮し、合格出来るポイントを学ぶ。						
到達目標	自分の個性や特徴を知り、自信を持ってオーディションに臨み、自分PR出来るようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	新人発掘に向けてプロフィールシート見直し	プロフィールシート見直し
2	10月15日	講義・演習	新人発掘に向けてのパフォーマンスを作る	パフォーマンスを考えてくる
3	10月22日	講義・演習	新人発掘に向けてのパフォーマンスを作る	アドバイスを踏まえて練習
4	10月29日	講義・演習	新人発掘に向けてのパフォーマンスを作る	アドバイスを踏まえて練習
5	11月5日	講義・演習	60秒自己PRおさらい	模擬オーディションに向けた自己PRを考える
6	11月12日	講義・演習	60秒自己PRおさらい	模擬オーディションに向けた自己PRを考える
7	11月19日	講義・演習	模擬オーディション　CM	オーディション内容に適した自己PRや服装準備
8	11月26日	講義・演習	模擬オーディション　バラエティー番組	オーディション内容に適した自己PRや服装準備
9	12月3日	講義・演習	模擬オーディション　ドラマ	オーディション内容に適した自己PRや服装準備
10	12月10日	講義・演習	模擬オーディション　映画	オーディション内容に適した自己PRや服装準備
11	12月17日	講義・演習	模擬オーディション　舞台	オーディション内容に適した自己PRや服装準備
12	1月14日	講義・演習	テスト	テスト振り返り
13	1月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月4日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			各週、授業の最後に課題を伝えます	

【使用教科書・教材・参考書】

その都度講師が用意

科目名	Dance Produce(5)	必修選択	選択必修	年次	3	担当教員	松村武司
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	「地球ゴージャス」ミュージカル出演・「木村カエラ」バックダンサー・「サカナクション」ダンサー						
授業の学習内容	ダンサーを職業とする為に必要な、技術・心構え・コミュニケーション力を授業内容全般を通して学んでいく。 身体を鍛え抜く事で精神力も鍛え、社会人として必要なマナーも学んで行く。						
到達目標	自身の個性を、自身のダンススキルで表現出来るようになる。将来の目標としている分野に進んで行けるよう、自身で考え行動して行ける人物になる。必要とされる人材になる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月25日	講義・演習	授業紹介・スキルチェック	ストレッチ、クールダウン
2	5月9日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
3	5月16日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
4	5月23日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
5	5月30日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
6	6月6日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
7	6月13日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
8	6月20日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
9	7月4日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
10	7月11日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
11	7月18日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
12	8月22日	講義・演習	定期テスト	自身の踊りの研究
13	9月12日	講義・演習	前期まとめ	後期に向けての目標を立てる
14	9月19日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月26日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Dance Produce(6)	必修選択	選択必修	年次	3	担当教員	松村武司
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	「地球ゴージャス」ミュージカル出演・「木村カエラ」バックダンサー・「サカナクション」ダンサー						
授業の学習内容	ダンサーを職業とする為に必要な、技術・心構え・コミュニケーション力を授業内容全般を通して学んでいく。 身体を鍛え抜く事で精神力も鍛え、社会人として必要なマナーも学んで行く。						
到達目標	自身の個性を、自身のダンススキルで表現出来るようになる。将来の目標としている分野に進んで行けるよう、自身で考え行動して行ける人物になる。必要とされる人材になる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	スキルチェック・目標設定	ストレッチ、クールダウン
2	10月17日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
3	10月24日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
4	10月31日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
5	11月7日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
6	11月14日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
7	11月21日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
8	11月28日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
9	12月5日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
10	12月12日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
11	12月19日	講義・演習	DANCE基礎・筋トレ・コレオ・研究	ストレッチ、クールダウン、振付練習
12	1月16日	講義・演習	定期テスト	自身の踊りの研究
13	1月23日	講義・演習	後期まとめ	後期に向けての目標を立てる
14	2月6日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月13日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	プロダクション実務(5)	必修選択	選択必修	年次	3	担当教員	藤崎昌弘
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	音楽大学卒業後、A&R、原版制作ディレクター、アレンジャー、サウンドプロデューサーとして勤務。木梨憲武、NOA、吉柳咲良、AB6ix、n.Ssign、MYNAME、Ryu Siwon、ヘラヘラ三銃士のA&R、コンサート制作を数多く手がける。						
授業の学習内容	音楽業界で即戦力として働く上での、基礎知識を学び、ライブ制作、マネージメント、レコード会社との課授業を実施する。 ・マネージメント（音楽プロダクション/芸能プロダクション） ・ライブ関連（ライブ制作会社/イベンター） ・レコード会社（宣伝/制作/販促） 上記3つの業種への就職に向けて、学校内外で学ぶことにより、業界というものを実際体験することで「考える力・発言する力」を養い、協調性と当事者意識、責任感を身につけることを目的とする。						
到達目標	①「礼儀」「プレゼン能力」「資料作成」の基礎的な事柄を確実にできることを目標とし、「社会で生きる力」をつけることを目標とする ②「コミュニケーション力」「積極性・自主性」「先回りをできる力」を外部で発揮できることを目標とする。 ③ 自身でアーティストをみつけ、学内外にプレゼンし、マネージメントすること。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月15日	講義・演習	音楽業界について理解する	後日レポート提出
2	5月13日	講義・演習	マネージャーの仕事について理解する	後日レポート提出
3	5月20日	講義・演習	レコード会社の仕事について理解する	後日レポート提出
4	5月27日	講義・演習	コンサートの仕事について理解する	後日レポート提出
5	6月3日	講義・演習	実践シミュレーション	仮想アーティストを立てて実際にシミュレーションをおこなう
6	6月10日	講義・演習	売れているアーティスト、ヒットの定義について考える	後日レポート提出
7	6月17日	講義・演習	ゲスト講義① A&R経験者の体験談	後日レポート提出 質問表の事前作成
8	6月24日	講義・演習	メディアの役割を理解する	後日レポート提出
9	7月1日	講義・演習	プランニングの重要性を理解する	後日レポート提出
10	7月8日	講義・演習	マネージメントというものを理解する	後日レポート提出
11	7月15日	講義・演習	プロフィールの資料、プレゼン資料について学ぶ	後日レポート提出
12	7月22日	講義・演習	自身で学内からアーティストを見つけてプレゼンする①	事前にスカウトし、これまで学んだことを実践しプレゼンする
13	8月26日	講義・演習	前期のまとめ	後日レポート提出
14	9月9日	講義・演習	イベント実践を通してプロダクション業務を学ぶ	レポート
15	9月16日	講義・演習	イベント実践を通してプロダクション業務を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	プロダクション実務(6)	必修選択	選択必修	年次	3	担当教員	藤崎昌弘
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	音楽大学卒業後、A&R、原版制作ディレクター、アレンジャー、サウンドプロデューサーとして勤務。木梨憲武、NOA、吉柳咲良、AB6ix、n.Ssign、MYNAME、Ryu Siwon、ヘラヘラ三銃士のA&R、コンサート制作を数多く手がける。						
授業の学習内容	音楽業界で即戦力として働く上での、基礎知識を学び、ライブ制作、マネージメント、レコード会社との課授業を実施する。 ・マネージメント（音楽プロダクション/芸能プロダクション） ・ライブ関連（ライブ制作会社/イベンター） ・レコード会社（宣伝/制作/販促） 上記3つの業種への就職に向けて、学校内外で学ぶことにより、業界というものを実際体験することで「考える力・発言する力」を養い、協調性と当事者意識、責任感を身につけることを目的とする。						
到達目標	①「礼儀」「プレゼン能力」「資料作成」の基礎的な事柄を確実にできることを目標とし、「社会で生きる力」をつけることを目標とする ②「コミュニケーション力」「積極性・自主性」「先回りをできる力」を外部で発揮できることを目標とする。 ③ 自身でアーティストをみつけ、学内外にプレゼンし、マネージメントすること。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月14日	講義・演習	自身で学内からアーティストを見つけてプレゼンする②	事前にスカウトし、これまで学んだことを実践しプレゼンする
2	10月21日	講義・演習	イベントを企画し、シミュレーションする	後日レポート提出□
3	10月28日	講義・演習	ライブツアーを企画し、シミュレーションする	後日レポート提出□
4	11月4日	講義・演習	ゲスト講義② ライブ制作経験者の体験談	後日レポート提出 質問表の事前作成
5	11月11日	講義・演習	著作権について理解する	後日レポート提出□
6	11月18日	講義・演習	アーティストの権利について理解する	後日レポート提出□
7	11月25日	講義・演習	プロダクションの収支について理解する	後日レポート提出□
8	12月2日	講義・演習	ゲスト講義③ 音楽プロデューサーの体験談	後日レポート提出 質問表の事前作成
9	12月9日	講義・演習	コミュニケーションについて理解し、プレゼン能力を学ぶ	後日レポート提出□
10	12月16日	講義・演習	既存のメディアとSNSでので宣伝方法の違いについて理解する	後日レポート提出□
11	1月13日	講義・演習	年間計画表を作成して戦略を立てる	後日レポート提出□
12	1月20日	講義・演習	年間計画表を作成して発表 プレゼンし実践的なマネージメントを理解する	後日レポート提出□
13	2月3日	講義・演習	全体のまとめ	後日レポート提出□
14	2月10日	講義・演習	イベント実践を通してプロダクション業務を学ぶ	レポート
15	2月17日	講義・演習	イベント実践を通してプロダクション業務を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	殺陣(5)	必修選択	選択必修	年次	3	担当教員	春見謙心
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	アクションチーム主催・殺陣師・MV監督 TV「悪党」「猫侍シーズン2」舞台「遙かなる時の中で」アクションNHK時代劇「善人長屋」「僕のヒーローアカデミア」						
授業の学習内容	現在日本の芸能界における『殺陣』は、時代劇の支流が2.5次元や原作物の流行りによって大きく変わりました。今では歌、ダンス、殺陣が3種の神器とも言われる程です。正しい知識を持ちベースとなる基礎と知識を崩さず新しい時代の「殺陣」との融合を目指します。映像ではアングルの支流もかわりました。所作や大刀の正しい知識と扱い方を木刀を使って学び、斬り方、斬られ方の技術、表現力、魅せ方を身に付けます。実戦は相手との掛け合いでありテクニックと芝居です。現代は剣劇の中にも特殊な刀の動きや蹴りやパンチといった要素が取り入れられています。現代における舞台、映像それぞれの現場で即戦力として使える技術を安全面を考慮し体験してもらい学びます。□						
到達目標	現場における最低限に必要で適切な技術とスキルを安全面に考慮して身に付ける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	内容注意事項、用語説明、基本の型、素振り、小道具の使い方、舞台における実践手合わせ	アクション映像鑑賞して予習
2	4月21日	講義・演習	基本の型（基本十手）を使い用語を覚える、素振り、所作、実践、リアクション	前回の実践動画を見て予習、用語を覚える、素振り。
3	5月12日	講義・演習	基本の型（基本十手）を使い用語を覚える、素振り、所作、実践を振り返り実践、リアクション	前回の動画をみて予習、素振り（真向、袈裟、胴切り、切り上げ）
4	5月19日	講義・演習	基本の型（基本十手）、合わせ稽古をし距離感を掴む、インパクト、殺陣における芝居つくり、素振り、実践□	アクション動画を見て予習、前回の実践動画を見て予習、素振り
5	5月26日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、実戦におけるお芝居、刀の被せ方。□	動画をみて予習、素振り、基本の型を相手を想定してやる。
6	6月2日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、映像殺陣における、インパクト、刀の軌道。実践において修正□	動画をみて予習、素振り、基本の型を相手を想定してやる。
7	6月9日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、映像殺陣における修正の仕方、前回の実践を踏まえながら課題を実践において修正	前回の動画をみて予習、素振り、基本の型を相手を想定してやる。
8	6月16日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、刀の特殊な回し方、アングルを想定した実践を前回の課題を踏まえながら実践	アングル、動線のイメージトレーニング
9	6月23日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、インパクトの修正、移動稽古、前回の実践の課題を修正しながら実践	前回の動画をみて予習、素振り、基本の型を相手を想定してやる。
10	6月30日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、ダブルアクションを身体に染み付ける、前回の課題をもとに実践□	前回の動画をみて予習、素振り、基本の型を相手を想定してやる。
11	7月7日	講義・演習	基本の型、素振り、実戦における芝居とインパクト。実践テスト週、注意事項の確認、基本の型、素振り、動線、被せ	動画をみて予習、素振り、基本の型を相手を想定してやる。
12	7月14日	講義・演習	実践を元に各課題を修正。所作、名称、動線、名称、殺陣における注意事項を理解しているか確認テスト、実践□	前回の動画をみて予習、素振り、基本の型を相手を想定してやる。
13	8月25日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	9月8日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月15日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

小説、武士道

科目名	殺陣(6)	必修選択	選択必修	年次	3	担当教員	春見謙心
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	アクションチーム主催・殺陣師・MV監督 TV「悪党」「猫侍シーズン2」舞台「遙かなる時の中で」アクションNHK時代劇「善人長屋」「僕のヒーローアカデミア」						
授業の学習内容	現在日本の芸能界における『殺陣』は、時代劇の支流が2.5次元や原作物の流行りによって大きく変わりました。今では歌、ダンス、殺陣が3種の神器とも言われる程です。正しい知識を持ちベースとなる基礎と知識を崩さず新しい時代の「殺陣」との融合を目指します。映像ではアングルの支流もかわりました。所作や大刀の正しい知識と扱い方を木刀を使って学び、斬り方、斬られ方の技術、表現力、魅せ方を身に付けます。実戦は相手との掛け合いでありテクニックと芝居です。現代は剣劇の中にも特殊な刀の動きや蹴りやパンチといった要素が取り入れられています。現代における舞台、映像それぞれの現場で即戦力として使える技術を安全面を考慮し体験してもらい学びます。□						
到達目標	到達目標現場における最低限に必要で適切な技術とスキルを安全面に考慮して身に付ける。専門用語を扱える様にする　後半は着付けまで自分でできる様にする						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義・演習	舞台における実践、刀のベクトル	動画を見て予習、素振り、基本の型、着付け、刀回し
2	10月13日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、修正しながら実践、映像動線	動画をみて予習、アクション用語の予習
3	10月20日	講義・演習	基本の型（基本十手）、合わせ稽古、インパクト、実践	動画を見て予習、用語を覚え、素振り、刀の回し
4	10月27日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、打ち込み稽古、殺陣における芝居作り、実践	動画を見て予習、基本の型素振り、着付け、刀回し
5	11月3日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、実戦における刀の被せ方	動画を見て予習、基本の型素振り、着付け、刀回し
6	11月10日	講義・演習	基本の型、素振り、映像殺陣の映える魅せ方、実践	前回の実践動画をみて予習、素振り、着付け、刀回し
7	10月17日	講義・演習	基本の型、素振り、映像殺陣における実践	動画を見て予習、素振り、基本の型
8	10月24日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、アングルの使い方、実践	動線のイメージトレーニング
9	12月1日	講義・演習	基本の型（基本十手）、素振り、修正、衣装決め	切先の注意点のイメージトレーニング
10	12月8日	講義・演習	基本の型（基本十手）、作品作り	芝居をメインで考えてみる
11	12月15日	講義・演習	基本の型、素振り、テスト週注意事項、用語、所作の確認、作品作り	殺陣の形のイメージトレーニング
12	1月19日	講義・演習	殺陣動画作成	今後の課題を自分で考えてみる
13	2月2日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月9日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月16日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

小説、武士道

科目名	Ballet Ⅰ(5) Ballet A(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	淺越葉菜
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		

教員の略歴	6歳よりバレエを始め、その後コンテンポラリーダンス、ジャズダンスを学ぶ。渡米留学後、関東大手テーマパークや劇団四季等で活躍。現在は舞台出演の傍ら、振付師・指導者としても活動中。
授業の学習内容	①最大限に身体を使い、身体表現を行う為にバレエを学ぶ。 ②他のダンスにも繋がる身体を作る。 ③自分の身体を知り、自分との向き合い方を学んでほしい。 ④ストレッチ、バーレッスン、センターレッスンを通して、身体作り、精神力、集中力の向上、テクニックの向上を目指す。 ⑤プロフェッショナルになる為の意識の高さ、所作、姿勢を学ぶ。 ⑥オーディションに向けて、振付へのより深い解釈、アプローチを学ぶ。
到達目標	自分に向き合い、身体の気付きを持つ。 バレエ、基礎の動きを習慣化する。 他ジャンルに繋がる身体、技術を身につける。 テクニックの向上、プロフェッショナルな意識、所作を身に付ける。
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	前期の目標設定。なぜバレエを学ぶのか。	各自の前期目標設定
2	5月7日	講義・演習	立ち方、姿勢について。(自分の骨格、筋肉を知る)	自分の身体の長所短所を知る。
3	5月14日	講義・演習	バーレッスン強化。(テクニックに繋がる基礎を意識)	自分に合ったトレーニング、ストレッチを実践する。
4	5月21日	講義・演習	基礎から応用へ。プリエからジャンプに繋げる。	自分に合ったトレーニング、ストレッチを実践する。
5	5月28日	講義・演習	基礎から応用へ。タンジュ、ジュテからテクニックに繋げる。	足りない点、出来ないことを改善するためのメニューを作る。
6	6月4日	講義・演習	ダンスに必要な身体づくりを見直す。(体幹、丹田)	丹田、体幹トレーニングの強化
7	6月11日	講義・演習	ダンスに必要な身体づくりを見直す。(足さばき、アームスの使い方)	丹田、体幹トレーニングの強化
8	6月18日	講義・演習	テクニック、ターン強化。音楽性の向上。	基礎の見直し、復習
9	6月25日	講義・演習	テクニック、ジャンプ強化。音楽性の向上。	基礎の見直し、復習
10	7月2日	講義・演習	振付への解釈、分析、アプローチ(テスト振付)	テクニック向上のための復習、反復練習
11	7月9日	講義・演習	前期テスト	テストに向けての練習、反復練習
12	7月16日	講義・演習	テスト振り返り。前期まとめ	テストの反省、改善点の見直し
13	9月10日	講義・演習	前期まとめ	前期の振り返り、後期の目標設定
14	9月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月24日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			トレーニング、ストレッチを日常化する。様々なジャンルの音楽を聴き、作品を観て、感受性を育てる。	

【使用教科書・教材・参考書】

レオタード、バレエシューズ

科目名	Ballet Ⅰ(5) Ballet B(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	近藤南名歩
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	関東大手テーマパークパフォーマー、クラシックバレエ・ジャズダンスインストラクター						
授業の学習内容	① 踊り全般に必要な基礎や表現力を身につけ、応用する ② 全ジャンルの基礎 ③ 他ジャンルとの繋がりを見つけ、バレエの必要性を知って欲しい						
到達目標	バレエのテクニックをこなし、他のジャンルに活かす						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	前年度の復習／目標設定	自分の強化したいところを明確にしておく
2	5月7日	講義・演習	バー(前年度の復習・前半)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
3	5月14日	講義・演習	バー(前年度の復習・後半)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
4	5月21日	講義・演習	バー(応用)／センター(アダージオ)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
5	5月28日	講義・演習	バー(応用)／センター(タンデュ、ジュテ、ピルエット)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
6	6月4日	講義・演習	バー(応用)／センター(グランバットマン)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
7	6月11日	講義・演習	バー(応用)／センター(アレグロ)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
8	6月18日	講義・演習	バー(応用)／センター(グランワルツ)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
9	6月25日	講義・演習	バー(応用)／センター(ターン)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
10	7月2日	講義・演習	バー(応用)／センター(コンビネーション)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
11	7月9日	講義・演習	テスト	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
12	7月16日	講義・演習	バー(応用)／センター(アダージオ～コンビネーション)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
13	9月10日	講義・演習	前期の振り返り／今後の課題	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
14	9月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月24日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

なし

科目名	Ballet Ⅰ(6) Ballet A(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	淺越葉菜
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		

教員の略歴	6歳よりバレエを始め、その後コンテンポラリーダンス、ジャズダンスを学ぶ。渡米留学後、関東大手テーマパークや劇団四季等で活躍。現在は舞台出演の傍ら、振付師・指導者としても活動中。
授業の学習内容	①最大限に身体を使い、身体表現を行う為にバレエを学ぶ。 ②他のダンスにも繋がる身体を作る。 ③自分の身体を知り、自分との向き合い方を学んでほしい。 ④ストレッチ、バーレッスン、センターレッスンを通して、身体作り、精神力、集中力の向上、テクニックの向上を目指す。 ⑤プロフェッショナルになる為の意識の高さ、所作、姿勢を学ぶ。 ⑥オーディションに向けて、振付へのより深い解釈、アプローチを学ぶ。
到達目標	自分に向き合い、身体の気付きを持つ。 バレエ、基礎の動きを習慣化する。 他ジャンルに繋がる身体、技術を身につける。 テクニックの向上、プロフェッショナルな意識、所作を身に付ける。
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	前期振り返り、後期の目標設定	後期の目標設定
2	10月15日	講義・演習	基礎の見直し、復習	基礎の見直し、反復練習
3	10月22日	講義・演習	基礎から応用へ(難易度アップ)	自分に必要なトレーニング、ストレッチを再設定する。
4	10月29日	講義・演習	基礎から応用へ(難易度アップ)	自分に必要なトレーニング、ストレッチを再設定する。
5	11月5日	講義・演習	より実践的な振付の分析、解釈、アプローチについて	様々なジャンルの音楽、作品を観る。
6	11月12日	講義・演習	より実践的な振付の分析、解釈、アプローチについて	様々なジャンルの音楽、作品を観る。
7	11月19日	講義・演習	テクニック強化。繋がりのある身体づくり	出来ること、出来ないことをリストアップする。
8	11月26日	講義・演習	テクニック強化。繋がりのある身体づくり	テクニックの見直し、反復練習
9	12月3日	講義・演習	より実践的な振付の分析、解釈、アプローチについて	テクニックの見直し、反復練習
10	12月10日	講義・演習	テスト振付	テストに向けて練習
11	12月17日	講義・演習	後期テスト	テストに向けて練習
12	1月21日	講義・演習	テスト振り返り、復習	テストの反省点、改善点からさらに深める
13	2月4日	講義・演習	後期まとめ、一年間のまとめ	後期の反省、まとめ。一年間の成果
14	2月11日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			トレーニング、ストレッチを日常化する。様々なジャンルの音楽を聴き、作品を観て、感受性を育てる。	

【使用教科書・教材・参考書】

レオタード、バレエシューズ

科目名	Ballet Ⅰ(6) Ballet B(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	近藤南名歩
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	関東大手テーマパークパフォーマー、クラシックバレエ・ジャズダンスインストラクター						
授業の学習 内容	① 踊り全般に必要な基礎や表現力を身につけ、応用する ② 全ジャンルの基礎 ③ 他ジャンルとの繋がりを見つけ、バレエの必要性を知って欲しい						
到達目標	魅せ方や見え方を意識した動き(踊り)ができるようになる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	前期の復習／目標設定	卒業後(次年度)のなりたい自分像を明確にしておく
2	10月15日	講義・演習	バー(応用)／センター(アダージオ～アレグロ)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
3	10月22日	講義・演習	バー(応用)／センター(グランワルツ～コンビネーション)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
4	10月29日	講義・演習	バー(応用)／センター(アダージオ～コンビネーション)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
5	11月5日	講義・演習	バー(応用)／センター(応用)アダージオ～ピルエット	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
6	11月12日	講義・演習	バー(応用)／センター(応用)アダージオ～ピルエット	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
7	11月19日	講義・演習	バー(応用)／センター(応用)グランバットマン～アレグロ	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
8	11月26日	講義・演習	バー(応用)／センター(応用)アレグロ～グランワルツ	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
9	12月3日	講義・演習	バー(応用)／センター(応用)グランワルツ～ターン	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
10	12月10日	講義・演習	バー(応用)／センター(応用)ターン～コンビネーション	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
11	12月17日	講義・演習	テスト	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
12	1月21日	講義・演習	バー(応用)／センター(応用)アダージオ～コンビネーション	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
13	2月4日	講義・演習	振り返り／今後の課題	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
14	2月11日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

なし

科目名	Ballet Ⅱ(5) Ballet C(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	白石純子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	4歳よりバレエを始め、東京小牧バレエ学園およびバレエ団公演に出演。NY留学後、劇団四季「ライオンキング」等に出演。テーマパークやイベントでダンサー・MCとして活動し、振付・演出も多数手がける。						
授業の学習内容	基礎トレーニングの中で身体の隅々までコントロールできる身体を作り身体の仕組みを理解し、全てのジャンルのダンスに繋がるバレエを学ぶ						
到達目標	身体のコアの未開拓の部分を整備して、意識を届かせ、コントロールできる身体を作り、表現の幅を最大限に拡げる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月24日	講義・演習	床を使ったトレーニングとバーとセンターのレッスン	基礎トレーニング復習
2	5月8日	講義・演習	床を使ったトレーニングとバーとセンターのレッスン	基礎トレーニング復習
3	5月15日	講義・演習	バーとセンターレッスンの復習	基礎トレーニング復習
4	5月22日	講義・演習	バーとセンターレッスン、ターンの基礎	基礎トレーニング復習
5	5月29日	講義・演習	バー、センターレッスン、ターンの応用、スモールジャンプの基	基礎トレーニングと応用
6	6月5日	講義・演習	バー、センターレッスン、ターンの応用、スモールジャンプの基	基礎トレーニングと応用
7	6月12日	講義・演習	バーセンターレッスン、スモールジャンプの応用	基礎トレーニングと応用
8	6月19日	講義・演習	バーセンターレッスン、早いジャンプ	基礎トレーニングと応用
9	7月3日	講義・演習	バーセンターレッスン、ビックジャンプ基礎	基礎トレーニングと応用
10	7月10日	講義・演習	バーセンターレッスン、ビックジャンプ、技の応用	基礎トレーニングと応用
11	7月17日	講義・演習	バーセンターレッスン、ターン、ジャンプの応用	基礎トレーニングと応用
12	8月21日	講義・演習	バーセンターレッスン、習得した技のレベルアップ	基礎トレーニングと応用
13	9月11日	講義・演習	バーセンターレッスン、技のレベルアップと音楽性	基礎トレーニングと応用
14	9月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月25日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Ballet Ⅱ(5) Ballet D(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	瀬尾和香
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	6歳よりバレエを始める。テーマパークにて多数のレギュラーショー、イベントに参加。ダンススタジオバレエ教室の講師として子供から大人まで指導。						
授業の学習内容	バーレッスンとセンターレッスンで構成。基礎から応用まで。 全てのダンスに必要な身体の軸作りと怪我をしにくく効率よく踊るための筋肉の強化。 表現力を高める。						
到達目標	バレエを通してダンサーに必要な体の基礎を作る。 他のジャンルのダンスに応用できるバレエテクニックの習得を目指す。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	正しい姿勢・位置での立ち方	ストレッチ
2	5月7日	講義・演習	引き上げの意識	ストレッチ・他の授業で使ってみる
3	5月14日	講義・演習	正しい骨盤の位置・アンディオール	ストレッチ・他の授業で使ってみる
4	5月21日	講義・演習	アンディオール、ドゥミポワントの意識	ストレッチ・くるぶしと甲について
5	5月28日	講義・演習	ドゥミポワントからつま先を伸ばす	ストレッチ
6	6月4日	講義・演習	5週目までの復習	ストレッチ
7	6月11日	講義・演習	床を押して立つ。軸に立つ	ストレッチ・中心軸を理解する
8	6月18日	講義・演習	腕の使い方・ポールドブラ	ストレッチ
9	6月25日	講義・演習	足と腕を一緒に使う	ストレッチ
10	7月2日	講義・演習	9週目までの復習	ストレッチ
11	7月9日	講義・演習	ゆっくりな動き、アダージュに繋げる	ストレッチ・軸とのつながり
12	7月16日	講義・演習	早い動きフラッペ。グランバットマンに繋げる	ストレッチ
13	9月10日	講義・演習	イベント実践を通して身体表現を学ぶ	今学期の振り返り
14	9月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月24日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Ballet Ⅱ(6) Ballet C(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	白石純子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	4歳よりバレエを始め、東京小牧バレエ学園およびバレエ団公演に出演。NY留学後、劇団四季「ライオンキング」等に出演。テーマパークやイベントでダンサー・MCとして活動し、振付・演出も多数手がける。						
授業の学習内容	基礎トレーニングの中で身体の隅々までコントロールできる身体作り、身体の仕組みを理解し、そのための解剖学、分解学を学ぶ。 身体の癖や思い込みをなくし、全てのジャンルのダンスに繋がるバレエを学ぶ。						
到達目標	自分の意志で、骨のアライメントを整え、動かし、正しい場所を知ること、その違いを体感すること。 それらをコントロールして踊り、表現できるとこまで繋げること。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	バー、センター復習	基礎トレーニングの復習
2	10月16日	講義・演習	バー、センター復習	基礎トレーニングの復習
3	10月23日	講義・演習	バー、センター、スモールジャンプ、ターンの復習	基礎トレーニングの復習
4	10月30日	講義・演習	バー、センター、スモールジャンプ、ターンの復習	基礎トレーニングの復習
5	11月6日	講義・演習	バー、センター、スモールジャンプ、ターンの応用	基礎トレーニングの復習
6	11月13日	講義・演習	バー、センター、スモールジャンプ、ターンの応用	基礎トレーニングの復習
7	11月20日	講義・演習	身体つくりの基礎を振り返る	基礎トレーニングの復習
8	11月27日	講義・演習	身体つくりの基礎から難しい技へ繋げる考え方	基礎トレーニングの復習
9	12月4日	講義・演習	身体つくりの基礎から難しい技へ繋げる考え方	応用の予習復習
10	12月11日	講義・演習	バー、センター、グランワルツまで、体の仕組み分解学の理解	応用の予習復習
11	12月18日	講義・演習	身体の隅々までコントロールし表現できるところまで繋げる	応用の予習復習
12	1月15日	講義・演習	バー、センター、グランワルツまでのテスト	まとめ
13	1月22日	講義・演習	イベント実践を通して身体表現を学ぶ	今学期の振り返り
14	2月5日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月12日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			YouTubeなどの動画をみること	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Ballet Ⅱ(6) Ballet D(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	瀬尾和香
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	6歳よりバレエを始める。テーマパークにて多数のレギュラーショー、イベントに参加。ダンススタジオバレエ教室の講師として子供から大人まで指導。						
授業の学習内容	バーレッスンとセンターレッスンで構成。基礎から応用まで。 全てのダンスに必要な身体の軸作りと怪我をしにくく効率よく踊るための筋肉の強化。 表現力を高める。						
到達目標	バレエを通してダンサーに必要な体の基礎を作る。 他のジャンルのダンスに応用できるバレエテクニックの習得を目指す。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	正しい姿勢・位置での立ち方	ストレッチ
2	10月15日	講義・演習	引き上げの意識	ストレッチ・他の授業で使ってみる
3	10月22日	講義・演習	正しい骨盤の位置・アンディオール	ストレッチ・他の授業で使ってみる
4	10月29日	講義・演習	アンディオール、ドゥミポワントの意識	ストレッチ・くるぶしと甲について
5	11月5日	講義・演習	ドゥミポワントからつま先を伸ばす	ストレッチ
6	11月12日	講義・演習	5週目までの復習	ストレッチ
7	11月19日	講義・演習	床を押して立つ。軸に立つ	ストレッチ・中心軸を理解する
8	11月26日	講義・演習	腕の使い方・ポールドブラ	ストレッチ
9	12月3日	講義・演習	足と腕を一緒に使う	ストレッチ
10	12月10日	講義・演習	9週目までの復習	ストレッチ
11	12月17日	講義・演習	ゆっくりな動き、アダージュに繋げる	ストレッチ・軸とのつながり
12	1月21日	講義・演習	早い動きフラッペ。グランバットマンに繋げる	ストレッチ
13	2月4日	講義・演習	イベント実践を通して身体表現を学ぶ	今学期の振り返り
14	2月11日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	BalletⅢ(5) Ballet Adv(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	淺越葉菜
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	6歳よりバレエを始め、その後コンテンポラリーダンス、ジャズダンスを学ぶ。渡米留学後、関東大手テーマパークや劇団四季等で活躍。現在は舞台出演の傍ら、振付師・指導者としても活動中。						
授業の学習内容	①最大限に身体を使い、身体表現を行う為にバレエを学ぶ。 ②他のダンスにも繋がる身体を作る。 ③自分の身体を知り、自分との向き合い方を学んでほしい。 ④ストレッチ、バーレッスン、センターレッスンを通して、身体作り、精神の向上、テクニックの向上を目指す。						
到達目標	自分に向き合い、身体の気付きを持つ。 バレエ、基礎の動きを習慣化する。 他ジャンルに繋がる身体、技術を身につける。 より実践に向けダンスレベルの向上を目指す。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	前期の目標設定	前期の目標を明確に設定する
2	5月7日	講義・演習	基礎の見直し（バーレッスン）	自分に合ったトレーニング、ストレッチを見直し、習慣化する
3	5月14日	講義・演習	足さばき、上体の使い方	自分の身体のラインを客観的に見つめる
4	5月21日	講義・演習	テクニック強化（ターン）	パの確認、反復練習
5	5月28日	講義・演習	テクニック強化（ジャンプ）	パの確認、反復練習
6	6月4日	講義・演習	より実践に向けたテクニック強化	テクニックの見直し（出来ること出来ないことを明確に）
7	6月11日	講義・演習	エネルギーが流れる身体づくり（丹田から繋がる身体）	丹田、体幹トレーニング強化
8	6月18日	講義・演習	振付への解釈、音楽性の高さについて	日常的に音楽に対してイメージを持ち、身体に落とし込む
9	6月25日	講義・演習	振付へのアプローチ、解釈、音楽性の高さについて	映像や文献からダンス、身体表現を学ぶ
10	7月2日	講義・演習	前期まとめ（テクニックスキルチェック）	テクニックの見直し（出来ること出来ないことを明確に）
11	7月9日	講義・演習	前期まとめ2（振付に対してのアプローチ）	客観的に自分がどう見えているか
12	7月16日	講義・演習	前期まとめ3（自分を表現する）	前期の反省、復習
13	9月10日	講義・演習	イベント実践を通して身体表現を学ぶ	今学期の振り返り
14	9月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月24日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			授業前後のストレッチと筋力トレーニング。授業内容や授業中に気付いた事をノート等へ書き残しておく	

【使用教科書・教材・参考書】

バレエシューズ、レオタード

科目名	BalletⅢ(5) Ballet Intro(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	近藤南名歩
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	関東大手テーマパークパフォーマー、クラシックバレエ・ジャズダンスインストラクター						
授業の学習内容	① 踊り全般に必要な基礎や表現力を身につけ、応用する ② 全ジャンルの基礎 ③ 他ジャンルとの繋がりを見つけ、バレエの必要性を知って欲しい						
到達目標	バーを頼らずに身体をコントロールする力を身につける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	前年度の復習／目標設定	自分の強化したいところを明確にしておく
2	5月7日	講義・演習	バー(前年度の復習・前半)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
3	5月14日	講義・演習	バー(前年度の復習・後半)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
4	5月21日	講義・演習	バー(応用)／センター(アダージオ)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
5	5月28日	講義・演習	バー(応用)／センター(タンデュ、ジュテ、ピルエット)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
6	6月4日	講義・演習	バー(応用)／センター(グランバットマン)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
7	6月11日	講義・演習	バー(応用)／センター(アレグロ)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
8	6月18日	講義・演習	バー(応用)／センター(グランワルツ)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
9	6月25日	講義・演習	バー(応用)／センター(ターン)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
10	7月2日	講義・演習	バー(応用)／センター(コンビネーション)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
11	7月9日	講義・演習	テスト	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
12	7月16日	講義・演習	バー(応用)／センター(アダージオ～コンビネーション)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
13	9月10日	講義・演習	前期の振り返り／今後の課題	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
14	9月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月24日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

バレエシューズ、レオタード

科目名	BalletⅢ(6) Ballet Adv(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	淺越葉菜
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	6歳よりバレエを始め、その後コンテンポラリーダンス、ジャズダンスを学ぶ。渡米留学後、関東大手テーマパークや劇団四季等で活躍。現在は舞台出演の傍ら、振付師・指導者としても活動中。						
授業の学習内容	①最大限に身体を使い、身体表現を行う為にバレエを学ぶ。 ②他のダンスにも繋がる身体を作る。 ③自分の身体を知り、自分との向き合い方を学んでほしい。 ④ストレッチ、バーレッスン、センターレッスンを通して、身体作り、精神の向上、テクニックの向上を目指す。						
到達目標	自分に向き合い、身体の気付きを持つ。 バレエ、基礎の動きを習慣化する。 他ジャンルに繋がる身体、技術を身につける。 より実践に向けダンスレベルの向上を目指す。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	後期の目標設定	前期の反省、後期の目標を明確に設定する
2	10月15日	講義・演習	バーレッスン応用	基礎の見直し、トレーニング、ストレッチの見直し
3	10月22日	講義・演習	バーレッスン応用2	足りない点を見つめ、新たにトレーニング、ストレッチに取り組む。
4	10月29日	講義・演習	テクニック強化（可動域、足さばき、上体）	身体の使い方、姿勢、所作の見直し
5	11月5日	講義・演習	テクニック強化（ターン、ジャンプ）	テクニック強化の為に必要なトレーニング、ストレッチは何か。
6	11月12日	講義・演習	アレグロ、ワルツ強化	身体の細部に内側から気を配り、気付きを持つ。
7	11月19日	講義・演習	振付へのアプローチ、音楽性の向上	振付（動き）、音楽に対してのイメージの幅を広げる為、様々な芸術に触れる。
8	11月26日	講義・演習	身体表現についてより掘り下げる	イメージ通りに身体が動けているか、どうなりたいかイメージを明確に持つ。
9	12月3日	講義・演習	テクニック、音楽、振付への解釈	今の自分に出来ること、出来ないこと、長所短所は何か。
10	12月10日	講義・演習	テクニック、音楽、振付への解釈2	トレーニング、ストレッチ強化（丹田から繋がる身体を目標に）
11	12月17日	講義・演習	後期まとめ（基礎から応用）	バーレッスンからセンターレッスン～他ジャンルへどう繋がるか考える。
12	1月21日	講義・演習	一年間まとめ	一年間で変化したこと、足りない点を明確にする。
13	2月4日	講義・演習	イベント実践を通して身体表現を学ぶ	今学期の振り返り
14	2月11日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			授業前後のストレッチと筋力トレーニング。授業内容や授業中に気付いたことをノート等へ書き残しておく	

【使用教科書・教材・参考書】

バレエシューズ、レオタード

科目名	BalletⅢ(6) Ballet Intro(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	近藤南名歩
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	関東大手テーマパークパフォーマー、クラシックバレエ・ジャズダンスインストラクター						
授業の学習内容	① 踊り全般に必要な基礎や表現力を身につけ、応用する ② 全ジャンルの基礎 ③ 他ジャンルとの繋がりを見つけ、バレエの必要性を知って欲しい						
到達目標	身体を自由にコントロールし、表現の幅を広げる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	前期の復習／目標設定	卒業後(今後)のなりたい自分像を明確にしておく
2	10月15日	講義・演習	バー(応用)／センター(アダージオ～アレグロ)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
3	10月22日	講義・演習	バー(応用)／センター(グランワルツ～コンビネーション)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
4	10月29日	講義・演習	バー(応用)／センター(アダージオ～コンビネーション)	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
5	11月5日	講義・演習	バー(応用)／センター(応用)アダージオ～ピルエット	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
6	11月12日	講義・演習	バー(応用)／センター(応用)グランバットマン～アレグロ	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
7	11月19日	講義・演習	バー(応用)／センター(応用)アレグロ～グランワルツ	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
8	11月26日	講義・演習	バー(応用)／センター(応用)グランワルツ～ターン	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
9	12月3日	講義・演習	バー(応用)／センター(応用)ターン	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
10	12月10日	講義・演習	バー(応用)／センター(応用)ターン～コンビネーション	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
11	12月17日	講義・演習	テスト	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
12	1月21日	講義・演習	バー(応用)／センター(応用)アダージオ～コンビネーション	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
13	2月4日	講義・演習	2年間の振り返り／今後の課題	ストレッチ／体幹トレーニング／授業の復習
14	2月11日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

なし

科目名	Jazz Ⅰ(5) Jazz Basic A(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	渡辺裕子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間(単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	テーマパークダンサー、舞台・TV・海外公演等ダンサー出演						
授業の学習内容	テーマパーク、舞台、イベント等のショーダンサー・パフォーマーを目指すために必要な基礎力、表現力を学ぶクラス。 エクササイズ、クロスフロアを丁寧に行ってしっかり体をつくり、基礎力を身につける。 コンビネーションでは表現する楽しさや幅広い表現力を学ぶ。						
到達目標	・強くしなやかな身体をつくり基礎を固める ・テクニックのスキルアップ ・表現力を豊かにする						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月24日	講義・演習	エクササイズ、アイソレーションを覚え体の使い方を学ぶ	ストレッチ等
2	5月8日	講義・演習	基礎的なステップ、テクニックを習得する	前回の注意点、振りの復習
3	5月15日	講義・演習	連続したテクニックを振りの中で活かせるようにする	前回の注意点、振りの復習
4	5月22日	講義・演習	美しいアームス、上体の使い方を学ぶ	前回の注意点、振りの復習
5	5月29日	講義・演習	美しいラインを意識した体の使い方を学ぶ	前回の注意点、振りの復習
6	6月5日	講義・演習	テクニックの強化、滑らかな動きができるようにする	前回の注意点、振りの復習
7	6月12日	講義・演習	リズムを大切にし音への意識を高める	前回の注意点、振りの復習
8	6月19日	講義・演習	アクセント、緩急をつけた表現を学ぶ	前回の注意点、振りの復習
9	7月3日	講義・演習	表情や目線を意識した表現を学ぶ	前回の注意点、振りの復習
10	7月10日	講義・演習	体全体を使ったダイナミックな表現を学ぶ	前回の注意点、振りの復習
11	7月17日	講義・演習	テスト(コンビネーション)	前回の注意点、振りの復習
12	8月21日	講義・演習	前期まとめ、各々の課題を研究しクリアにする	テストでの注意点、課題の復習
13	9月11日	講義・演習	パフォーマンス披露、表現力を高める	前回の注意点、振りの復習
14	9月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月25日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			欠席した授業回は、振りを聞くなどしてできるだけ覚えてくる	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Jazz Ⅰ(5) Jazz Basic B(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	寺本藍
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	バックダンサーとして様々なアーティストのLIVEなどに出演。ダンスインストラクター。						
授業の学習内容	ただ踊るのではなく、身体の使い方を1から学び、しっかり理解を深め表現出来る様にする。 自分の身体を理解し、しっかり身体を使え表現出来る質の高いダンサーを目指して欲しい。						
到達目標	1年生で学習し覚えた事を必ず実践し、自分の踊り身体について良いところ、足りないところを毎回考える事。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月25日	講義・演習	授業の進め方の説明。卒業までの目標の確認。身体の作り(骨、筋肉)の説明。	自分の目標の為に何をすべきか考える。
2	5月9日	講義・演習	身体の作りの説明の続きとどの様な動きかを説明。	授業で学んだ事を再度確認し、覚える。
3	5月16日	講義・演習	2週目に説明した動きがダンスの何に必要か実際動かして確認。	実際に体を動かし学んだことを身体に覚えさせる。
4	5月23日	講義・演習	ターン、ピルエットの応用(回転の回数を増やす)	首のきり方のタイミング。パッセの高さが落ちない様に意識。
5	5月30日	講義・演習	ピケターンダブルの練習開始。	軸足の伸び、プリエからロンデの足の運びを確認。
6	6月6日	講義・演習	5週まで学んだターンを取り入れたコンビネーション開始。	動きの順番、繋がりを覚える。
7	6月13日	講義・演習	ターンコンビネーションの習得と発表。	繰り返し練習。
8	6月20日	講義・演習	1週目からのまとめの振付け開始。	注意された所の直しと強化。
9	7月4日	講義・演習	振り付けの追加、振りの意味の説明。	振り付けの意味を今一度考え落とし込む。
10	7月11日	講義・演習	構成を付け作品について考える。	どの様に表現すれば見ている人に伝わるか考える。
11	7月18日	講義・演習	実技テストの課題練習。	自分の中で満足いくまで練習を重ねる。
12	8月22日	講義・演習	実技テストの課題練習②	自分の中で満足いくまで練習を重ねる。
13	9月12日	講義・演習	実技テスト。	足りなかったことを見つめ直し、次に活かせる様まとめる。
14	9月19日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月26日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			YouTubeなどでJAZZDANCEを観る。知る。触れる。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Jazz Ⅰ(6) Jazz Basic A(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	渡辺裕子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間(単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	テーマパークダンサー、舞台・TV・海外公演等ダンサー出演						
授業の学習内容	エクササイズ、クロスフロアを丁寧に行い、基礎的な要素をしっかり固める。 コンビネーションではパフォーマンスする意識、細やかな表現など、幅広い表現力を身につける						
到達目標	・基礎力、テクニックのスキルアップ ・表現の幅を広げ、自分の表現ができるようにする ・プロとしての心構えを身につける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	基礎的な要素のスキルアップ	エクササイズ、アイソレーション等の復習
2	10月16日	講義・演習	テクニックのスキルアップ	前回の注意点、振りの復習
3	10月23日	講義・演習	筋肉、体幹、体の使い方を学ぶ	前回の注意点、振りの復習
4	10月30日	講義・演習	引き上げ、美しいラインとアームスを習得する	前回の注意点、振りの復習
5	11月6日	講義・演習	柔軟性、筋力、しなやかな体の使い方を学ぶ	前回の注意点、振りの復習
6	11月13日	講義・演習	音にのる、音をとる、リズムの大切さを学ぶ	前回の注意点、振りの復習
7	11月20日	講義・演習	細やかに、丁寧に、繊細な表現を学ぶ	前回の注意点、振りの復習
8	11月27日	講義・演習	ロングコンビネーション①空気感、流れを大切に表現する	前回の注意点、振りの復習
9	12月4日	講義・演習	ロングコンビネーション②音を感じて表現できるようにする	前回の注意点、振りの復習
10	12月11日	講義・演習	ロングコンビネーション③自分の表現ができるようにする	前回の注意点、振りの復習
11	12月18日	講義・演習	テスト(コンビネーション)	前回の注意点、振りの復習
12	1月15日	講義・演習	総まとめ、新たな課題に取り組む	テストでの注意点、課題の復習
13	1月22日	講義・演習	パフォーマンス披露、見せ方を学ぶ	前回の注意点、振りの復習
14	2月5日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月12日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			欠席した授業回は、振りを聞くなどしてできるだけ覚えてくる	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Jazz Ⅰ(6) Jazz Basic B(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	寺本藍
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間(単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	バックダンサーとして様々なアーティストのLIVEなどに出演。ダンスインストラクター。						
授業の学習内容	ただ踊るのではなく、身体の使い方を1から学び、しっかり理解を深め表現出来る様にする。 身体の使い方をしっかり理解し表現出来き、怪我をしない上質な身体を作って下さい。						
到達目標	プロになる為、人前に立つ事を意識した身体作り。ダンスの見せ方考え習得する。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	1年生で学んだことにプラス、アプローチを意識した柔軟・筋トレによる身体作りの強化。(腹筋)	ストレッチ・腹筋を意識した筋トレ。
2	10月17日	講義・演習	1年生で学んだことにプラス、アプローチを意識した柔軟・筋トレによる身体作りの強化。(背筋)	ストレッチ・背筋を意識した筋トレ。
3	10月24日	講義・演習	1年生で学んだことにプラス、アプローチを意識した柔軟・筋トレによる身体作りの強化。(腕、肩甲骨周りを意識した筋トレ。	ストレッチ・腕、肩甲骨周りを意識した筋トレ。
4	10月31日	講義・演習	3週で学んだ筋力を取り入れた振り付け開始。	必要な筋力を使い踊れているか確認と練習。
5	11月7日	講義・演習	振付けの追加。	ジャズに必要な手足の先の美しさ柔らかさも出来ているか確認。
6	11月14日	講義・演習	振りの踊り込み。	4.5週目の課題を取り入れ踊り込み。
7	11月21日	講義・演習	4週目からの振付けの発表。フィードバック。	フィードバックをまとめ次に活かせることを考える。
8	11月28日	講義・演習	卒業に向け、テスト課題開始。前期から学んだことを取り入れた振付け。	振りを覚える＋学んできた事を活かせているか確認し練習。
9	12月5日	講義・演習	8週目の振りの確認と振り付けの追加。	追加分の振付を固める。
10	12月12日	講義・演習	振りの意味を説明する。チームに分け自分達で構成を付け作品について考える。	曲をよく聞き、どの様に表現するかを考える。
11	12月19日	講義・演習	構成の確認、作品に仕上げる。	踊りのスキル、表現を全て出せる様に調整。
12	1月16日	講義・演習	構成の確認、作品に仕上げる②	踊りのスキル、表現を全て出せる様に調整。
13	1月23日	講義・演習	実技テスト	テストをして今の自分を考える。これからさらに何ができるかなど。
14	2月6日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月13日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			YouTubeなどでJAZZDANCEを観る。知る。触れる。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Jazz Ⅱ(5) Jazz Basic C(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	南山光徳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	大手テーマパークにてダンサーとしてショー・パレードなどに多数出演。劇団四季にて活躍しその後もダンサー・振付師として活動の幅をさらに広げる。DANCE SQUARE代表						
授業の学習内容	①オーディション合格するためのノウハウを学ぶ。 ②ダンスの基礎となるバレエの先の表現の仕方やバレエとは違う身体の使い方などを学ぶ。 ③自分自身の夢である仕事につけるために、今からしっかりと準備をしていく。 ④まずは基礎的な練習、プリエ、タンジュをはじめに、ストレッチなどを入念に行い、オーディションで必要なテクニック、振り覚えのスピード、魅せ方などをしっかりと練習していく。						
到達目標	オーディションで自分の力を最大限に発揮できるように、自分には何が足りないかを自分自身で考える力をもち、補っていけるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月25日	講義・演習	ダンスの基礎であるプリエを学ぶ	なぜプリエが大切なのかを考える
2	5月9日	講義・演習	バットマンやジャンプの通り道であるタンジュを学ぶ	タンジュを意識することによって足の出し方をきれいにする
3	5月16日	講義・演習	軸を作るための練習	踊るうえで重要なバランスをつくる為の第一歩
4	5月23日	講義・演習	丁寧なバランス移動の訓練	バランスがしっかりと取り安定度を上げる
5	5月30日	講義・演習	正しいアームスの位置を覚える	アームスのポジション強化
6	6月6日	講義・演習	アームスの基礎的な通り道を身体に覚えさせる	アームスの動かし方をスムーズに行なえるようにする
7	6月13日	講義・演習	ストレッチの順番を覚える	正しいストレッチ方法を覚える
8	6月20日	講義・演習	ストレッチのやり方を覚えて身体をやらかくする	ストレッチは日課にする
9	7月4日	講義・演習	呼吸を意識して力を抜く意識を身につける	ストレッチのやり方を間違えると余計に硬くなる
10	7月11日	講義・演習	バットマンでの足の上げ方の練習	高く上がるようにする
11	7月18日	講義・演習	ピルエットでのバランスのとり方の練習	バランスをまずはとるように練習する
12	8月22日	講義・演習	ピルエットでの回る練習	まずは1回から綺麗にまわれるようにする
13	9月12日	講義・演習	これまでやってきたことの復習	今までのことを忘れていないか一つ一つ考える
14	9月19日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月26日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			今まで授業で行ったことをしっかりと一人でも練習できるようにする	

【使用教科書・教材・参考書】

レッスン着、ジャズシューズ、タオル

科目名	Jazz Ⅱ(5) Jazz Basic D(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	角田美和
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	振付・演出・舞踏家・インストラクター。プロジェクトチームcompamy MIW代表。2004年~JAZZ HIPHOPチーム『CHUPPA』のメンバーとして全国各地で活躍。公演企画・構成・演出・振付も手がける。						
授業の学習内容	①柔軟性、基礎体力、リズム感、体幹を鍛え自由に身体表現出来る様になるためにジャズダンスを学ぶ。 ②バレエ…基礎筋肉、基本姿勢、ターンが役立つ。 ③自由に身体表現・感情表現する事の楽しさを感じ向上心を養って欲しい。						
到達目標	基礎練習の積み重ねによって、全身を使い様々な曲に合わせて踊れるダンス能力を身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	身体の使い方を学ぶ	自分の身体の癖や特徴を知る。
2	5月7日	講義・演習	アイソレーションを覚える	自分の体の可動域を知る。
3	5月14日	講義・演習	アームス・バレエの正しいポジションを学ぶ	1つのポジションをすぐ反応出来るようにする。
4	5月21日	講義・演習	ストレッチのやり方を学ぶ	ビフォアー・アフターストレッチを日々継続する。
5	5月28日	講義・演習	ウォーキングを学ぶ	魅せ方を研究する。
6	6月4日	講義・演習	身体の軸の作り方を学ぶ	軸を意識した時間を作る。
7	6月11日	講義・演習	筋力トレーニング	自分の身体の筋力バランスを考えて日々継続する。
8	6月18日	講義・演習	呼吸法を学ぶ	呼吸を使い分けられる様に練習する。
9	6月25日	講義・演習	様々なターンの説明・ターンのやり方を学ぶ	ターンの名称を覚え、日々ターン練習を継続する。
10	7月2日	講義・演習	様々なジャンプの説明・ジャンプのやり方を学ぶ	ジャンプの名称を覚え、日々練習を継続する。
11	7月9日	講義・演習	クロスフロアを行う	自分に必要なトレーニングを強化する。
12	7月16日	講義・演習	イベント実践を通して作品の作り方を学ぶ	動画を見て研究する。
13	9月10日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ。	レポートの提出
14	9月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月24日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Jazz Ⅱ(6) Jazz Basic C(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	南山光徳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間(単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	大手テーマパークにてダンサーとしてショー・パレードなどに多数出演。劇団四季にて活躍しその後もダンサー・振付師として活動の幅をさらに広げる。DANCE SQUARE代表						
授業の学習内容	①オーディション合格するためのノウハウを学ぶ。 ②ダンスの基礎となるバレエの先の表現の仕方やバレエとは違う身体の使い方などを学ぶ。 ③自分自身の夢である仕事につけるために、今からしっかりと準備をしていく。 ④まずは基礎的な練習、プリエ、タンジュをはじめに、ストレッチなどを入念に行い、オーディションで必要なテクニック、振り覚えのスピード、魅せ方などをしっかりと練習していく。						
到達目標	オーディションで自分の力を最大限に発揮できるように、自分には何が足りないかを自分自身で考える力をもち、補っていけるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	前期で行ったことを最初から通して練習	思い出しながら一人でも練習できるようにする
2	10月17日	講義・演習	個々の苦手なところを洗い出して練習	自分が苦手だと思うところを理解して練習する
3	10月24日	講義・演習	ピケターンとシェネを学ぶ	様々なターンの練習を授業外で自分でも行う
4	10月31日	講義・演習	グランジュテ、グランパディシャを学ぶ	様々なジャンプを覚える
5	11月7日	講義・演習	ターンとジャンプの組み合わせの練習	ダンスにおいて大切なテクニックの練習
6	11月14日	講義・演習	振付を覚える	オーディションにおける振りを覚える練習
7	11月21日	講義・演習	振り付けの中の一つ一つの形を整える	自分が一番きれいにみえる形を考える
8	11月28日	講義・演習	新しい振り付けをできる限り短時間で覚える	実践的に早く覚えることを意識する
9	12月5日	講義・演習	振り付けの中の苦手な部分を練習する	苦手なところを自分で見つけるようにこころがける。
10	12月12日	講義・演習	鏡を見ないで後ろ向きでの練習	鏡が無くても自分がどう踊っているかを想像する
11	12月19日	講義・演習	お客様が実際にいることを想定して踊る	自分だけでなく客観的に考える
12	1月16日	講義・演習	1分の新しい振り付けを30分で覚える	長い振りでも冷静に短時間で覚えることの強化
13	1月23日	講義・演習	オーディションを想定して魅せる訓練を行う	毎回の振り付けを本当のオーディションだと思いながら授業を受ける
14	2月6日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月13日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			今まで授業で行ったことをしっかりと一人でも練習できるようにする	

【使用教科書・教材・参考書】

レッスン着、ジャズシューズ、タオル

科目名	Jazz Ⅱ(6) Jazz Basic D(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	角田美和
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	振付・演出・舞踏家・インストラクター。プロジェクトチームcompamy MIW代表。2004年~JAZZ HIPHOPチーム『CHUPPA』のメンバーとして全国各地で活躍。公演企画・構成・演出・振付も手がける。						
授業の学習内容	①柔軟性、基礎体力、リズム感、体幹を鍛え自由に身体表現出来る様になるためにジャズダンスを学ぶ。 ②バレエ…基礎筋肉、基本姿勢、ターンが役立つ。 ③自由に身体表現・感情表現する事の楽しさを感じ向上心を養って欲しい。						
到達目標	基礎練習の積み重ねによって、全身を使い様々な曲に合わせて踊れるダンス能力を身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	身体の使い方を学ぶ	自分の身体の癖や特徴を知る。
2	10月15日	講義・演習	アイソレーションを覚える	自分の体の可動域を知る。
3	10月22日	講義・演習	アームス・バレエの正しいポジションを学ぶ	1つのポジションをすぐ反応出来るようにする。
4	10月29日	講義・演習	ストレッチのやり方を学ぶ	ビフォアー・アフターストレッチを日々継続する。
5	11月5日	講義・演習	ウォーキングを学ぶ	魅せ方を研究する。
6	11月12日	講義・演習	身体の軸の作り方を学ぶ	軸を意識した時間を作る。
7	11月19日	講義・演習	筋力トレーニング	自分の身体の筋力バランスを考えて日々継続する。
8	11月26日	講義・演習	呼吸法を学ぶ	呼吸を使い分けられる様に練習する。
9	12月3日	講義・演習	様々なターンの説明・ターンのやり方を学ぶ	ターンの名称を覚え、日々ターン練習を継続する。
10	12月10日	講義・演習	様々なジャンプの説明・ジャンプのやり方を学ぶ	ジャンプの名称を覚え、日々練習を継続する。
11	12月17日	講義・演習	クロスフロアを行う	自分に必要なトレーニングを強化する。
12	1月21日	講義・演習	イベント実践を通して作品の作り方を学ぶ	動画を見て研究する。
13	2月4日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ。	レポートの提出
14	2月11日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Jazz Ⅲ(5) Jazz Technique A(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	村瀬美音
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	劇団四季7年、M&Sカンパニー4年、現在はフリーで俳優・ダンサー・コレオグラファー・脚本家・演出家をしている						
授業の学習内容	①「なぜこの授業を受けなければならないのか？」→エンタメで必要なJazz danceのスキル習得の為 ②「どの科目と関係するのか、その位置づけ」」→イベントや行事などの実践現場に生かす ③「学生にどうなって欲しいか」(講師の思い）」→ステージで輝くプレーヤーになってほしい ④①～③をふまえどのような授業を展開するか、具体的に記載する」→まずは挨拶や礼儀などを、しっかり覚えてもらいます。 実際の現場に出た時に恥ずかしくないような、現場感覚を身につけた上でJazzの基礎を丁寧に指導していきます。						
到達目標	Jazz danceの基礎をしっかりと身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月25日	講義・演習	アイソレーションなどの基礎、前期の目標を立てる	立てた目標の確認
2	5月9日	講義・演習	プリエ、タンジュ、デガジェ、フォンデュなどの基礎	バレエを元にする基礎の重要性を確認する
3	5月16日	講義・演習	指先、つま先等への意識をつくる	覚えたことを腑に落とし、次回に備える
4	5月23日	講義・演習	体幹鍛錬、クロスやコンビネーション	振付の確認、反復練習
5	5月30日	講義・演習	基礎練を流れでできるようにする。振付を進める。	振付の確認、反復練習
6	6月6日	講義・演習	基礎の大切さの確認、踊り込み	基礎の不足部分の鍛錬
7	6月13日	講義・演習	ダンスで使える呼吸を身につけ筋肉を鍛える。踊り込み	柔軟性の足りないものは、自宅でストレッチなどの自主練
8	6月20日	講義・演習	Jazzでの表現を考え、動きや表情に活かす	自己の反省点を考え、次回に活かす
9	7月4日	講義・演習	生徒同士、互いの踊りを見せ合い、自身の踊りに活かす	受けた刺激をモチベーションに繋げる
10	7月11日	講義・演習	ステージングやフォーメーションを理解し深める	ミザンスを理解し動けていたか考える
11	7月18日	講義・演習	授業内でダンスを発表する ディスカッション	講師から受けたアドバイスを腑に落とし次回に備える
12	8月22日	講義・演習	前期の総括	前期の自分を振り返り、身についたものを実感する。後期への目標を考える
13	9月12日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ。	レポートの提出
14	9月19日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月26日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Jazz Ⅲ(5) Jazz Technique B(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	村瀬美音
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	劇団四季7年、M&Sカンパニー4年、現在はフリーで俳優・ダンサー・コレオグラファー・脚本家・演出家をしている						
授業の学習内容	①「なぜこの授業を受けなければならないのか？」→エンタメで必要なJazz danceのスキル習得の為 ②「どの科目と関係するのか、その位置づけ」」→イベントや行事などの実践現場に生かす ③「学生にどうなって欲しいか」(講師の思い）」→ステージで輝くプレーヤーになってほしい ④①～③をふまえどのような授業を展開するか、具体的に記載する」→まずは挨拶や礼儀などを、しっかり覚えてもらいます。 実際の現場に出た時に恥ずかしくないような、現場感覚を身につけた上でJazzの基礎を丁寧に指導していきます。						
到達目標	Jazz danceの基礎をしっかりと身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月25日	講義・演習	アイソレーションなどの基礎、前期の目標を立てる	立てた目標の確認
2	5月9日	講義・演習	プリエ、タンジュ、デガジェ、フォンデュなどの基礎	バレエを元にする基礎の重要性を確認する
3	5月16日	講義・演習	指先、つま先等への意識をつくる	覚えたことを腑に落とし、次回に備える
4	5月23日	講義・演習	体幹鍛錬、クロスやコンビネーション	振付の確認、反復練習
5	5月30日	講義・演習	基礎練を流れでできるようにする。振付を進める。	振付の確認、反復練習
6	6月6日	講義・演習	基礎の大切さの確認、踊り込み	基礎の不足部分の鍛錬
7	6月13日	講義・演習	ダンスで使える呼吸を身につけ筋肉を鍛える。踊り込み	柔軟性の足りないものは、自宅でストレッチなどの自主練
8	6月20日	講義・演習	Jazzでの表現を考え、動きや表情に活かす	自己の反省点を考え、次回に活かす
9	7月4日	講義・演習	生徒同士、互いの踊りを見せ合い、自身の踊りに活かす	受けた刺激をモチベーションに繋げる
10	7月11日	講義・演習	ステージングやフォーメーションを理解し深める	ミザンスを理解し動けていたか考える
11	7月18日	講義・演習	授業内でダンスを発表する ディスカッション	講師から受けたアドバイスを腑に落とし次回に備える
12	8月22日	講義・演習	前期の総括	前期の自分を振り返り、身についたものを実感する。後期への目標を考える
13	9月12日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ。	レポートの提出
14	9月19日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月26日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Jazz Ⅲ(6) Jazz Technique A(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	村瀬美音
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	劇団四季7年、M&Sカンパニー4年、現在はフリーで俳優・ダンサー・コレオグラファー・脚本家・演出家をしている						
授業の学習内容	①「なぜこの授業を受けなければならないのか？」→エンタメで必要なJazz danceのスキル習得の為 ②「どの科目と関係するのか、その位置づけ」」→イベントや行事などの実践現場に生かす ③「学生にどうなって欲しいか」(講師の思い)」→ステージで輝くプレーヤーになってほしい ④①～③をふまえどのような授業を展開するか、具体的に記載する」→まずは挨拶や礼儀などを、しっかり覚えてもらいます。 実際の現場に出た時に恥ずかしくないような、現場感覚を身につけた上でJazzの基礎を丁寧に指導していきます。						
到達目標	Jazz danceの基礎をしっかりと身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	後期の目標設定	目標を達成するための意識確認をする
2	10月17日	講義・演習	基礎、プリエ、ストレッチ、筋トレ、コンビネーションの複合的レッスン	複合的レッスンに慣れるよう復習してくる
3	10月24日	講義・演習	基礎で身につけたものを、踊りにどう活かすかを考え踊る	自身の足りないところの補填、自主練
4	10月31日	講義・演習	フィジカルの鍛錬とメンタルの鍛錬を共存させる	特にメンタルについて、深く考えてくる
5	11月7日	講義・演習	ソロパートへ挑戦する	自身の踊るパートへの責任を感じ、取り組めるようにする
6	11月14日	講義・演習	自立した考え方を身につけ、自分の踊りに磨きをかける	切磋琢磨の本当の意味を考える
7	11月21日	講義・演習	振り入れのスピードを上げて、限られた時間内でのリアクションを身につける	早いテンポで進む現場へ対応できるように、出来なかったところを反省し次回に備える
8	11月28日	講義・演習	作品制作に取り組む	ダンス発表への目標を設定する
9	12月5日	講義・演習	FIXすべき箇所を見つけ、ブラッシュアップを図る	ブラッシュアップ前後の比較を省みる
10	12月12日	講義・演習	お互いにダンスを発表する	受けた刺激をモチベーションに繋げる
11	12月19日	講義・演習	授業内でダンスを発表する ディスカッション	講師から受けたアドバイスを腑に落とし次回に備える
12	1月16日	講義・演習	総括	1年を振り返り、来年度への目標をたてる
13	1月23日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ。	レポートの提出
14	2月6日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月13日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Jazz Ⅲ(6) Jazz Technique B(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	村瀬美音
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	劇団四季7年、M&Sカンパニー4年、現在はフリーで俳優・ダンサー・コレオグラファー・脚本家・演出家をしている						
授業の学習内容	①「なぜこの授業を受けなければならないのか？」→エンタメで必要なJazz danceのスキル習得の為 ②「どの科目と関係するのか、その位置づけ」」→イベントや行事などの実践現場に生かす ③「学生にどうなって欲しいか」(講師の思い)」→ステージで輝くプレーヤーになってほしい ④①～③をふまえどのような授業を展開するか、具体的に記載する」→まずは挨拶や礼儀などを、しっかり覚えてもらいます。 実際の現場に出た時に恥ずかしくないような、現場感覚を身につけた上でJazzの基礎を丁寧に指導していきます。						
到達目標	Jazz danceの基礎をしっかりと身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	後期の目標設定	目標を達成するための意識確認をする
2	10月17日	講義・演習	基礎、プリエ、ストレッチ、筋トレ、コンビネーションの複合的レッスン	複合的レッスンに慣れるよう復習してくる
3	10月24日	講義・演習	基礎で身につけたものを、踊りにどう活かすかを考え踊る	自身の足りないところの補填、自主練
4	10月31日	講義・演習	フィジカルの鍛錬とメンタルの鍛錬を共存させる	特にメンタルについて、深く考えてくる
5	11月7日	講義・演習	ソロパートへ挑戦する	自身の踊るパートへの責任を感じ、取り組めるようにする
6	11月14日	講義・演習	自立した考え方を身につけ、自分の踊りに磨きをかける	切磋琢磨の本当の意味を考える
7	11月21日	講義・演習	振り入れのスピードを上げて、限られた時間内でのリアクションを身につける	早いテンポで進む現場へ対応できるように、出来なかったところを反省し次回に備える
8	11月28日	講義・演習	作品制作に取り組む	ダンス発表への目標を設定する
9	12月5日	講義・演習	FIXすべき箇所を見つけ、ブラッシュアップを図る	ブラッシュアップ前後の比較を省みる
10	12月12日	講義・演習	お互いにダンスを発表する	受けた刺激をモチベーションに繋げる
11	12月19日	講義・演習	授業内でダンスを発表する ディスカッション	講師から受けたアドバイスを腑に落とし次回に備える
12	1月16日	講義・演習	総括	1年を振り返り、来年度への目標をたてる
13	1月23日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ。	レポートの提出
14	2月6日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月13日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Jazz Ⅳ(5) Jazz Technique C(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	村瀬美音
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	劇団四季7年、M&Sカンパニー4年、現在はフリーで俳優・ダンサー・コレオグラファー・脚本家・演出家をしている						
授業の学習内容	①「なぜこの授業を受けなければならないのか？」→エンタメで必要なJazz danceのスキル習得の為 ②「どの科目と関係するのか、その位置づけ」」→イベントや行事などの実践現場に生かす ③「学生にどうなって欲しいか」(講師の思い)」→ステージで輝くプレーヤーになってほしい ④①～③をふまえどのような授業を展開するか、具体的に記載する」→まずは挨拶や礼儀などを、しっかり覚えてもらいます。 実際の現場に出た時に恥ずかしくないような、現場感覚を身につけた上でJazzの基礎を丁寧に指導していきます。						
到達目標	Jazz danceの基礎をしっかりと身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月25日	講義・演習	後期の目標設定	目標を達成するための意識確認をする
2	5月9日	講義・演習	基礎、プリエ、ストレッチ、筋トレ、コンビネーションの複合的レッスン	複合的レッスンに慣れるよう復習してくる
3	5月16日	講義・演習	基礎で身につけたものを、踊りにどう活かすかを考え踊る	自身の足りないところの補填、自主練
4	5月23日	講義・演習	フィジカルの鍛錬とメンタルの鍛錬を共存させる	特にメンタルについて、深く考えてくる
5	5月30日	講義・演習	ソロパートへ挑戦する	自身の踊るパートへの責任を感じ、取り組めるようにする
6	6月6日	講義・演習	自立した考え方を身につけ、自分の踊りに磨きをかける	切磋琢磨の本当の意味を考える
7	6月13日	講義・演習	振り入れのスピードを上げて、限られた時間内でのリアクションを身につける	早いテンポで進む現場へ対応できるように、出来なかったところを反省し次回に備える
8	6月20日	講義・演習	作品制作に取り組む	ダンス発表への目標を設定する
9	7月4日	講義・演習	FIXすべき箇所を見つけ、ブラッシュアップを図る	ブラッシュアップ前後の比較を省みる
10	7月11日	講義・演習	お互いにダンスを発表する	受けた刺激をモチベーションに繋げる
11	7月18日	講義・演習	授業内でダンスを発表する ディスカッション	講師から受けたアドバイスを腑に落とし次回に備える
12	8月22日	講義・演習	総括	1年を振り返り、来年度への目標をたてる
13	9月12日	講義・演習	イベント実践を通してダンスを学ぶ。	レポートの提出
14	9月19日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月26日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Jazz Ⅳ(5) Jazz Technique D(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	渡辺裕子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	テーマパークダンサー、舞台・TV・海外公演等ダンサー出演						
授業の学習内容	テーマパークダンサー、パフォーマーを目指すために必要な基礎力、表現力を学ぶクラス エクササイズ、クロスフロアを丁寧に行ってしっかり体をつくり、基礎力を身につける コンビネーションでは表現する楽しさ、表現力を学ぶ						
到達目標	踊るための身体づくり、体の使い方や基礎をしっかり身につけ、表現力を豊かにする						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月24日	講義・演習	毎回行うストレッチ、エクササイズを覚え、理解する	ストレッチ等
2	5月8日	講義・演習	エクササイズ、アイソレーションを覚え体の使い方を学ぶ	前回の注意点、振りの復習
3	5月15日	講義・演習	リズムトレーニング、基礎のステップを学ぶ	前回の注意点、振りの復習
4	5月22日	講義・演習	基礎のステップ、ジャンプを学ぶ	前回の注意点、振りの復習
5	5月29日	講義・演習	引き上げ、体幹、美しいラインを学ぶ	前回の注意点、振りの復習
6	6月5日	講義・演習	ターン基礎、バランス、軸、スポットを習得する	前回の注意点、振りの復習
7	6月12日	講義・演習	ターン①ピケ、シェネを習得する	前回の注意点、振りの復習
8	6月19日	講義・演習	ターン②ピルエットを習得する	前回の注意点、振りの復習
9	7月3日	講義・演習	アームス、上体の使い方を学ぶ	前回の注意点、振りの復習
10	7月10日	講義・演習	目線、表情を意識して表現できるようにする	前回の注意点、振りの復習
11	7月17日	講義・演習	テスト(コンビネーション)	前回の注意点、振りの復習
12	8月21日	講義・演習	前期まとめ、各々の課題を研究する	テストでの注意点、課題の復習
13	9月11日	講義・演習	イベントを通して表現する楽しさを学ぶ	レポート提出
14	9月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月25日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			欠席した授業回は、振りを聞くなどして覚えてくる	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Jazz Ⅳ(6) Jazz Technique C(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	村瀬美音
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	劇団四季7年、M&Sカンパニー4年、現在はフリーで俳優・ダンサー・コレオグラファー・脚本家・演出家をしている						
授業の学習内容	①「なぜこの授業を受けなければならないのか？」→エンタメで必要なJazz danceのスキル習得の為 ②「どの科目と関係するのか、その位置づけ」」→イベントや行事などの実践現場に生かす ③「学生にどうなって欲しいか」(講師の思い）」→ステージで輝くプレーヤーになってほしい ④①～③をふまえどのような授業を展開するか、具体的に記載する」→まずは挨拶や礼儀などを、しっかり覚えてもらいます。 実際の現場に出た時に恥ずかしくないような、現場感覚を身につけた上でJazzの基礎を丁寧に指導していきます。						
到達目標	Jazz danceの基礎をしっかりと身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	アイソレーションなどの基礎、前期の目標を立てる	立てた目標の確認
2	10月17日	講義・演習	プリエ、タンジュ、デガジェ、フォンデュなどの基礎	バレエを元にする基礎の重要性を確認する
3	10月24日	講義・演習	指先、つま先等への意識をつくる	覚えたことを腑に落とし、次回に備える
4	10月31日	講義・演習	体幹鍛錬、クロスやコンビネーション	振付の確認、反復練習
5	11月7日	講義・演習	基礎練を流れでできるようにする。振付を進める。	振付の確認、反復練習
6	11月14日	講義・演習	基礎の大切さの確認、踊り込み	基礎の不足部分の鍛錬
7	11月21日	講義・演習	ダンスで使える呼吸を身につけ筋肉を鍛える。踊り込み	柔軟性の足りないものは、自宅でストレッチなどの自主練
8	11月28日	講義・演習	Jazzでの表現を考え、動きや表情に活かす	自己の反省点を考え、次回に活かす
9	12月5日	講義・演習	生徒同士、互いの踊りを見せ合い、自身の踊りに活かす	受けた刺激をモチベーションに繋げる
10	12月12日	講義・演習	ステージングやフォーメーションを理解し深める	ミザンスを理解し動けていたか考える
11	12月19日	講義・演習	授業内でダンスを発表する ディスカッション	講師から受けたアドバイスを腑に落とし次回に備える
12	1月16日	講義・演習	前期の総括	前期の自分を振り返り、身についたものを実感する。後期への目標を考える
13	1月23日	講義・演習	イベントを通して表現する楽しさを学ぶ	レポート提出
14	2月6日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月13日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Jazz Ⅳ(6) Jazz Technique D(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	渡辺裕子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	テーマパークダンサー、舞台・TV・海外公演等ダンサー出演						
授業の学習内容	エクササイズ、クロスフロアを丁寧に行ってしっかり体をつくり、基礎力を身につける。 コンビネーションではパフォーマンスする意識を高め、表現力を豊かにする						
到達目標	しなやかな身体づくり、基礎力、テクニックのスキルアップ、表現の幅を広げる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	基礎的な要素のスキルアップ	エクササイズ、アイソレーション等の復習
2	10月16日	講義・演習	連続したテクニックを習得する	前回の注意点、振りの復習
3	10月23日	講義・演習	テクニックの強化、振りの中で活かせるようにする	前回の注意点、振りの復習
4	10月30日	講義・演習	柔軟性、筋力、しなやかな体の使い方を学ぶ	前回の注意点、振りの復習
5	11月6日	講義・演習	体幹、軸の重要性、ラインを意識した動きを学ぶ	前回の注意点、振りの復習
6	11月13日	講義・演習	体全体を使ったダイナミックな表現を学ぶ	前回の注意点、振りの復習
7	11月20日	講義・演習	リズムを大切に滑らかな動きができるようにする	前回の注意点、振りの復習
8	11月27日	講義・演習	ロングコンビネーション①長い振りでの表現を学ぶ	前回の注意点、振りの復習
9	12月4日	講義・演習	ロングコンビネーション②リズム、流れの大切さを学ぶ	前回の注意点、振りの復習
10	12月11日	講義・演習	ロングコンビネーション③表情を大切に表現する	前回の注意点、振りの復習
11	12月18日	講義・演習	テスト(コンビネーション)	前回の注意点、振りの復習
12	1月15日	講義・演習	総まとめ、各々の課題に取り組む	テストでの注意点、課題の復習
13	1月22日	講義・演習	イベントを通してパフォーマンスする意識を高める	レポート提出
14	2月5日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月12日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			欠席した授業回は、振りを聞くなどして覚えてくる	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Hiphop Ⅰ(5) Hiphop A(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	石岡乃枝美
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	NHK紅白歌合戦、docomo、日清食品CM出演 他出演多数。JIBJABやFORPANCAKE.にて活動中。そして全国制覇する程の特技である書道を通じ、文化や礼儀を重んじつつ2足のわらじを履きながらも今日ヒップホップ・ライフに勤しむフィメールダンサー						
授業の学習内容	・hiphopdanceに必要な基礎的リズムの取り方、アイソレーションやコントロール法を覚え、技術だけでなく、文化的基礎知識、諸技法の取得、研究、反復。						
到達目標	・時代や土地の文化に応じた身体の使い方を理解し出来るようにする。（NYC90'style,WEST COASTstyle…） ・質の向上を目指す。 ・ステップの名前や技法、由来、先人の考え方などを学ぶ。 ・インプロビゼーション（フリースタイル）等の材料にし、各々のレベル、フィールドで活かせるようにする。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	hiphopの授業を受ける意味への理解と前期目標の設定、基本の体作り。	学ぶ意味、前期目標の設定、基本の体作り。
2	5月7日	講義・演習	身体のパーツコントロール入門編　～真っ直ぐ立つところから～	真っ直ぐ立つところから各パーツコントロールを知る。
3	5月14日	講義・演習	身体のパーツ、立ち方、ポジションを学ぶ。音楽の基本リズムを知る。	自分の身体の特徴、癖、傾向を知る。
4	5月21日	講義・演習	音楽の基本リズムと時代を学ぶ。アイソレーション～ジャンルによって違う使い方～入門	音楽とスタイルを知る。自分の身体の癖、傾向を知る。
5	5月28日	講義・演習	音楽の基本リズムとスタイルを学ぶ、アイソレーション~時代によって違う使い方～基礎	音楽とスタイルを知る。自分の身体の特徴、癖、傾向を知る。
6	6月4日	講義・演習	hiphop,streetdanceアイソレーション～時代、ジャンルによって違う使い方、魅せ方～	音楽とスタイルを知る。自分の身体の癖、傾向を知る。
7	6月11日	講義・演習	hiphop,streetdanceにおける重心移動を学ぶ。入門	共通と違いを考える。
8	6月18日	講義・演習	hiphop,streetdanceにおける重心移動~骨盤、股関節からなる足の出し方の基本~	重心移動要復習。
9	6月25日	講義・演習	音楽とスタイルを通じて、重心移動、足の出し方、ステップの連動を感じる。	音楽とスタイルを通じて、重心移動、足の出し方、ステップの連動を感じ、癖や傾向を知る。
10	7月2日	講義・演習	音楽、時代、スタイルを通じて、重心移動、足の出し方、ステップの連動を感じる。	足の出し方しまい方要復習。ステップ用語と動きを一致させ質を高める。
11	7月9日	講義・演習	音楽、時代とスタイルを感じたアイソレーションとステップの組み合わせ	身体の繋がりへの理解とミュージカリティーのマッチを意識する。
12	7月16日	講義・演習	音楽、時代とスタイルを感じてアイソレーションとステップの組み合わせ踊る事を強化。	身体の繋がりへの理解とミュージカリティーのマッチを意識する。癖や傾向を知る。
13	9月10日	講義・演習	組み合わせを理解し、自らの身体で表現する。	組み合わせを理解し、自らの身体で表現、比較する。
14	9月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月24日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			授業中に気付いた事をノートに書く。ダンス関連の映像をみる（映画、バトル、コンペティションなど）	

【使用教科書・教材・参考書】

・筆記用具　・ノート　・踊りやすいスニーカー(ジャズスニーカー、バレエシューズ、過度の厚底、ランニング専用シューズはNG)

科目名	Hiphop Ⅰ(5) Hiphop B(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	石岡乃枝美
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間(単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	NHK紅白歌合戦、docomo、日清食品CM出演 他出演多数。JIBJABやFORPANCAKE.にて活動中。そして全国制覇する程の特技である書道を通じ、文化や礼儀を重んじつつ2足のわらじを履きながらも今日ヒップホップ・ライフに勤しむフィメールダンサー						
授業の学習内容	・hiphopdanceに必要な基礎的リズムの取り方、アイソレーションやコントロール法を覚え、技術だけでなく、 文化的基礎知識、諸技法の取得、研究、反復。						
到達目標	・時代や土地の文化に応じた身体の使い方を理解し出来るようにする。(NYC90'style,WEST COASTstyle…) ・質の向上を目指す。 ・ステップの名前や技法、由来、先人の考え方などを学ぶ。 ・インプロビゼーション(フリースタイル)等の材料にし、各々のレベル、フィールドで活かせるようにする。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月24日	講義・演習	hiphopの授業を受ける意味への理解と前期目標の設定、基本の体作り。	学ぶ意味、前期目標の設定、基本の体作り。
2	5月8日	講義・演習	身体のパーツ、立ち方、ポジションを学ぶ。音楽の基本リズムを知る。	自分の身体の特徴、癖、傾向を知る。
3	5月15日	講義・演習	音楽の基本リズムと年代を学ぶ。アイソレーション～ジャンルによって違う使い方～	音楽とスタイルを知る。自分の身体の癖、傾向を知る。
4	5月22日	講義・演習	hiphop,streetdanceに用いるアイソレーション～年代、土地によって違う使い方、魅せ方を深める～	基礎体力の向上、音楽、年代とスタイルを知る。
5	5月29日	講義・演習	hiphop,streetdanceに用いるアイソレーション～ジャンルによって違う使い方、魅せ方を学ぶ～	OLD SCHOOLアイソレーション～ジャンルによって違う使い方、魅せ方を学ぶ～
6	6月5日	講義・演習	音楽とスタイルを通じて、重心移動、骨盤からなる足の出し方、ステップの連動の確認～応用に繋ぐ。	用語復習、基礎ステップの復習。
7	6月12日	講義・演習	音楽とスタイルを通じて、基本ステップの強化。	ステップ用語と動きの見直し、内容を一致させ質を高める。
8	6月19日	講義・演習	音楽とスタイルを感じてアイソレーションとステップの組み合わせ踊る事に慣れる。	身体の繋がりへの理解とミュージカリティーのマッチを意識する。
9	7月3日	講義・演習	音楽、年代、スタイルを感じてアイソレーションとステップの組み合わせ踊る事に慣れる。	身体の繋がりへの理解とミュージカリティーのマッチを意識する。
10	7月10日	講義・演習	時代による音楽とダンスの違いを理解し、アイソレーションとステップを意識的に繋ぐ。	時代による音楽とダンスの違いを理解し、アイソレーションとステップのリマインド。
11	7月17日	講義・演習	組み合わせを理解し、自らの身体で表現する。	組み合わせを理解し、自らの身体で表現する。
12	8月21日	講義・演習	組み合わせを理解し、自らの身体で表現、比較する。	組み合わせを理解し、自らの身体で表現、比較、癖や傾向を考察する。
13	9月11日	講義・演習	イベント実践を通して身体表現を学ぶ	今学期の振り返り
14	9月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月25日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			授業中に気付いた事をノートに書く。ダンス関連の映像をみる(映画、バトル、コンペティションなど)	

【使用教科書・教材・参考書】

・筆記用具　・ノート　・踊りやすいスニーカー(ジャズスニーカー、バレエシューズ、過度の厚底、ランニング専用シューズはお勧め出来ません)

科目名	Hiphop Ⅰ(6) Hiphop A(6)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	石岡乃枝美
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	NHK紅白歌合戦、docomo、日清食品CM出演 他出演多数。JIBJABやFORPANCAKE.にて活動中。そして全国制覇する程の特技である書道を通じ、文化や礼儀を重んじつつ2足のわらじを履きながらも今日ヒップホップ・ライフに勤しむフィメールダンサー						
授業の学習内容	hiphopdanceに必要な基礎的リズムの取り方、アイソレーションやコントロール法を覚え、技術だけでなく、文化的基礎知識、諸技法の取得、研究、反復。						
到達目標	・時代や土地の文化に応じた身体の使い方を理解し出来るようにする。(NYC90'style,WEST COASTstyle…) ・質の向上を目指す。 ・ステップの名前や技法、由来、先人の考え方などを学ぶ。 ・インプロビゼーション(フリースタイル)等の材料にし、各々のレベル、フィールドで活かせるようにする。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	hiphopの授業を受ける意味への理解と後期目標の設定、基本の体作り確認。	学ぶ意味、後期目標の設定、基本の体作り。
2	10月15日	講義・演習	身体のパーツコントロール確認編　～真っ直ぐ立つところから中心部意識の動き～	真っ直ぐ立つところから各パーツコントロールを知る。
3	10月22日	講義・演習	身体のパーツ、立ち方、ポジションを学ぶ。音楽の基本リズムを確認。	自分の身体の特徴、癖、傾向を知る。
4	10月29日	講義・演習	音楽の基本リズムと時代を学ぶ。アイソレーション～ジャンルによって違う使い方～確認。	音楽とスタイルを知る。自分の身体の癖、傾向を知る。
5	11月5日	講義・演習	音楽の基本リズムとスタイルを学ぶ、アイソレーション~時代によって違う使い方～	音楽とスタイルを知る。自分の身体の特徴、癖、傾向を知る。
6	11月12日	講義・演習	hiphop,streetdanceアイソレーション～時代、ジャンルによって違う使い方、魅せ方～	音楽とスタイルを知る。自分の身体の癖、傾向を知る。
7	11月19日	講義・演習	hiphop,streetdanceにおける重心移動の確認~派生	共通と違いを考える。
8	11月26日	講義・演習	hiphop,streetdanceにおける重心移動~骨盤、股関節からなる足の出し方の確認~	重心移動要復習。
9	12月3日	講義・演習	音楽とスタイルを通じて、重心移動、足の出し方、ステップの連動を感じる。	音楽とスタイルを通じて、重心移動、足の出し方、ステップの連動を感じ、癖や傾向を知る。
10	12月10日	講義・演習	音楽、時代、スタイルを通じて、重心移動、足の出し方、ステップの連動を感じる。	足の出し方しまい方要復習。ステップ用語と動きを一致させ質を高める。
11	12月17日	講義・演習	音楽、時代とスタイルを感じたアイソレーションとステップの組み合わせの理解と確認。	身体の繋がりへの理解とミュージカリティーのマッチを意識する。
12	1月21日	講義・演習	音楽、時代とスタイルを感じてアイソレーションとステップの組み合わせ踊る事を強化。	身体の繋がりへの理解とミュージカリティーのマッチを意識する。癖や傾向を知る。
13	2月4日	講義・演習	組み合わせを理解し、自らの身体で表現する。	組み合わせを理解し、自らの身体で表現、比較する。
14	2月11日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			授業中に気付いた事をノートに書く。ダンス関連の映像をみる(映画、バトル、コンペティションなど)	

【使用教科書・教材・参考書】

・筆記用具　・ノート　・踊りやすいスニーカー(ジャズスニーカー、バレエシューズ、過度の厚底、ランニング専用シューズはNG)

科目名	Hiphop Ⅰ(6) Hiphop B(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	石岡乃枝美
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	NHK紅白歌合戦、docomo、日清食品CM出演 他出演多数。JIBJABやFORPANCAKE.にて活動中。そして全国制覇する程の特技である書道を通じ、文化や礼儀を重んじつつ2足のわらじを履きながらも今日ヒップホップ・ライフに勤しむフィメールダンサー						
授業の学習内容	・hiphopdanceに必要な基礎的リズムの取り方、アイソレーションやコントロール法を覚え、技術だけでなく、 文化的基礎知識、諸技法の取得、研究、反復。						
到達目標	・時代や土地の文化に応じた身体の使い方を理解し出来るようにする。(NYC90'style,WEST COASTstyle…) ・質の向上を目指す。 ・ステップの名前や技法、由来、先人の考え方などを学ぶ。 ・インプロビゼーション(フリースタイル)等の材料にし、各々のレベル、フィールドで活かせるようにする。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	前期の復習、後期の目標を設定。	各自課題設定、取り組む。
2	10月16日	講義・演習	アイソレーションコントロールの応用を研究、自らこれを使い踊れるようにする。	アイソレーションコントロールの応用を研究、踊れるようにする。
3	10月23日	講義・演習	ステップコントロールの応用を研究、自らこれを使い踊れるようにする。	基礎体力の向上、ステップ復習、確認。
4	10月30日	講義・演習	アイソレーション、ステップテクニックの確認。	アイソレーション、ステップテクニックの復習、確認。
5	11月6日	講義・演習	音楽とスタイルを感じたダンスの確認、質上げ。	時代や土地による音楽的要素、運動的要素の復習、確認
6	11月13日	講義・演習	音楽とスタイルを感じたダンスの確認、深堀り、質上げ。	様々な年代の音楽を聴き、理解し、踊れるようにする。
7	11月20日	講義・演習	フィジカルの組み合わせ応用を学ぶ。	基礎体力の向上、ステップ、テクニックの見直し。
8	11月27日	講義・演習	old~newstyleの音楽的要素を含め、組み合わせ応用を学ぶ。	基礎体力の向上、ステップ、テクニックの見直し。
9	12月4日	講義・演習	音楽と時代背景、スタイルを見極め自ら踊る。	ステップ、テクニックの見直し、確認。音楽を沢山聴いてイメージする。
10	12月11日	講義・演習	セッション、サイファー、バトルの共通と違い～インプロに慣れる。～	基礎体力の向上、音楽とスタイルの見極め復習。
11	12月18日	講義・演習	インプロで魅せる。	学んだものを復習＋個性、アイディアを色付けイメージさせる。
12	1月15日	講義・演習	1年間のまとめ、次年度への目標設定。	各自反省点など見出して、次年度どのようにしたらよいのか考察。
13	1月22日	講義・演習	イベント実践を通して身体表現を学ぶ	今学期の振り返り
14	2月5日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月12日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			授業中に気付いた事をノートに書く。ダンス関連の映像をみる(映画、バトル、コンペティションなど)	

【使用教科書・教材・参考書】

・筆記用具　・ノート　・踊りやすいスニーカー(ジャズスニーカー、バレエシューズ、過度の厚底、ランニング専用シューズはお勧め出来ません)

科目名	Hiphop Ⅱ(5) Hiphop C(5)	必修 選択	選択	年次	3	担当教員	渡邉優輝子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業 形態	講義・演習	総時間 (単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	バックダンサー・スタジオインストラクター・全国ダンスSHOWケース出演						
授業の学習内容	振付をただ踊れるだけのダンサーではなく、基本的なリズムがしっかり体に入ったうえで、自分らしく音や気持ちを表現できる ダンサーになってもらいたいので、基礎リズムの徹底、コンビネーションや振付をやりながら、自分自身と向き合い、自分らしさを理解し、表現する授業にします。						
到達目標	体からリズム(音)が出ていて自分を信じられるダンサーにします。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	自己紹介・授業の目的など説明・後期の目標設定・をする	目標設定できてない人は次回まで宿題
2	5月7日	講義・演習	ダウン・アップ・前ノリ・でリズムをとることができる	課題を練習してくる(特にソロパート)
3	5月14日	講義・演習	後ろノリ・16ビート・でリズムをとることができる	課題を練習してくる(特にソロパート)
4	5月21日	講義・演習	ダウン・アップ・前ノリ・をコンビネーションで踊ることができる	課題を練習してくる(特にソロパート)
5	5月28日	講義・演習	後ろノリ・16ビート・をコンビネーションで踊ることができる	課題を練習してくる(特にソロパート)
6	6月4日	講義・演習	FREEで踊り、自分の癖(得意なこと)を理解することができる	課題を練習してくる(特にソロパート)
7	6月11日	講義・演習	体が立体的であることを理解し、自分のボディーイメージを理解できる	課題を練習してくる(特にソロパート)
8	6月18日	講義・演習	立体的にしたボディーイメージを実践することができる	課題を練習してくる(特にソロパート)
9	6月25日	講義・演習	出題した課題振付を覚えることができる	課題を練習してくる(特にソロパート)
10	7月2日	講義・演習	前回出した課題曲の振付を踊り、1ヶ月前との差を感じてもらう 自分で映像をチェックし、自分の得意がどう変化しているか確認してもらう	自分で映像をチェックし、自分の得意がどう変化しているか
11	7月9日	講義・演習	ここまでの疑問点や苦手な箇所を聞き、クリアにする	疑問点や不安なところをアンケートする
12	7月16日	講義・演習	基本リズムでのコンビネーションや振付ができ、立体的に体を使うことが以前よりできている！	課題を練習してくる(特にソロパート)
13	9月10日	講義・演習	基本リズムでのコンビネーションや振付ができ、立体的に体を使うことが以前よりできている！	課題を練習してくる(特にソロパート)
14	9月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月24日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			とにかく自分の素敵なポイントだけを探す！以上！	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Hiphop Ⅱ(5) Hiphop D(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	須田和慎
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	元関東大手テーマパークダンサー、浦島坂田船、香取慎吾、等バックダンサー、インストラクター、振付師						
授業の学習内容	プロダンサーとして必要最低限の基礎力、表現力を学ぶ。HIOHOPの振り付けだけではなくJAZZのようなラインの取り方や表現方法も授業の中で取り入れていき、マルチなパフォーマンスが出来るダンサーとしての技術や知識を身につけていく。またその学んだ事を自分のフィルターを通して人に伝えることの出来るダンサーになれるような授業を展開していく。						
到達目標	学生一人一人のなりたいダンサー、人間になれるようにサポートしていき個性を伸ばす。 また昨今は現場でも多様なジャンルを要求される事がありその為どの現場でも通用する様なマルチな表現者になれる様にする。 学生が卒業後自立できる様に授業を通して個人の自主性を高めていく。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	授業の説明、アイソレーション(首、胸)の使い方を理解する。	自分の体と向き合い理解する。
2	5月7日	講義・演習	アイソレーション(腰、肩)の使い方を理解する。	授業の復習。自分の長所、短所を見つける。
3	5月14日	講義・演習	アイソレーションの確認、リズムの取り方を理解する。	授業の復習。様々な音楽を聴く。
4	5月21日	講義・演習	アップ、ダウンの使い分けを理解する。	授業の復習。一人でリズムにのる。
5	5月28日	講義・演習	アイソレとリズトレを理解し深める。	授業の復習。基礎トレーニングの意味を理解する。
6	6月4日	講義・演習	前ノリ、後ろノリの体の使い方を理解する。	授業の復習。体幹部の強化。
7	6月11日	講義・演習	ここまでの授業の復習。	授業の復習。自分の目標や理想像を確認する。
8	6月18日	講義・演習	応用の振付を学び理解する。	授業の復習。YouTube等で映像を観て研究する。
9	6月25日	講義・演習	基礎的なステップを身につける。	授業の復習。ステップのアレンジを研究する。
10	7月2日	講義・演習	体の基礎的な使い方を理解し自分なりの表現を取り入れる。	授業の復習。YouTube等で資料を観て研究する。
11	7月9日	講義・演習	自分の長所と短所を理解し改善しようと試みる。	授業の復習。課題を克服する努力をする。
12	7月16日	講義・演習	シルエットを意識した振り付けで磨きをかける。	撮影した映像で自分を客観的に見て改善点を探す。
13	9月10日	講義・演習	ここまでの授業の復習②	授業の復習。自分の目標や理想像を確認する。
14	9月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月24日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			YouTube等での資料研究、ストレッチ、体幹トレーニング。他ジャンルのレッスンの受講。	

【使用教科書・教材・参考書】

シューズ・タオル

科目名	Hiphop Ⅱ(6) Hiphop C(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	渡邉優輝子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 （2単位）		
教員の略歴	バックダンサー・スタジオインストラクター・全国ダンスSHOWケース出演						
授業の学習内容	振付をただ踊れるだけのダンサーではなく、基本的なリズムがしっかり体に入ったうえで、自分らしく音や気持ちを表現できる ダンサーになってもらいたいので、基礎リズムの徹底、コンビネーションや振付をやりながら、自分自身と向き合い、自分らしさを理解し、表現する授業にします。						
到達目標	体からリズム（音）が出ていて自分を信じられるダンサーにします。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	授業の目的など説明・後期の目標設定をする	目標設定できてない人は次回まで宿題
2	10月15日	講義・演習	基本リズム（5種類）のコンビネーションで踊るができる	各クラスの復習
3	10月22日	講義・演習	基本リズム（5種類）のコンビネーションで踊るができ、ソロ	各クラスの復習
4	10月29日	講義・演習	体が立体的であることを理解し、自分のボディーイメージを	各クラスの復習
5	11月5日	講義・演習	何組かに分かれてソロセッションを回し、自分の強みを理解	各クラスの復習
6	11月12日	講義・演習	立体的にしたボディーイメージを実践することができる	各クラスの復習
7	11月19日	講義・演習	立体的にしたボディーイメージを基本リズム（5種類）のコンビネーションで踊ることができる	各クラスの復習
8	11月26日	講義・演習	何組かに分かれてソロセッションを回し、自分の強みを理解	各クラスの復習
9	12月3日	講義・演習	ここまでの疑問点や苦手な箇所を聞き、クリアにする	各クラスの復習
10	12月10日	講義・演習	条件付きでソロセッションを回し、自分の幅を広げる	各クラスの復習
11	12月17日	講義・演習	条件付きでソロセッションを回し、自分の幅を広げる	各クラスの復習
12	1月21日	講義・演習	立体的にしたボディーイメージを基本リズム（5種類）のコンビネーションで踊ることができる	各クラスの復習
13	2月4日	講義・演習	立体的にしたボディーイメージを基本リズム（5種類）のコンビネーションで踊ることができる	各クラスの復習
14	2月11日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			とにかく自分の素敵なポイントだけを探す！以上！	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Hiphop Ⅱ(6) Hiphop D(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	須田和慎
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	元関東大手テーマパークダンサー、浦島坂田船、香取慎吾、等バックダンサー、インストラクター、振付師						
授業の学習内容	プロダンサーとして必要最低限の基礎力、表現力を学ぶ。HIOHOPの振り付けだけではなくJAZZのようなラインの取り方や表現方法も授業の中で取り入れていく為マルチなパフォーマンスが出来るダンサーとしての技術や知識を身につけていく。またその学んだ事を自分のフィルターを通して人に伝えることの出来るダンサーになれるような授業を展開していく。そしてプロとして活躍出来る様な振る舞い、マナー、メンタル等を授業の中で伝えていく。						
到達目標	学生一人一人のなりたいダンサー、人間になれるようにサポートしていき個性を伸ばす。 また昨今は現場でも多様なジャンルを要求される事がありその為どの現場でも通用する様なマルチな表現者になれる様にする。 インストラクターとしても活躍できる様に授業内で生徒達による授業や振り付けに対して構成を入れたりクリエイターとしてのセンスも磨く。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	前期の復習、基礎的な動きの振り付けにアレンジを加える。	授業の復習。後期の目標設定を行う。
2	10月15日	講義・演習	振り付けは同じにして楽曲を変えて違ったアプローチを試みる。	楽曲事のフィーリングの違いを具現化し理解する。
3	10月22日	講義・演習	グループワーク①振り付けを生徒自ら考えて自分の意思を伝えられる様にする。	良い授業を行う為のノウハウを学ぶ。
4	10月29日	講義・演習	グループワーク②振り付けを生徒自ら考えて自分の意思を伝えられる様にする。	自分の体の感覚を言語化する。
5	11月5日	講義・演習	前回の授業のディスカションを交えながら新しい振り付けを学ぶ。	改めて普段の授業から 講師の発言等を意識する。
6	11月12日	講義・演習	パワーや勢いを意識した振り付けを学び習得する。	授業の復習。自分の筋力を理解する。
7	11月19日	講義・演習	ためや体の伸縮を意識した振り付けを学び習得する。	体幹部の強化、 日常での重心や姿勢を気にする。
8	11月26日	講義・演習	大人っぽい妖艶な楽曲にあった表現を身につける。	世界観の作り方や仕草について考える。
9	12月3日	講義・演習	キャッチーな楽曲で体をはっきり大きく使う為の技術を学ぶ。	表情について思考し自分と向き合う。
10	12月10日	講義・演習	ここまでの授業の復習。	授業内で消化できなかった部分の復習をする。
11	12月17日	講義・演習	グループワーク③振り付けに構成の付け方を学ぶ。	YouTube等で資料を研究する。
12	1月21日	講義・演習	グループワーク④振り付けに構成の付け方を学ぶ。	次の授業で披露する ソロパフォーマンスを考える。
13	2月4日	講義・演習	総まとめの試験を行う。振り入れ。	次の授業で披露する ソロパフォーマンスを考える。
14	2月11日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			YouTube等での資料研究、ストレッチ、体幹トレーニング。他ジャンルのレッスンの受講。	

【使用教科書・教材・参考書】

シューズ、水分

科目名	Contemporary A(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	能美健志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	コンテンポラリーダンス教師・振付家						
授業の学習内容	①正しい身体のアライメント、思考の使い方の向上。②理に適った動き（骨・関節と筋肉の正しい連動）の習得。③基礎の論理的思考と応用のもと、身体を動かす事でテーマパーク、ジャズダンス等に応用可能な身体を目指す。④コンテンポラリーダンスの動きの質を高め、アカデミックでダイナミックな動きを習得する。振付構成法の講義を行う（変更あり）						
到達目標	上半身の関節隙間の開放を学ぶ事で、スムーズに上体が動かせる様になる。下半身の正しい使い方と歩幅を広く使える様になる事でダイナミックなダンスが習得できる。また、論理的思考を身につけていく事で動きの応用を上目指す。振付構成法の講義を受講すると振付を論理的に考えるようになり、他のダンス振付に対応力が身に付く。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	成長する心構え、身体の骨とインナーマッスルの確認と応用。	シラバス等を見て準備する。口
2	5月7日	講義・演習	②腹筋群・内転筋・つま先・MP関節等の理解。コンビネーションの理解。	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
3	5月14日	講義・演習	③フロアー・センターエクササイズのレベルアップと新ステップの理解。	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
4	5月21日	講義・演習	④新ステップとコンビネーションの反復。②～③の反復。	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
5	5月28日	講義・演習	⑤新ステップとコンビネーションの反復。②～④の反復。	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
6	6月4日	講義・演習	⑥新ステップとコンビネーションの反復。②～⑤の反復。	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
7	6月11日	講義・演習	⑦新ステップ反復。新コンビネーションの応用。②～⑥の反復。	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
8	6月18日	講義・演習	⑧新ステップ反復。新コンビネーションの応用。②～⑦の反復。	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
9	6月25日	講義・演習	⑨新ステップ反復。新コンビネーションの応用。②～⑧の反復。	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
10	7月2日	講義・演習	⑩新ステップ反復。新コンビネーションの応用。②～⑨の反復。	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
11	7月9日	講義・演習	⑪新ステップ反復。新コンビネーションの応用。②～⑩の反復。	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
12	7月16日	講義・演習	⑫新ステップ反復。新コンビネーションの応用。②～⑩の反復。	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
13	9月10日	講義・演習	実技試験	試験結果の反省と今後の対策。
14	9月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月24日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			授業内容を確認、理解し自身のスキルアップを計画的に考えて復習。ストレッチ等を反復する。	

【使用教科書・教材・参考書】

ドレスコードは体ラインがハッキリ見える物。裸足or靴下。

科目名	Contemporary A(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	能美健志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	コンテンポラリーダンス教師・振付家						
授業の学習内容	WE ARE TSMの作品振付　canon　（変更あり）						
到達目標	作品を通して動きのクオリティー、豊かな表現とエネルギー（質を含め）出し方を学ぶ。またリハーサル、本番に向けて個々のスキルアップ（メンタル面も含む）を目指す。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	リハーサル①	リハーサルへのモチベーションと準備。
2	10月15日	講義・演習	リハーサル②	前回授業（リハーサル）復習・確認。
3	10月22日	講義・演習	リハーサル③	前回授業（リハーサル）復習・確認。
4	10月29日	講義・演習	リハーサル④	前回授業（リハーサル）復習・確認。
5	11月5日	講義・演習	リハーサル⑤	前回授業（リハーサル）復習・確認。
6	11月12日	講義・演習	リハーサル⑥	前回授業（リハーサル）復習・確認。
7	11月19日	講義・演習	リハーサル⑦	前回授業（リハーサル）復習・確認。
8	11月26日	講義・演習	リハーサル⑧	前回授業（リハーサル）復習・確認。
9	12月3日	講義・演習	リハーサル⑨	前回授業（リハーサル）復習・確認。
10	12月10日	講義・演習	リハーサル⑩	前回授業（リハーサル）復習・確認。
11	12月17日	講義・演習	リハーサル⑪	前回授業（リハーサル）復習・確認。
12	1月21日	講義・演習	リハーサル⑫	前回授業（リハーサル）復習・確認。
13	2月4日	講義・演習	リハーサル⑬	前回授業（リハーサル）復習・確認。
14	2月11日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			授業内容を確認、理解し自身のスキルアップを計画的に考えて復習。ストレッチ等を反復する。	

【使用教科書・教材・参考書】

ドレスコードは体ラインがハッキリ見える物。裸足or靴下。

科目名	Contemporary B(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	能美健志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	コンテンポラリーダンス教師・振付家						
授業の学習内容	フェルデンクライスメソッド・ダンス版（コンディショニング）①身体の中にある骨の関節の隙間と可動域を広げ、筋肉の捻れを解く事で、柔軟性を高める。②全てのダンスのジャンルに応用可能。③あらゆるダンスの動きに適用する身体になり、継続することで身に付いていきます。④目瞑り床に寝て、小さな動きを繰り返す事で、動きやすい身体を生み出す。⑤ダイナミック・ストレッチ、瞑想、エネルギワーク。						
到達目標	床を足で押し返す感じが分かる。立ちやすくなる。動きやすくなる。正しい背骨のS字カーブになる（反り腰の解消）筋肉の捻れの解消。全ての関節の隙間と股関節の可動域の向上。腰痛解消、ケガの防止。脳の疲れを取り、ストレス軽減。身体知覚を高める。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	オリエンテーションと身体の骨と筋肉の説明と理解。	シラバス等を見て準備する。
2	5月7日	講義・演習	①フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
3	5月14日	講義・演習	②フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
4	5月21日	講義・演習	③フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
5	5月28日	講義・演習	④フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
6	6月4日	講義・演習	⑤フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
7	6月11日	講義・演習	⑥フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
8	6月18日	講義・演習	⑦フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
9	6月25日	講義・演習	⑧フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
10	7月2日	講義・演習	⑨フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
11	7月9日	講義・演習	⑩フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
12	7月16日	講義・演習	⑪フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
13	9月10日	講義・演習	実技試験	試験結果の反省と今後の対策。
14	9月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月24日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			授業内容を確認、理解し自身のスキルアップを計画的に考えて復習。ストレッチ等を反復する。	

【使用教科書・教材・参考書】

ドレスコードは体ラインがハッキリ見える物。裸足or靴下。

科目名	Contemporary B(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	能美健志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	コンテンポラリーダンス教師・振付家						
授業の学習内容	フェルデンクライスメソッド・ダンス版（コンディショニング）①身体の中にある骨の関節の隙間と可動域を広げ、筋肉の捻れを解く事で、柔軟性を高める。②全てのダンスのジャンルに応用可能。③あらゆるダンスの動きに適用する身体になり、継続することで身に付いていきます。④目瞑り床に寝て、小さな動きを繰り返す事で、動きやすい身体を生み出す。⑤ダイナミック・ストレッチ、瞑想、エネルギワーク。						
到達目標	床を足で押し返す感じが分かる。立ちやすくなる。動きやすくなる。正しい背骨のS字カーブになる（反り腰の解消）筋肉の捻れの解消。全ての関節の隙間と股関節の可動域の向上。腰痛解消、ケガの防止。脳の疲れを取り、ストレス軽減。身体知覚を高める。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	前期の確認。身体の骨と筋肉の説明と理解。	前期授業の復習。
2	10月15日	講義・演習	①フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
3	10月22日	講義・演習	②フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
4	10月29日	講義・演習	③フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
5	11月5日	講義・演習	④フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
6	11月12日	講義・演習	⑤フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
7	11月19日	講義・演習	⑥フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
8	11月26日	講義・演習	⑦フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
9	12月3日	講義・演習	⑧フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
10	12月10日	講義・演習	⑨フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
11	12月17日	講義・演習	⑩フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
12	1月21日	講義・演習	⑪フェルデンクライスメソッド・ダンス版。ストレッチor瞑想	前回授業の復習（確認と理解）・ストレッチ等をする。
13	2月4日	講義・演習	実技試験	試験結果の反省と今後の対策。
14	2月11日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			授業内容を確認、理解し自身のスキルアップを計画的に考えて復習。ストレッチ等を反復する。	

【使用教科書・教材・参考書】

ドレスコードは体ラインがハッキリ見える物。裸足or靴下。

科目名	Modern A(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	石井直彦
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	海外ダンスカンパニー、国際バレエコンクール振付、国内スタジオ（BDCなど）でのモダン/コンテンポラリー講師。						
授業の学習内容	①使えていない身体の部分、筋肉に気づける。また、自身の癖の発見。 ②身体コアの感覚の強化、重心を落として踊る、という意味で全てのダンス。 ③多様な身体表現の可能性・特性を勉強した上で、自身がやりたいダンスにその学びを投影し、成長し続けるダンサーになってほしい。 ④踊る身体作りに必要なベーシック（バレエベース）を反復しつつ、各々が動きに対するアプローチを考え、提案し合える「参加型」のクラス						
到達目標	3年生の前期では、新しく学ぶ 動きのボキャブラリー を理解・マスターし、 また他分野で活かせる技術面の向上を図る。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月24日	講義・演習	ガイダンス。静的・動的ストレッチ考察。フレーズまで	家でできる静的・動的ストレッチメニュー考案（発表あり）
2	5月8日	講義・演習	呼吸と身体の伸縮、動きとの関連性	日常生活の中での呼吸の変化に注目
3	5月15日	講義・演習	踊る身体のセンターとは	生活の中でコアを意識する時間
4	5月22日	講義・演習	ロールダウン・アップ。フラットバック	起床後のロールアップ・ダウンを習慣化
5	5月29日	講義・演習	ターンアウト考察、上体との関係	ターンアウトのメリット考察、実践
6	6月5日	講義・演習	エクササイズ～プリエ応用、コントラクション	コアエクササイズ
7	6月12日	講義・演習	片脚で立つとは。エクササイズ～タンジュ・デガジェ応用	タンジュ、デガジェ時の足の出し方考察・練習
8	6月19日	講義・演習	腕の重さ、頭の重さ・骨盤の重さ	体幹トレーニング
9	7月3日	講義・演習	上記　8、9を取り入れたリリース・テクニック	下半身強化
10	7月10日	講義・演習	上記　8を考えて　エクササイズ～タンジュ・デガジェ	股関節ストレッチ（臀部、内転筋）
11	7月17日	講義・演習	クロスフロア～ターン、フレーズ	自分が得意、優れているもの考察、課題の発見
12	8月21日	講義・演習	クロスフロア～ターン、ジャンプ、フレーズ	自分が苦手、できないと思っていること考察、課題の発見
13	9月11日	講義・演習	前期の復習	レポートの提出
14	9月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月25日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Modern A(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	石井直彦
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	海外ダンスカンパニー、国際バレエコンクール振付、国内スタジオ（BDCなど）でのモダン/コンテンポラリー講師						
授業の学習内容	①身体改造 ②身体コアの感覚の強化、重心を落として踊る、という意味で全てのダンス。 ③「上手」なダンサーから 「心が見える」ダンサーへ。 ④身体強化に必要なベーシック（バレエベース）を反復しつつ、自己分析～発表を通して 学生の独創性を育成。						
到達目標	振付を覚えて 「上手に踊ること」 だけを目標とするのではなく、時間がかかっても どうやったら「自分らしい踊り」 ができるダンサーになれるのか、それを考えながら毎クラスの学習に臨む。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	前期の復習①	休み中の課題／成果（発表あり）
2	10月16日	講義・演習	前期の復習②	今期の課題を考える （短期、長期）
3	10月23日	講義・演習	ロンドゥ・ジャンブ・応用	体幹トレーニング
4	10月30日	講義・演習	エクササイズ～ロンドゥ・ジャンブ＋フロア	体幹トレーニング、上体のストレッチ
5	11月6日	講義・演習	フォンデュ・応用	自身の身体の何が変わったか考察
6	11月13日	講義・演習	エクササイズ～応用	つま先、アキレス ストレッチ
7	11月20日	講義・演習	ジャンプ	足の裏強化エクササイズ、ストレッチ
8	11月27日	講義・演習	クロスフロア～ジャンプ応用	色々なジャンルのダンス動画を観る
9	12月4日	講義・演習	多様な音楽を感じる	多様な音楽に心はどう動く？
10	12月11日	講義・演習	お題下のインプロビゼーション（仮）	自由に即興で動いてみる
11	12月18日	講義・演習	シンプルなフレーズ創作（仮）	ストレッチ見直し
12	1月15日	講義・演習	フレーズ発表	体幹トレーニング レベルアップ
13	1月22日	講義・演習	基礎トレーニングの確認	今後の課題、自身のダンス向上に必要なのは何か考察
14	2月5日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月12日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習 時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Modern B(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	石井直彦
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	海外ダンスカンパニー、国際バレエコンクール振付、国内スタジオ（BDCなど）でのモダン/コンテンポラリー講師						
授業の学習内容	①使えていない身体の部分、筋肉に気づける。また、自身の癖の発見。 ②身体コアの感覚の強化、重心を落として踊る、という意味で全てのダンス。 ③多様な身体表現の可能性・特性を勉強した上で、自身がやりたいダンスにその学びを投影し、成長し続けるダンサーになってほしい。 ④踊る身体作りに必要なベーシック（バレエベース）を反復しつつ、各々が動きに対するアプローチを考え、提案し合える「参加型」のクラス						
到達目標	3年生の前期では、新しく学ぶ 動きのボキャブラリー を理解・マスターし、 また他分野で活かせる技術面の向上を図る。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月24日	講義・演習	ガイダンス。静的・動的ストレッチ考察。フレーズまで	家でできる静的・動的ストレッチメニュー考案（発表あり）
2	5月8日	講義・演習	呼吸と身体の伸縮、動きとの関連性	日常生活の中での呼吸の変化に注目
3	5月15日	講義・演習	踊る身体のセンターとは	生活の中でコアを意識する時間
4	5月22日	講義・演習	ロールダウン・アップ。フラットバック	起床後のロールアップ・ダウンを習慣化
5	5月29日	講義・演習	ターンアウト考察、上体との関係	ターンアウトのメリット考察、実践
6	6月5日	講義・演習	エクササイズ～プリエ応用、コントラクション	コアエクササイズ
7	6月12日	講義・演習	片脚で立つとは。エクササイズ～タンジュ・デガジェ応用	タンジュ、デガジェ時の足の出し方考察・練習
8	6月19日	講義・演習	腕の重さ、頭の重さ・骨盤の重さ	体幹トレーニング
9	7月3日	講義・演習	上記　8、9を取り入れたリリース・テクニック	下半身強化
10	7月10日	講義・演習	上記　8を考えて　エクササイズ～タンジュ・デガジェ	股関節ストレッチ（臀部、内転筋）
11	7月17日	講義・演習	クロスフロア～ターン、フレーズ	自分が得意、優れているもの考察、課題の発見
12	8月21日	講義・演習	クロスフロア～ターン、ジャンプ、フレーズ	自分が苦手、できないと思っていること考察、課題の発見
13	9月11日	講義・演習	前期の復習	レポートの提出
14	9月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月25日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Modern B(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	石井直彦
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	海外ダンスカンパニー、国際バレエコンクール振付、国内スタジオ（BDCなど）でのモダン/コンテンポラリー講師						
授業の学習内容	①身体改造 ②身体コアの感覚の強化、重心を落として踊る、という意味で全てのダンス。 ③「上手」なダンサーから 「心が見える」ダンサーへ。 ④身体強化に必要なベーシック（バレエベース）を反復しつつ、自己分析～発表を通して 学生の独創性を育成。						
到達目標	振付を覚えて 「上手に踊ること」 だけを目標とするのではなく、時間がかかっても どうやったら「自分らしい踊り」 ができるダンサーになれるのか、それを考えながら毎クラスの学習に臨む。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	前期の復習①	休み中の課題／成果（発表あり）
2	10月16日	講義・演習	前期の復習②	今期の課題を考える （短期、長期）
3	10月23日	講義・演習	ロンドゥ・ジャンブ・応用	体幹トレーニング
4	10月30日	講義・演習	エクササイズ～ロンドゥ・ジャンブ＋フロア	体幹トレーニング、上体のストレッチ
5	11月6日	講義・演習	フォンデュ・応用	自身の身体の何が変わったか考察
6	11月13日	講義・演習	エクササイズ～応用	つま先、アキレス ストレッチ
7	11月20日	講義・演習	ジャンプ	足の裏強化エクササイズ、ストレッチ
8	11月27日	講義・演習	クロスフロア～ジャンプ応用	色々なジャンルのダンス動画を観る
9	12月4日	講義・演習	多様な音楽を感じる	多様な音楽に心はどう動く？
10	12月11日	講義・演習	お題下のインプロビゼーション（仮）	自由に即興で動いてみる
11	12月18日	講義・演習	シンプルなフレーズ創作（仮）	ストレッチ見直し
12	1月15日	講義・演習	フレーズ発表	体幹トレーニング レベルアップ
13	1月22日	講義・演習	基礎トレーニングの確認	今後の課題、自身のダンス向上に必要なのは何か考察
14	2月5日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月12日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習 時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Back Dancer B(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	岩崎依里子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	アーティストのMV出演や東方神起のツアーダンサーとして活躍中。						
授業の学習内容	バックダンサーになるためには何が必要かを学ぶ						
到達目標	自分の色を見つけること						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月25日	講義・演習	基礎練、アイソレの習得	体幹筋トレ、授業内容復習
2	5月9日	講義・演習	基礎練、アイソレの習得②	体幹筋トレ、授業内容復習②
3	5月16日	講義・演習	ポーズをメインとした内容	授業内容の確認、復習
4	5月23日	講義・演習	ポーズをメインとした内容②	クラス内動画を確認、復習
5	5月30日	講義・演習	ウォーキングの習得	脚トレ
6	6月6日	講義・演習	ウォーキングの習得、振り付け	脚トレ、振り付け確認
7	6月13日	講義・演習	振り付け②	クラス内動画を確認、復習、筋トレ
8	6月20日	講義・演習	揃えるをメインとした振り付け	腕の筋肉トレーニング
9	7月4日	講義・演習	揃えるをメインとした振り付け②	クラス内動画を確認、復習
10	7月11日	講義・演習	表情管理の習得	自宅で再度同じことを行う
11	7月18日	講義・演習	これまでの授業内容を全て合わせた振り付け	クラス内容を復習
12	8月22日	講義・演習	これまでの授業内容を全て合わせた振り付け②	クラス内容を復習、動画確認
13	9月12日	講義・演習	発表	クラス内動画の確認、良くなるための自主練
14	9月19日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月26日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Back Dancer B(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	岩﨑依里子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	アーティストのMV出演や東方神起のツアーダンサーとして活躍中。						
授業の学習内容	バックダンサーになるためには何が必要かを学ぶ						
到達目標	自分の色を見つけること						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	ヒールの基礎練 ②	脚トレ
2	10月17日	講義・演習	ヒールの振り付け	体幹と脚トレ
3	10月24日	講義・演習	Hiphop系の振り付け	復習
4	10月31日	講義・演習	Hiphop系の振り付け②	復習
5	11月7日	講義・演習	Hiphop系の振り付け③、フォーメーション付け	動画を確認し、復習
6	11月14日	講義・演習	Street jazzの振り付け	復習
7	11月21日	講義・演習	Street jazzの振り付け②	復習
8	11月28日	講義・演習	Street jazzの振り付け③、フォーメーション付け	クラス内の動画を確認し、復習
9	12月5日	講義・演習	Jazz Conteの振り付け	クラス内動画の確認、良くなるための自主練
10	12月12日	講義・演習	Jazz Conteの振り付け②	クラス内動画の確認、良くなるための自主練
11	12月19日	講義・演習	楽しい系の振り付け	表情管理の練習
12	1月16日	講義・演習	自分たちでフォーメーションをつける。	次回に向け各自で練習
13	1月23日	講義・演習	発表	動画を確認し、復習
14	2月6日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月13日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	K-POP A(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	小川紗弥花
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	2PM CONCERT HOUSE PARTY in Japan ダンサー出演　他						
授業の学習内容	ダンスの基礎練習・身体の使い方を研究・怪我をしないためのストレッチ方法の学習						
到達目標	基礎を練習して身体の可動域を広げること・自分にしかできない表現力を磨き、自信をつけること						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月25日	講義・演習	自己紹介・目標設定・授業内容説明・基礎練習	得意なことを探す
2	5月9日	講義・演習	アイソレーション基礎練習	前週の復習
3	5月16日	講義・演習	アイソレーション基礎応用	前週の復習
4	5月23日	講義・演習	ステップ基礎練習	前週の復習
5	5月30日	講義・演習	ステップ基礎応用	前週の復習
6	6月6日	講義・演習	指先・足先にフォーカス　動線確認	前週の復習
7	6月13日	講義・演習	緩急について研究	前週の復習
8	6月20日	講義・演習	テスト内容　振り写し・練習	前週の復習
9	7月4日	講義・演習	テスト内容　振り写し・練習	テスト内容の練習
10	7月11日	講義・演習	テスト内容　練習	テスト内容の練習
11	7月18日	講義・演習	前期　実技テスト	テスト内容の練習
12	8月22日	講義・演習	身体の使い方　確認	前週の復習
13	9月12日	講義・演習	個性を活かした表現の研究	前週の復習
14	9月19日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月26日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

シューズ・タオル・ドリンク

科目名	K-POP A(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	小川紗弥花
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	2PM CONCERT HOUSE PARTY in Japan ダンサー出演　他						
授業の学習内容	ダンスの基礎練習・身体の使い方を研究・怪我をしないためのストレッチ方法の学習						
到達目標	基礎を練習して身体の可動域を広げること・自分にしかできない表現力を磨き、自信をつけること						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	目標確認・前期の復習	目標の確認
2	10月17日	講義・演習	アイソレーションテクニック習得	前週の復習
3	10月24日	講義・演習	アイソレーションテクニック応用	前週の復習
4	10月31日	講義・演習	ステップテクニック習得	前週の復習
5	11月7日	講義・演習	ステップテクニック応用	前週の復習
6	11月14日	講義・演習	フロアテクニック練習	前週の復習
7	11月21日	講義・演習	フロアテクニック応用	前週の復習
8	11月28日	講義・演習	テスト内容　振り写し・練習	前週の復習
9	12月5日	講義・演習	テスト内容　振り写し・練習	テスト内容の練習
10	12月12日	講義・演習	テスト内容　練習	テスト内容の練習
11	12月19日	講義・演習	後期　実技テスト	テスト内容の練習
12	1月16日	講義・演習	身体の角度にフォーカス　練習	前週の復習
13	1月23日	講義・演習	自分だけのダンススタイルを築く	前週の復習
14	2月6日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月13日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

シューズ・タオル・ドリンク

科目名	Theater(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	面高祐太郎
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	テーマパーク経験を元にJazzスタイルを軸に様々な舞台、コンサートに出演。近年では振付師としても活動。						
授業の学習内容	オーディションへの対応能力、技術、見せ方が必要。バレエ、JAZZ ダンスが基礎。プロになる為のメンタル、技術を上げて夢を掴んでほしい。						
到達目標	個性豊かに踊れること。人を魅了する踊りをする。 人間性を大切に出来る事。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	ピルエット、シェネ基礎、8x8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
2	10月17日	講義・演習	ピルエット、シェネ基礎、8x8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
3	10月24日	講義・演習	ピルエット、シェネ基礎、8x8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
4	10月31日	講義・演習	クロスフロア、基礎、8X8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
5	11月7日	講義・演習	クロスフロア、基礎、8X8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
6	11月14日	講義・演習	クロスフロア、基礎、8X8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
7	11月21日	講義・演習	表現力強化、バットマン応用、8x8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
8	11月28日	講義・演習	表現力強化、バットマン応用、8x8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
9	12月5日	講義・演習	表現力強化、バットマン応用、8x8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
10	12月12日	講義・演習	10x8振付　音を身体で表現に特化	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
11	12月19日	講義・演習	10x8振付　音を身体で表現に特化	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
12	1月16日	講義・演習	10x8振付　音を身体で表現に特化	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
13	1月23日	講義・演習	イベント実践を通して、振付制作を学ぶ。	今学期の振り返り
14	2月6日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月13日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Theater(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	面高祐太郎
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	テーマパーク経験を元にJazzスタイルを軸に様々な舞台、コンサートに出演。近年では振付師としても活動。						
授業の学習内容	オーディションへの対応能力、技術、見せ方が必要。バレエ、JAZZ ダンスが基礎。プロになる為のメンタル、技術を上げて夢を掴んでほしい。						
到達目標	個性豊かに踊れること。人を魅了する踊りをする。 人間性を大切に出来る事。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	ピルエット、ピケ、シェネ応用、10x8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
2	10月15日	講義・演習	ピルエット、ピケ、シェネ応用、10x8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
3	10月22日	講義・演習	ピルエット、ピケ、シェネ応用、10x8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
4	10月29日	講義・演習	クロスフロア応用、3人ずつ12x8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
5	11月5日	講義・演習	クロスフロア応用、3人ずつ8x12振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
6	11月12日	講義・演習	クロスフロア応用、3人ずつ8x12振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
7	11月19日	講義・演習	自己PR強化、14x8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
8	11月26日	講義・演習	自己PR強化、14x8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
9	12月3日	講義・演習	自己PR強化、14x8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
10	12月10日	講義・演習	表現力強化、クロスフロア応用、14x8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
11	12月17日	講義・演習	表現力強化、クロスフロア応用、14x8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
12	1月21日	講義・演習	表現力強化、クロスフロア応用、14x8振付	レポート（見学の場合）学んだ事、自分に活かすことなど
13	2月4日	講義・演習	イベント実践を通して、振付制作を学ぶ。	今学期の振り返り
14	2月11日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Girls Hiphop(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	新井杏子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ダンスインストラクター歴27年□						
授業の学習内容	Girls hiphopにhiphop,R&B,Reggae,Jpop,Kpopなど様々なジャンルの要素をとりいれて学び、 昨今のジャンルレス、ジェンダーレスなコレオグラフィーに対応できる技術を学び、感性を磨く。						
到達目標	ダンサーとしての必要不可欠なエクササイズ、アイソレーション、グルーヴ、ウォーキング、ポージングなど基礎を身に付け、実際に振り付けを踊り表現力を身に付ける。□						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義・演習	授業内容の把握、ウォーミングアップ□	
2	4月25日	講義・演習	アイソレーションの理解、体幹トレーニング 基礎の動きを使った振り付け□	ストレッチの流れを復習
3	5月9日	講義・演習	しなやかな動きの理解、アイソレーション、課題曲振り付け	アイソレーションの復習
4	5月16日	講義・演習	腰の動き、グルーヴ感を養う、課題曲振り付け続き	前回の振り付け復習
5	5月23日	講義・演習	グルーヴ感、パワフルさを活かし課題曲振り付けを完成させる	次回課題曲を聞いておく
6	5月30日	講義・演習	視線の使い方を理解し表現力を身に付ける 振り付けを覚える	振り付けの復習をしておく
7	6月6日	講義・演習	上半身の強化 Jpopで踊り、歌詞に沿った表現力を身に付ける	振り付けの復習をしておく
8	6月13日	講義・演習	下半身の強化 前回の振り付け確認、さらに振り付けを覚える	振り付けの復習をしておく
9	6月20日	講義・演習	前回の振り付けに表現力をつけ自分らしさをひきだす	課題曲を聞いておく
10	7月4日	講義・演習	テストの課題曲の振り付けを覚える	振り付けの復習をしておく
11	7月11日	講義・演習	テスト	後期への課題を自分で考える
12	7月18日	講義・演習	テスト振り返り	後期へむけて復習
13	9月12日	講義・演習	前期で学んだことを活かして踊り込む	
14	9月19日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月26日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Girls Hiphop(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	新井杏子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ダンスインストラクター歴27年□						
授業の学習内容	Girls hiphopにhiphop,R&B,Reggae,Jpop,Kpopなど様々なジャンルの要素をとりいれて学び、 昨今のジャンルレス、ジェンダーレスなコレオグラフィーに対応できる技術を学び、感性を磨く。						
到達目標	ダンサーとしての必要不可欠なエクササイズ、アイソレーション、グルーヴ、ウォーキング、ポージングなど基礎を身に付け、実際に振り付けを踊り表現力を身に付ける。□						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	リズム、ニュアンスなある動きを理解する	体幹を鍛えておく
2	10月17日	講義・演習	グルーヴ、アイソレーションの確認 課題曲の振り付け	前回の復習をしておく
3	10月24日	講義・演習	アイソレーション、ウォーキング 課題曲の振り付け続き	前回の振り付けを復習しておく
4	10月31日	講義・演習	課題曲の理解を深め、表現力をつけ踊る	前回の振り付けを復習しておく
5	11月7日	講義・演習	振り付けにフォーメーションをつけて踊る	前回の振り付けを復習しておく
6	11月14日	講義・演習	ヒールでウォーキングができる	課題曲を聞いておく
7	11月21日	講義・演習	振り付けをヒールをはいて踊る	前回の振り付けを復習しておく
8	11月28日	講義・演習	椅子を使った振り付けを理解する	前回の振り付けを復習しておく
9	12月5日	講義・演習	椅子を使った振り付けに表現力をつける	前回の振り付けを復習しておく
10	12月12日	講義・演習	テストの課題曲の振り付けを覚える	課題曲を聞いておく
11	12月19日	講義・演習	テスト	自分なりの課題を立てておく
12	1月16日	講義・演習	テスト振り返り	自分で立てた課題を復習しておく
13	1月23日	講義・演習	後期学んだことを活かして踊り込む	
14	2月6日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月13日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Voice Training A(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	藤田統子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	HIPHOP R&Bユニット「So'Fly」のボーカルとして2005年にメジャーデビュー。アーティスト/ボーカリストとして活動する傍ら、ボイストレーナーとしても活動中。						
授業の学習内容	・歌唱トレーニングメインで進める。 ・どんな状況においても本来の自分の力を発揮できるようなメンタルを身につけ行けるようにマインドセットもやる。 ・オーディションやライブでのパフォーナンス力を上げ、デビューへ近づくための実践型トレーニング。 ・表現者として生きていく上での基礎的な知識と体力を身につける。						
到達目標	他人と比べず、自分の声・自分の歌を見つけ、それを言葉で説明、実技で表現できるようにすること。 ダンスと歌を共存させるために必要な力（表現力・パフォーマンス力・実行力）、 そして表現者としての振る舞い方や心と体のバランス感覚・考え方などを身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	課題曲①-1 【課題】表現とダイナミックさについて学ぶ。	授業内容の復習・自主トレ
2	5月7日	講義・演習	課題曲①-2 【課題】表現とダイナミックさについて学ぶ。	授業内容の復習・自主トレ
3	5月14日	講義・演習	課題曲①-3/定期発表の練習 各々自由に練習、講師への質疑応答及びレッスン時間として設ける。	授業内容の復習・自主トレ
4	5月21日	講義・演習	課題曲① 定期発表	授業内容の復習・自主トレ
5	5月28日	講義・演習	課題曲②-1 【課題】ロングトーンとブレスを再現する。	授業内容の復習・自主トレ
6	6月4日	講義・演習	課題曲②-2 【課題】ロングトーンとブレスを再現する。	授業内容の復習・自主トレ
7	6月11日	講義・演習	課題曲②-3/定期発表の練習 各々自由に練習、講師への質疑応答及びレッスン時間として設ける。	授業内容の復習・自主トレ
8	6月18日	講義・演習	課題曲② 定期発表	授業内容の復習・自主トレ
9	6月25日	講義・演習	課題曲③-1 【課題】滑舌とリズムを理解・表現する。	授業内容の復習・自主トレ
10	7月2日	講義・演習	課題曲③-2 【課題】滑舌とリズムを理解・表現する。	授業内容の復習・自主トレ
11	7月9日	講義・演習	課題曲③-3/定期発表の練習 各々自由に練習、講師への質疑応答及びレッスン時間として設ける。	授業内容の復習・自主トレ
12	7月16日	講義・演習	課題曲③ 定期発表	授業内容の復習・自主トレ
13	9月10日	講義・演習	個人カウンセリング	授業内容の復習・自主トレ
14	9月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月24日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			努力次第ではさらに課題が増えていくので、必ず授業後には復習と自主練を行うことが必要。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Voice Training A(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	藤田統子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	HIPHOP R&Bユニット「So'Fly」のボーカルとして2005年にメジャーデビュー。アーティスト/ボーカリストとして活動する傍ら、ボイストレーナーとしても活動中。						
授業の学習内容	・歌唱トレーニングメインで進める。 ・どんな状況においても本来の自分の力を発揮できるようなメンタルを身につけ行けるようにマインドセットもやる。 ・オーディションやライブでのパフォーナンス力を上げ、デビューへ近づくための実践型トレーニング。 ・表現者として生きていく上での基礎的な知識と体力を身につける。						
到達目標	他人と比べず、自分の声・自分の歌を見つけ、それを言葉で説明、実技で表現できるようにすること。 ダンスと歌を共存させるために必要な力（表現力・パフォーマンス力・実行力）、 そして表現者としての振る舞い方や心と体のバランス感覚・考え方などを身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	課題曲④-1 【課題】ハモリを理解・表現する。	授業内容の復習・自主トレ
2	10月15日	講義・演習	課題曲④-2 【課題】ハモリを理解・表現する。	授業内容の復習・自主トレ
3	10月22日	講義・演習	課題曲課題曲④-3/定期発表の練習 ・各々自由に練習、講師への質疑応答及びレッスン時間として設ける。	授業内容の復習・自主トレ
4	10月29日	講義・演習	課題曲④ 定期発表	授業内容の復習・自主トレ
5	11月5日	講義・演習	課題曲⑤-1(洋楽) 【課題】洋楽についての学習(英語の発音)	授業内容の復習・自主トレ
6	11月12日	講義・演習	課題曲⑤-2(洋楽) 【課題】洋楽についての学習(英語の発音)	授業内容の復習・自主トレ
7	11月19日	講義・演習	課題曲課題曲⑤-3/定期発表の練習 ・各々自由に練習、講師への質疑応答及びレッスン時間として設ける。	授業内容の復習・自主トレ
8	11月26日	講義・演習	課題曲⑤ 定期発表	授業内容の復習・自主トレ
9	12月3日	講義・演習	課題曲⑥-1 【課題】二年間の総まとめ	授業内容の復習・自主トレ
10	12月10日	講義・演習	課題曲⑥-2 【課題】二年間の総まとめ	授業内容の復習・自主トレ
11	12月17日	講義・演習	課題曲課題曲⑥-3/定期発表の練習 ・各々自由に練習、講師への質疑応答及びレッスン時間として設ける。	授業内容の復習・自主トレ
12	1月21日	講義・演習	課題曲⑥ 定期発表	授業内容の復習・自主トレ
13	2月4日	講義・演習	個人カウンセリング	授業内容の復習・自主トレ
14	2月11日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			努力次第ではさらに課題が増えていくので、必ず授業後には復習と自主練を行うことが必要。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Voice Training B(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	藤田統子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	HIPHOP R&Bユニット「So'Fly」のボーカルとして2005年にメジャーデビュー。アーティスト/ボーカリストとして活動する傍ら、ボイストレーナーとしても活動中。						
授業の学習内容	・歌唱トレーニングメインで進める。 ・どんな状況においても本来の自分の力を発揮できるようなメンタルを身につけ行けるようにマインドセットもやる。 ・オーディションやライブでのパフォーナンス力を上げ、デビューへ近づくための実践型トレーニング。 ・表現者として生きていく上での基礎的な知識と体力を身につける。						
到達目標	他人と比べず、自分の声・自分の歌を見つけ、それを言葉で説明、実技で表現できるようにすること。 ダンスと歌を共存させるために必要な力（表現力・パフォーマンス力・実行力）、 そして表現者としての振る舞い方や心と体のバランス感覚・考え方などを身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	課題曲①-1 【課題】表現とダイナミックさについて学ぶ。	授業内容の復習・自主トレ
2	5月7日	講義・演習	課題曲①-2 【課題】表現とダイナミックさについて学ぶ。	授業内容の復習・自主トレ
3	5月14日	講義・演習	課題曲①-3/定期発表の練習 各々自由に練習、講師への質疑応答及びレッスン時間として設ける。	授業内容の復習・自主トレ
4	5月21日	講義・演習	課題曲① 定期発表	授業内容の復習・自主トレ
5	5月28日	講義・演習	課題曲②-1 【課題】ロングトーンとブレスを再現する。	授業内容の復習・自主トレ
6	6月4日	講義・演習	課題曲②-2 【課題】ロングトーンとブレスを再現する。	授業内容の復習・自主トレ
7	6月11日	講義・演習	課題曲②-3/定期発表の練習 各々自由に練習、講師への質疑応答及びレッスン時間として設ける。	授業内容の復習・自主トレ
8	6月18日	講義・演習	課題曲② 定期発表	授業内容の復習・自主トレ
9	6月25日	講義・演習	課題曲③-1 【課題】滑舌とリズムを理解・表現する。	授業内容の復習・自主トレ
10	7月2日	講義・演習	課題曲③-2 【課題】滑舌とリズムを理解・表現する。	授業内容の復習・自主トレ
11	7月9日	講義・演習	課題曲③-3/定期発表の練習 各々自由に練習、講師への質疑応答及びレッスン時間として設ける。	授業内容の復習・自主トレ
12	7月16日	講義・演習	課題曲③ 定期発表	授業内容の復習・自主トレ
13	9月10日	講義・演習	個人カウンセリング	授業内容の復習・自主トレ
14	9月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月24日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			努力次第ではさらに課題が増えていくので、必ず授業後には復習と自主練を行うことが必要。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Voice Training B(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	藤田統子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	HIPHOP R&Bユニット「So'Fly」のボーカルとして2005年にメジャーデビュー。アーティスト/ボーカリストとして活動する傍ら、ボイストレーナーとしても活動中。						
授業の学習内容	・歌唱トレーニングメインで進める。 ・どんな状況においても本来の自分の力を発揮できるようなメンタルを身につけ行けるようにマインドセットもやる。 ・オーディションやライブでのパフォーナンス力を上げ、デビューへ近づくための実践型トレーニング。 ・表現者として生きていく上での基礎的な知識と体力を身につける。						
到達目標	他人と比べず、自分の声・自分の歌を見つけ、それを言葉で説明、実技で表現できるようにすること。 ダンスと歌を共存させるために必要な力（表現力・パフォーマンス力・実行力）、 そして表現者としての振る舞い方や心と体のバランス感覚・考え方などを身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	課題曲④-1 【課題】ハモリを理解・表現する。	授業内容の復習・自主トレ
2	10月15日	講義・演習	課題曲④-2 【課題】ハモリを理解・表現する。	授業内容の復習・自主トレ
3	10月22日	講義・演習	課題曲課題曲④-3/定期発表の練習 各々自由に練習、講師への質疑応答及びレッスン時間として設ける。	授業内容の復習・自主トレ
4	10月29日	講義・演習	課題曲④ 定期発表	授業内容の復習・自主トレ
5	11月5日	講義・演習	課題曲⑤-1(洋楽) 【課題】洋楽についての学習(英語の発音)	授業内容の復習・自主トレ
6	11月12日	講義・演習	課題曲⑤-2(洋楽) 【課題】洋楽についての学習(英語の発音)	授業内容の復習・自主トレ
7	11月19日	講義・演習	課題曲課題曲⑤-3/定期発表の練習 各々自由に練習、講師への質疑応答及びレッスン時間として設ける。	授業内容の復習・自主トレ
8	11月26日	講義・演習	課題曲⑤ 定期発表	授業内容の復習・自主トレ
9	12月3日	講義・演習	課題曲⑥-1 【課題】二年間の総まとめ	授業内容の復習・自主トレ
10	12月10日	講義・演習	課題曲⑥-2 【課題】二年間の総まとめ	授業内容の復習・自主トレ
11	12月17日	講義・演習	課題曲課題曲⑥-3/定期発表の練習 各々自由に練習、講師への質疑応答及びレッスン時間として設ける。	授業内容の復習・自主トレ
12	1月14日	講義・演習	課題曲⑥ 定期発表	授業内容の復習・自主トレ
13	1月21日	講義・演習	個人カウンセリング	授業内容の復習・自主トレ
14	2月4日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月11日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			努力次第ではさらに課題が増えていくので、必ず授業後には復習と自主練を行うことが必要。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Voice Training C(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	藤田統子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	HIPHOP R&Bユニット「So'Fly」のボーカルとして2005年にメジャーデビュー。アーティスト/ボーカリストとして活動する傍ら、ボイストレーナーとしても活動中。						
授業の学習内容	・歌唱トレーニングメインで進める。 ・どんな状況においても本来の自分の力を発揮できるようなメンタルを身につけ行けるようにマインドセットもやる。 ・オーディションやライブでのパフォーナンス力を上げ、デビューへ近づくための実践型トレーニング。 ・表現者として生きていく上での基礎的な知識と体力を身につける。						
到達目標	他人と比べず、自分の声・自分の歌を見つけ、それを言葉で説明、実技で表現できるようにすること。 ダンスと歌を共存させるために必要な力（表現力・パフォーマンス力・実行力）、 そして表現者としての振る舞い方や心と体のバランス感覚・考え方などを身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	課題曲①-1 【課題】表現とダイナミックさについて学ぶ。	授業内容の復習・自主トレ
2	5月7日	講義・演習	課題曲①-2 【課題】表現とダイナミックさについて学ぶ。	授業内容の復習・自主トレ
3	5月14日	講義・演習	課題曲①-3/定期発表の練習 各々自由に練習、講師への質疑応答及びレッスン時間として設ける。	授業内容の復習・自主トレ
4	5月21日	講義・演習	課題曲① 定期発表	授業内容の復習・自主トレ
5	5月28日	講義・演習	課題曲②-1 【課題】ロングトーンとブレスを再現する。	授業内容の復習・自主トレ
6	6月4日	講義・演習	課題曲②-2 【課題】ロングトーンとブレスを再現する。	授業内容の復習・自主トレ
7	6月11日	講義・演習	課題曲②-3/定期発表の練習 各々自由に練習、講師への質疑応答及びレッスン時間として設ける。	授業内容の復習・自主トレ
8	6月18日	講義・演習	課題曲② 定期発表	授業内容の復習・自主トレ
9	6月25日	講義・演習	課題曲③-1 【課題】滑舌とリズムを理解・表現する。	授業内容の復習・自主トレ
10	7月2日	講義・演習	課題曲③-2 【課題】滑舌とリズムを理解・表現する。	授業内容の復習・自主トレ
11	7月9日	講義・演習	課題曲③-3/定期発表の練習 各々自由に練習、講師への質疑応答及びレッスン時間として設ける。	授業内容の復習・自主トレ
12	7月16日	講義・演習	課題曲③ 定期発表	授業内容の復習・自主トレ
13	9月10日	講義・演習	個人カウンセリング	授業内容の復習・自主トレ
14	9月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月24日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			努力次第ではさらに課題が増えていくので、必ず授業後には復習と自主練を行うことが必要。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Voice Training C(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	藤田統子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	HIPHOP R&Bユニット「So'Fly」のボーカルとして2005年にメジャーデビュー。アーティスト/ボーカリストとして活動する傍ら、ボイストレーナーとしても活動中。						
授業の学習内容	・歌唱トレーニングメインで進める。 ・どんな状況においても本来の自分の力を発揮できるようなメンタルを身につけ行けるようにマインドセットもやる。 ・オーディションやライブでのパフォーナンス力を上げ、デビューへ近づくための実践型トレーニング。 ・表現者として生きていく上での基礎的な知識と体力を身につける。						
到達目標	他人と比べず、自分の声・自分の歌を見つけ、それを言葉で説明、実技で表現できるようにすること。 ダンスと歌を共存させるために必要な力（表現力・パフォーマンス力・実行力）、 そして表現者としての振る舞い方や心と体のバランス感覚・考え方などを身につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	課題曲④-1 【課題】ハモリを理解・表現する。	授業内容の復習・自主トレ
2	10月15日	講義・演習	課題曲④-2 【課題】ハモリを理解・表現する。	授業内容の復習・自主トレ
3	10月22日	講義・演習	課題曲課題曲④-3/定期発表の練習 各々自由に練習、講師への質疑応答及びレッスン時間として設ける。	授業内容の復習・自主トレ
4	10月29日	講義・演習	課題曲④ 定期発表	授業内容の復習・自主トレ
5	11月5日	講義・演習	課題曲⑤-1(洋楽) 【課題】洋楽についての学習(英語の発音)	授業内容の復習・自主トレ
6	11月12日	講義・演習	課題曲⑤-2(洋楽) 【課題】洋楽についての学習(英語の発音)	授業内容の復習・自主トレ
7	11月19日	講義・演習	課題曲課題曲⑤-3/定期発表の練習 各々自由に練習、講師への質疑応答及びレッスン時間として設ける。	授業内容の復習・自主トレ
8	11月26日	講義・演習	課題曲⑤ 定期発表	授業内容の復習・自主トレ
9	12月3日	講義・演習	課題曲⑥-1 【課題】二年間の総まとめ	授業内容の復習・自主トレ
10	12月10日	講義・演習	課題曲⑥-2 【課題】二年間の総まとめ	授業内容の復習・自主トレ
11	12月17日	講義・演習	課題曲課題曲⑥-3/定期発表の練習 各々自由に練習、講師への質疑応答及びレッスン時間として設ける。	授業内容の復習・自主トレ
12	1月21日	講義・演習	課題曲⑥ 定期発表	授業内容の復習・自主トレ
13	2月4日	講義・演習	個人カウンセリング	授業内容の復習・自主トレ
14	2月11日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			努力次第ではさらに課題が増えていくので、必ず授業後には復習と自主練を行うことが必要。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Advanced Voice A(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	潤豊
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	THE SOULMATICSのメンバーとして様々なコンサート、イベント、Recに参加。K-POPやJ-POPアーティストの歌唱指導を行っている。						
授業の学習内容	ボイストレーニングおよび歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、および歌唱においての基礎の向上						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月24日	講義・演習	自己紹介、目標の確認、発声メソッドの説明、指導	発声練習及び課題曲練習
2	5月8日	講義・演習	外化、姿勢呼吸、イーストレッチレクチャー、歌唱指導	発声練習及び課題曲練習
3	5月15日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱指導	発声練習及び課題曲練習
4	5月22日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
5	5月29日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
6	6月5日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
7	6月12日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
8	6月19日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
9	7月3日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
10	7月10日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
11	7月17日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
12	8月21日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
13	9月11日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	基礎練習、課題図書を読み、レポート
14	9月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月25日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Advanced Voice A(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	潤豊
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	THE SOULMATICSのメンバーとして様々なコンサート、イベント、Recに参加。K-POPやJ-POPアーティストの歌唱指導を行っている。						
授業の学習内容	ボイストレーニングおよび歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、および歌唱においての基礎、パフォーマンス力の向上						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
2	10月16日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
3	10月23日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
4	10月30日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
5	11月6日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
6	11月13日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
7	11月20日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
8	11月27日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
9	12月4日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
10	12月11日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
11	12月18日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
12	1月15日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
13	1月22日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	基礎練習、課題図書を読み、レポート
14	2月5日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月12日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Advanced Voice B(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	吉田華奈
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	THE SOULMATICSのメンバーとして、Dreams come true、湘南乃風、福原みほ、今市隆二、小柳ゆき等のレコーディングやコーラスに参加。ミュージカルなどでも活躍中。						
授業の学習内容	ボイストレーニングおよび歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、および歌唱においての基礎の向上						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月24日	講義・演習	自己紹介、目標の確認、発声メソッドの説明、指導	発声練習及び課題曲練習
2	5月8日	講義・演習	外化、姿勢呼吸、イーストレッチレクチャー、歌唱指導	発声練習及び課題曲練習
3	5月15日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱指導	発声練習及び課題曲練習
4	5月22日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
5	5月29日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
6	6月5日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
7	6月12日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
8	6月19日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
9	7月3日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
10	7月10日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
11	7月17日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
12	8月21日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
13	9月11日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	基礎練習、課題図書を読み、レポート
14	9月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月25日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Advanced Voice B(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	吉田華奈
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	THE SOULMATICSのメンバーとして、Dreams come true、湘南乃風、福原みほ、今市隆二、小柳ゆき等のレコーディングやコーラスに参加。ミュージカルなどでも活躍中。						
授業の学習内容	ボイストレーニングおよび歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、および歌唱においての基礎、パフォーマンス力の向上						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
2	10月16日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
3	10月23日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
4	10月30日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
5	11月6日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
6	11月13日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
7	11月20日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
8	11月27日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
9	12月4日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
10	12月11日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
11	12月18日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
12	1月15日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
13	1月22日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	基礎練習、課題図書を読み、レポート
14	2月5日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月12日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Acrobat(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	東山悠司
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	アクロバット指導歴　STUDIO ARTRIZ(13年)・STUDIO VICEO、BOX ACADEMY(5年)・ENERGY DANCE STUDIO(4年)・SPACE N（3年）・他ワークショップ等（16年）						
授業の学習内容	①特殊技能であるアクロバットを習得するのが目的。 ②アクロバット習得に必要な基礎トレーニングを重ねることによって、身体能力の向上が期待出来るので、他のダンスや実技クラスにも活かせる。 ③技の習得やアクロバット技術への理解を深めることにより、パフォーマンスの幅を広げる。 ④主に前方系・後方系・側方系の基礎的なマット運動。補助倒立。筋力トレーニング・柔軟。						
到達目標	男子も女子も綺麗なロンダートを目標とする。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月24日	講義・演習	授業内容、注意事項の説明　基礎練習	ネット上でアクロバットの歴史と文化を調査
2	5月8日	講義・演習	基礎練習　前方系・後方系・側方系　ブリッジ・倒立	動画を撮影し、自身の柔軟性・筋力を分析
3	5月15日	講義・演習	基礎練習　前方系・後方系・側方系　ブリッジ・倒立	体幹トレーニング
4	5月22日	講義・演習	基礎練習　ロンダートを説明～補助付きで練習	ネット上で参考動画の検索・閲覧
5	5月29日	講義・演習	基礎練習　ロンダートを補助付きで練習	動画を撮影し、自己分析
6	6月5日	講義・演習	基礎練習　ロンダートを補助付きで練習	体幹トレーニング
7	6月12日	講義・演習	基礎練習　ロンダートを補助無しでの練習	動画を撮影し、自己分析
8	6月19日	講義・演習	基礎練習　ロンダートを補助無しでの練習	体幹トレーニング
9	7月3日	講義・演習	基礎練習　ロンダートを補助無しでの練習	体幹トレーニング
10	7月10日	講義・演習	基礎練習　ロンダートの実践	動画を撮影し、自己分析
11	7月17日	講義・演習	基礎練習　ロンダートの実践	動画を撮影し、自己分析
12	8月21日	講義・演習	基礎練習　ロンダートの実践	動画を撮影し、自己分析
13	9月11日	講義・演習	イベント実践を通して筋力・柔軟性の必要性を学ぶ	レポートの提出
14	9月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月25日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			自宅や狭い場所でも可能な体幹トレーニング数種	

【使用教科書・教材・参考書】

マット各種

科目名	Acrobat(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	東山悠司
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	アクロバット指導歴　STUDIO ARTRIZ(13年)・STUDIO VICEO、BOX ACADEMY(5年)・ENERGY DANCE STUDIO(4年)・SPACE N（3年）・他ワークショップ等（16年）						
授業の学習内容	①具体的に自身で選んだ高難度の技を習得し、補助無しの実践。パフォーマンスの印象付けになる。 ②アクロバット習得に必要な基礎トレーニングを重ねることによって、身体能力の向上が期待出来るので、他のダンスや実技クラスにも活かせる。 ③技が成功した時の達成感や、一つの難しいことにも繰り返し挑戦する意義を実感させる。 ④主に前方系・後方系・側方系の高難度のマット運動。倒立静止。筋力トレーニング・柔軟。タンブリング(連続技)。カポエイラやトリッキングなどの動きを取り入れた練習も行う。						
到達目標	男子も女子も二つ以上のタンブリング(連続技)を目標とする。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	後期の方向性の説明　基礎練習	各自目標とする難度技の設定
2	10月16日	講義・演習	基礎練習　前方系・後方系・側方系　ブリッジ・倒立	動画を撮影し、自身の柔軟性・筋力を分析
3	10月23日	講義・演習	基礎練習　バック転・ハンドスプリングを補助付きで練習	動画を撮影し、自己分析
4	10月30日	講義・演習	基礎練習　バック転・ハンドスプリングを補助無しで実践	動画を撮影し、自己分析
5	11月6日	講義・演習	基礎練習　宙返り系の技を補助付きで練習	動画を撮影し、自己分析
6	11月13日	講義・演習	基礎練習　宙返り系の技を補助無しで練習	動画を撮影し、自己分析
7	11月20日	講義・演習	基礎練習　カポエイラやトリッキング等の説明～体験	ネット上で参考動画の検索・閲覧
8	11月27日	講義・演習	基礎練習　カポエイラやトリッキング等の練習	動画を撮影し、自己分析
9	12月4日	講義・演習	基礎練習　カポエイラやトリッキング等の練習	体幹トレーニング
10	12月11日	講義・演習	基礎練習　カポエイラやトリッキング等の練習	体幹トレーニング
11	12月18日	講義・演習	基礎練習　タンブリングの説明～補助付きで体験	ネット上で参考動画の検索・閲覧
12	1月15日	講義・演習	基礎練習　タンブリングの練習・実践	動画を撮影し、自己分析
13	1月22日	講義・演習		
14	2月5日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月12日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			自宅や狭い場所でも可能な体幹トレーニング数種	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Break(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	東山悠司
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ブレイクダンス指導歴　STUDIO ARTRIZ（13年）・ZEAL町田(10年)・WINWIN、WANNA DANNCE STUDIO、SUNNY SPOT（5年）・他ワークショップ等(21年)						
授業の学習内容	①ブレイクダンスの要素を細分化し基礎から習得する中で、非日常的な姿勢で静止したり、全身を使って立体的に回転したり、パフォーマンスの中で特に人の目を惹きつける技を体得していく。 ②ストリートダンス全般に関連し、歴史的背景もあり1対1でのバトル等、競い合う精神が一番が高いジャンル。 ③他ジャンルでは得にくい基礎体力・筋力・バランス感覚等を養う。 ④レッスン順序　柔軟→筋力トレーニング→フリーズ各種→振り付けまたは技の練習→バトルまたはセッション						
到達目標	ストレッチで柔軟性を養い関節の可動域を広げ、可能な技の範囲を拡大する。筋力トレーニングで特に上半身の筋力を養い、脚が床に着かない色々な体勢で支持出来る体作りを行う。倒立が基礎になる技を多用するので、倒立が自立で可能になる為のトレーニングを段階的に行う。名前の付いている基礎となるステップを覚え、反復練習する。ブレイクダンスの歴史と、今も残る特有の文化を学習する。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月24日	講義・演習	ブレイクダンスの歴史と文化の説明	ネット上でブレイクダンスの歴史と文化を調査
2	5月8日	講義・演習	日本でのブレイクダンスシーン解説	日本人有名ダンサーを検索・把握
3	5月15日	講義・演習	ネットでの学習の仕方や検索用語の説明	教わった用語を使用し、ネットにて調査
4	5月22日	講義・演習	柔軟・筋トレ・フリーズ各種の習得	ネットでの動画閲覧
5	5月29日	講義・演習	柔軟・筋トレ・フリーズ各種の実践	動画を撮影し、自身の柔軟性・筋力を分析
6	6月5日	講義・演習	柔軟・筋トレ・フリーズ各種の自己分析	動画を撮影し、自身のフリーズの形を分析
7	6月12日	講義・演習	倒立・ステップ数種の習得	動画を撮影し、自身の倒立を分析
8	6月19日	講義・演習	倒立・ステップ数種の実践	動画を撮影し、自身のステップを分析
9	7月3日	講義・演習	倒立・ステップ数種の自己分析	この時点での自身の能力に合った技術を選定
10	7月10日	講義・演習	振り付け・セッションの練習	動画を撮影し、自己分析
11	7月17日	講義・演習	振り付け・セッションの実践	動画を撮影し、見直し
12	8月21日	講義・演習	振り付け・バトルの練習・実践	動画を撮影し、自己分析
13	9月11日	講義・演習	イベント実践を通して文化と精神面、様々な技術を学ぶ	レポートの提出
14	9月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月25日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			ネットを使用し、検索や調査・動画サイトで初心者～上級者まで閲覧	

【使用教科書・教材・参考書】

シューズ・タオル・ソフトマット1枚

科目名	Break(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	東山悠司
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	ブレイクダンス指導歴　STUDIO ARTRIZ（13年）・ZEAL町田(10年)・WINWIN、WANNA DANNCE STUDIO、SUNNY SPOT（5年）・他ワークショップ等(21年)						
授業の学習内容	①群舞でのパフォーマンスと区別し、一人で踊る事への意義を実感してもらう。 ②ストリートダンス全般に関連し、歴史的背景もあり1対1でのバトル等、競い合う精神が一番が高いジャンル。 ③難易度の高い技の習得に向かい、出来た時の達成感を感じる事で、途中で屈しない精神を養う。 ④バトルを通じて、競争心・コミュニケーション・相手への尊重等の育成を図る。						
到達目標	前期で培われた柔軟性・筋力・覚えたステップを基礎とし、1人で踊る為の振り付けを自分で組み立てる。バトルを想定し、鏡では無く、対戦相手にエネルギーを向けて踊る訓練をする。振り付けとは別で、即興性やミスした際にリカバリーする能力を高める。1対1またはチーム分けをし、ダンスバトルを実践する。バトルのモチベーションとは別で、円になりお互いを尊重しながら見せ合うだけのセッションを行う。大技の習得。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	高難度の柔軟・筋トレの解説　ステップ数種	各自目標とする難度技の設定
2	10月16日	講義・演習	高難度の柔軟・筋トレの練習　ステップ数種	ネットや動画サイトを調べ、難度技の理論を分析
3	10月23日	講義・演習	高難度の柔軟・筋トレの実践　振り付け	自身の柔軟度・筋力を動画撮影し分析
4	10月30日	講義・演習	高難度の倒立の解説　ステップ数種	倒立に関する記事や動画をネットで閲覧
5	11月6日	講義・演習	高難度の倒立の練習　ステップ数種	動画を撮影し分析
6	11月13日	講義・演習	高難度の倒立の実践　振り付け	高難度の倒立の反復練習
7	11月20日	講義・演習	高難度のフリーズ各種の練習　ステップ数種	フリーズに関する記事や動画をネットで閲覧
8	11月27日	講義・演習	高難度のフリーズ各種の実践　振り付け	高難度のフリーズの反復練習
9	12月4日	講義・演習	即興・リカバリーの解説・練習	即興・リカバリーに関する記事や動画をネットで閲覧
10	12月11日	講義・演習	即興・リカバリーの実践	動画を撮影し分析
11	12月18日	講義・演習	バトルの解説、実践	自身の振り付けを事前に構想
12	1月15日	講義・演習	チーム分けバトルまたは1対1のバトル	実践動画を分析し、見直し・考察
13	1月22日	講義・演習	イベント実践を通して文化と精神面、様々な技術を学ぶ	レポートの提出
14	2月5日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月12日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			授業内で行った内容の反復練習・動画の自己撮影	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	LA Style(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	相馬伊織
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	アメリカ・ロサンゼルスでダンサーとして活動、WS、MV等出演						
授業の学習内容	①日本にいても海外のスタイルを学べるため ②他のダンスにも応用できる技術を身に付ける ③世界でも活躍できるダンサー ④ストレッチ、アイソレーション、振り付けを通し、身体作りスキルの向上						
到達目標	基礎を学び、個々のダンススタイルを確立する						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月24日	講義・演習	身体作り	筋力トレーニング
2	5月8日	講義・演習	ストレッチ	自分の体の特徴を知る
3	5月15日	講義・演習	アイソレーション	アイソレーションの復習
4	5月22日	講義・演習	ストレッチ、アイソレーションの応用	応用の復習
5	5月29日	講義・演習	コンビネーション	コンビネーション復習
6	6月5日	講義・演習	カウントの取り方	授業内容の復習
7	6月12日	講義・演習	音の取り方、感じ方	曲を聞いて音とカウントを意識する
8	6月19日	講義・演習	身体の使い方	アイソレーションを意識する
9	7月3日	講義・演習	音を取り入れた身体の使い方	音によって異なる身体の使い方を知る
10	7月10日	講義・演習	重心、シルエットの運び方	自分の体と向き合い自分の癖を考える
11	7月17日	講義・演習	振り付けと音の結びつき	洋楽の音・歌詞の意味を考える
12	8月21日	講義・演習	力の強弱と振り付けの緩急	自分の個性に合わせた魅せ方を知る
13	9月11日	講義・演習	テスト	これまでの授業の復習・今後の課題を見据える
14	9月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月25日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			授業内容の反復練習。授業で扱った洋楽の英語の意味を調べ日頃から英語学習を心得る	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	LA Style(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	相馬伊織
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	アメリカ・ロサンゼルスでダンサーとして活動、WS、MV等出演						
授業の学習内容	①日本にいても海外のスタイルを学べるため ②他のダンスにも応用できる技術を身に付ける ③世界でも活躍できるダンサー ④ストレッチ、アイソレーション、振り付けを通し、身体作りスキルの向上						
到達目標	海外でも通用するマインド＆ダンススキルの獲得						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	前期の復習、後期の目標設定	自分のなりたいダンサー像を設定する
2	10月16日	講義・演習	自分のスタイルと向き合い長所を掘り下げる	独自のダンススタイルを伸ばす意識をする
3	10月23日	講義・演習	日本とアメリカのダンス業界の差異について	視野を広げて今の自分の課題を見つける
4	10月30日	講義・演習	自分のスタイルを用いてフリーで踊る	音や歌詞に合わせて踊る意識を身体に染み込ませる
5	11月6日	講義・演習	アメリカにおけるダンスへのマインドについて	ソロでも自分を魅せれる力を身に付ける
6	11月13日	講義・演習	ひとりひとりソロで魅せるダンス	自分の個性と向き合い自分の課題を見つめる
7	11月20日	講義・演習	振り付けを作る際の音の取り方	独自の音の取り方を身に付ける
8	11月27日	講義・演習	洋楽の歌詞の意味を理解した上で踊る	これまでの英語学習をアウトプットする
9	12月4日	講義・演習	授業で扱った振り付けを取り入れ自分のスタイルにする	誰にも寄せず、振り付けを自分のものにする意識をする
10	12月11日	講義・演習	フリースタイルで振り付け制作して発表	これまでに得た自分のスタイルで振り付けを制作
11	12月18日	講義・演習	ステージコレオグラフィー①	舞台やステージ上での個性の発揮を目指す
12	1月15日	講義・演習	ステージコレオグラフィー②	舞台やステージ上での個性の発揮を目指す
13	1月22日	講義・演習	テスト	これまでの授業の復習・今後の課題を見据える
14	2月5日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月12日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			授業内容の反復練習。授業で扱った洋楽の英語の意味を調べ日頃から英語学習を心得る	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	House(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	鳥居勇
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ダンススタジオインストラクター、イベント出演、アーティストの振付						
授業の学習内容	他ジャンルと比べ特にステップに特化している為、リズムと身体の軸を正しく捉えることで、より幅広く自身の踊りを表現することができるようになる。基礎を反復し、きちんとした下地を作り、表面だけのステップにならないよう授業を進めていきます。授業後半ではフリーで踊る練習もしていきます。						
到達目標	授業で習得したステップを使いフリーで踊れるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	リズムの取り方、身体の弾ませ方の説明、ピックアップステップ「バドブレ」	基本リズムの復習を各自
2	4月21日	講義・演習	基本ステップ反復、ピックアップステップ「2ステップ、ルースレッグ」	ルースレッグ 振付復習
3	5月12日	講義・演習	基本ステップ反復、ピックアップステップ「ヒールトゥ」	ヒールトゥ 振付復習
4	5月19日	講義・演習	基本ステップ反復、ピックアップステップ「ツイストを使ったステップ」	ツイスト 振付復習
5	5月26日	講義・演習	基本ステップ反復、ピックアップステップ「膝抜き」	膝抜き 振付復習
6	6月2日	講義・演習	基本ステップ反復、ピックアップステップ「ファーマー」	ファーマー 振付復習
7	6月9日	講義・演習	基本ステップ反復、ピックアップステップ「クロスウォーク、シャッフル」	クロスウォーク、シャッフル 振付復習
8	6月16日	講義・演習	基本ステップ反復、フロアームーブ	振付復習
9	6月23日	講義・演習	基本ステップ反復、ピックアップ各ステップ復習	各ステップの細かい確認
10	6月30日	講義・演習	基本ステップ反復、前期の総合的なステップの振付を覚える	振付復習
11	7月7日	講義・演習	基本ステップ反復、前期の総合的なステップの振付続き	振付復習
12	7月14日	講義・演習	2週続けた振付での少人数ずつのテスト フリーのテスト	振付復習
13	9月8日	講義・演習	前期の総復習	各基本ステップの確認
14	9月15日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月22日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	House(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	鳥居勇
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ダンススタジオインストラクター、イベント出演、アーティスト振付						
授業の学習内容	前期と同様、リズムの取り方と基本ステップを繰り返し練習し、HOUSEのノリの理解を更に深める。またフリーで踊る表現の幅を広くできるように授業を進めていく。						
到達目標	起承転結を意識しフリーで踊る						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義・演習	リズムと弾み方の説明、基本ステップ説明・復習「パドブレ・応用」	振付復習
2	10月13日	講義・演習	基本ステップ「2ステップ・ルースレッグ、表裏のリズム、腰の使い方」	腰の使い方 振付復習
3	10月20日	講義・演習	基本ステップ 前期後期ステップ復習①	ステップ復習
4	10月27日	講義・演習	基本ステップ 前期後期ステップ復習②	ステップ復習
5	11月3日	講義・演習	基本ステップ「スワル」	スワル 振付復習
6	11月10日	講義・演習	基本ステップ「スワル応用」	振付復習
7	11月17日	講義・演習	基本ステップ「ピーターポール」	ピーターポール 振付復習
8	11月24日	講義・演習	基本ステップ 3連ステップ ドルフィン	振付復習
9	12月1日	講義・演習	基本ステップ 総復習	基本ステップの練習
10	12月8日	講義・演習	基本ステップ 総復習・応用	ステップとステップを繋ぐ練習
11	12月15日	講義・演習	基本ステップ 総復習・応用	フリーで踊るイメージ具体化してみる
12	1月19日	講義・演習	基本ステップ 実技テスト用振付	ステップ復習
13	2月2日	講義・演習	基本ステップ テスト フリーテスト	振付復習
14	2月9日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月16日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Pop(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	村上未来
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	チームでのショーやバトル、ナンバー出展、インストラクターなど多方面で活動						
授業の学習内容	アイルから始まり様々な身体のコントロールの仕方を学び、技を身に着ける。振付（作る・踊る）、フリースタイルの練習。						
到達目標	身体の使い方を理解しコントロールしながらPOP特有の技を身に着け応用としてフリースタイルや自ジャンルに生かせるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	POPとは？筋力の使い方（腕・脚）	ヒット練習・筋トレ
2	4月21日	講義・演習	ヒットの打ち方②（首・手首）	ヒット練習・筋トレ
3	5月12日	講義・演習	ヒットの打ち方③（胸）/ウェーブ	ヒット練習・ウェーブ練習
4	5月19日	講義・演習	ハンドウィーブ/ボディーウェーブ	授業の復習
5	5月26日	講義・演習	リズムキープしながら踊る	授業の復習
6	6月2日	講義・演習	ウォークアウト/ステップの練習	授業の復習
7	6月9日	講義・演習	フレックスのバリエーション	授業の復習
8	6月16日	講義・演習	⑥⑦の復習と振付の練習	授業の復習
9	6月23日	講義・演習	リズムキープしながら踊るのタットの応用	授業の復習
10	6月30日	講義・演習	オールドマン（引っぱり）について	授業の復習
11	7月7日	講義・演習	①～⑪の復習を応用（フリー）	授業の復習
12	7月14日	講義・演習	テスト準備しチームで振付	振付の復習・考えてくる
13	9月8日	講義・演習	テスト	動画を見て振り返り
14	9月15日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月22日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Pop(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	村上未来
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	チームでのショーやバトル、ナンバー出展、インストラクターなど多方面で活動						
授業の学習内容	どのジャンルにも通ずる身体の使い方や音の取り方、POP 特有のスキルを習得し、自ジャンルに生かしながら踊りの幅を広げる。						
到達目標	ボディコントロールを正確にできるようになる事で、踊りに緩急、メリハリをつけられるようになること。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義・演習	ヒットの打ち方、仕組み	ヒット練習
2	10月13日	講義・演習	ヒットの打ち方②・ヒットとポップの使い分け	ヒット練習、使い分け復讐
3	10月20日	講義・演習	スロー・ストップのコントロール	ヒット、ストップ練習
4	10月27日	講義・演習	ウェーブとリズム取り	ヒット、ウェーブ練習
5	11月3日	講義・演習	ウェーブ②、リズム取りと応用	ここまでの学習の復讐
6	11月10日	講義・演習	1～5週目のまとめとルーティン	自分で振り付け作り
7	11月17日	講義・演習	ウォークアウトと下半身のコントロール	ヒット練習、ボディコントロール
8	11月24日	講義・演習	軸移動の仕方とバランスの取り方	ヒット練習、ボディコントロール
9	12月1日	講義・演習	音のアプローチと緩急バランス	ヒット練習、フリーの練習
10	12月8日	講義・演習	1～9の応用とフリーで動けるようにする	ヒット練習、フリーの練習
11	12月15日	講義・演習	グループでの振り付け、構成作り	ヒット練習、フリーの練習、振り付けの練習
12	1月19日	講義・演習	グループでの振り付け、構成作り②、テスト	ヒットの打ち方、仕組み
13	2月2日	講義・演習	イベント実践を通して身体表現を学ぶ	今学期の振り返り
14	2月9日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月16日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Theme Park Project(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	西川明宏
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		

教員の略歴	TSM卒業後2006年オリエンタルランド入社。関東大手テーマパークにて4年間ダンサーとして出演。 その後フリーランスとして、キッズショーなど様々な舞台に立つ。現在はテーマパークの振付などでも活躍中。
授業の学習内容	①ウォーミングアップからしっかり身体作りを行い、一人一人が自分と向き合って基礎力を向上させる。 ②テクニックを身につける上で、クロスフロアなど基礎から応用まで反復練習させる。 ③オーディション対策クラスとして、振り渡しから本番同様のイメージで行い、実践的な即戦力を養う。 ④様々なコンビネーションを通してブラッシュアップをする事で、次の授業のステップアップを目指す。
到達目標	⊙オーディションを通過する為のテクニックや表現力を身に付けること。 ⊙オーディション本番に向けての知識も身につけ、適した服装やメイク等の意識を高める。 ⊙プロフェッショナルとして精神面・人間性を養い、様々な環境で活躍できる人材になる。
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	基礎力や対応力のスキルチェック	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
2	4月21日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
3	5月12日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
4	5月19日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
5	5月26日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
6	6月2日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
7	6月9日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
8	6月16日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
9	6月23日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
10	6月30日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
11	7月7日	講義・演習	テスト	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
12	7月14日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
13	9月8日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
14	9月15日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月22日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Theme Park Project(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	西川明宏
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	TSM卒業後2006年オリエンタルランド入社。関東大手テーマパークにて4年間ダンサーとして出演。 その後フリーランスとして、キッズショーなど様々な舞台に立つ。現在はテーマパークの振付などでも活躍中。						
授業の学習内容	①ウォーミングアップからしっかり身体作りを行い、一人一人が自分と向き合って基礎力を向上させる。 ②テクニックを身につける上で、クロスフロアなど基礎から応用まで反復練習させる。 ③オーディション対策クラスとして、振り渡しから本番同様のイメージで行い、実践的な即戦力を養う。 ④様々なコンビネーションを通してブラッシュアップをする事で、次の授業のステップアップを目指す。						
到達目標	◉オーディションを通過する為のテクニックや表現力を身に付けること。 ◉オーディション本番に向けての知識も身につけ、適した服装やメイク等の意識を高める。 ◉プロフェッショナルとして精神面・人間性を養い、様々な環境で活躍できる人材になる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	基礎力や対応力のスキルチェック	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
2	4月21日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
3	5月12日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
4	5月19日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
5	5月26日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
6	6月2日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
7	6月9日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
8	6月16日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
9	6月23日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
10	6月30日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
11	7月7日	講義・演習	テスト	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
12	7月14日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
13	9月8日	講義・演習	オーディションに向けての基礎トレーニング、コンビネーション・実践練習。	ストレッチ・トレーニング・クールダウン
14	9月15日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月22日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Art of K-pop Vocal(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	潤・キム・ゴンヒョン
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間(単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	ゴスペルグループTHE SOULMATICSのメンバーとして様々なコンサート、イベント、Recに参加。						
授業の学習内容	ボイストレーニングおよび歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、および歌唱においての基礎の向上						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	自己紹介、目標の確認、発声メソッドの説明、指導	発声練習及び課題曲練習
2	5月7日	講義・演習	外化、姿勢呼吸、イーストレッチレクチャー、歌唱指導	発声練習及び課題曲練習
3	5月14日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱指導	発声練習及び課題曲練習
4	5月21日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
5	5月28日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
6	6月4日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
7	6月11日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
8	6月18日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
9	6月25日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
10	7月2日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
11	7月9日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
12	7月16日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
13	9月10日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	基礎練習、課題図書を読み、レポート
14	9月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月24日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Art of K-pop Vocal(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	潤・キム・ゴンヒョン
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間(単位)	30 (2単位)		
教員の略歴	ゴスペルグループTHE SOULMATICSのメンバーとして様々なコンサート、イベント、Recに参加。						
授業の学習内容	ボイストレーニングおよび歌唱指導						
到達目標	ボイストレーニング、および歌唱においての基礎、パフォーマンス力の向上						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
2	10月15日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
3	10月22日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
4	10月29日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
5	11月5日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
6	11月12日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
7	11月19日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
8	11月26日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
9	12月3日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
10	12月10日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
11	12月17日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
12	1月21日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	発声練習及び課題曲練習
13	2月4日	講義・演習	外化、発声指導、歌唱チェック(目標に合わせて深くアプローチ)	基礎練習、課題図書を読み、レポート
14	2月11日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Art of K-pop Dance(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	小川紗弥花
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	2PM CONCERT HOUSE PARTY in Japan ダンサー出演　他						
授業の学習内容	ダンスの基礎練習・身体の使い方を研究・怪我をしないためのストレッチ方法の学習						
到達目標	基礎を練習して身体の可動域を広げること・自分にしかできない表現力を磨き、自信をつけること						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月24日	講義・演習	自己紹介・目標設定・授業内容説明・基礎練習	得意なことを探す
2	5月8日	講義・演習	アイソレーション基礎練習	前週の復習
3	5月15日	講義・演習	アイソレーション基礎応用	前週の復習
4	5月22日	講義・演習	ステップ基礎練習	前週の復習
5	5月29日	講義・演習	ステップ基礎応用	前週の復習
6	6月5日	講義・演習	指先・足先にフォーカス　動線確認	前週の復習
7	6月12日	講義・演習	緩急について研究	前週の復習
8	6月19日	講義・演習	テスト内容　振り写し・練習	前週の復習
9	7月3日	講義・演習	テスト内容　振り写し・練習	テスト内容の練習
10	7月10日	講義・演習	テスト内容　練習	テスト内容の練習
11	7月17日	講義・演習	前期　実技テスト	テスト内容の練習
12	8月21日	講義・演習	身体の使い方　確認	前週の復習
13	9月11日	講義・演習	個性を活かした表現の研究	前週の復習
14	9月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月25日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

シューズ・タオル・ドリンク

科目名	Art of K-pop Dance(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	小川紗弥花
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	2PM CONCERT HOUSE PARTY in Japan ダンサー出演　他						
授業の学習内容	ダンスの基礎練習・身体の使い方を研究・怪我をしないためのストレッチ方法の学習						
到達目標	基礎を練習して身体の可動域を広げること・自分にしかできない表現力を磨き、自信をつけること						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	目標確認・前期の復習	目標の確認
2	10月16日	講義・演習	アイソレーションテクニック習得	前週の復習
3	10月23日	講義・演習	アイソレーションテクニック応用	前週の復習
4	10月30日	講義・演習	ステップテクニック習得	前週の復習
5	11月6日	講義・演習	ステップテクニック応用	前週の復習
6	11月13日	講義・演習	フロアテクニック練習	前週の復習
7	11月20日	講義・演習	フロアテクニック応用	前週の復習
8	11月27日	講義・演習	テスト内容　振り写し・練習	前週の復習
9	12月4日	講義・演習	テスト内容　振り写し・練習	テスト内容の練習
10	12月11日	講義・演習	テスト内容　練習	テスト内容の練習
11	12月18日	講義・演習	後期　実技テスト	テスト内容の練習
12	1月15日	講義・演習	身体の角度にフォーカス　練習	前週の復習
13	1月22日	講義・演習	自分だけのダンススタイルを築く	前週の復習
14	2月5日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月12日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

シューズ・タオル・ドリンク

科目名	SNS運用基礎(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	上原 優也
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	SNS運用代行・コンサルティング・広告事業・SNSスクール事業運営						
授業の学習内容	現在、SNSは商品認知や購買のきっかけとなるだけでなく、多くのトレンドが生まれる場として大きな影響力を持っています。さらに、ローコストで始められる点からも、今後SNS運用のスキルは必須になると考えられます。 本プログラムでは、企画・撮影・編集の実践と分析を通して、感覚や一過性に頼らず、再現性を持ち、長期的かつ多方面で活用できる運用力を養成します。						
到達目標	1. ジャンルごとに最適な企画を根拠を持って考案できる。 2. 撮影準備から実際の撮影までを計画立てて進めることができる。 3. ユーザー目線で細部までこだわった動画制作ができる。 4. データを元にPDCAを回し、SNS運用ができる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月15日	講義・演習	SNSマーケティング、縦型動画の基礎を学ぶ～企画編～	分析シートの記入・授業の復習
2	5月13日	講義・演習	縦型動画の基礎を学ぶ～編集編～	分析シートの記入・授業の復習
3	5月20日	講義・演習	1から企画考案・プレゼン	分析シートの記入・授業の復習
4	5月27日	講義・演習	縦型動画運用　～実際に投稿しよう～	分析シートの記入・授業の復習
5	6月3日	講義・演習	縦型動画運用　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
6	6月10日	講義・演習	縦型動画運用　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
7	6月17日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう①　～企画考案・プレゼン～	分析シートの記入・授業の復習
8	6月24日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう①　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
9	7月1日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう①　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
10	7月8日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう②　～企画考案・プレゼン～	分析シートの記入・授業の復習
11	7月15日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう②　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
12	7月22日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう②　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
13	8月26日	講義・演習	試験	これまでの授業の総括
14	9月9日	講義・演習	イベント実践を通してSNS運用方法を学ぶ	レポート
15	9月16日	講義・演習	イベント実践を通してSNS運用方法を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

スマホ編集アプリ「CapCut/VLLO」、分析用アプリ「TikTok」

科目名	SNS運用基礎(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	上原 優也
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	SNS運用代行・コンサルティング・広告事業・SNSスクール事業運営						
授業の学習内容	現在、SNSは商品認知や購買のきっかけとなるだけでなく、多くのトレンドが生まれる場として大きな影響力を持っています。さらに、ローコストで始められる点からも、今後SNS運用のスキルは必須になると考えられます。 本プログラムでは、企画・撮影・編集の実践と分析を通して、感覚や一過性に頼らず、再現性を持ち、長期的かつ多方面で活用できる運用力を養成します。						
到達目標	1. ジャンルごとに最適な企画を根拠を持って考案できる。 2. 撮影準備から実際の撮影までを計画立てて進めることができる。 3. ユーザー目線で細部までこだわった動画制作ができる。 4. データを元にPDCAを回し、SNS運用ができる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月14日	講義・演習	SNSマーケティング、縦型動画の基礎を学ぶ～企画編～	分析シートの記入・授業の復習
2	10月21日	講義・演習	縦型動画の基礎を学ぶ～編集編～	分析シートの記入・授業の復習
3	10月28日	講義・演習	1から企画考案・プレゼン	分析シートの記入・授業の復習
4	11月4日	講義・演習	縦型動画運用　～実際に投稿しよう～	分析シートの記入・授業の復習
5	11月11日	講義・演習	縦型動画運用　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
6	11月18日	講義・演習	縦型動画運用　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
7	11月25日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう①　～企画考案・プレゼン～	分析シートの記入・授業の復習
8	12月2日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう①　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
9	12月9日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう①　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
10	12月16日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう②　～企画考案・プレゼン～	分析シートの記入・授業の復習
11	1月13日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう②　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
12	1月20日	講義・演習	他者アカウントを伸ばそう②　～分析・再投稿～	分析シートの記入・授業の復習・数値比較
13	2月3日	講義・演習	試験	これまでの授業の総括
14	2月10日	講義・演習	イベント実践を通してSNS運用方法を学ぶ	レポート
15	2月17日	講義・演習	イベント実践を通してSNS運用方法を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

スマホ編集アプリ「CapCut/VLLO」、分析用アプリ「TikTok」

科目名	マネジメント能力(1)	必修選択	選択	年次	1	担当教員	唐澤 淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	アーティストのマネジメント、プロデュースを経て、現在に至る						
授業の学習内容	企業様からの課題、依頼のミッションを遂行する ・資料を作るための資料や情報の収集 ・収集した情報の分析 ・クライアントプレゼンに向けての資料作り ・クライアントへのプレゼンテーション ・（イベントなどあれば）業務遂行						
到達目標	クライアント様が満足いただけるかどうか						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	オリエンテーション・授業内容の説明	※毎回、情報収集と分析は基本準備になります
2	4月21日	講義・演習	案件１＜分析＞	クラス内プレゼンに向けての資料作り
3	5月12日	講義・演習	案件１＜クラス内プレゼン＞	プレゼン資料の修正
4	5月19日	講義・演習	案件１＜クラス内プレゼン＞	プレゼン資料の完成版作成
5	5月26日	講義・演習	マーケティングについて【講義】	案件２の情報収集と分析
6	6月2日	講義・演習	案件２＜分析＞	
7	6月9日	講義・演習	案件２＜企業様説明会／分析＞	クラス内プレゼンに向けての資料作り
8	6月16日	講義・演習	案件２＜クラス内プレゼン＞	プレゼン資料の修正
9	6月23日	講義・演習	案件２＜クラス内プレゼン＞	プレゼン資料の完成版作成
10	6月30日	講義・演習	案件２＜企業様プレゼン＞	
11	7月7日	講義・演習	＝＝＝以下、同様に案件に応じて授業を対応＝＝H14	
12	7月14日	講義・演習		
13	9月8日	講義・演習		
14	9月15日	講義・演習	イベント実践を通してマネージャー業務を学ぶ□	レポート
15	9月22日	講義・演習	イベント実践を通してマネージャー業務を学ぶ□	レポート
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	マネジメント能力(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	唐澤 淳
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	アーティストのマネジメント、プロデュースを経て、現在に至る						
授業の学習内容	後期では、前期で構築した企画案をもとに、さらに内容を深めて具体化していきます。企業や教員からのフィードバックをもとにブラッシュアップを行い、必要に応じて簡易的なプロトタイプや検証を実施します。提案内容を説得力のある形でまとめた最終企画書を作成し、外部関係者に向けてプレゼンテーションを行います。授業の最後にはプロジェクト全体を振り返り、自らの学びと成長を言語化・記録します。実践的な企画力、発信力、自己評価力の向上を目指します。						
到達目標	プロトタイプや具体的資料を通して、提案の説得力や実行力を高めることができる チームで最終プレゼンテーションを完成させ、外部関係者に対して自信を持って発表できる 最後にプロジェクト全体を振り返り、自らの成長や改善点を言語化・記録できる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月14日	講義・演習	後期ガイダンス・進捗確認	課題理解と情報収集
2	10月21日	講義・演習	解決策ブラッシュアップ①	課題理解と情報収集
3	10月28日	講義・演習	解決策ブラッシュアップ②	課題理解と情報収集
4	11月4日	講義・演習	プロトタイプ設計①(モデル化)	課題理解と情報収集
5	11月11日	講義・演習	プロトタイプ設計②(簡易モデル制作)	課題理解と情報収集
6	11月18日	講義・演習	フィードバック収集	課題理解と情報収集
7	11月25日	講義・演習	提案内容の最終調整	課題理解と情報収集
8	12月2日	講義・演習	最終企画書作成①	課題理解と情報収集
9	12月9日	講義・演習	最終企画書作成②	課題理解と情報収集
10	12月16日	講義・演習	最終プレゼン練習①	課題理解と情報収集
11	1月13日	講義・演習	最終プレゼン練習②	課題理解と情報収集
12	1月20日	講義・演習	最終プレゼンテーション	課題理解と情報収集
13	2月3日	講義・演習	囚りかえり・評価・報告書作成	課題理解と情報収集
14	2月10日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Planning Advance(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	高田雄貴
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60 (4単位)		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習内容	[1] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画（プランニング）についての立案知識を学習する [2] 音楽ビジネスのコア3ビジネスのうちイベント（コンサート/ライブ他）企画の実施についての実践知識を学習する [3] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画（プランニング）について学ぶ中から日常の実務を習得する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを調査する事で音楽業界で就業する為の知識を構築する [2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で音楽業界で即戦力となりうる為に必要な知識を構築する [3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で業界人として必要な心構えを構築する						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義・演習	時間の流れを企画する	レポート
2	4月24日	講義・演習	企画の基本を確認する	レポート
3	5月8日	講義・演習	企画の準備作業について理解する	レポート
4	5月15日	講義・演習	地域催事の企画立案を行う	地域で行われている年間催事の調査・レポート
5	5月22日	講義・演習	地域催事の企画立案を発表する	レポート
6	5月29日	講義・演習	野外フェスティバルの企画立案を行う	今年度開催される野外音楽フェスティバルの調査
7	6月5日	講義・演習	野外フェスティバルの企画立案を発表する	レポート
8	6月12日	講義・演習	ビジネスモデルと企画を理解する	レポート
9	6月19日	講義・演習	出演者をキャスティングするにはを理解する	音楽事業者協会と音楽制作者連盟についての調査を行う
10	7月3日	講義・演習	会場のタイプと仕組みを理解する	公益社団法人 全国公立文化施設協会についての調査を行う
11	7月10日	講義・演習	季節型催事の企画立案を行う	レジャー白書の調査
12	7月17日	講義・演習	季節型催事の企画立案を発表する	レポート
13	8月21日	講義・演習	企画と調査を理解する	レポート
14	8月28日	講義・演習	イベント実践を通してプランニング力を学ぶ	レポート
15	9月11日	講義・演習	イベント実践を通してプランニング力を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習			授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます。□	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Planning Advance(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	高田雄貴
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	コンサート企画制作会社キョードー東京にてイベント・ツアー制作等を担当、独立後ライブ制作の他フジテレビお台場冒険王等のライブイベントの制作にも携わる						
授業の学習内容	[1] 音楽ビジネスにおける必須能力である、企画（プランニング）についての知識を用いて、プランニングの学習を行う [2] 音楽ビジネスの企画（プランニング）学習を通じてマーケットリサーチの学習を行う [3] 音楽ビジネスにおける基礎能力である、企画（プランニング）について学ぶ中から企画実務の基本を学習する						
到達目標	[1] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスのコアを知る事で、業界人として必要なビジネスモデルを構築出来るようになる [2] 音楽業界への就職に必要な音楽ビジネスの仕組みを知る事で、業界人として必要な提案力を構築出来るようになる [3] 音楽業界への就職後に必要な音楽ビジネスの実務を知る事で、業界人として必要な心構えを自信に変えられるようになる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	ヒットの仕組みを知る	昨年飛び出したヒットの研究レポート
2	10月16日	講義・演習	フェスティバル受けする出演者を知る	アーティストのランキングリスト作成
3	10月30日	講義・演習	同世代の企画を検証する	大学リストの作成
4	11月6日	講義・演習	全国の大学で開催されているイベント（学園祭）を調査する	学園祭イベント一覧調査レポート
5	11月13日	講義・演習	企画を通すには（プレゼンテーション技術）を学ぶ	TEDの研究レポート
6	11月20日	講義・演習	採用された企画を制作する（会議技法）	議事録ドリブン演習
7	11月27日	講義・演習	採用された企画を制作する（ガントチャートによる作業進行管理技法）	レポート
8	12月4日	講義・演習	予算の管理を考える	機材使用量の調査研究レポート
9	12月11日	講義・演習	プロモーションについて検証する（広告と広報）	CM好感度調査レポート
10	12月18日	講義・演習	企画における印刷媒体を理解する	新聞協会の研究レポート
11	1月15日	講義・演習	企画は流行を読むことから始まることを学ぶ	SMBCコンサルティングの資料を検証
12	1月22日	講義・演習	スポーツイベントのビジネスモデルを知る	東京オリンピック開催概要の調査
13	2月5日	講義・演習	依頼型企画の立案とプレゼン方法を学ぶ	企画立案資料の準備収集
14	2月12日	講義・演習	イベント実践を通してプランニング力を学ぶ	（ワークシート）
15	2月19日	講義・演習	イベント実践を通してプランニング力を学ぶ	（ワークシート）
準備学習　時間外学習			授業時間内の制作が中心で、教室内で扱えないものを時間外学習として進めます	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	WEB制作(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	ISAO
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	IT企業にてシステム開発・運用						
授業の学習内容	生活や仕事のほとんどがインターネットに繋がる今、インターネットの理解はもちろん、発信者側としてのリテラシーとして、PC操作やWEBの根本的な仕組みを学びます。それらを通して、プログラム言語、デザイン能力、情報整理力など、さまざま能力を学びます。これからを生きる学生にはぜひとも押さえたい科目です。						
到達目標	PC操作やWEBの根本的な仕組みの理解と扱いができるようになる。 情報整理力・自分自身のアピールなどITを活用できるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義・演習	PC操作の基本を知る	レポート
2	4月24日	講義・演習	ファイルやフォルダの概念を理解する	レポート
3	5月8日	講義・演習	各種フォルダの扱い・データの整理の仕方を学ぶ	レポート
4	5月15日	講義・演習	各種データを適切なソフトで開き閲覧できるようにする	レポート
5	5月22日	講義・演習	WEBやネットワークの基礎を知る	レポート
6	5月29日	講義・演習	WEB制作に必要な環境や手順を知る	レポート
7	6月5日	講義・演習	WEBで使われる言語(HTML,CSS)を理解する	レポート
8	6月12日	講義・演習	WEBページをひとつ作成する(原稿作成)	レポート
9	6月19日	講義・演習	WEBページをひとつ作成する(素材調達)	レポート
10	7月3日	講義・演習	WEBページをひとつ作成する(コーディング)	レポート
11	7月10日	講義・演習	WEBページをひとつ作成する(コーディング)	レポート
12	7月17日	講義・演習	WEBページをひとつ作成する(レスポンシブ対応)	レポート
13	8月21日	講義・演習	テスト	レポート
14	8月28日	講義・演習	イベント実践を通してITスキルを学ぶ	レポートの提出
15	9月11日	講義・演習	イベント実践を通してITスキルを学ぶ	レポートの提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	WEB制作(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	ISAO
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	IT企業にてシステム開発・運用						
授業の学習内容	生活や仕事のほとんどがインターネットに繋がる今、インターネットの理解はもちろん、発信者側としてのリテラシーとして、PC操作やWEBの根本的な仕組みを学びます。それらを通して、プログラム言語、デザイン能力、情報整理力など、さまざま能力を学びます。これからを生きる学生にはぜひとも押さえたい科目です。						
到達目標	PC操作やWEBの根本的な仕組みの理解と扱いができるようになる。 情報整理力・自分自身のアピールなどITを活用できるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	デザインの基礎を知る	レポート
2	10月16日	講義・演習	Wordを使って見やすい文章を作る	レポート
3	10月30日	講義・演習	Wordを使って見やすい表を作る	レポート
4	11月6日	講義・演習	Photoshopを使って掲示物等のデザインを作る	レポート
5	11月13日	講義・演習	エクセルの基本操作を学ぶ	レポート
6	11月20日	講義・演習	エクセルの装飾を学ぶ	レポート
7	11月27日	講義・演習	エクセルの関数を学ぶ	レポート
8	12月4日	講義・演習	データの扱いについて学ぶ	レポート
9	12月11日	講義・演習	エクセルでデータ管理するためのワークシート作成	レポート
10	12月18日	講義・演習	エクセルでデータ管理するためのワークシート作成	レポート
11	1月15日	講義・演習	エクセルでガントチャートを作成する	レポート
12	1月22日	講義・演習	エクセルで案件管理表を作成する	レポート
13	2月5日	講義・演習	テスト	レポート
14	2月12日	講義・演習	イベント実践を通してITスキルを学ぶ	レポートの提出
15	2月19日	講義・演習	イベント実践を通してITスキルを学ぶ	レポートの提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	マネジメント実践ゼミ(5) マネジメント実践ゼミB(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	尾中彩美
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60 （4単位）		
教員の略歴	広告代理店にて制作進行などを担当。大学にてグラフィックデザイン学科助手を務める。						
授業の学習内容	自分の今までの制作物と自分自身をプレゼンテーションするための媒体（WEB、紙などのメディア）を制作する。自分の考え、企画、実績を人に伝えるデザインの成果物を通じてエンターテインメント業界との繋がりや、社会へ出た後の仕事の獲得のためのスキルアップを目指していく。また同時に、言葉での表現のスキルアップも目指していく。 既存のデザインの分析＆リサーチ→自己分析→自己分析の結果のアウトプットを行う。						
到達目標	就職活動を視野に入れ、自分自身のプレゼンテーションをできるようにする。 人前で自分の考えやスキルセットを話す練習を行い、慣れるようにする。 ビジュアルコミュニケーションのスキルアップを目指す。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義・演習	オリエンテーション・講義	Teamsを使用
2	4月25日	講義・演習	デザインの実例のリサーチ	学校外での展覧会見学
3	5月9日	講義・演習	リサーチ結果のプレゼンテーション	Teamsを使用
4	5月16日	講義・演習	課題①自分自身のプレゼンテーション（Google スライド）	作業
5	5月23日	講義・演習	課題①自分自身のプレゼンテーション（Google スライド）	Teamsを使用
6	5月30日	講義・演習	課題2：WEBサイトの構築（STUDIO）	構成作成
7	6月6日	講義・演習	課題2：WEBサイトの構築（STUDIO）	WEBサイト作成作業
8	6月13日	講義・演習	課題2：WEBサイトの構築（STUDIO）（講評会）	Teamsを使用
9	6月20日	講義・演習	課題3：紙のポートフォリオの作成	構成作成
10	7月4日	講義・演習	課題3：紙のポートフォリオの作成	作業
11	7月11日	講義・演習	課題3：紙のポートフォリオの作成	作業
12	7月18日	講義・演習	課題3：紙のポートフォリオの作成（講評会）	課題4の準備
13	8月22日	講義・演習	課題4：授業の総括のプレゼンテーション、自己紹介	ブラッシュアップ
14	8月29日	講義・演習	イベント実践を通してデザインマネジメント業務を学ぶ	レポート
15	9月12日	講義・演習	イベント実践を通してデザインマネジメント業務を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	マネジメント実践ゼミ(6) マネジメント実践ゼミB(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	石井慎一郎
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60 （4単位）		
教員の略歴	イラスト・デザイン制作を中心に活躍。大学にてグラフィックデザイン学科研究室助手。						
授業の学習内容	プロモーション活動に必要な広告・宣伝。それを可能とする多種多様なデザインツールは近年の技術の向上や普及により、デザインのハードルを下げ、以前よりオープンなものになっている。今後デザインとはデザイナーのみではなく、一般的に他者へ発信するツールとして、必要なスキルの一つとして身につけておくものではないだろうか。 この科目ではイベントのプロモーションパンフレットを成果物とし、グラフィックデザインにおける冊子構成の基礎知識とともに、コンテンツを作成するための知識を身につけ、講師に指導を受けながらスキル習得していく。						
到達目標	他者に自分自身のアイデアや意図を提案できるようになる。 個人ではなく、複数人で作品を作り上げる能力や考え方を身につける。 成果物を作成するためのデザインツールの技術の向上（Adobe Illustrator,Adobe Photoshopなど）を目指す。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	【講義】初回オリエンテーション 【演習】個人レイアウト課題	学生のバックグラウンド調査のための演習課題の実施
2	10月10日	講義・演習	【講義】グラフィックデザインにおける構成について 【演習】個人レイアウト課題のブラッシュアップ	演習に向けて前週の課題を分析する。
3	10月17日	講義・演習	第一課題に向けてプランニング・準備を開始する。	プランニングに向けてリサーチする。
4	10月31日	講義・演習	第一課題準備・制作時間	プレゼンテーションに向けて準備を行う。
5	11月7日	講義・演習	第一課題プレゼンテーション・講評会	プレゼンテーションに向けて準備を行う。
6	11月14日	講義・演習	最終課題に向けてプランニング・準備を開始する。	プランニングに向けてリサーチする。
7	11月21日	講義・演習	制作時間・個別制作チェック	次回の制作チェックに向けて制作を行う。
8	11月28日	講義・演習	制作時間・個別制作チェック	次回の制作チェックに向けて制作を行う。
9	12月5日	講義・演習	最終課題 中間プレゼンテーション・講評会	プレゼンテーションに向けて準備を行う。
10	12月12日	講義・演習	制作時間・個別制作チェック	次回の制作チェックに向けて制作を行う。
11	12月19日	講義・演習	制作時間・個別制作チェック	次回の制作チェックに向けて制作を行う。
12	1月16日	講義・演習	制作時間 予備日	次回の講評会に向けて制作を行う。
13	1月23日	講義・演習	最終課題プレゼンテーション・講評会	プレゼンテーションの準備
14	1月30日	講義・演習	イベント実践を通してデザインマネジメント業務を学ぶ	レポート
15	2月13日	講義・演習	イベント実践を通してデザインマネジメント業務を学ぶ	レポート
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	演技概論(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	深谷晃成
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	2010年に尚美学園大学にて若林一男教授により指導を受ける。2013年にシアターグリーン学生芸術祭、並びに道とん堀学生演劇祭にて最優秀賞受賞後、劇団「第27班」の活動を本格始動。若手演出家コンクール最優秀賞受賞。						
授業の学習内容	「演技の基礎」は演技を表現する上で欠かせない当然のスキルです。 演技の基礎は奥深く、楽器やダンス・絵画にも近い「学ばなければ表現をすることが出来ない」技術です。 この授業では実戦で活きる基礎を知ってもらい、身体に落とし込み、いついかなる役を演じることになってもブレることのない強いスタイルを身に着けて欲しいと考えています。 「上手い演技とは何か？」という問いに、皆さん自身でその答えを見つけられるような授業をしたいと思っています。						
到達目標	演技を構成する四項目「発声」「表情」「視線」「動作」のコントロールができるようになる 会話演技における「言う」「聞く」「居る」を理解し、技術として身に着ける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義・演習	プロとしての心構え・演技を学ぶために大切なことを知る（オリエンテーション）	授業内で取ったメモや体験したことを反芻する
2	4月25日	講義・演習	基本的な発声練習（腹式呼吸）が出来るようになる	個人練習・復習
3	5月9日	講義・演習	実践的な発声練習（音域コントロール、活舌）に挑戦する。	日常生活の中で、授業内で学んだことを活かしてみる
4	5月16日	講義・演習	「居る技術」そこに存在することの技術を学ぶ	リラックス状態が演技でもあることを知る
5	5月23日	講義・演習	「日常」と「非日常」の演じ分けを学ぶ	日常生活の中にある日常と非日常の違いを感じる
6	5月30日	講義・演習	「言う」「アクション」のテクニックを身に着ける	日常生活の中にある相手の心を動かす言葉を見つける
7	6月6日	講義・演習	「聞く」「リアクション」のテクニックを身に着ける	日常生活の中にあるリアクションを見つける
8	6月13日	講義・演習	「反応」の大切さを知る	授業内容の復習（質問内容をまとめておく）
9	6月20日	講義・演習	「とぼける」という演技概念を理解する	授業内容の復習（質問内容をまとめておく）
10	7月4日	講義・演習	「とぼける」で演技を実践してみる	授業内容の復習（質問内容をまとめておく）
11	7月11日	講義・演習	「とぼける」で台詞を読む	配布した台本を読んでみる
12	7月18日	講義・演習	「とぼける」で台本を読む	配布した台本で復習する
13	8月22日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月29日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			個人練習・復習	

【使用教科書・教材・参考書】

有名戯曲・深谷既成戯曲使用

科目名	演技概論(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	深谷晃成
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	2010年に尚美学園大学にて若林一男教授により指導を受ける。2013年にシアターグリーン学生芸術祭、並びに道とん堀学生演劇祭にて最優秀賞受賞後、劇団「第27班」の活動を本格始動。若手演出家コンクール最優秀賞受賞。						
授業の学習内容	「演技の基礎」は演技を表現する上で欠かせない当然のスキルです。 演技の基礎は奥深く、楽器やダンス・絵画にも近い「学ばなければ表現をすることが出来ない」技術です。 この授業では実戦で活きる基礎を知ってもらい、身体に落とし込み、いついかなる役を演じることになってもブレることのない強いスタイルを身に着けて欲しいと考えています。 「上手い演技とは何か？」という問いに、皆さん自身でその答えを見つけられるような授業をしたいと思っています。						
到達目標	演技を構成する四項目「発声」「表情」「視線」「動作」のコントロールができるようになる 会話演技における「言う」「聞く」「居る」を理解し、技術として身に着ける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	プロとしての活動に必要なことを学ぶ（オリエンテーション）	
2	10月10日	講義・演習	前期基礎をおさらいする	前期の復習を行っておく
3	10月17日	講義・演習	台本読解を学ぶ	配布台本をしっかり読んでおく
4	10月31日	講義・演習	役作りを学ぶ	役の履歴書を書いてくる
5	11月7日	講義・演習	重複表現について学ぶ	人間の理性と感情の使い分けを日常生活の中で理解する
6	11月14日	講義・演習	泣き演技・感情演技について学ぶ	生理現象について考えをまとめてくる
7	11月21日	講義・演習	「とぼける」の実践的な使い方を理解する	配布台本をしっかり読んでおく
8	11月28日	講義・演習	実践演習により「演技」のスキルを上げる	配布台本を覚えてくる
9	12月5日	講義・演習	「台本」演習により実践的な演技を身に着ける	ミザンスを把握し、復習しておく
10	12月12日	講義・演習	演出を付け、稽古を通して演技の上達を学ぶ	演出を再確認し、次授業に取りこぼしが無いようにする
11	12月19日	講義・演習	演出を受け、作品作りにおける俳優の仕事を理解する。	演出を再確認し、次授業に取りこぼしが無いようにする
12	1月16日	講義・演習	総合演習：台本の実演	授業の学んだことを、来年度以降にも活かせるように総括する。
13	1月23日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	1月30日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月13日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			個人練習・復習	

【使用教科書・教材・参考書】

有名戯曲・深谷既成戯曲使用

科目名	演技ゼミ(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	南翔太
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	映画「大怪獣バトルウルトラ銀河伝説」ドラマ「旅人検視官道場修作」舞台「夫婦漫才」CMなどの出演、2003年～現在						
授業の学習内容	演技の授業を通して人とのコミュニケーション能力を養い、自分の個性を発見し磨く、自発的に動ける力を身に付ける。お芝居を通し伝える事や相手との会話等で気持ちを汲み取る力を身につける。また役者としての身体の使い方、声の出し方、魅せ方を学ぶ。授業の集大成として公演をする事で本番の緊張感の中で表現することの楽しさと協調性を経験する。						
到達目標	自分の個性を知りまた客観的にどう見えているのかを理解し表現できるようになる。また演技の楽しさを知り華のある役者になる。一緒に作品をつくる仲間を尊重し、良いコミュニケーションを取れるようになる。自発的に行動できる様になる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	授業説明、自己紹介、シアターゲームと発声練習（発声台本配布）	趣味や特技について話せるようにしてくる
2	5月7日	講義・演習	シアターゲーム、身体の使い方と魅せ方	自分がどう見えているのかを理解してくる
3	5月14日	講義・演習	公演に向けての説明、公演台本読み（台本配布）	公演台本の読み解きをしてくる
4	5月21日	講義・演習	公演台本読み合わせ	登場人物や物語の背景を考える
5	5月28日	講義・演習	本読みをしながら自分がどの役を演じたいか選びオーディション対策をする	希望の役を決め台詞を覚え準備をする
6	6月4日	講義・演習	公演配役オーディション	演じること以外で作品に対して自分のできる事、したい事を考える
7	6月11日	講義・演習	配役を決め立ち稽古、役割発表と説明	自分の役と作品について役割を理解し準備する
8	6月18日	講義・演習	シーン毎の立ち稽古	相手役と話し合い、掛け合いのトレーニングをする
9	6月25日	講義・演習	小道具等の効果的な使い方を取り入れ心と身体をリンクさせる	役の心情と動きが一体となる様に考え準備をする
10	7月2日	講義・演習	通し稽古により役の心情の流れを掴む	どんな状況下でも台詞が出てくるようにトレーニングを重ねる
11	7月9日	講義・演習	音響や照明を入れ本番に近い状態で演じる事により良い緊張感を経験する	トラブルが起きた時でも対応できるよう役への理解を深め動けるように準備をしておく
12	7月16日	講義・演習	テスト	テストを振り返り、役だけではなく作品に対し自分に何ができるかを改めて考え仲間とコミュニケーションを深める
13	8月27日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月10日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	8月17日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			授業中に伝えた課題に1週間かけて取り組む	

【使用教科書・教材・参考書】

授業毎に講師が準備、必要に応じて配布する

科目名	演技ゼミ(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	南翔太
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	映画「大怪獣バトルウルトラ銀河伝説」ドラマ「旅人検視官道場修作」舞台「夫婦漫才」CMなどの出演、2003年～現在						
授業の学習内容	演技の授業を通して人とのコミュニケーション能力を養い、自分の個性を発見し磨く、自発的に動ける力を身に付ける。お芝居を通し伝える事や相手との会話等で気持ちを汲み取る力を身につける。また役者としての身体の使い方、声の出し方、魅せ方を学ぶ。授業の集大成として公演をする事で本番の緊張感の中で表現することの楽しさと協調性を経験する。						
到達目標	自分の個性を知りまた客観的にどう見えているのかを理解し表現できるようになる。また演技の楽しさを知り華のある役者になる。一緒に作品をつくる仲間を尊重し、良いコミュニケーションを取れるようになる。自発的に行動できる様になる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	エチュードを通して役作りの引き出しを増やす	普段の生活から人間観察をし、演じる時に使えるようインプットをする
2	10月15日	講義・演習	第三者の目線を持ち、演じている自分を客観的に見る	視野を広げる事を意識し、客観的に自分を見られる力をつけていく
3	10月22日	講義・演習	公演に向けての説明、公演台本読み（台本配布）	公演台本の読み解きをしてくる
4	10月29日	講義・演習	本を読み解き自分がどの役に適しているか考えオーディション対策をする	台詞を覚えオーディションに臨む準備をする
5	11月5日	講義・演習	公演配役オーディション	自分の出来ることを率先して考える（衣装、小道具、制作など）
6	11月12日	講義・演習	配役を決め立ち稽古、役割発表と説明	自分の役と作品について役割を理解し準備する
7	11月19日	講義・演習	自分の演技プランで演じる	上手くできたところ、出来なかった所を見つけ何故そうなったかを考える
8	11月26日	講義・演習	自分、共演者が魅力的に舞台に立てるよう演じる	なぜこの台詞があり、このような動きになっているのかを見つけ演技に活かす
9	12月3日	講義・演習	衣装、小道具を用意しての通し稽古をし、役の心情を掴む	無駄な動きや癖などを見つけ修正する
10	12月10日	講義・演習	1度全部を忘れる	先読み芝居をしない為、新鮮な気持ちで台本を読み直す
11	12月17日	講義・演習	音響や照明を入れ本番に近い状態で演じる事により公演をリアルにイメージする	トラブルが起きた時でも対応できるよう役への理解を深め動けるように準備をしておく
12	1月14日	講義・演習	テスト	テストを振り返り、役だけではなく作品に対し自分に何ができるかを改めて考え仲間とコミュニケーションを深める
13	1月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月4日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			授業中に伝えた課題に1週間かけて取り組む	

【使用教科書・教材・参考書】

授業毎に講師が準備、必要に応じて配布する

科目名	ライブゼミ(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	清水賢治
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	ライブサポートやレコーディング（L'Arc～en～Ciel「DUNE」 / アニメタルレディー「アニメタル・レディー・マラソン」 / 44MAGNUM「44MAGNUM」など）で、キーボーディストとして活動。						
授業の学習内容	前期, 後期に各1回 行われる、Actor's ライブを発表の場（実技テスト）とし、 ライブにおける歌唱、パフォーマンスを実践する。校内（LS-1 または、LS-2）でのライブを行う。 前期・後期ともに、ライブでは、カラオケとバンド演奏による歌唱を併用する。 志あるものは、弾き語りにも、積極的に取り組む。						
到達目標	Actor's ライブという実践の場に向けて、 企画制作、音響、照明、ミュージシャンの学生とも連携を取り、準備を行い、 コミュニケーション・スキルの向上を目指すと共に ライブ・イベントを作り上げる過程を学ぶ。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	年間を通しての授業説明　前期 ライブに向け、各自の役割、ライブのテーマを決め、選曲などを行う。歌唱における発声の要点についても学ぶ。	前期 ライブというイベントを企画する上で、対象とする観客に楽しんでもらえるよう、内容を工夫する。
2	4月21日	講義・演習	観客に楽しんでもらえる内容であるか？ 歌いたいから…だけではなく、エンターテインメント性の高いものを目指す。	動画サイトや映像作品において、ライブにおける歌唱やパフォーマンスを表現者としての視点から、日々 研究する。
3	5月12日	講義・演習	台本、資料音源、歌詞、譜面など、後に企画制作や音響、照明コースの学生への共有が必要となるデータを理解する。	オーディオ編集ソフト、テキスト編集ソフトなどについて、積極的に自己学習する。
4	5月19日	講義・演習	各楽曲に対して、誰が歌うのか、メイン・パート、コーラス・パートをどうするか、など決定する。	日頃から、歌唱レパートリーを増やし、これまで歌ったことのない楽曲も、積極的に個人練習を行う。
5	5月26日	講義・演習	各楽曲に対して、イベント全体を通しての流れを考慮し、演目の曲順を決定する。	ライブ・イベントを共通の目標とし、クラスメイトへの敬意、感謝、配慮をもって、チームワークを高める。
6	6月2日	講義・演習	早い時点で、歌詞の暗記に取り組み、より質の高いパフォーマンスを行う。	歌唱表現に説得力を持たせる為、歌詞の内容や作品中のキャラクターの心情を理解し、歌唱箇所の歌詞を暗記する。
7	6月9日	講義・演習	前期 ライブに向けての各楽曲のリハーサルを行う。楽曲に適した衣装を早い時点でイメージし、準備を行う。	それぞれの楽曲に対して、動画サイトのライブや、カバー・バージョンなどを参考に、自分はどう表現するか計画する。
8	6月16日	講義・演習	前期 ライブに向けてのブロック通しリハーサルを行う。	リハーサルにおいて、客観的に振り返り・向上ができるよう、録音や録画し、チェックすることを習慣化する。
9	6月23日	講義・演習	前期 ライブに向けての各楽曲のリハーサルを行う。楽曲に適した衣装を早い時点でイメージし、準備を行う。	音響・照明・制作など、関係各部署と連絡を取り、ひとつのイベント成功に向け、自らが行動できることを実践する。
10	6月30日	講義・演習	前期 ライブ本番に向けての通し稽古①。本番同様の衣装を着用し、エンターテインメント性を向上させる。	スタッフ学生からの指示や要望を受け止め、彼らともチームであることを認識し、互いへの敬意をもって、取り組む。
11	7月7日	講義・演習	前期 ライブ本番に向けての通し稽古②。本番同様の衣装を着用し、意識の上でも本番を想定し取り組む。	ライブの形式が、有観客・無観客 いずれの場合でも、観て聴いてくださる方々へ届けるイメージを明確に意識する。
12	7月14日	講義・演習	前期 Actor's LIVE 本番日　サウンドチェック、ゲネリハからライブ本番、撤収に至る過程を実践する。	ライブ本番に向け、自らのパフォーマンスが最良の状態になるよう、コンディションを整える。
13	8月25日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	9月8日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月15日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

筆記用具、録音や録画の為のスマホやタブレット端末など。

科目名	ライブゼミ(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	清水賢治
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	ライブサポートやレコーディング（L'Arc～en～Ciel「DUNE」 / アニメタルレディー「アニメタル・レディー・マラソン」 / 44MAGNUM「44MAGNUM」など）で、キーボーディストとして活動。						
授業の学習内容	前期, 後期に各1回 行われる、Actor's ライブを発表の場（実技テスト）とし、 ライブにおける歌唱、パフォーマンスを実践する。校内（LS-1 または、LS-2）でのライブを行う。 前期・後期ともに、ライブでは、カラオケとバンド演奏による歌唱を併用する。 志あるものは、弾き語りにも、積極的に取り組む。						
到達目標	Actor's ライブという実践の場に向けて、 企画制作、音響、照明、ミュージシャンの学生とも連携を取り、準備を行い、 コミュニケーション・スキルの向上を目指すと共に ライブ・イベントを作り上げる過程を学ぶ。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義・演習	前期ライブの反省点を踏まえ、後期 ライブに向け、各自の役割、ライブのテーマを決め、選曲などを行う。	後期 ライブというイベントを企画する上で、対象とする観客に楽しんでもらえるよう、内容を工夫する。
2	10月13日	講義・演習	観客に楽しんでもらえる内容であるか？ 歌いたいから…だけではなく、エンターテインメント性の高いものを目指す。	動画サイトや映像作品において、ライブにおける歌唱やパフォーマンスを表現者としての視点から、日々 研究する。
3	10月20日	講義・演習	台本、資料音源、歌詞、譜面など、後に企画制作や音響、照明コースの学生への共有が必要となるデータを理解する。	オーディオ編集ソフト、テキスト編集ソフトなどについて、積極的に自己学習する。
4	10月27日	講義・演習	各楽曲に対して、誰が歌うのか、メイン・パート、コーラス・パートをどうするか、など決定する。	日頃から、歌唱レパートリーを増やし、これまで歌ったことのない楽曲も、積極的に個人練習を行う。
5	11月3日	講義・演習	各楽曲に対して、イベント全体を通しての流れを考慮し、演目の曲順を決定する。	ライブ・イベントを共通の目標とし、クラスメイトへの敬意、感謝、配慮をもって、チームワークを高める。
6	11月10日	講義・演習	早い時点で、歌詞の暗記に取り組み、より質の高いパフォーマンスを行う。	歌唱表現に説得力を持たせる為、歌詞の内容や作品中のキャラクターの心情を理解し、歌唱箇所の歌詞を暗記する。
7	10月17日	講義・演習	後期 ライブに向けての各楽曲のリハーサルを行う。楽曲に適した衣装を早い時点でイメージし、準備を行う。	それぞれの楽曲に対して、動画サイトのライブや、カバー・バージョンなどを参考に、自分はどう表現するか計画する。
8	10月24日	講義・演習	後期 ライブに向けてのブロック通しリハーサルを行う。	リハーサルにおいて、客観的に振り返り・向上ができるよう、録音や録画し、チェックすることを習慣化する。
9	12月1日	講義・演習	後期 ライブに向けての各楽曲のリハーサルを行う。楽曲に適した衣装を早い時点でイメージし、準備を行う。	音響・照明・制作など、関係各部署と連絡を取り、ひとつのイベント成功に向け、自らが行動できることを実践する。
10	12月8日	講義・演習	後期 ライブ本番に向けての通し稽古①。本番同様の衣装を着用し、エンターテインメント性を向上させる。	スタッフ学生からの指示や要望を受け止め、彼らともチームであることを認識し、互いへの敬意をもって、取り組む。
11	12月15日	講義・演習	後期 ライブ本番に向けての通し稽古②。本番同様の衣装を着用し、意識の上でも本番を想定し取り組む。	ライブの形式が、有観客・無観客 いずれの場合でも、観て聴いてくださる方々へ届けるイメージを明確に意識する。
12	1月19日	講義・演習	後期 ライブ本番日　サウンドチェック、ゲネリハからライブ本番、撤収に至る過程を実践する。	ライブ本番に向け、自らのパフォーマンスが最良の状態になるよう、コンディションを整える。
13	2月2日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月9日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月16日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ヴォーカルトレーニング(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	西涼子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	昭和音楽短期大学声楽科卒業後ヤマハのコンテストで優秀賞を受賞し,その後多数アーティストのバックコーラスとしてレコーディングやTV番組、コンサートツアーに参加。現在オリジナル呼吸法で企業向けの研修も行っている。						
授業の学習内容	①歌に必要な呼吸法を身に着けることで、しっかりと歌うための声を作り出し響きの良い身体作りを学ぶ ②歌うことで更なる表現力を学び演技等への表現力へと繋げる ③自分をアピールできる楽曲を探し、習得してほしい						
到達目標	歌うための身体作りやしっかりとした音感を習得し歌うための表現力を身に着け歌うための技術のレベルアップを達成する						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義・演習	前期の各自の目標制作	前期の目標確認
2	4月24日	講義・演習	歌う時の姿勢・呼吸法の基礎の復習①一人ずつワンコーラス歌を発表	姿勢・呼吸法のおさらい①発表曲のおさらい
3	5月8日	講義・演習	歌う時の姿勢・呼吸法の基礎の復習②一人ずつワンコーラス歌を発表	姿勢・呼吸法のおさらい②発表曲のおさらい
4	5月15日	講義・演習	歌う時の姿勢・呼吸法の基礎の復習③一人ずつワンコーラス歌を発表	姿勢・呼吸法のおさらい③発表曲のおさらい
5	5月22日	講義・演習	歌う時の土台になる筋力のトレーニング復習①一人ずつワンコーラス歌を発表	筋力トレーニングのおさらい①発表曲のおさらい
6	5月29日	講義・演習	歌う時の土台になる筋力のトレーニング復習②一人ずつワンコーラス歌を発表	筋力トレーニングのおさらい②発表曲のおさらい
7	6月5日	講義・演習	声を作り出す筋力①・リップロールのトレーニング・一人ずつワンコーラス歌を発表	声筋力①・リップロールトレーニングのおさらい・発表曲のおさらい
8	6月12日	講義・演習	声を作り出す筋力②・タンロールのトレーニング・一人ずつワンコーラス歌を発表	声筋力②・タンロールトレーニングのおさらい・発表曲のおさらい
9	6月19日	講義・演習	腹筋強化・舌のトレーニング①・一人ずつワンコーラス歌を発表	腹筋強化・舌のトレーニング①のおさらい・発表曲のおさらい
10	7月3日	講義・演習	腹筋強化・舌のトレーニング②・一人ずつワンコーラス歌を発表	腹筋強化・舌のトレーニング②のおさらい・発表曲のおさらい
11	7月10日	講義・演習	前期の授業内容の確認	前期のトレーニングの復習
12	7月17日	講義・演習	前期の歌のまとめと発表	前期の発表曲の復習
13	8月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月28日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			毎日呼吸法の実践・VTノートを作りすべての注意点を記入・自分の歌った曲は必ず録音する	

【使用教科書・教材・参考書】

配布したプリント・メモ用ノート・録音機器（ipad）・自分が歌う曲の歌詞

科目名	ヴォーカルトレーニング(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	西涼子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	昭和音楽短期大学声楽科卒業後ヤマハのコンテストで優秀賞を受賞し,その後多数アーティストのバックコーラスとしてレコーディングやTV番組、コンサートツアーに参加。現在オリジナル呼吸法で企業向けの研修も行っている。						
授業の学習内容	①歌に必要な呼吸法を身に着けることで、しっかりと歌うための声を作り出し響きの良い身体作りを学ぶ ②歌うことで更なる表現力を学び演技等への表現力へと繋げる ③自分をアピールできる楽曲を探し、習得してほしい						
到達目標	響きの良いからだ楽器を作り上げ、さらに自分を表現できるアピール曲を身に着ける						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	後期の各自の目標制作	後期の目標確認
2	10月16日	講義・演習	一人ずつフルコーラス歌を発表	発表曲のおさらい
3	10月30日	講義・演習	前期のすべてのおさらい	前期内容の確認
4	11月6日	講義・演習	呼吸法・リズム・スケール・半音の復習①一人ずつワンコーラス歌を発表	呼吸法・リズム・スケール・半音のおさらい①発表曲のおさらい
5	11月13日	講義・演習	呼吸法・リズム・スケール・半音の復習②一人ずつワンコーラス歌を発表	呼吸法・リズム・スケール・半音のおさらい②発表曲のおさらい
6	11月20日	講義・演習	呼吸法・リズム・スケール・半音の復習③一人ずつワンコーラス歌を発表	呼吸法・リズム・スケール・半音のおさらい③発表曲のおさらい
7	11月27日	講義・演習	呼吸法・リズム・スケール・半音の復習④一人ずつワンコーラス歌を発表	呼吸法・リズム・スケール・半音のおさらい④発表曲のおさらい
8	12月4日	講義・演習	身体の中で声を鳴らす・胸の響かせ方・一人ずつワンコーラス歌を発表	胸の響かせ方のおさらい・発表曲のおさらい
9	12月11日	講義・演習	身体の中で声を鳴らす・鼻の響かせ方・一人ずつワンコーラス歌を発表	鼻の響かせ方のおさらい・発表曲のおさらい
10	12月18日	講義・演習	身体の中で声を鳴らす・ヘッドの響かせ方・一人ずつワンコーラス歌を発表	ヘッドの響かせ方のおさらい・発表曲のおさらい
11	1月15日	講義・演習	1年間のまとめ	1年間のおさらい
12	1月22日	講義・演習	最後の歌の発表	発表曲のおさらい
13	2月5日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月19日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			毎日呼吸法の実践・VTノートを作りすべての注意点を記入・自分の歌った曲は必ず録音する	

【使用教科書・教材・参考書】

配布したプリント・メモ用ノート・録音機器（ipad)・自分が歌う曲の歌詞

科目名	アテレコ(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	橋本浩志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	外画の吹き替え・アニメやゲーム多数。音響監督。						
授業の学習内容	アフレコ実習を通して表現することの面白さ楽しさを感じてもらう。それぞれの個性を見出し、それを活かした表現で感情、動き、距離感などが映像とうまくシンクロできるよう導く。将来的には授業経験を活かし、舞台や映像などの表現者としても、社会人としても人間的な魅力に満ちた個人に成長してほしい。						
到達目標	アニメの登場人物の感情や作品の世界観やテーマを正しく理解、解釈する。またそれを表現する力を習得させる。また常識の枠を超えたユニークな発想、自身の殻を破るチャレンジ精神を養う。スタジオでのマナーも共に学ぶ。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	アフレコ・吹き替えの歴史から現状までを知る。また基礎の正しい理解。	発声・滑舌・呼吸など基礎力の理解
2	4月21日	講義・演習	マイクを使いフリートークなどで自身の声質、声量、基礎力などを知り、今後の目標課題を理解してもらう。	発声・滑舌・呼吸など基礎力の理解
3	5月12日	講義・演習	マイクを使いフリートークなどで自身の声質、声量、基礎力などを知り、今後の目標課題を理解してもらう。	アクセント・滑舌の見直し
4	5月19日	講義・演習	尺短めのアフレコ題材を使って会話表現やマイクワークなどのアフレコ基礎を学ぶ	アクセント・滑舌の見直し
5	5月26日	講義・演習	尺短めのアフレコ題材を使って会話表現やマイクワークなどのアフレコ基礎を学ぶ	理解できなかった感情やシーンを再考し、演技プランの立て直しなどを図る。
6	6月2日	講義・演習	読み合わせなどをしながら解釈・表現・会話演技の習得を目指す。	理解できなかった感情やシーンを再考し、演技プランの立て直しなどを図る。
7	6月9日	講義・演習	読み合わせなどをしながら解釈・表現・会話演技の習得を目指す。	授業で演じたキャラの感情解釈。レベルアップを目指した予習復習や他生徒との事前リハを繰り返すこと。
8	6月16日	講義・演習	基礎的な事柄がまだクリアできていない人向けに基礎訓練に励む。	発声、呼吸、アクセント・滑舌の見直し
9	6月23日	講義・演習	基礎的な事柄がまだクリアできていない人向けに基礎訓練に励む。	発声、呼吸、アクセント・滑舌の見直し
10	6月30日	講義・演習	アフレコした内容をチェックし、細かい修正を重ねる。 また自身のアイデアを反映させる。	授業で演じたキャラの感情解釈。レベルアップを目指した予習復習や他生徒との事前リハを繰り返すこと。
11	7月7日	講義・演習	アフレコした内容をチェックし、細かい修正を重ねる。 また自身のアイデアを反映させる。	授業で演じたキャラの感情解釈。レベルアップを目指した予習復習や他生徒との事前リハを繰り返すこと。
12	7月14日	講義・演習	後期に向けた個々の目標を確認しつつ、女性は男の子役が出来るよう実習を重ねる	他人の演技表現やプロの表現に目を向けて研究や参考にする。
13	8月25日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	9月8日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月15日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	アテレコ(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	橋本浩志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	外画の吹き替え・アニメやゲーム多数。音響監督。						
授業の学習内容	アフレコ実習を通して表現することの面白さ楽しさを感じてもらう。それぞれの個性を見出し、それを活かした表現で感情、動き、距離感などが映像とうまくシンクロできるよう導く。将来的には授業経験を活かし、舞台や映像などの表現者としても、社会人としても人間的な魅力に満ちた個人に成長してほしい。						
到達目標	アニメの登場人物の感情や作品の世界観やテーマを正しく理解、解釈する。またそれを表現する力を習得させる。また常識の枠を超えたユニークな発想、自身の殻を破るチャレンジ精神を養う。スタジオでのマナーも共に学ぶ。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義・演習	新しい題材を使って前期からのレベルがどの位維持されているか確認する。	改めての発声・滑舌・呼吸など基礎力の見直し
2	10月13日	講義・演習	アフレコ実習を重ね、演技のスキルの底上げを図りながら自身のイメージより大きな表現を目指す。	改めての発声・滑舌・呼吸など基礎力の見直し。自身でセリフを録音して聞き直してみる等をする。
3	10月20日	講義・演習	アフレコ実習を重ね、演技のスキルの底上げを図りながら自身のイメージより大きな表現を目指す。	リアリティある表現力を身に付ける為に舞台や映画を観る。リアル体験を通して表現のヒント・答えを日常生活の中に見出す観察力や洞察力を養う。
4	10月27日	講義・演習	キャラの心情に寄り添い、感情の理解力を養う。またその感情を表現する力を養う。	リアリティある表現力を身に付ける為に舞台や映画を観る。リアル体験を通して表現のヒント・答えを日常生活の中に見出す観察力や洞察力を養う。
5	11月3日	講義・演習	キャラの心情に寄り添い、感情の理解力を養う。またその感情を表現する力を養う。	表現者としての目標を高く持ち、温故知新の気持ちで幅広いジャンルの作品を鑑賞して表現の参考にする。
6	11月10日	講義・演習	配役を変えながらアフレコ実習を重ね、自分にあったキャラを見つけ、そこから表現力の向上を目指す。	表現者としての目標を高く持ち、温故知新の気持ちで幅広いジャンルの作品を鑑賞して表現の参考にする
7	10月17日	講義・演習	配役を変えながらアフレコ実習を重ね、自分にあったキャラを見つけ、そこから表現力の向上を目指す。	表現者としての目標を高く持ち、温故知新の気持ちで幅広いジャンルの作品を鑑賞して表現の参考にする
8	10月24日	講義・演習	題材や配役を変えながらキャラ数を増やすことや、演じ分けの方法や技術を身に付ける。	実習中の作品に出演しているプロ声優の表現・芝居を研究して参考にする。常に考える習慣を身に付ける
9	12月1日	講義・演習	題材や配役を変えながらキャラ数を増やすことや、演じ分けの方法や技術を身に付ける。	実習中の作品に出演しているプロ声優の表現・芝居を研究して参考にする。常に考える習慣を身に付ける。
10	12月8日	講義・演習	アフレコ実習で自分自身の目標達成や問題改善が出来ているか？チェック！また自分の強みを見つける。	学年グループごとにそれぞれが向上できる話し合いの場を設ける。
11	12月15日	講義・演習	アフレコ実習で自分自身の目標達成や問題改善が出来ているか？チェック！また自分の強みを見つける。	学年グループごとにそれぞれが向上できる話し合いの場を設ける。
12	1月19日	講義・演習	自分自身の目標達成や問題改善が出来ているかなど、個々の課題を総括する。	個々の問題課題を理解した上で毎日少しずつでも改善できるように努める。
13	2月2日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月9日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月16日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ナレーション(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	森雄一
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ラジオパーソナリティ、ナレーターとして活動中						
授業の学習内容	①映像や音楽を「声による言葉」で導くナレーションはとても大切なポジションにあるものです。1年間で培った形をさらに磨いていきましょう。 ②俳優、声優、アナウンサー、ラジオDJ、タレント、ライバー、もちろんナレーターを目指す方に学んでほしいスキルです。 ③ナレーションは録音、ライブ、どちらでも求められるものです。トーンを変え、間を取り、聞く者にダイレクトに印象を伝えます。与えられた原稿をしっかり読むことはもちろん、自身でも原稿が書けるよう、様々なテキスト（文章）を読んで表現力を身につけてください。						
到達目標	前期では、ナレーションの幅の広さを知り、体験することを目指します。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	ナレーションの基礎を学ぶ①(日本語と向き合う)	授業当日、しっかり声を出しましょう。
2	4月21日	講義・演習	ナレーションの基礎を学ぶ②(自分に合った発声を知る)	講師創作原稿を一週間かけて下読みをしましょう。
3	5月12日	講義・演習	ナレーション原稿を読む①（ソロ）	講師創作原稿を一週間かけて下読みをしましょう。
4	5月19日	講義・演習	ナレーション原稿を読む②（男女別）	講師創作原稿を一週間かけて下読みをしましょう。
5	5月26日	講義・演習	ナレーション原稿を読む③（テンション）	講師創作原稿を一週間かけて下読みをしましょう。
6	6月2日	講義・演習	ナレーション原稿を読む④（掛け合い）	講師創作原稿を一週間かけて下読みをしましょう。
7	6月9日	講義・演習	ナレーション原稿を作る	テーマに基づき指定時間内に収まる原稿を作りましょう。
8	6月16日	講義・演習	ラジオ番組でのナレーション原稿を読む①（商品PR）	様々なラジオ番組を聴取し発声を真似しましょう。
9	6月23日	講義・演習	ラジオ番組でのナレーション原稿を読む②（観光PR）	様々なラジオ番組を聴取し発声を真似しましょう。
10	6月30日	講義・演習	店内放送、音声ガイドのナレーション原稿を読む①	身近な店舗や施設でナレーションに耳を傾けましょう。
11	7月7日	講義・演習	店内放送、音声ガイドのナレーション原稿を読む②	身近な店舗や施設でナレーションに耳を傾けましょう。
12	7月14日	講義・演習	様々なタイプの原稿を読む。前期授業のまとめ	これまでのレッスンを振り返りましょう。
13	8月25日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	9月8日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月15日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	ナレーション(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	森雄一
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ラジオパーソナリティ、ナレーターとして活動中						
授業の学習内容	①映像や音楽を「声による言葉」で導くナレーションはとても大切なポジションにあるものです。1年間で培った形をさらに磨いていきましょう。 ②俳優、声優、アナウンサー、ラジオDJ、タレント、ライバー、もちろんナレーターを目指す方に学んでほしいスキルです。 ③ナレーションは録音、ライブ、どちらでも求められるものです。トーンを変え、間を取り、聞く者にダイレクトに印象を伝えます。与えられた原稿をしっかり読むことはもちろん、自身でも原稿が書けるよう、様々なテキスト（文章）を読んで表現力を身につけてください。						
到達目標	自分が表現したい事を、自分なりの表現方法と声で伝える事が出来るようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義・演習	前期を振り返り後期ガイダンス含め即日実践	授業当日、しっかり声を出しましょう。
2	10月13日	講義・演習	イベント台本を使用したMC実践①	事前に渡す台本を読み込んでおきましょう。
3	10月20日	講義・演習	イベント台本を使用したMC実践②	事前に渡す台本を読み込んでおきましょう。
4	10月27日	講義・演習	朗読と読み聞かせ①	指定書籍を事前に下読みしておきましょう。
5	11月3日	講義・演習	朗読と読み聞かせ②	それぞれが選定する書籍を読み込んだ上で持参して下さい。
6	11月10日	講義・演習	CMナレーション①（男女それぞれのボイス）	テレビ、ラジオのCMナレーションを聞きましょう。
7	10月17日	講義・演習	CMナレーション②（掛け合い）	テレビ、ラジオのCMナレーションを聞きましょう。
8	10月24日	講義・演習	ラジオドラマ①	ラジオやポッドキャストを聴取し想像力を膨らませましょう。
9	12月1日	講義・演習	ラジオドラマ②	ラジオやポッドキャストを聴取し想像力を膨らませましょう。
10	12月8日	講義・演習	映像付きのナレーション原稿を読む①	事前に映像と台本を渡すので練習しておきましょう。
11	12月15日	講義・演習	映像付きのナレーション原稿を読む②	事前に映像と台本を渡すので練習しておきましょう。
12	1月19日	講義・演習	前期後期を振り返り、最も自信のあるものを披露	10分以内でできるナレーション実演を準備しましょう。
13	2月2日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月9日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月16日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	アクション(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	所博昭
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		

教員の略歴	平成元年アーバンアクターズ所属、活動開始。「相棒」シリーズ技斗代理、出演、吹き替えスタント。その他映画、TVドラマ、ビデオ用映画等で技斗、出演、吹き替えスタント作品多数
授業の学習内容	「アクション」とは本来、行動、動作を意味する英単語ですが、日本の演劇界、映画界等では暴力行為全般を指します。暴力とは、殴る、蹴る、(関節を)極める、投げる、切る、(銃を)撃つ等多義に渡り、出演者個人の技量、演じるキャラクターによってもその行動内容や仕草は全く変わります。その結果、比較的激しい動きのある演技をしなければなりませんし、テストや稽古等一度で済む事はありません。殴り倒される等の動きを稽古、テスト、本番と繰り返しても怪我無く演じる事が出来る様にならなければなりません。まず、マットを使って転がる時の身の守り方である各種の受け身を身につけます。また、個々が個別の技を覚えて出来るようになってもそれはアクションではありません。全てのアクションは集団行動に依って成り立ちます。複数の出演者が攻撃、被害を繰り返します。更に、それを視聴者や観客に観てもらい、感動を生ませて初めてアクションとなるのです。更に現実問題として演者を殴ったりする事が出来ないのでリアリティーは失われがちになります。こうした弱点等も踏まえて多種多様の技、安全な芝居としての暴力を演じる為の技術や表現力、観せ方を身体で覚えます。
到達目標	暴力による心と身体の「痛み」をアクション技術と演技を組み合わせ、共演者と協同して表現する事が出来る。
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義・演習	注意事項説明、アクションとは…を理解する。でんぐり返し～前転が出来る。□	アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習
2	4月24日	講義・演習	起き上がりが出来る。投げると投げられるが出来る。	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
3	5月8日	講義・演習	受け身が出来る。投げると投げられるが出来る。□	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
4	5月15日	講義・演習	横転が出来る。投げると投げられるが出来る。□	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
5	5月22日	講義・演習	後ろに倒れる事が出来る～アクション後転が出来る。突き飛ばすが出来る。□	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
6	5月29日	講義・演習	拳の作り方、構え、足運び、攻撃のかわし方(さばき、ダッキング)が出来る。□	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
7	6月5日	講義・演習	殴り(顔)、リアクション(顔)及び受け(ガード)が出来る。□	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
8	6月12日	講義・演習	殴り(腹)、リアクション(腹)を含めたアクションが出来る。	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
9	6月19日	講義・演習	前蹴り、蹴り上げ、回し蹴りを含めたアクションが出来る。□	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
10	7月3日	講義・演習	肘打ち、膝蹴りを含めたアクションが出来る。□	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
11	7月10日	講義・演習	関節技(脇固め、腕固め、小手返し等)を含めたアクションが出来る。□	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
12	7月17日	講義・演習	髪を掴んで振り回す、振り回される、首を締める、締められる等を含めたアクションが出来る□	前週の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。□
13	8月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月28日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	アクション(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	所博昭
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	平成元年アーバンアクターズ所属、活動開始。「相棒」シリーズ技斗代理、出演、吹き替えスタント。その他映画、TVドラマ、ビデオ用映画等技斗、出演、吹き替えスタント作品多数						
授業の学習内容	アクションはあくまでも芝居の一部分であり、動作の一つ一つが台詞です。台詞は観客や視聴者に伝わらなければ意味を持ちません。自分や共演者、他者の芝居を客観的に観て、意見を発言する事で反省や新たな発見があります。カメラを使って動画を撮り、考察し反省点等を踏まえて再演してまた考察するを繰り返します。また、暴力表現に頻繁に出て来る刃物や拳銃(モデルガン)を使い、仕組みや種類、取り扱い方を学び、実践します。						
到達目標	①カメラ、観客からの観え方、見せ方を理解し、意図的に自分の演技を表現出来る。 ②小道具としての刃物や拳銃を壊す事なく扱い、刃物や弾丸の痛みを表現出来る様になる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	カメラの仕組み、特性、画角を理解する事が出来る。	前週迄の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。
2	10月16日	講義・演習	演技する上でアクションの弱点を理解する事が出来る。	前週迄の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。
3	10月30日	講義・演習	縦位置での見え方の長所と短所を理解し実践出来る。	前週迄の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。
4	11月6日	講義・演習	横位置での見え方の長所と短所を理解し実践出来る。	前週迄の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。
5	11月13日	講義・演習	ローアングルでの見え方の長所と短所を理解し実践出来る。	前週迄の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。
6	11月20日	講義・演習	俯瞰での見え方の長所と短所を理解し実践出来る。	前週迄の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。
7	11月27日	講義・演習	技毎に長所を活かしたポジションに移動する事が出来る。	前週迄の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。
8	12月4日	講義・演習	刃物(包丁、ナイフ等)で刺す、刺される、切る、切られる事を含めたアクションが出来る。	前週迄の自主練習。アクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習。
9	12月11日	講義・演習	拳銃と弾丸の構造、仕組み、名称を知る。□	ガンアクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習□
10	12月18日	講義・演習	拳銃(小道具としてのモデルガン)を正しく扱う事が出来る。	前週の復習。ガンアクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習
11	1月15日	講義・演習	簡単なガンアクションを含めた芝居が出来る。□	前週の復習。ガンアクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習
12	1月22日	講義・演習	複雑なガンアクションを含めた芝居が出来る。	前週の復習。ガンアクション映像(アニメ、動画を含む)鑑賞して予習
13	2月5日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月19日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	剣舞(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	竹田光一
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	剣舞道 菊秀流 秀玄会 師範・会長 ／ 居合道 神刀流神武会 師範 ／ 全日本剣詩舞道連盟 理事 日本伝統文化吟友会 平成三十年全国吟剣詩舞コンクール全国決勝大会 優勝 優秀剣士□						
授業の学習内容	「剣舞」とは、偉人が詠んだ漢詩などの詩吟に合わせて、日本刀と扇子で、詩心表現を舞う日本の古典的な舞台芸能です。 時代劇では欠かすことの出来ない所作を身に付け、立ち振る舞いが綺麗になる。例えば、立つ・座る・歩くなどの基本的な動作から、侍には欠かせない日本刀の剣捌きを会得する。居合刀で、帯刀から始まり、抜刀～真向斬り～血振り～納刀まで、多種多様な形「刀法」を学ぶ。また扇子を使用して、例えば、弓・酒・笠・笛・手紙を書く、読む、等の「見立て」表現も学ぶ。古典芸能の文化に出会い、己の心と躰を繋げ、呼吸を整え精神統一し、集中力を高め、心技体も強化し、身に付ける。 オーディションや本番などで自分らしく自然体で、緊張を楽しめるような表現者になることが目的である。□						
到達目標	・刀法と剣舞の技術向上に修練する ◆2026/3月末～4月初旬「全日本剣詩舞道連盟昇段審査会」(希望者)【初段合格】 ・剣舞演目②「大楠公」 作：楠木正成 （現初段の演目、扇子も使用作品） ・刀法 「一本目～三本目」						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習 時間外学習(学習課題)
1	4月17日	講義・演習	運足、井桁、抜刀、上段構え、真向斬り、血振り、納刀	木刀使用、足袋、浴衣、帯、袴
2	4月24日	講義・演習	刀法 一本目/抜刀、上段構え、真向斬り、血振り、納刀	居合刀使用。また上記。膝サポーター
3	5月8日	講義・演習	刀法 一本目 ／ 剣舞演目「日本刀を詠ず」前半	漢詩の解釈
4	5月15日	講義・演習	刀法 一本目 ／ 剣舞演目「日本刀を詠ず」前半	漢詩の解釈
5	5月22日	講義・演習	刀法 二本目 ／ 剣舞演目「日本刀を詠ず」後半	漢詩の解釈
6	5月29日	講義・演習	刀法 二本目 ／ 剣舞演目「日本刀を詠ず」後半	漢詩の解釈
7	6月5日	講義・演習	刀法 三本目 ／ 剣舞演目「日本刀を詠ず」荒通し	漢詩の解釈
8	6月12日	講義・演習	刀法 三本目 ／ 剣舞演目「日本刀を詠ず」荒通し	漢詩の解釈
9	6月19日	講義・演習	刀法 一本目～三本目/剣舞演目「日本刀を詠ず」通し	漢詩の解釈
10	7月3日	講義・演習	刀法 一本目～三本目/剣舞演目「日本刀を詠ず」通し	漢詩の解釈
11	7月10日	講義・演習	刀法 一本目～三本目	発表会＆撮影会 レポート提出
12	7月17日	講義・演習	剣舞演目「日本刀を詠ず」通し	発表会＆撮影会
13	8月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月28日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習 時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	剣舞(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	竹田光一
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	剣舞道 菊秀流 秀玄会 師範・会長 ／ 居合道 神刀流神武会 師範 ／ 全日本剣詩舞道連盟 理事 日本伝統文化吟友会 平成三十年全国吟剣詩舞コンクール全国決勝大会 優勝 優秀剣士□						
授業の学習内容	「剣舞」とは、偉人が詠んだ漢詩などの詩吟に合わせて、日本刀と扇子で、詩心表現を舞う日本の古典的な舞台芸能です。 時代劇では欠かすことの出来ない所作を身に付け、立ち振る舞いが綺麗になる。例えば、立つ・座る・歩くなどの基本的な動作から、侍には欠かせない日本刀の剣捌きを会得する。居合刀で、帯刀から始まり、抜刀～真向斬り～血振り～納刀まで、多種多様な形「刀法」を学ぶ。また扇子を使用して、例えば、弓・酒・笠・笛・手紙を書く、読む、等の「見立て」表現も学ぶ。古典芸能の文化に出会い、己の心と躰を繋げ、呼吸を整え精神統一し、集中力を高め、心技体も強化し、身に付ける。 オーディションや本番などで自分らしく自然体で、緊張を楽しめるような表現者になることが目的である。□						
到達目標	・刀法と剣舞の技術向上に修練する ◆2026/3月末～4月初旬「全日本剣詩舞道連盟昇段審査会」(希望者)【初段合格】 ・剣舞演目②「大楠公」 作：楠木正成 （現初段の演目、扇子も使用作品） ・刀法 「一本目～三本目」						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」前半	新作※漢詩の解釈。 扇子の基本所作
2	10月16日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」前半	授業内容の復習
3	10月30日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」前半	授業内容の復習
4	11月6日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」後半	授業内容の復習
5	11月13日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」後半	授業内容の復習
6	11月20日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」後半	授業内容の復習
7	11月27日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」荒通し	授業内容の復習
8	12月4日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」荒通し	授業内容の復習
9	12月11日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」荒通し	授業内容の復習
10	12月18日	講義・演習	太刀打ちの構え / 刀法 / 剣舞「大楠公」通し	リハーサルに向けての練習
11	1月15日	講義・演習	剣舞①「日本刀を詠ず」 ②「大楠公」	リハーサル
12	1月22日	講義・演習	剣舞①「日本刀を詠ず」 ②「大楠公」	発表会＆撮影会
13	2月5日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月19日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	映像演技(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	真田幹也
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	役者活動暦27年　監督暦23年　講師暦11年						
授業の学習内容	映画、ドラマなど映像の演技に必要な知識や技術の習得。既存のシナリオ・脚本を配布。本読み形式で内容を理解後、カメラの前で実際に演じてみる。毎回、自分の演じたビデオを見ながら問題点、反省点を共に考え演技に対する理解を深めていく。						
到達目標	カメラの前で演技をする事に慣れ、意識的に自ら動ける様になる/演技は楽しいと思えるようになる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義・演習	オリエンテーション・自己紹介	現状の自分、1年後の自分を考えてみる
2	4月25日	講義・演習	カメラの前で台詞を言ってみる①	配布課題の熟読・暗記
3	5月9日	講義・演習	カメラの前で台詞を言ってみる②撮影	撮影で感じたことを意識→修正
4	5月16日	講義・演習	2人で芝居が出来る①	配布課題の熟読・暗記
5	5月23日	講義・演習	2人で芝居が出来る②	配布課題の熟読・暗記
6	5月30日	講義・演習	2人で芝居が出来る③撮影	撮影で感じたことを意識→修正
7	6月6日	講義・演習	みんなで芝居が 出来る①	配布課題の熟読・暗記
8	6月13日	講義・演習	みんなで芝居が 出来る②	配布課題の熟読・暗記
9	6月20日	講義・演習	みんなで芝居が 出来る③	配布課題の熟読・暗記
10	7月4日	講義・演習	みんなで芝居が 出来る④	配布課題の熟読・暗記
11	7月11日	講義・演習	みんなで芝居が 出来る⑤	配布課題の熟読・暗記
12	7月18日	講義・演習	みんなで芝居が出来る⑥撮影	撮影で感じたことを意識→修正
13	8月22日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月29日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

参考文献「映画の演技」 マイケル・ケイン著　劇書房

科目名	映像演技(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	真田幹也
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	役者活動暦27年　監督暦23年　講師暦11年						
授業の学習内容	映画、ドラマなど映像の演技に必要な知識や技術の習得。既存のシナリオ・脚本を配布。本読み形式で内容を理解後、カメラの前で実際に演じてみる。毎回、自分の演じたビデオを見ながら問題点、反省点を共に考え演技に対する理解を深めていく。						
到達目標	カメラの前で演技をする事に慣れ、意識的に自ら動ける様になる/演技は楽しいと思えるようになる						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	2人で(カメラを意識して)芝居が出来る①	配布課題の熟読・暗記
2	10月10日	講義・演習	2人で(カメラを意識して)芝居が出来る②	配布課題の熟読・暗記
3	10月17日	講義・演習	2人で(カメラを意識して)芝居が出来る③撮影	撮影で感じたことを意識→修正
4	10月31日	講義・演習	2人で(カメラを意識して)芝居が出来る④	配布課題の熟読・暗記
5	11月7日	講義・演習	2人で(カメラを意識して)芝居が出来る⑤	配布課題の熟読・暗記
6	11月14日	講義・演習	2人で(カメラを意識して)芝居が出来る⑥撮影	撮影で感じたことを意識→修正
7	11月21日	講義・演習	2人で芝居が出来る(仕上げ)①	配布課題の熟読・暗記
8	11月28日	講義・演習	2人で芝居が出来る(仕上げ)②	配布課題の熟読・暗記
9	12月5日	講義・演習	2人で芝居が出来る(仕上げ)③	配布課題の熟読・暗記
10	12月12日	講義・演習	2人で芝居が出来る(仕上げ)④	配布課題の熟読・暗記
11	12月19日	講義・演習	2人で芝居が出来る(仕上げ)⑤撮影	撮影で感じたことを意識→修正
12	1月16日	講義・演習	2人で芝居が出来る(仕上げ)⑥まとめ	1年経って現状の自分を把握する→その先を目指す
13	1月23日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	1月30日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月13日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

参考文献「映画の演技」 マイケル・ケイン著　劇書房

科目名	外画(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	北村幸子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	外画吹き替え80作品。ディスカバリーオブウィッチズシリーズ、たった一人の私の味方						
授業の学習内容	マイク前での技術、表現を学ぶ。吹き替えにおけるスキル（スタジオマナー、映像チェック法、会話の表現、息遣いなど）を身につけアフレコを行う。						
到達目標	外画作品への理解を深める。アフレコに必要な基礎（発声、活舌、マイクワーク、マナー等）を確認しそれらを活かしマイクの前での芝居がスムーズに表現できるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月18日	講義・演習	アフレコをし、外画作品を理解する	吹き替え作品を1作品以上鑑賞しておく
2	4月25日	講義・演習	吹き替えのルールを学びアフレコを行う（タイムコード等）	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
3	5月9日	講義・演習	ストーリー、登場人物、関係性、などの理解を深める	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
4	5月16日	講義・演習	キャラクターを通して自身の強み、課題を探る	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
5	5月23日	講義・演習	相手との会話を意識しアフレコする	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
6	5月30日	講義・演習	映像チェックのポイントを確認し実践する	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
7	6月6日	講義・演習	登場人物の動き表情を細かくチェックし再現する	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
8	6月13日	講義・演習	マイクワークを実践する	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
9	6月20日	講義・演習	客観的に自身の演技や声、キャラクターを考える	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
10	7月4日	講義・演習	自身の強みを見つけていく	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
11	7月11日	講義・演習	役とのシンクロ率を上げていく	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
12	7月18日	講義・演習	アフレコを行い試験に臨む	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
13	8月22日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月29日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	9月12日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			発声、活舌などの基礎は各自で練習しておく。台本を読み込んでおく。	

【使用教科書・教材・参考書】

コピー台本

科目名	外画(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	北村幸子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	外画吹き替え80作品。ディスカバリーオブウィッチズシリーズ、たった一人の私の味方						
授業の学習内容	前期で学んだマイク前での技術、表現を実践しアフレコを行う。映像チェック、アドリブ、息遣い、会話、登場人物の機微などの細かな表現の精度を上げアフレコする。						
到達目標	ストーリー、シーン、登場人物への理解を深める。マイク前の芝居を通して相手との会話を大事に表現し、全員で作品を作り上げることを意識できるようになる。より実践に近いクオリティの表現を習得する。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	自身の強みを伸ばせる目標を定め授業に臨む	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
2	10月10日	講義・演習	マイク前の技術面の精度を上げアフレコする	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
3	10月17日	講義・演習	自身の声、性格に合った表現を考えアフレコする	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
4	10月31日	講義・演習	シーンの流れ、前後の流れを理解しアフレコする	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
5	11月7日	講義・演習	登場人物の気持ちの流れをくみ取り表現していく	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
6	11月14日	講義・演習	登場人物の機微を正確にマイク前で表現していく	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
7	11月21日	講義・演習	【相手を認識し会話ができるようになるには】を考える	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
8	11月28日	講義・演習	映像に合わせる技術の精度を上げアフレコする	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
9	12月5日	講義・演習	台本上にない場合の息遣いアドリブの表現を学ぶ	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
10	12月12日	講義・演習	アフレコ最中に技術、芝居の両面を構築する感覚を掴む	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
11	12月19日	講義・演習	作品の全体像をとらえ芝居を構築しアフレコする	レポート（前回の自身の課題、授業への目標を纏める）
12	1月16日	講義・演習	アフレコを行い試験に臨む	レポート（自身の強みを認識し自身で纏める）
13	1月23日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	1月30日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月13日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			発声、活舌などの基礎は各自で練習しておく。台本を読み込んでおく。	

【使用教科書・教材・参考書】

コピー台本

科目名	オーディション実践(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	実由
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ラジオDJ,イベントMC、ナレーター、TVバラエティー、ドラマ、舞台、雑誌、CMへの出演。1995年～現在						
授業の学習内容	卒業後の進路となる各プロダクションへ所属するため、また様々な作品へ出演するためのオーディションを受ける際のマナーや服装、メイクなどを学ぶ。また、プロフィールシートの作り方やオーディションでもっとも大事とされる自己PRをそれぞれの個性を活かし指導。各種オーディションで、自分の個性や持っている力を発揮し、合格出来るポイントを学ぶ。						
到達目標	自分の個性や特徴を知り、自信を持ってオーディションに臨み、自分PR出来るようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	授業説明・オーディションを受ける上での心構え	特になし
2	5月7日	講義・演習	プロフィールシートの作り方	プロフィールシート作成
3	5月14日	講義・演習	宣材写真のポーズや表情のアドバイス	衣装、メイクの準備
4	5月21日	講義・演習	服装やメイク、綺麗な立ち方、姿勢のアドバイス	衣装、メイクの研究
5	5月28日	講義・演習	ウォーキング、ポージング	衣装、メイクの研究
6	6月4日	講義・演習	ウォーキング、ポージング	ウォーキングトレーニング
7	6月11日	講義・演習	自己PR30秒の作り方	自己PRを作ってくる
8	6月18日	講義・演習	自己PR30秒の作り方	アドバイスを踏まえて、自己PRを作る
9	6月25日	講義・演習	自己PR30秒の作り方	アドバイスを踏まえて、自己PRを作る
10	7月2日	講義・演習	自己PR60秒の作り方	自己PRを作ってくる
11	7月9日	講義・演習	自己PR60秒の作り方	アドバイスを踏まえて、自己PRを作る
12	7月16日	講義・演習	テスト	テスト振り返り
13	8月27日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月10日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	8月17日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			各週、授業の最後に課題を伝えます	

【使用教科書・教材・参考書】

その都度講師が用意

科目名	オーディション実践(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	実由
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ラジオDJ,イベントMC、ナレーター、TVバラエティー、ドラマ、舞台、雑誌、CMへの出演。1995年～現在						
授業の学習内容	卒業後の進路となる各プロダクションへ所属するため、また様々な作品へ出演するためのオーディションを受ける際のマナーや服装、メイクなどを学ぶ。また、プロフィールシートの作り方やオーディションでもっとも大事とされる自己PRをそれぞれの個性を活かし指導。各種オーディションで、自分の個性や持っている力を発揮し、合格出来るポイントを学ぶ。						
到達目標	自分の個性や特徴を知り、自信を持ってオーディションに臨み、自分PR出来るようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	新人発掘に向けてプロフィールシート見直し	プロフィールシート見直し
2	10月15日	講義・演習	新人発掘に向けてのパフォーマンスを作る	パフォーマンスを考えてくる
3	10月22日	講義・演習	新人発掘に向けてのパフォーマンスを作る	アドバイスを踏まえて練習
4	10月29日	講義・演習	新人発掘に向けてのパフォーマンスを作る	アドバイスを踏まえて練習
5	11月5日	講義・演習	60秒自己PRおさらい	模擬オーディションに向けた自己PRを考える
6	11月12日	講義・演習	60秒自己PRおさらい	模擬オーディションに向けた自己PRを考える
7	11月19日	講義・演習	模擬オーディション　CM	オーディション内容に適した自己PRや服装準備
8	11月26日	講義・演習	模擬オーディション　バラエティー番組	オーディション内容に適した自己PRや服装準備
9	12月3日	講義・演習	模擬オーディション　ドラマ	オーディション内容に適した自己PRや服装準備
10	12月10日	講義・演習	模擬オーディション　映画	オーディション内容に適した自己PRや服装準備
11	12月17日	講義・演習	模擬オーディション　舞台	オーディション内容に適した自己PRや服装準備
12	1月14日	講義・演習	テスト	テスト振り返り
13	1月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月4日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			各週、授業の最後に課題を伝えます	

【使用教科書・教材・参考書】

その都度講師が用意

科目名	韓国語(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	盧貞愛
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	韓国延世大学韓国語教師課程修了、韓国高麗サイバー大学韓国語学科卒業（韓国語教員資格2級取得）						
授業の学習内容	K-POPや韓流ブームによって世界中韓国語がトレンドになっています。将来、仕事で使うビジネス韓国語はもちろんのこと、韓国文化も学ぶことで韓流を深く理解することを目指します。韓国語の基礎から日常会話、そして韓国の文化について学びます。						
到達目標	1. ハングル文字の読み書きができる。 2. ネイティブ発音・イントネーションで自然な会話ができる。 3. 日常生活の基本会話ができる。 4. 自己紹介ができる。 5. 物事の否定表現ができる。 6. 丁寧語で話すことができる。 7. 習った言葉は積極的に日常で使ってみて自分の物にする。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月25日	講義・演習	韓国語の紹介、ハングルの基本母音・基本子音を学ぶ。	文字の書く練習
2	5月9日	講義・演習	基本子音、激音・濃音の区別、挨拶ができる。	第3章挨拶P80/81
3	5月16日	講義・演習	合成母音・パッチム、自己紹介、自分の名前を書く	第3章P82/83　自己紹介の練習
4	5月23日	講義・演習	(文法)Lesson1名詞です。 発音のルールを理解する。	第3章返事P84/85　第2章家族単語暗記、職業、国
5	5月30日	講義・演習	Lesson2　疑問文ができる。	第3章お礼P86第2章食事単語暗記
6	6月6日	講義・演習	Lesson3　否定することができる。韓国の文化を理解する	指示代名詞の練習・暗記
7	6月13日	講義・演習	Lesson4　否定の疑問文でやり取りする。	第3章P87
8	6月20日	講義・演習	Lesson5　存在を言う、物・建物の位置を言う。	位置を尋ねる練習、第2章場所単語、会話①暗記
9	7月4日	講義・演習	Lesson6　存在を否定することができる。	会話文の暗記
10	7月11日	講義・演習	Lesson7/8　丁寧語で話す。 スムニダ体で話す。	第2章動詞の暗記、 助詞 「을/를」発音練習
11	7月18日	講義・演習	Lesson9　ヨ体へ活用ができる。	第4章第1課・2課・3課
12	8月22日	講義・演習	テスト：筆記試験・会話試験	レポート提出
13	9月12日	講義・演習	韓国の文化を理解する。	レポート提出
14	9月19日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月26日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

KO韓国語初歩の初歩、KO韓国語「文法」トレーニング、できる韓国語初級1、ワークブック

科目名	韓国語(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	盧貞愛
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	韓国延世大学韓国語教師課程修了、韓国高麗サイバー大学韓国語学科卒業（韓国語教員資格2級取得）						
授業の学習内容	K-POPや韓流ブームによって世界中韓国語がトレンドになっています。将来、仕事で使うビジネス韓国語はもちろんのこと、韓国文化も学ぶことで韓流を深く理解することを目指します。韓国語の基礎から日常会話、そして韓国の文化について学びます						
到達目標	1．ハングル文字の読み書きができる。2．ネイティブ発音・イントネーションで自然な会話ができる。 3．打ち解けた言葉で話すことができる。4．数字の読むことができる。 5．時計の読み方がわかる、物を数えることができる。6．不可能の表現ができる。 7．尊敬語で話すことができる。8．正しく韓国語を使えるようになる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月3日	講義・演習	Lesson10　数字を読む（漢数詞）、会話文②暗記。	第2章P72/75　漢数詞の読む練習、プレゼントで練習
2	10月17日	講義・演習	Lesson11　値段や曜日を尋ねる。	第3章謝罪P88　　買い物の練習
3	10月24日	講義・演習	Lesson12　固有数字で数える、時計を読む。	第3章P89　第2章P73/74　プリントで練習、私の一日
4	10月31日	講義・演習	Lesson13　打ち解けた言葉で話す。する動詞のヘヨ体	第3章P90第2章P64/65 動詞暗記、「ヘヨ体」の活用
5	11月7日	講義・演習	Lesson14　打ち解けた言葉で話す。　ヘヨ体で言う。	第3章P91第4章第5/6課、第2章P68/69形容詞暗記
6	11月14日	講義・演習	Lesson15　動詞・形容詞の否定表現、会話文③暗記。	第3章P92　しないことを言う　第2章動詞②暗記
7	11月21日	講義・演習	Lesson16　不可能なことを話す。	出来ないことを言う、第2章形容詞②暗記
8	11月28日	講義・演習	Lesson17　過去の出来事を言う。　する動詞	過去形ノ活用練習
9	12月5日	講義・演習	Lesson18　過去の出来事を言う。	活用シート完成・練習
10	12月12日	講義・演習	Lesson19　過去形の否定表現で言う。	第4章第9課
11	12月19日	講義・演習	Lesson20　尊敬語で言う。	活用シート完成・練習
12	1月16日	講義・演習	テスト：筆記試験、会話試験	レポート提出
13	1月23日	講義・演習	韓国の文化を理解する。	レポート提出
14	2月6日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月13日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

KO韓国語初歩の初歩、KO韓国語「文法」トレーニング、できる韓国語初級1、ワークブック

科目名	振付理論(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	能美健志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	コンテンポラリーダンス教師・振付家						
授業の学習内容	①ダンスを追究して行くなら振付と構成を学ぶ必要がある。②どんなジャンルにも対応可能な振付構成法です。③ダンスは、振付より構成の方が大事、少しでも構成が上手になって欲しい。④振付と構成の講義（実技あり）→動画から構成読み取り→実践を通して学ぶ。＊授業の進行状況によっては、授業内容の変更あり。						
到達目標	❶振付と構成の講義（①ダンスと音楽の関係性。②作品構造の考え方。③振付と構成の考え方。④動きのフレーズ構成・フォーメイションと空間構成。） ❷動画から構成読み取り（実際に幾つかの作品動画を見ながら構成等の読み取りを行う。） ❸実践を通して学ぶ（グループになり簡単な動きと構成を創り実験、修正しながら経験していく。）❶～❸を習得						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	オリエンテーション・①振付と構成の講義。	シラバス等を見て準備する。
2	5月7日	講義・演習	②振付と構成の講義。	前回授業の復習（確認と理解）
3	5月14日	講義・演習	③振付と構成の講義。	前回授業の復習（確認と理解）
4	5月21日	講義・演習	①動画から構成読み取り。	前回授業の復習（確認と理解）
5	5月28日	講義・演習	②動画から構成読み取り。	前回授業の復習（確認と理解）
6	6月4日	講義・演習	③動画から構成読み取り。	前回授業の復習（確認と理解）
7	6月11日	講義・演習	④動画から構成読み取り。	前回授業の復習（確認と理解）
8	6月18日	講義・演習	①実践(1)（振付構成）	前回授業の復習（確認と理解）
9	6月25日	講義・演習	②実践(1)（振付構成）	前回授業の復習（確認と理解）
10	7月2日	講義・演習	③実践(1)（振付構成）	前回授業の復習（確認と理解）
11	7月9日	講義・演習	④実践(1)（振付構成）	前回授業の復習（確認と理解）
12	7月16日	講義・演習	⑤実践(1)（振付構成）	前回授業の復習（確認と理解）
13	9月10日	講義・演習	実践試験（振付構成）	試験結果の反省と今後の対策。
14	9月17日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月24日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			授業内容を確認、理解し自身のスキルアップを計画的に考えて復習。	

【使用教科書・教材・参考書】

講義・読み取り講義→筆記用具・iphone等・pc）実践→レッスン着等。

科目名	振付理論(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	能美健志
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	コンテンポラリーダンス教師・振付家						
授業の学習内容	①ダンスを追究して行くなら振付と構成を学ぶ必要がある。 ②どんなジャンルにも対応可能な振付構成法です。 ③ダンスは、振付より構成の方が大事、少しでも構成が上手になって欲しい。 ④実践を通して学ぶ。＊授業の進行状況によっては、授業内容の変更あり。						
到達目標	❸実践を通して学ぶ（グループになり簡単な動きと構成を創り実験、修正しながら経験していく。） ❹舞台照明の講義。 ❸を繰り返し実践していく事でダンス作品の振付・構成の更なるスキルアップ目指す。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	①舞台照明の講義	前期授業の復習（確認と理解）
2	10月15日	講義・演習	②舞台照明の講義	前回授業の復習（確認と理解）
3	10月22日	講義・演習	③舞台照明の講義	前回授業の復習（確認と理解）
4	10月29日	講義・演習	①実践⑵（振付構成）	前回授業の復習（確認と理解）
5	11月5日	講義・演習	②実践⑵（振付構成）	前回授業の復習（確認と理解）
6	11月12日	講義・演習	③実践⑵（振付構成）	前回授業の復習（確認と理解）
7	11月19日	講義・演習	④実践⑵（振付構成）	前回授業の復習（確認と理解）
8	11月26日	講義・演習	グループ講評	前回授業の復習（確認と理解）
9	12月3日	講義・演習	①実践⑶（振付構成）	前回授業の復習（確認と理解）
10	12月10日	講義・演習	②実践⑶（振付構成）	前回授業の復習（確認と理解）
11	12月17日	講義・演習	③実践⑶（振付構成）	前回授業の復習（確認と理解）
12	1月21日	講義・演習	④実践⑶（振付構成）	前回授業の復習（確認と理解）
13	2月4日	講義・演習	実践試験（振付構成）	試験結果の反省と今後の対策。
14	2月11日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			授業内容を確認、理解し自身のスキルアップを計画的に考えて復習。	

【使用教科書・教材・参考書】

講義・読み取り講義→筆記用具・iphone等・pc）実践→レッスン着等。

科目名	Teacher's Training(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	新井杏子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ダンスインストラクター歴27年□						
授業の学習内容	ダンスを学びたいあらゆる対象者に合った教えるスキルを身につけ、対象者の技術の向上だけでなく、楽しさ、芸術性、個性を引き出す講師を目指す						
到達目標	対象者によって的確に伝わる方法でレッスンできる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月24日	講義・演習	授業内容の把握　ストレッチ構築	
2	5月8日	講義・演習	課外活動1のチーム作り、把握	ストレッチの構築
3	5月15日	講義・演習	幼児、小学生への指導方法(低学年)	課外活動の選曲
4	5月22日	講義・演習	小学生への指導方法(高学年)、課外活動2の準備	課外活動の振り付け
5	5月29日	講義・演習	課外活動1のフィードバック	課外活動2の選曲
6	6月5日	講義・演習	課外活動1のフィードバック、課外活動の準備	課外活動1,2の準備
7	6月12日	講義・演習	課外活動2の模擬レッスン	課外活動1,2の準備
8	6月19日	講義・演習	課外活動2	
9	7月3日	講義・演習	課外活動2のフィードバック、課外活動の準備	課外活動1、2の準備
10	7月10日	講義・演習	課外活動1、2の準備模擬レッスン	課外活動1,2の準備
11	7月17日	講義・演習	テスト	
12	8月21日	講義・演習	課外活動1、2の準備模擬レッスン	模擬レッスンの準備
13	9月11日	講義・演習	課外活動1、2の準備模擬レッスン	
14	9月18日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月25日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Teacher's Training(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	新井杏子
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ダンスインストラクター歴27年□						
授業の学習内容	ダンスを学びたいあらゆる対象者に合った教えるスキルを身につけ、対象者の技術の向上だけでなく、楽しさ、芸術性、個性を引き出す講師を目指す						
到達目標	対象者によって的確に伝わる方法でレッスンできる。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月2日	講義・演習	課外活動1のチーム作り、把握	
2	10月16日	講義・演習	小学生への指導方法(高学年)、課外活動2の準備	ストレッチの構築
3	10月23日	講義・演習	課外活動1、2の準備模擬レッスン	課外活動の選曲
4	10月30日	講義・演習	課外活動1、2の準備模擬レッスン	課外活動の振り付け
5	11月6日	講義・演習	課外活動1のフィードバック	課外活動2の復習
6	11月13日	講義・演習	ワークショップに向けてのレッスン構築	レッスンで使用する曲の選曲
7	11月20日	講義・演習	ワークショップ	ストレッチの確認
8	11月27日	講義・演習	ワークショップに向けてのレッスン構築	振り付けの確認
9	12月4日	講義・演習	ワークショップ	レッスンで使用する曲の選曲
10	12月11日	講義・演習	ワークショップに向けての準備、課外活動2の準備	ストレッチの確認
11	12月18日	講義・演習	テスト	
12	1月15日	講義・演習	ワークショップ	振り付けの確認
13	1月22日	講義・演習	ワークショップのフィードバック	
14	2月5日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月12日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習				

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Creation Plus(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	櫻井郁也
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		

教員の略歴	舞踊家。日大芸術学部卒業後、コンテンポラリーダンスを中心にダンサー、振付、演出などの立場で舞台活動を重ねる。ポルトガル、ルクセンブルグほか海外公演、国内主要芸術祭への参加、NHK振付など作品多数。
授業の学習内容	①各種イベントや上演企画の実現、および、そのための作品創作を通じて、事業趣旨に合ったコンセプトメーキングと具体的な作品の創作および上演の実行力を育成する。 ②全科目の実技および知識をすべて活用し、卒業制作を前提とした高度な作品創作に挑戦する。
到達目標	①実際のパフォーマンス体験やステージ構築を通じて、ダンサー・振付家としての専門スキルと高いコミュニケーション能力を身につける。また社会人として独立できる人格と自信、リーダーシップを身につけ、芸能芸術イベント（舞台、オンライン、映像などを含む）や、現場におけるダンサー・振付家としての基本的能力の獲得を目指す。②迅速で的確なコミュニケーション力と計画性を身につけ、他人との協力体制を構築できるようになる。③期限や予算を守った作業の実現力を身につけ、かつ、独自性の希求と妥協のない行動を実践する。④同学年生間での作品のほかに一年生と組んだ縦割りグループでの作品も実践し、作品発表・作品評価・意見交換を活発に行なう。 後期には卒業制作における作品創造・発表・出演・ステージ運営の実践を目指す。
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月14日	講義・演習	①授業の解説と計画　②作品づくりと舞台制作についてのガイダンス（取り組むイベントのイメージング）③	取り組んでみたい作品の構想を進めておく
2	4月21日	講義・演習	再演作品グループ分け～再演作品の振付開始	
3	5月12日	講義・演習	再演作品の作業 ＆ 2年以上の新作プレゼン ★作品はこの時点でのプレゼンテーション通過で創作スタート。	プレゼン準備、企画書提出（取り組んでみたい作品のイメージや各自の関わり方についての考えを話せるようにしておく）
4	5月19日	講義・演習	作品づくり ＋創作指導（再演＆新作）	以後、毎回講師から出される課題や事前準備をこなしたうえで出席すること
5	5月26日	講義・演習	経過ショーイング～前期イベント企画のイメージをまとめる	毎回講師から出される課題や事前準備
6	6月2日	講義・演習	オリジナル作品のプレゼン（事前に企画書を教務に提出）★作品はこの時点でのプレゼンテーション通過で創作スタート。	毎回講師から出される課題や事前準備
7	6月9日	講義・演習	前期イベント 企画の仮構築、作品を仮仕上げ	毎回講師から出される課題や事前準備
8	6月16日	講義・演習	全作品の仮通し～ 進級公演 全体像まとめ	毎回講師から出される課題や事前準備
9	6月23日	講義・演習	作品の修正、シーン繋ぎ、メンバー整理など	毎回講師から出される課題や事前準備
10	6月30日	講義・演習	舞台構成、演出作業、作品ツメ（舞台の流れをつくる）	毎回講師から出される課題や事前準備
11	7月7日	講義・演習	舞台構成、演出作業、作品ツメ（細部の直し）	毎回講師から出される課題や事前準備
12	7月14日	講義・演習	前期イベントドレスリハーサル （繰り上がる可能性あり＝随時告知）	毎回講師から出される課題や事前準備
13	9月8日	講義・演習	前期イベント止め通し	毎回講師から出される課題や事前準備
14	9月15日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	9月22日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			イベント開催など授業計画のスケジュールを組む。講師指定のプランニングや事前練習、準備が必須。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	Creation Plus(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	櫻井郁也
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	60（4単位）		
教員の略歴	舞踊家。日大芸術学部卒業後、コンテンポラリーダンスを中心にダンサー、振付、演出などの立場で舞台活動を重ねる。ポルトガル、ルクセンブルグほか海外公演、国内主要芸術祭への参加、NHK振付など作品多数。						
授業の学習内容	卒業制作としての作品創作と舞台上演の実現に挑戦し、専門家の評価に耐え得るパフォーマンスやステージ構築への実習を行う。これを通じて、入学以来学んだ全ての実技および知識を活用し、舞踊分野における専門スキルと高いコミュニケーション能力を身につける。						
到達目標	専門家として、また、社会人として、自立できる技術・人格・自信・リーダーシップを身につけ、芸能・芸術イベントおよび関連業務（舞台、オンライン、映像などを含む）の現場における基本的な作業能力の獲得を目指す。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月6日	講義・演習	卒業制作（We are TSM）企画詳細の説明～作品づくりと舞台制作についてのガイダンス （時期が早くなる可能性もあります＝随時告知）	毎回の授業までに各自の下稽古や準備を進めておく。講師から随時指示を出します。
2	10月13日	講義・演習	作品プレゼン ★作品はこの時点でのプレゼンテーション通過で創作スタート。（作品試作での審査や出演者オーディションを行う可能性もあります）	プレゼン準備、企画書提出など（詳細は授業内で告知します）
3	10月20日	講義・演習	作品づくり指導	
4	10月27日	講義・演習	作品づくり指導（続き）	
5	11月3日	講義・演習	We are企画ツメ、 作品つくり指導（続き）	
6	11月10日	講義・演習	We are 企画＆作品の仮まとめ	
7	11月17日	講義・演習	仮通し～イメージや企画の修正を割り出し	
8	11月24日	講義・演習	作品のつくりこみ（細かい指導）	
9	12月1日	講義・演習	作品のつくりこみ（細かい指導）	
10	12月8日	講義・演習	シーン繋ぎ、メンバー整理など	
11	12月15日	講義・演習	ドレスリハーサル～演出作業（舞台の流れをつくる）	
12	1月19日	講義・演習	舞台の本構成、演出作業つづき（別途スケジューリング）	
13	2月2日	講義・演習	We are TSM 直前指導（別途スケジューリング）	
14	2月9日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
15	2月16日	講義・演習	イベント実践を通して業界人としてのコミュニティを学ぶ	ワークシート提出
準備学習　時間外学習			イベント開催など授業計画のスケジュールを組む。講師指定のプランニングや事前練習、準備が必須。	

【使用教科書・教材・参考書】

科目名	MC/リポート実習(5)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	実由
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30（2単位）		
教員の略歴	ラジオDJ,イベントMC、ナレーター、TVバラエティー、ドラマ、舞台、雑誌、CMへの出演。1995年～現在						
授業の学習内容	タレントとしてバラエティー番組などで必要とされるトーク(フリートーク・レポート・番宣告知など） イベントステージでのMC、ラジオDJ、SNSなどのライブ配信でのフリートークetc・・それぞれのトークのポイントやテクニックを学ぶ						
到達目標	役者として演技だけではなく様々なシーンで活躍できる技術を見につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容				
回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	4月16日	講義・演習	授業説明	特になし
2	5月7日	講義・演習	フリートーク　アイテム紹介 （3分）	3分間のトーク内容を作る
3	5月14日	講義・演習	フリートーク　アイテム紹介 （3分）	アドバイスを踏まえて練習
4	5月21日	講義・演習	フリートーク　作品紹介 （3分）	3分間のトーク内容を作る
5	5月28日	講義・演習	フリートーク　作品紹介 （3分）	アドバイスを踏まえて練習
6	6月4日	講義・演習	生コマーシャル(原稿＆フリートーク)	商品についての情報収集
7	6月11日	講義・演習	生コマーシャル(原稿＆フリートーク)	商品についての情報収集
8	6月18日	講義・演習	イベントや公演などの告知 番宣トーク （グループ5分）	イベントや作品のあらすじや内容等情報収集
9	6月25日	講義・演習	イベントや公演などの告知 番宣トーク （グループ5分）	グループでのトークや自分の担当を考える
10	7月2日	講義・演習	イベントや公演などの告知 番宣トーク （5分）	イベントや作品のあらすじや内容等情報収集
11	7月9日	講義・演習	イベントや公演などの告知 番宣トーク （5分）	アドバイスを踏まえて練習
12	7月16日	講義・演習	テスト	テスト振り返り
13	8月27日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	8月10日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	8月17日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			各週、授業の最後に課題を伝えます	

【使用教科書・教材・参考書】

その都度講師が用意

科目名	MC/リポート実習(6)	必修選択	選択	年次	3	担当教員	実由
学科・コース	音楽テクノロジー科3年制(昼間部二)	授業形態	講義・演習	総時間（単位）	30 (2単位)		
教員の略歴	ラジオDJ,イベントMC、ナレーター、TVバラエティー、ドラマ、舞台、雑誌、CMへの出演。1995年～現在						
授業の学習内容	タレントとしてバラエティー番組などで必要とされるトーク（フリートーク・レポート・番宣告知など） イベントステージでのMC、ラジオDJ、SNSなどのライブ配信でのフリートークetc・・それぞれのトークのポイントやテクニックを学ぶ						
到達目標	役者として演技だけではなく様々なシーンで活躍できる技術を見につける。						
評価方法と基準	筆記又は、実技テストによる採点						

授業計画・内容

回数	日程	授業形態	学習内容	準備学習　時間外学習(学習課題)
1	10月1日	講義・演習	ラジオ番組を想定したフリートーク	新聞やネットニュースから事情ネタを収集
2	10月15日	講義・演習	ラジオ番組を想定したフリートーク	新聞やネットニュースから事情ネタを収集
3	10月22日	講義・演習	インタビュー	インタビューする相手の情報の下調べとインタビュー内容を考える
4	10月29日	講義・演習	インタビュー	インタビューする相手の情報の下調べとインタビュー内容を考える
5	11月5日	講義・演習	レポート演習(自分の生まれ育った街をレポート)	レポートする場所の情報などを収集
6	11月12日	講義・演習	レポート演習(自分の生まれ育った街をレポート)	レポートの内容を考える
7	11月19日	講義・演習	レポート演習(自分の生まれ育った街をレポート)	アドバイスを踏まえて練習
8	11月26日	講義・演習	MC演習 (ライブなどのイベント)	台本の読み込みやフリートーク部分のネタを収集
9	12月3日	講義・演習	MC演習 (ライブなどのイベント)	アドバイスを踏まえて練習
10	12月10日	講義・演習	MC演習 (セレモニー)	台本の読み込みやフリートーク部分のネタを収集
11	12月17日	講義・演習	MC演習 (セレモニー)	アドバイスを踏まえて練習
12	1月14日	講義・演習	テスト	テスト振り返り
13	1月21日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	授業を振り返ってイベント本番の準備
14	2月4日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り
15	2月11日	講義・演習	イベントを通して表現を学ぶ	イベント本番の振り返り次回の目標を定める
準備学習　時間外学習			各週、授業の最後に課題を伝えます	

【使用教科書・教材・参考書】

その都度講師が用意